

志木市の文化財 第85集

# 志木市遺跡群 25

西原大塚遺跡第174②～⑤地点

2022

埼玉県志木市教育委員会





# はじめに

志木市教育委員会  
教育長 柚木 博

ここに刊行する『志木市遺跡群 25』は、国庫・県費補助事業として、教育委員会が、平成 23・24 年度に確認調査及び発掘調査を実施した市内遺跡発掘調査事業の調査成果をまとめたものです。今回は、西原大塚遺跡第 174 ②～⑤地点の調査成果を報告します。

西原大塚遺跡については、今までの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時代にわたる複合遺跡であることが判明しております。特に、縄文時代中期では、約 200 軒の住居跡が土坑域を囲むように分布しており、環状集落と呼ばれる縄文時代に特有の集落が形成されていたことが分かっています。また、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡については約 600 軒の住居跡が見つかり、県内でも指折りの集落跡として知られています。このように、西原大塚遺跡は、縄文時代と弥生時代、それぞれの時代における地域の拠点集落であったといえます。

さて、今回報告する調査成果ですが、縄文時代中期の住居跡 17 軒・土坑 24 基、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡 2 軒などが見つかりました。

以上のような貴重な発見により、志木市の歴史にまた新たなる 1 ページが追加されたことになりました。今後こうした新発見が、郷土の歴史研究や幅広い学術研究に役立てられることを切に願うものです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた土木工事主体者並びに土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げる次第です。

# 例 言

1. 本書は、埼玉県志木市に所在する遺跡群のうち、平成 23・24 年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第 174 ②～⑤地点の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘作業・整理作業・報告書刊行作業は、志木市教育委員会が主体となり、国庫及び県費の補助金の交付を受け実施した。
3. 本書の作成において、編集は徳留彰紀が行った。執筆は、第 1 章第 1 節は尾形則敏が、第 3 章第 2 節を木村結香が、第 4 章第 2 節を大久保聡が、それ以外を徳留が行った。なお、中世以降の遺物については、和光市教育委員会の野沢均氏にご教示頂いた。
4. 土器・土製品・陶磁器・銭貨の計測・図化作業は、下記整理作業参加者が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは、深井恵子・青木修が行った。遺構の写真撮影は徳留・大久保が、遺物の写真撮影は青木が行った。
5. 表土剥ぎ及び埋戻し作業については、株式会社大塚屋商店（代表取締役 綱島正人）に委託した。
6. 石器の計測・図化については、有限会社アルケアーリサーチ（取締役社長 藤波啓容）に委託した。委託内容には石器一覧中「器種」「石材」「長さ・幅・厚さ・重量」「特徴」項の記述も含むが、適宜、徳留が加除・修正を行った。
7. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

## 8. 調査組織（令和 3 年度）

調 査 主 体 者	志木市教育委員会
教 育 長	柚 木 博
教 育 政 策 部 長	北 村 竜 一
担 当 課	生涯学習課 生涯学習・文化財グループ
生涯学習課 課 長	土 崎 健 太
生涯学習課 副 課 長	吉 成 和 重
生涯学習課 主 幹	浅 見 千 穂
生涯学習課 主 査	尾 形 則 敏
〃	徳 留 彰 紀
生涯学習課 主 任	武 井 香 代 子
〃	大 久 保 聡
〃	石 川 千 尋
生涯学習課 主 事 補	木 村 結 香
〃	遠 藤 彪 雅
志木市文化財保護審議会	井 上 國 夫（会長）
〃	深 瀬 克（委員）
〃	上 野 守 嘉（委員）
〃	新 田 泰 男（委員）
〃	金 子 博 一（委員）

## 9. 発掘作業及び整理作業参加者

### ○発掘作業

調査担当者 尾形則敏・徳留彰紀・大久保 聡  
調査員 深井恵子・青木 修  
調査補助員 星野恵美子・鈴木浩子  
作業員 青木栄一・石川 蒼・江口美千子・大橋康弘・小林 律・佐藤 海  
高木英利・高田美智子・中川幹啓・二階堂美知子・林 ゆき子  
廣野 渡・一二三英文・松浦恵子・増田千春・村田浩美  
重機オペレータ 田中三二（大塚屋商店）

### ○整理作業・報告書刊行作業

調査担当者 尾形則敏・徳留彰紀・大久保 聡・木村結香  
調査員 深井恵子・青木 修  
調査補助員 星野恵美子・鈴木浩子  
作業員 青木栄一・池ノ谷有紀・石川 蒼・江口美千子・大橋康弘・小林 律  
佐藤 海・高木英利・高田美智子・中川幹啓・二階堂美知子・林 ゆき子  
廣野 渡・一二三英文・松浦恵子・増田千春・村田浩美・山口優子

10. 発掘作業・整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・和光市遺跡調査会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館・富士見市立難波田城資料館

五十嵐 睦・江原 順・隈本健介・斉藤 純・齋藤欣延・笹川紗希・佐藤一也  
鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢 均・早坂廣人・堀 善之・前田秀則  
宮田圭祐・山本典幸・山本 龍・山田尚友・安田 脩一・山本典幸・和田晋治

# 凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。  
第1図 1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製  
第2図 1：2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行  
株式会社ゼンリン
2. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
3. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。また、同一遺構の水系レベルは統一して示した。
4. ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。
5. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個別別にドットマークを変えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
6. 遺構挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内にその内容を示したが、遺物挿図版中のスクリーントーンは、土器の赤彩範囲を示す。
7. 土器片錘の遺物挿図版の「▶」は、抉部を示す。
8. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。  
高：器高 口：口径 底：底径 厚：器厚
9. 土器・土製品・土坑・ピット一覧中の計測値について、現存値は[ ]、推定値は( )を付した。
10. 土器・土製品一覧で使用した色調は、『新版 標準土色帖 1999年版』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を参考にした。
11. 遺構の略記号は、以下のとおりである。  
J = 縄文時代の住居跡 埋 = 埋甕 D = 土坑 Y = 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡  
P = ピット
12. 本報告書中に記した「文献No.」は、第2表「志木市の発掘調査報告書一覧(1)～(3)」のNo.を示す。

# 目 次

はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 遺跡の概要	11
第2章 発掘調査の概要	15
第1節 調査に至る経緯	15
第2節 調査の経過	16
第3章 検出された遺構・遺物	20
第1節 縄文時代の遺構・遺物	20
第2節 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構・遺物	161
第3節 中世以降の遺構・遺物	166
第4節 遺構外出土遺物	168
第4章 調査のまとめ	179
第1節 縄文時代の土器について	179
第2節 縄文時代の石器について	187

[付編] 自然科学分析

I. 西原大塚遺跡第174地点出土の炭化種実	193
II. 西原大塚遺跡第174地点出土炭化材の樹種同定	194

図 版

報告書抄録

## 插图目次

第 1 図	市域の地形と遺跡分布 (1/20,000) ……………	2	第 37 図	165 号住居跡出土遺物 3 (1/3・2/3) ……………	71
第 2 図	西原大塚遺跡の調査地点 (1/5,000) ……………	12	第 38 図	165 号住居跡出土遺物 4 (1/3) ……………	72
第 3 図	確認調査時の遺構分布 (1/500) ……………	15	第 39 図	167 号住居跡・遺物出土状態 (1/60) ……………	77
第 4 図	遺構分布図 (1/200) ……………	19	第 40 図	167 号住居跡出土遺物 (1/3) ……………	78
第 5 図	37 号住居跡・炉 (1/60・1/30) ……………	21	第 41 図	168 号住居跡 (1/60) ……………	80
第 6 図	37 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………	22	第 42 図	168 号住居跡炉・埋甕 (1/30) ……………	81
第 7 図	37 号住居跡出土遺物 1 (1/4・1/3) ……………	23	第 43 図	168 号住居跡遺物出土状態 1 (1/60) ……………	82
第 8 図	37 号住居跡出土遺物 2 (1/4・1/3) ……………	24	第 44 図	168 号住居跡遺物出土状態 2 (1/60) ……………	83
第 9 図	37 号住居跡出土遺物 3 (1/4・1/3) ……………	25	第 45 図	168 号住居跡出土遺物 1 (1/4・1/3) ……………	84
第 10 図	39 号住居跡・遺物出土状態 (1/60) ……………	28・29	第 46 図	168 号住居跡出土遺物 2 (1/3・2/3) ……………	85
第 11 図	39 号住居跡出土遺物 1 (1/4・1/3) ……………	30	第 47 図	169 号住居跡・炉 (1/60・1/30) ……………	88・89
第 12 図	39 号住居跡出土遺物 2 (1/3) ……………	31	第 48 図	169 号住居跡遺物出土状態 1 (1/60) ……………	91
第 13 図	39 号住居跡出土遺物 3 (1/4・1/3) ……………	32	第 49 図	169 号住居跡遺物出土状態 2 (1/60) ……………	92
第 14 図	39 号住居跡出土遺物 4 (1/3) ……………	33	第 50 図	169 号住居跡出土遺物 1 (1/4・1/3) ……………	93
第 15 図	41 号住居跡 (1/60) ……………	36	第 51 図	169 号住居跡出土遺物 2 (1/3) ……………	94
第 16 図	41 号住居跡出土遺物 (1/3) ……………	36	第 52 図	169 号住居跡出土遺物 3 (1/3・2/3) ……………	95
第 17 図	86 号住居跡 (1/60) ……………	38	第 53 図	166 号住居跡炉 (1/30) ……………	99
第 18 図	86 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………	39	第 54 図	166 号住居跡出土遺物 (1/4) ……………	99
第 19 図	86 号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………	40	第 55 図	170 号住居跡 (1/60) ……………	101
第 20 図	86 号住居跡出土遺物 2 (1/3) ……………	41	第 56 図	170 号住居跡出土遺物 (1/3) ……………	101
第 21 図	86 号住居跡出土遺物 3 (1/3・2/3) ……………	42	第 57 図	171 号住居跡・炉 (1/60・1/30) ……………	102・103
第 22 図	86 号住居跡出土遺物 4 (1/4・1/3) ……………	43	第 58 図	171 号住居跡遺物出土状態 1 (1/60) ……………	105
第 23 図	163 号住居跡・炉 (1/60・1/30) ……………	48・49	第 59 図	171 号住居跡遺物出土状態 2 (1/60) ……………	106
第 24 図	163 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………	51	第 60 図	171 号住居跡遺物出土状態 3 (1/60) ……………	107
第 25 図	163 号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………	52	第 61 図	171 号住居跡出土遺物 1 (1/4) ……………	108
第 26 図	163 号住居跡出土遺物 2 (1/3) ……………	53	第 62 図	171 号住居跡出土遺物 2 (1/4) ……………	109
第 27 図	163 号住居跡出土遺物 3 (2/3・1/3・1/4) ……	54	第 63 図	171 号住居跡出土遺物 3 (1/4) ……………	110
第 28 図	164 号住居跡・炉 (1/60・1/30) ……………	59	第 64 図	171 号住居跡出土遺物 4 (1/4) ……………	111
第 29 図	164 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………	59	第 65 図	171 号住居跡出土遺物 5 (1/3) ……………	112
第 30 図	164 号住居跡出土遺物 (1/4・1/3) ……………	60	第 66 図	171 号住居跡出土遺物 6 (1/3) ……………	113
第 31 図	165・167～169 号住居跡 (1/60) ……………	63	第 67 図	171 号住居跡出土遺物 7 (1/3・2/3) ……………	114
第 32 図	165 号住居跡・炉 (1/60・1/30) ……………	66	第 68 図	171 号住居跡出土遺物 8 (1/3・1/4) ……………	115
第 33 図	165 号住居跡遺物出土状態 1 (1/60) ……………	67	第 69 図	172 号住居跡・炉 (1/60・1/30) ……………	123
第 34 図	165 号住居跡遺物出土状態 2 (1/60) ……………	68	第 70 図	172 号住居跡遺物出土状態 (1/60) ……………	124
第 35 図	165 号住居跡出土遺物 1 (1/4・1/3) ……………	69	第 71 図	172 号住居跡出土遺物 (1/4・1/3) ……………	125
第 36 図	165 号住居跡出土遺物 2 (1/3) ……………	70	第 72 図	173 号住居跡・埋甕 (1/60・1/30) ……………	128

第 73 図	173 号住居跡出土遺物 (1/4)……………	128	第 88 図	縄文時代土坑出土遺物 4 (1/3)……………	152
第 74 図	184 号住居跡・炉 (1/60・1/30)……………	129	第 89 図	縄文時代ピット (1/60)……………	156
第 75 図	184 号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)……………	130	第 90 図	縄文時代ピット出土遺物 (1/3)……………	159
第 76 図	185 号住居跡 (1/60)……………	131	第 91 図	290 号住居跡・遺物出土状態 (1/60)……………	162
第 77 図	185 号住居跡遺物出土状態 (1/60)……………	132	第 92 図	290 号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)……………	162
第 78 図	185 号住居跡炉 (1/30)……………	133	第 93 図	565 号住居跡・遺物出土状態 (1/60)……………	164
第 79 図	185 号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)……………	133	第 94 図	565 号住居跡出土遺物 (1/3)……………	164
第 80 図	5 号埋甕 (1/30)……………	135	第 95 図	718 号土坑 (1/60)……………	166
第 81 図	5 号埋甕出土遺物 (1/4)……………	135	第 96 図	遺構外出土石器 1 (2/3・1/3)……………	169
第 82 図	縄文時代土坑 1 (1/60)……………	145	第 97 図	遺構外出土石器 2 (1/3・1/4)……………	170
第 83 図	縄文時代土坑 2 (1/60)……………	146	第 98 図	遺構外出土遺物 1 (1/4・1/3)……………	171
第 84 図	縄文時代土坑 3 (1/60)……………	147	第 99 図	遺構外出土遺物 2 (1/3)……………	172
第 85 図	縄文時代土坑出土遺物 1 (1/4・1/3)……………	149	第 100 図	遺構外出土遺物 3 (1/3)……………	173
第 86 図	縄文時代土坑出土遺物 2 (1/3)……………	150	第 101 図	遺構外出土遺物 4 (1/3・4/5)……………	174
第 87 図	縄文時代土坑出土遺物 3 (1/3)……………	151	第 102 図	西原大塚遺跡第 174 ㉔~㉖地点出土土器編年図…	184・185

## 目 次

第 1 表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧……………	1	第 14 表	86 号住居跡出土土製品一覧……………	46
第 2 表	志木市の発掘調査報告書一覧 (1)……………	8	第 15 表	86 号住居跡出土石器一覧……………	47
	志木市の発掘調査報告書一覧 (2)……………	9	第 16 表	163 号住居跡出土土器一覧 (1)……………	55
	志木市の発掘調査報告書一覧 (3)……………	10		163 号住居跡出土土器一覧 (2)……………	56
第 3 表	西原大塚遺跡発掘調査一覧 (1)……………	13	第 17 表	163 号住居跡出土土製品一覧……………	57
	西原大塚遺跡発掘調査一覧 (2)……………	14	第 18 表	163 号住居跡出土石器一覧……………	57
第 4 表	第 174 ㉔~㉖地点一覧……………	16	第 19 表	164 号住居跡出土土器一覧……………	61
第 5 表	西原大塚遺跡第 174 ㉔~㉖地点発掘調査工程表…	18	第 20 表	164 号住居跡出土土製品一覧……………	62
第 6 表	37 号住居跡出土土器一覧 (1)……………	25	第 21 表	164 号住居跡出土石器一覧……………	62
	37 号住居跡出土土器一覧 (2)……………	26	第 22 表	165 号住居跡出土土器一覧 (1)……………	73
第 7 表	37 号住居跡出土土製品一覧……………	26		165 号住居跡出土土器一覧 (2)……………	74
第 8 表	37 号住居跡出土石器一覧……………	27	第 23 表	165 号住居跡出土土製品一覧……………	75
第 9 表	39 号住居跡出土土器一覧 (1)……………	33	第 24 表	165 号住居跡出土石器一覧 (1)……………	75
	39 号住居跡出土土器一覧 (2)……………	34		165 号住居跡出土石器一覧 (2)……………	76
第 10 表	39 号住居跡出土土製品一覧……………	35	第 25 表	167 号住居跡出土土器一覧……………	78
第 11 表	39 号住居跡出土石器一覧……………	35	第 26 表	167 号住居跡出土石器一覧……………	78
第 12 表	41 号住居跡出土土器一覧……………	36	第 27 表	168 号住居跡出土土器一覧……………	86
第 13 表	86 号住居跡出土土器一覧 (1)……………	44	第 28 表	168 号住居跡出土土製品一覧……………	87
	86 号住居跡出土土器一覧 (2)……………	45	第 29 表	168 号住居跡出土石器一覧……………	87
	86 号住居跡出土土器一覧 (3)……………	46	第 30 表	169 号住居跡出土土器一覧 (1)……………	96

	169号住居跡出土土器一覧(2) ……………	97	第47表	縄文時代土坑出土土器製品一覧 ……………	155
第31表	169号住居跡出土土器製品一覧 ……………	97	第48表	縄文時代ピット一覧(1) ……………	157
第32表	169号住居跡出土土器一覧 ……………	98		縄文時代ピット一覧(2) ……………	158
第33表	166号住居跡出土土器一覧 ……………	99	第49表	縄文時代ピット出土土器一覧(1) ……………	160
第34表	170号住居跡出土土器一覧 ……………	101		縄文時代ピット出土土器一覧(2) ……………	161
第35表	171号住居跡出土土器一覧(1) ……………	116	第50表	縄文時代ピット出土土器一覧 ……………	161
	171号住居跡出土土器一覧(2) ……………	117	第51表	290号住居跡出土土器一覧 ……………	163
	171号住居跡出土土器一覧(3) ……………	118	第52表	565号住居跡出土土器一覧 ……………	165
	171号住居跡出土土器一覧(4) ……………	119	第53表	中世以降ピット一覧(1) ……………	167
第36表	171号住居跡出土土器製品一覧 ……………	120		中世以降ピット一覧(2) ……………	168
第37表	171号住居跡出土土器一覧 ……………	121	第54表	遺構外出土土器一覧(1) ……………	174
第38表	172号住居跡出土土器一覧 ……………	126		遺構外出土土器一覧(2) ……………	175
第39表	172号住居跡出土土器一覧 ……………	126	第55表	遺構外出土縄文土器一覧(1) ……………	175
第40表	173号住居跡出土土器一覧 ……………	128		遺構外出土縄文土器一覧(2) ……………	176
第41表	184号住居跡出土土器一覧 ……………	130	第56表	遺構外出土土器製品一覧 ……………	177
第42表	185号住居跡出土土器一覧 ……………	134	第57表	遺構外出土弥生土器一覧 ……………	177
第43表	185号住居跡出土土器一覧 ……………	134	第58表	遺構外出土中世以降土器・瓦・陶磁器一覧 ……	178
第44表	5号埋藏出土土器一覧 ……………	135	第59表	西原大塚遺跡第174②~⑤地点出土土器集計表…	189
第45表	縄文時代土坑一覧 ……………	148	第60表	西原大塚遺跡第174②~⑤地点出土土器石材別集計表…	189
第46表	縄文時代土坑出土土器一覧(1) ……………	153	第61表	西原大塚遺跡第174地点から出土した炭化種実…	193
	縄文時代土坑出土土器一覧(2) ……………	154	第62表	遺構別の樹種組成 ……………	195
	縄文時代土坑出土土器一覧(3) ……………	155	第63表	西原大塚遺跡第174地点出土炭化材の樹種同定結果一覧…	196

## 図版目次

図版1	1. 調査前風景(東から)	7.39号住居跡炉(南西から)
	2. 表土剥ぎ風景(西から)	8.37・39号住居跡(南から)
	3. 遺構確認状況(南東から)	図版3
	4.37号住居跡遺物出土状態(区画整理/東から)	1.41号住居跡(西から)
	5.37号住居跡(南西から)	2.41号住居跡(北西から)
	6.37号住居跡(南東から)	3・4.86号住居跡遺物出土状態(区画整理/南西から)
	7.37号住居跡(区画整理/東から)	5.86号住居跡遺物出土状態(区画整理/南東から)
	8.37号住居跡炉(区画整理/東から)	6.86号住居跡遺物出土状態(区画整理/南西から)
図版2	1・2.39号住居跡遺物出土状態(南西から)	7・8.86号住居跡(北西から)
	3.39号住居跡炉遺物出土状態(南から)	図版4
	4.39号住居跡遺物出土状態(区画整理/東から)	1.163号住居跡遺物出土状態(北東から)
	5.39号住居跡(南西から)	2.163号住居跡遺物出土状態(北西から)
	6.39号住居跡(区画整理/北東から)	3.163号住居跡(北西から)
		4.163号住居跡(南から)
		5.163号住居跡P1(南西から)



- 6.163 号住居跡 P 6 (南西から)
- 7.163 号住居跡炉 (南東から)
- 8.163 号住居跡土層断面 (南から)
- 図版 5 1.164 号住居跡土層断面 A - A' (北東から)
- 2.164 号住居跡遺物出土状態 (南東から)
- 3・4.164 号住居跡遺物出土状態 (北から)
- 5.164 号住居跡遺物出土状態 (南東から)
- 6.164 号住居跡 (南東から)
- 7.164 号住居跡炉 (南東から)
8. 調査風景 (西から)
- 図版 6 1.165・167～169 号住居跡 (南東から)
- 2.165・167～169 号住居跡 (南西から)
- 3.165・167～169 号住居跡 (北から)
- 4.165・167～169 号住居跡遺構確認状況 (西から)
- 5.165・167～169 号住居跡土層断面 A - A' (東から)
- 図版 7 1.165・167～169 号住居跡土層断面 B - B' 西側 (南東から)
- 2.165・167～169 号住居跡土層断面 B - B' 東側 (東から)
- 3.165 号住居跡炉 (西から)
- 4.165 号住居跡炉 (南から)
- 5.168 号住居跡炉 (南から)
- 6.168 号住居跡埋甕 (西から)
- 7.169 号住居跡炉 A (南から)
- 8.169 号住居跡炉 A (東から)
- 図版 8 1.169 号住居跡炉 B (南西から)
- 2.169 号住居跡炉 C (西から)
- 3.169 号住居跡遺物出土状態 (北から)
- 4.165・167～169 号住居跡掘り方 (南東から)
- 5・6.166 号住居跡炉 (北から)
- 7.170 号住居跡 P 1 (南から)
- 8.170 号住居跡 (南西から)
- 図版 9 1.171 号住居跡遺物出土状態 (南東から)
- 2.171 号住居跡 (南東から)
- 図版 10 1・2.171 号住居跡遺物出土状態 (南東から)
- 3.171 号住居跡遺物出土状態 (北から)
- 4.171 号住居跡遺物出土状態 (西から)
- 5.171 号住居跡遺物出土状態 (南東から)
- 6.171 号住居跡遺物出土状態 (南から)
- 7.171 号住居跡炉 (南から)
- 8.171 号住居跡土層断面 (南東から)
- 図版 11 1.172 号住居跡遺物出土状態 (南東から)
- 2.172 号住居跡遺物出土状態 (南から)
- 3.172 号住居跡 (南東から)
- 4.172 号住居跡炉 (北東から)
- 5.173 号住居跡 (南から)
- 6.173 号住居跡埋甕 (南から)
- 7.173 号住居跡埋甕 (北西から)
- 8.173 号住居跡炉 (北西から)
- 図版 12 1.184 号住居跡 (南西から)
- 2.184 号住居跡 (南東から)
- 3.184 号住居跡炉 (南東から)
- 4.185 号住居跡 (南から)
- 5.185 号住居跡炉 (北東から)
- 6.185 号住居跡炉 (北西から)
- 7.185 号住居跡炉 (南から)
- 8.185 号住居跡 P 5 遺物出土状態 (南から)
- 図版 13 1. 5 号埋甕 (西から)
2. 5 号埋甕土層断面 (南東から)
3. 5 号埋甕 (南東から)
- 4.628 号土坑遺物出土状態 (北から)
- 5.628 号土坑 (南西から)
- 6.629 号土坑 (西から)
- 7.630 号土坑 (南東から)
- 8.630 号土坑土層断面 (南東から)
- 図版 14 1.631 号土坑遺物出土状態 (北から)
- 2.631 号土坑 (東から)
- 3.632・640 号土坑 (南西から)
- 4.633 号土坑遺物出土状態 (北から)
- 5.636・633 号土坑 (北西から)
- 6.634 号土坑 (南西から)
- 7.635 号土坑・24・30 号ピット (南から)
- 8.637 号土坑・21 号ピット (南西から)
- 図版 15 1.638 号土坑 (南西から)
- 2.639 号土坑・28 号ピット (南から)
- 3.641 号土坑・27・31 号ピット (南から)
- 4.642 号土坑 (南西から)
- 5.643 号土坑・25・26 号ピット (南西から)

	6.645 号土坑・33 号ピット (北西から)	図版 24	163 号住居跡出土遺物 2
	7.646 号土坑 (南東から)	図版 25	1.164 号住居跡出土遺物
	8.647 号土坑 (南西から)		2.165 号住居跡出土遺物 1
図版 16	1.648 号土坑 (南西から)	図版 26	165 号住居跡出土遺物 2
	2.649 号土坑 (南西から)	図版 27	1.165 号住居跡出土遺物 3
	3.716 号土坑 (北東から)		2.167 号住居跡出土遺物
	4.717 号土坑・125 号ピット (北東から)	図版 28	168 号住居跡出土遺物
	5.719 号土坑・160 号ピット (南から)	図版 29	169 号住居跡出土遺物 1
	6.土坑群 (南東から)	図版 30	1.169 号住居跡出土遺物 2
	7.1・2 号ピット (北東から)		2.166 号住居跡出土遺物
	8.5 号ピット (南から)	図版 31	1.170 号住居跡出土遺物
図版 17	1.6 号ピット (南西から)		2.171 号住居跡出土遺物 1
	2.7 号ピット (南から)	図版 32	171 号住居跡出土遺物 2
	3.8 号ピット (東から)	図版 33	171 号住居跡出土遺物 3
	4.14 号ピット (北西から)	図版 34	171 号住居跡出土遺物 4
	5.15 号ピット (南東から)	図版 35	171 号住居跡出土遺物 5
	6.29 号ピット (南東から)	図版 36	1.172 号住居跡出土遺物
	7.32 号ピット (南東から)		2.173 号住居跡出土遺物
	8.161 号ピット土層断面 (南から)		3.184 号住居跡出土遺物
図版 18	1.290 号住居跡遺物出土状態 (区画整理 / 南東から)	図版 37	1.185 号住居跡出土遺物
	2.290 号住居跡 (北西から)		2.5 号埋葬出土遺物
	3.565 号住居跡炭化材出土状態 (南西から)		3.縄文時代土坑出土遺物 1
	4.565 号住居跡 (南西から)	図版 38	縄文時代土坑出土遺物 2
	5.565 号住居跡 (南東から)	図版 39	縄文時代土坑出土遺物 3
	6.565 号住居跡 (北から)	図版 40	縄文時代ピット出土遺物
	7.565 号住居跡炉 (南西から)	図版 41	1.290 号住居跡出土遺物
	8.718 号土坑 (南東から)		2.565 号住居跡出土遺物
図版 19	37 号住居跡出土遺物		3.遺構外出土石器 1
図版 20	39 号住居跡出土遺物	図版 42	1.遺構外出土石器 2
図版 21	1.41 号住居跡出土遺物		2.遺構外出土遺物 1
	2.86 号住居跡出土遺物 1	図版 43	遺構外出土遺物 2
図版 22	86 号住居跡出土遺物 2	図版 44	遺構外出土遺物 3
図版 23	1.86 号住居跡出土遺物 3	図版 45	西原大塚遺跡第 174 地点から出土した炭化種実
	2.163 号住居跡出土遺物 1	図版 46	西原大塚遺跡第 174 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

# 第1章 遺跡の立地と環境

## 第1節 市域の地形と遺跡

### (1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりを持ち、面積は 9.05km<sup>2</sup>、人口約 7 万 6 千人の自然と文化の調和する都市である。

地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の 3 本の川が流れている。

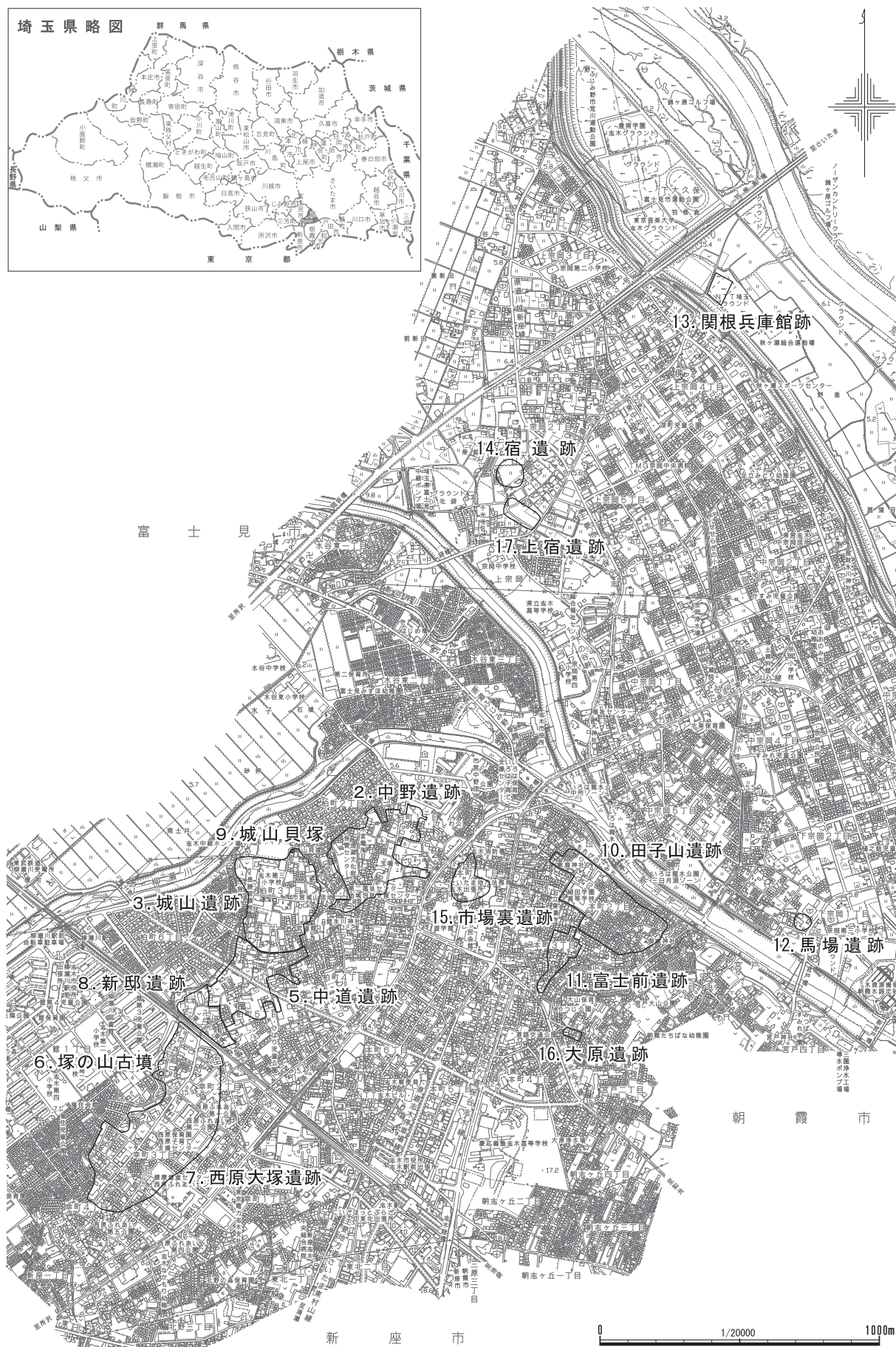
こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	70,950 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	82,100 m <sup>2</sup>	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（中・後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中道	54,420 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800 m <sup>2</sup>	林	古墳？	古墳？	古墳？	なし
7	西原大塚	164,960 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前・後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080 m <sup>2</sup>	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 m <sup>2</sup>	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030 m <sup>2</sup>	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830 m <sup>2</sup>	宅地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑？、溝跡？	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800 m <sup>2</sup>	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 m <sup>2</sup>	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 m <sup>2</sup>	水田	館跡	中世	溝跡、井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800 m <sup>2</sup>	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700 m <sup>2</sup>	宅地	不明	近世以降？	溝跡	なし
17	上宿	8,600 m <sup>2</sup>	水田・宅地	集落跡	平安、中・近世	住居跡、土坑、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、板碑等
合計		522,570 m <sup>2</sup>					

令和 3 年 12 月 28 日 現在

第 1 表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧





第1図 市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)

と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡(12)、宿遺跡(14)、関根兵庫館跡(13)が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡(17)が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳(6)、城山貝塚(9)を加えた15遺跡である(第1図・第1表)。

## (2) 歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることとする。

### 1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の富士見・大原線(現ユリノキ通り)の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のIV層上部・VI層・VII層で、礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6(1994)年度には2ヶ所、平成7(1995)年度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元(2019)年に第224地点で立川ローム層の第IV層下部～第V層上部・第VII層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第IV層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成27(2016)年に発掘調査された中野遺跡第91⑰地点からは、礫群1基が検出された。

また、城山遺跡では、平成13(2001)年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第IV層上部と第VII層の2ヶ所で石器集中地点が検出されている。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点(道路・駐車場部分)でも1ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23(2011)年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第IV層下部～第V層上部で石器集中地点2ヶ所、礫群9基が検出された。令和元(2019)年には第96地点で立川ローム層の第IV層下部～第V層上部・第VI層・第VII層で石器集中地点や礫群が検出されている。

### 2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉(諸磯式期)の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することとする。まず、草創期では、平成4(1992)年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6(1994)年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10(1998)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18(2006)年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉(条痕文系)の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23(2011)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、



城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。城山遺跡では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された第96地点から、前期後葉の諸磯期で、貝層を持つ住居跡が3軒検出された。住居内貝層からヤマトシジミ・マガキが検出されている。平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で約200軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡1軒が確認されているが、平成27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曾利EⅣ式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡2軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1ヶ所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2016・2017）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

### 3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第96地点で市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは壺、甕、高坏、挟入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約600軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出され

てきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。なお、鳥形土製品1と壺形土器4点の計5点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

#### 4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後半から7世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約230軒、次いで中野遺跡で約55軒、中道遺跡と田子山遺跡で16軒ずつ、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形円で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

#### 5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ

る、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げる事ができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶<sup>ふじゆしんぼう</sup>が2枚とその近くからは鉄鎌1点と土錘1点<sup>つちづち</sup>が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を超える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群と南比企窯跡群の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、平成25年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

## 6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『館村旧記』<sup>きゆうき</sup>（註1）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』<sup>かいこくざっき</sup>（註2）に登場する「大石信濃守館」<sup>おおいししなののかみのやかた</sup>が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」<sup>おおつかじゆぎうぼう</sup>についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鑄造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鑄型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鑄造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鑄型、鍋の耳部分の小型鑄型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧<sup>よろい</sup>の札である鉄製品1点と鉄鎌1点<sup>さね</sup>が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であ



るため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成 11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第 49 地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した 67 号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成 27（2015）年度に第 49 地点の北側に隣接する第 95 地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たに土坑 45 基・井戸跡 2 基・溝跡 1 本・ピット 231 本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T 字形」の火葬土坑 5 基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和 62（1987）年の第 2 地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成 7（1995）年の第 37 地点からは、人骨と古銭 5 枚を出土した土坑墓 1 基と 13 世紀に比定される青磁盤 1 点を出土した道路状遺構 1 条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和 60（1985）年の第 1 地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成 15（2003）年の第 8 地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓 2 基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」<sup>しょうりんざんかんのんじだいじゆいん</sup>関連遺構と考えられる。その後、平成 25（2013）年には、中道遺跡第 74 地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

## 7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成 5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治 2～5 年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成 15（2003）年の新邸遺跡第 8 地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

### [註]

註 1 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）<sup>なぬしみやはらなかえもんなかつね</sup>の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保 12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註 2 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明 18 年（1486）6 月から 10 ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのぼし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

### [引用文献]

神山健吉 1988 「『廻回雑記』に現れる大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第 7 号  
2002 「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第 31 号

第1章 遺跡の立地と環境

No.	報告書名 (所収遺跡地点名)	刊行年	シリーズ名	発行者	編著者
1	西原・大塚遺跡発掘調査報告	1975	志木市の文化財第4集	志木市教育委員会	井上国夫・落合静男 谷井 彪・宮野和明
2	志木市史・ 原始・古代資料編	1984	志木市史	志木市	宮野和明・井上国夫 小久保徹・肥沼正和
3	西原大塚遺跡第3地点 中野遺跡第2地点 発掘調査報告書	1985	志木市遺跡調査会調査報告第1集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
4	新邸遺跡発掘調査報告書	1986	志木市遺跡調査会調査報告第2集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
5	新邸遺跡第2地点 西原大塚遺跡第4地点 発掘調査報告書	1987	志木市遺跡調査会調査報告第3集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
6	城山遺跡発掘調査報告書	1988	志木市遺跡調査会調査報告第4集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏 神山健吉
7	中道遺跡発掘調査報告書 (中道遺跡第1地点)	1988	志木市遺跡調査会調査報告第5集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
8	城山遺跡長勝院地点発掘調査報告書 (城山遺跡第3地点)	1987	志木市の文化財第11集	志木市教育委員会 志木市遺跡調査会 志木ロータリークラブ	佐々木保俊
9	志木市遺跡群Ⅰ (城山遺跡第4地点 中野遺跡第6地点 中道遺跡第6地点 西原大塚遺跡第6地点)	1989	志木市の文化財第13集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
10	志木市遺跡群Ⅱ (西原大塚遺跡第8地点 田子山遺跡第1地点 西原大塚遺跡第9地点 西原大塚遺跡第10地点 中野遺跡第9地点)	1990	志木市の文化財第14集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
11	西原大塚遺跡第7地点 新邸遺跡第3地点 中野遺跡第7地点 中野遺跡第8地点 城山遺跡第6地点 発掘調査報告書	1991	志木市の文化財第15集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
12	志木市遺跡群Ⅲ (西原大塚遺跡第11地点 城山遺跡第7・9地点)	1991	志木市の文化財第16集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
13	志木市遺跡群Ⅳ (城山遺跡第11地点 中野遺跡第12地点 田子山遺跡第6・7地点)	1992	志木市の文化財第17集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
14	中道遺跡第12地点 中道遺跡第13地点 田子山遺跡第4地点 田子山遺跡第5地点 発掘調査報告書	1992	志木市の文化財第18集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
15	志木市遺跡群Ⅴ (市場裏遺跡第3地点 中野遺跡第18地点)	1993	志木市の文化財第20集	志木市教育委員会	尾形則敏
16	志木市遺跡群Ⅵ (中野遺跡第31地点 田子山遺跡第29地点 城山遺跡第20地点)	1995	志木市の文化財第21集	志木市教育委員会	尾形則敏
17	志木市遺跡群Ⅶ (西原大塚遺跡第32地点 中道遺跡第33地点 城山遺跡第25地点 田子山遺跡第32地点 田子山遺跡第37地点)	1996	志木市の文化財第23集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏 深井恵子
18	城山遺跡第12地点 城山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第14地点 中野遺跡第11地点 中野遺跡第16地点 市場裏遺跡第1地点 田子山遺跡第10地点 中道遺跡第21地点 田子山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第21地点 市場裏遺跡第2地点 中道遺跡第26地点 発掘調査報告書	1996	志木市の文化財第24集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏 深井恵子
19	志木市遺跡群Ⅷ (城山遺跡第29地点 城山遺跡第32地点 田子山遺跡第39地点 田子山遺跡第41地点 田子山遺跡第42地点 中道遺跡第36地点 中道遺跡第37地点 西原大塚遺跡第34地点 中野遺跡第41地点)	1997	志木市の文化財第25集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
20	西原大塚の遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査概報	1998	—	志木市遺跡調査会 西原特定土地区画整理組合	佐々木保俊
21	志木市遺跡群Ⅸ (中野遺跡第43地点 富士前遺跡第15地点 田子山遺跡第47地点 田子山遺跡第48地点 田子山遺跡第49地点 中道遺跡第41地点 城山遺跡第34地点 城山遺跡第35地点 西原大塚遺跡第36地点)	1999	志木市の文化財第27集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
22	志木市遺跡群Ⅹ (西原大塚遺跡第37地点 西原大塚遺跡第39地点 中道遺跡第44地点)	2000	志木市の文化財第28集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
23	埋蔵文化財調査報告書1 (田子山遺跡第19地点 田子山遺跡第21地点 田子山遺跡第25地点 中道遺跡第27地点 大原遺跡第1地点)	2000	志木市の文化財第29集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
24	西原大塚遺跡第45地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2000	志木市遺跡調査会調査報告第6集	志木市遺跡調査会 小松フオークリフト(株)	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳・上田 寛
25	志木市遺跡群11 (中野遺跡第50地点 西原大塚遺跡第43地点)	2001	志木市の文化財第30集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊 内野美津江・宮川幸佳
26	埋蔵文化財調査報告書2 (中野遺跡第25地点)	2001	志木市の文化財第31集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
27	志木市遺跡群12 (田子山遺跡第69地点 西原大塚遺跡第47地点)	2002	志木市の文化財第32集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊 深井恵子
28	埋蔵文化財調査報告書3 (城山遺跡第15地点 城山遺跡第16地点)	2002	志木市の文化財第34集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊 深井恵子・佐々木潤

第2表 志木市の発掘調査報告書一覧(1)

No.	報告書名 (所収遺跡地点名)	刊行年	シリーズ名	発行者	編著者
29	志木市遺跡群 13 (田子山遺跡第 78 地点 西原大塚遺跡第 54 地点)	2003	志木市の文化財第 35 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
30	中野遺跡第 49 地点—東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告書	2004	志木市遺跡調査会調査報告第 7 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木修
31	志木市遺跡群 14 (田子山遺跡第 81 地点 西原大塚遺跡第 65 地点)	2004	志木市の文化財第 36 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木修
32	西原大塚遺跡第 111 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第 8 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
33	西原大塚遺跡第 110 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第 9 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
34	城山遺跡第 42 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第 10 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木修・野沢均
35	志木市遺跡群 15 (西原大塚遺跡第 67 地点)	2007	志木市の文化財第 37 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
36	新邸遺跡第 8 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2007	志木市遺跡調査会調査報告第 11 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木修
37	中道遺跡第 65 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2007	志木市遺跡調査会調査報告第 12 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・藤波啓容 青柳美雪
38	西原大塚遺跡 I～III 西原特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志木市遺跡調査会調査報告第 13 集	志木市遺跡調査会 西原特定土地区画整理組合	佐々木保俊・内野美津江 宮川佳幸
39	志木市遺跡群 16 (城山遺跡第 46 地点 城山遺跡第 55 地点)	2008	志木市の文化財第 38 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木修
40	西原大塚遺跡第 138 地点 西原大塚遺跡第 154 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 14 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木修
41	西原大塚遺跡第 120 地点 西原大塚遺跡第 131 地点 田子山遺跡第 97 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 15 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
42	志木市遺跡群 17 (城山遺跡第 49 地点 城山遺跡第 57 地点 西原大塚遺跡第 113 地点 西原大塚遺跡第 124 地点)	2008	志木市の文化財第 39 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木修
43	城山遺跡第 61 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 16 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木修
44	城山遺跡第 58・60 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 17 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・藤波啓容 鈴木 徹・中村真理
45	埋蔵文化財調査報告書 4 (城山遺跡第 18 地点 城山遺跡第 19 地点 城山遺跡第 21 地点 城山遺跡第 22 地点)	2009	志木市の文化財第 40 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木修
46	志木市遺跡群 18 (田子山遺跡第 93 地点 田子山遺跡第 96 地点 西原大塚遺跡第 137 地点 西原大塚遺跡第 155 地点)	2009	志木市の文化財第 41 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木修
47	西原大塚遺跡第 108 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志木市の文化財第 42 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏 坂上直嗣・青池紀子他
48	中野遺跡第 71 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2010	志木市の文化財第 43 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・内野美津江 尾形則敏・青木修
49	市場裏遺跡第 13 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2011	志木市の文化財第 44 集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 青木修
50	志木市遺跡群 19 (城山遺跡第 59 地点)	2011	志木市の文化財第 45 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木修
51	城山遺跡第 63 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2011	志木市の文化財第 46 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 坂上直嗣・青池紀子他
52	西原大塚遺跡第 169 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 47 集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏
53	城山遺跡第 62 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 48 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木修
54	城山遺跡第 72 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 49 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 村上孝司・青池紀子他
55	田子山遺跡第 121 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 50 集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 藤波啓容
56	志木市遺跡群 20 (田子山遺跡第 107 地点 新邸遺跡第 10 地点 西原大塚遺跡第 159 地点)	2013	志木市の文化財第 51 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木修
57	城山遺跡第 76 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 52 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 白崎智隆
58	城山遺跡第 64 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 53 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木修
59	城山遺跡第 71 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 54 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 中山哲也・二瓶秀幸 稲村太郎・加藤夏姫
60	西原大塚遺跡第 174 ①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 55 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 藤波啓容・松木綾子
61	西原大塚遺跡第 179 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第 56 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 二瓶秀幸・本山直子

第2表 志木市の発掘調査報告書一覧(2)

第1章 遺跡の立地と環境

No.	報告書名 (所収遺跡地点名)	刊行年	シリーズ名	発行者	編著者
62	中野遺跡第78地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第57集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏 青木修
63	志木市遺跡群21 (城山遺跡第62①～④地点 西原大塚遺跡第165地点 西原大塚遺跡第166地点 西原大塚遺跡第171地点)	2014	志木市の文化財第58集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 深井恵子・青木修
64	埋蔵文化財調査報告書5 (城山遺跡第26地点)	2014	志木市の文化財第59集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木修
65	城山遺跡第82地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第60集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 宮下孝優
66	田子山遺跡第131地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2015	志木市の文化財第61集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 宮下孝優
67	富士前遺跡第23地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2015	志木市の文化財第62集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 清水理史・川田馨秋 鎌田 翔
68	埋蔵文化財調査報告書6 (城山遺跡第27地点 城山遺跡第28地点 中道遺跡第56地点)	2015	志木市の文化財第63集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木修
69	志木市遺跡群22 (西原大塚遺跡第172①～④地点)	2015	志木市の文化財第64集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 深井恵子
70	田子山遺跡第132①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2016	志木市の文化財第65集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子
71	埋蔵文化財調査報告書7 (中道遺跡第38地点 中道遺跡第39地点)	2016	志木市の文化財第66集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 深井恵子・青木修
72	中野遺跡第91地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2017	志木市の文化財第67集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 宅間清公・田中浩江 岩崎岳彦
73	市場裏遺跡第23地点 城山遺跡第87地点 西原大塚遺跡第207地点 中野遺跡第95地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2017	志木市の文化財第68集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 青木修
74	中道遺跡第76地点 城山遺跡第91①地点 西原大塚遺跡第211地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2018	志木市の文化財第69集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 深井恵子・青木修
75	志木市遺跡群23 (西原大塚遺跡第180地点 西原大塚遺跡第182地点 西原大塚遺跡第183地点 西原大塚遺跡第184地点)	2018	志木市の文化財第70集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏
76	埋蔵文化財調査報告書8 (田子山遺跡第51地点 中野遺跡第55地点 中野遺跡第57地点)	2018	志木市の文化財第71集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 深井恵子
77	西原大塚遺跡第213地点 中野遺跡第102地点 中野遺跡第104地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2019	志木市の文化財第72集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 深井恵子・青木修
78	中道遺跡第87地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第73集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 林 邦雄
79	西原大塚遺跡第224地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第74集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 成島一成・西川忠春
80	西原大塚遺跡第220地点 西原大塚遺跡第222地点 西原大塚遺跡第227地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第75集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏
81	西原大塚遺跡第216地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第76集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 青木修
82	田子山遺跡第160地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第77集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 石川安司・小林陽子 清水理史
83	城山遺跡第96地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第78集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡 徳留彰紀・遠竹陽一郎 坂下貴則・宅間清公
84	西原大塚遺跡第228地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第79集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 大久保聡・宅間清公 小森暁生
85	西原大塚遺跡第231地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第80集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏
86	志木市遺跡群24 (市場裏遺跡第21地点 西原大塚遺跡第199地点 城山遺跡第79地点)	2021	志木市の文化財第81集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏 徳留彰紀
87	中野遺跡第109地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第82集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 大久保聡・市川康弘 梶ヶ山真理・植月 学
88	西原大塚遺跡第223地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第83集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 大久保聡・坂下貴則 遠藤知成・小森暁生
89	城山遺跡第99地点 中野遺跡第114地点 中道遺跡第92地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2022	志木市の文化財第84集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保聡
90	西原大塚遺跡第174②～⑤地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2022	志木市の文化財第85集 (本報告)	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 大久保聡・木村結香

第2表 志木市の発掘調査報告書一覧(3)



---

## 第2節 遺跡の概要

---

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町2～4丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約1kmに位置している。北東―南西方向に約700m、北西―南東方向に約150mの広がりを持ち、遺跡面積163,930㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で8mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、概ね平坦である。遺跡西側中央、台地から低地へ移る斜面下に湧水点が確認されており、台地はそこを中心に括れている。

昭和48(1973)年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されてきた。平成元(1989)年から平成19(2007)年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。令和3年12月28日現在で、調査地点237、面積約53,000㎡に対して確認調査・発掘調査を実施している(第2図)。本遺跡で実施された調査地点の概要を第3表に示した。以下に本遺跡で検出された遺構・遺物の概要について記す。

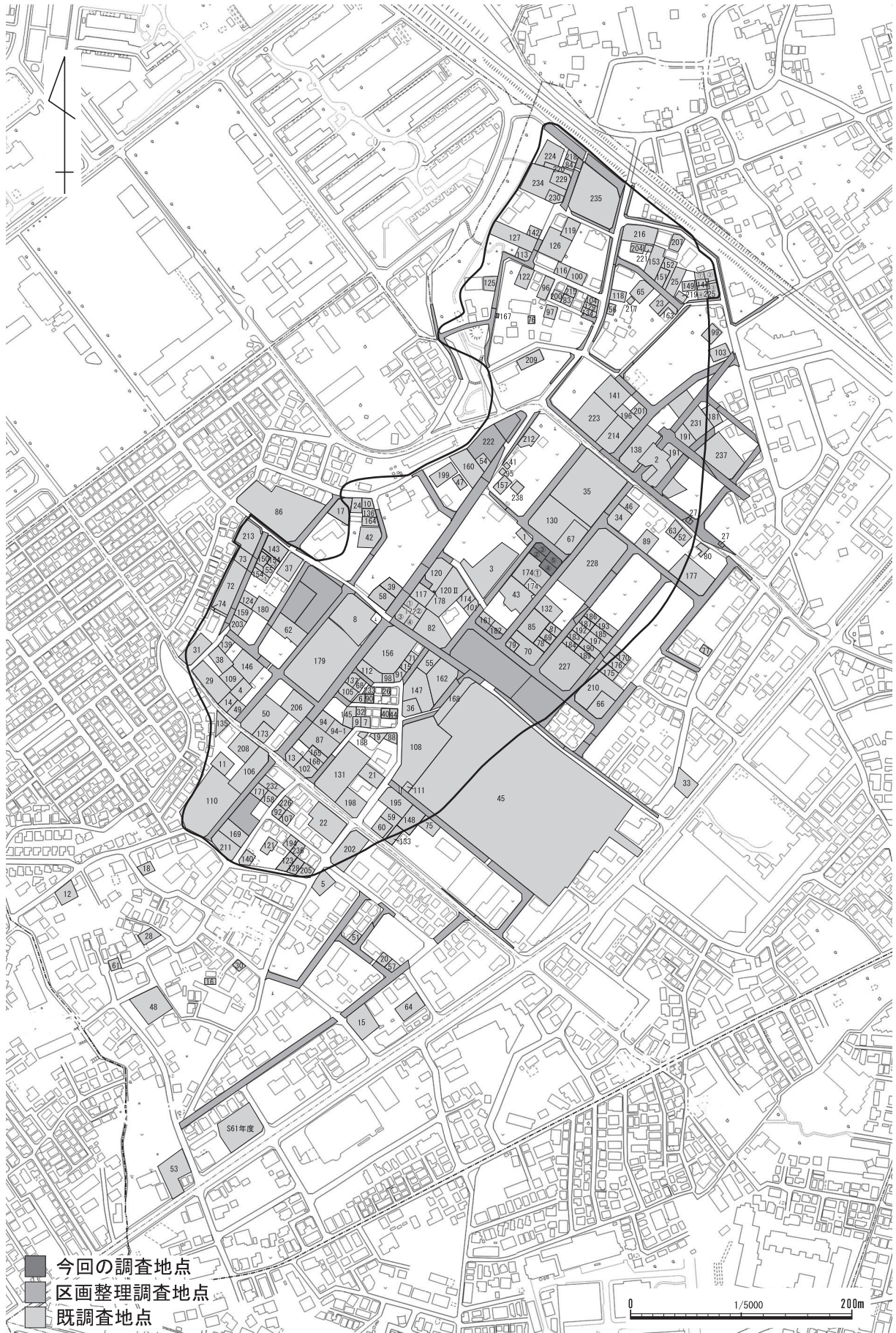
旧石器時代では、石器集中地点が19カ所確認されている(文献No.33・38・61・79)。第5号石器集中地点で安山岩製のナイフ形石器が立川ロームIX層上部から出土している他は、Ⅲ層～Ⅴ層上部からの出土が大半を占める。また、第8・10・11A・12・16～18号石器集中地点では礫群が検出されている。

縄文時代草創期では、表面採集で長さ11.9cmの両面調整石器1点が確認されている(文献No.2)。早期では、条痕文系土器を伴う炉穴15基が遺跡北西隅を中心に検出されている。前期では、黒浜式期の住居跡2軒、諸磯C式期の土坑1基が遺跡南西隅に分布している。中期では、遺構数が増大し、勝坂式期から加曽利E式期の住居跡198軒が環状集落を形成している。後期では、堀之内式期の住居跡1軒(文献No.38・81)、加曽利B式期の住居跡1軒(文献No.38)が検出されている。晩期では、遺構外遺物として安行3式土器が遺跡北西隅で出土しているが、遺構は検出されていない。遺物では、50号住居跡出土の硬玉製大珠(文献No.38)、第35地点108号住居跡出土の人面把手付土器(未報告)などが特筆される。

弥生時代では、前期から中期が空白期となるが、後期から古墳時代前期では住居跡約600軒、掘建柱建築遺構3棟、方形周溝墓34基が検出されており、関東屈指の大規模集落の様相を呈している。また、環濠の存在も指摘されている(文献No.86)。遺物では、122号住居跡出土の動物形土製品(文献No.38)、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓出土の鳥形土製品(文献No.24)、582号住居跡出土の銅釧(文献No.61)などが特筆される。

古墳時代では、中期が空白期となり、後期で住居跡10軒が検出されている。本遺跡内北東部に塚の山古墳が所在するが、近接する道路部分の調査でも周溝が不検出であるため、詳細は不明である。奈良・平安時代では、住居跡13軒が検出されている。本遺跡では、8世紀前葉に比定される第154地点の19号住居跡が最古の資料となる(文献No.40)。

中・近世では、地下式坑を含む土坑155基、井戸跡7基、配石遺構1基、柵列状遺構4条が検出されている(文献No.38)。



第2図 西原大塚遺跡の調査地点 (1 / 5,000)

令和3年12月28日現在



調査地点	発掘調査面積 (㎡)	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	第2表文献No.
第1地点	120.00	昭和48年8月3日 ～昭和48年8月12日	学術調査	縄文中期(住居跡5軒、土坑8基)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	No.1
第2地点	900.00	昭和55年7月20日 ～昭和55年8月21日	学術調査	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	No.2
第3地点	439.00	昭和58年8月23日 ～昭和58年9月8日	共同住宅	縄文中期(住居跡5軒、土坑2基)	No.3
第4地点	105.00	昭和62年1月5日 ～昭和62年1月11日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	No.5
第6地点	64.32	昭和62年11月18日 ～昭和62年11月20日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	No.9
第7地点	77.44	昭和63年1月20日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(小竪穴状遺構1基)、時期不詳(土坑1基、溝跡1本)	No.11
第8地点	1,227.00	昭和63年3月16日 ～昭和63年8月6日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡1軒、土坑24基)、弥生後期～古墳前期(住居跡13軒、方形周溝墓1基、掘立柱建築遺構1棟)	No.10
第9地点	75.86	昭和63年8月18日 ～昭和63年9月10日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	
第10地点	80.51	昭和63年8月27日 ～昭和63年10月4日	個人住宅建設	縄文中期(土坑4基、遺物包含層)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	
第11地点	220.84	平成元年5月16日 ～平成元年5月25日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)	No.12
第14地点	129.00	平成2年5月26日 ～平成2年6月11日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	No.18
第21地点	265.73	平成3年5月28日 ～平成3年5月29日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)	No.18
第32地点	60.11	平成6年4月6日 ～平成6年4月14日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)	No.17
第34地点	317.00	平成7年8月4日 ～平成7年9月1日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡3軒、土坑6基)、弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)、奈良・平安(住居跡1軒)	No.19
第35地点	2,540.00	平成8年7月16日 ～平成9年1月11日	共同住宅建設	縄文中期(住居跡20軒、土坑25基、埋裏1基、集石3基)、弥生後期～古墳前期(住居跡5軒、方形周溝墓3基、溝跡2条)、奈良(住居跡2軒)	未報告
第36地点	248.05	平成8年10月15日 ～平成8年10月26日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	No.21
第37地点	220.00	平成9年5月6日 ～平成9年6月5日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡7軒)、時期不詳(土坑4基)	No.22
第39地点	63.76	平成9年8月5日 ～平成9年8月28日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡3軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、方形周溝墓1基)	No.22
第43地点	779.60	平成12年1月11日 ～平成12年3月24日	農地土壌改良	縄文中期(住居跡10軒、土坑22基)、弥生後期～古墳前期(住居跡9軒)、古墳(1軒)	No.25
第45地点	5,642.42	平成11年8月3日 ～平成11年12月24日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡72軒、方形周溝墓1基)、古墳後期(住居跡2軒)	No.24
第47地点	86.12	平成12年4月3日 ～平成12年4月4日	個人住宅建設	縄文中期(土坑1基)、弥生後期～古墳前期(溝跡1本)	No.27
第54地点	90.74	平成14年9月13日 ～平成14年9月14日	物置建設	縄文中期～後期(土坑7基)、弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)	No.29
第65地点	115.93	平成14年7月25日 ～平成14年8月9日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	No.31
第67地点	456.20	平成14年9月9日 ～平成14年11月29日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡8軒、集石1基、土坑8基)、弥生後期～古墳前期(住居跡8軒、掘立柱建築遺構1棟、土坑1基)、平安時代(土坑1基、溝跡1本)	No.35
第70地点	534.47	平成14年10月31日 ～平成14年11月27日	共同住宅建設	縄文中期(住居跡2軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡15軒)、古墳後期(住居跡1軒)	未報告
第72地点	1,171.00	平成14年11月20日 ～平成15年1月9日	農地土壌改良	弥生後期～古墳前期(住居跡10軒)、中世以降(井戸跡1基)	未報告
第108地点	684.60	平成21年2月23日 ～平成21年4月14日	コミュニティ機能を持つ複合施設建設	縄文中期(住居跡1軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡15軒)	No.47
第110地点	500.00	平成17年2月7日 ～平成17年3月10日	集合住宅建設	旧石器(石器集中2カ所)、縄文中期(土坑1基、集石1基)、弥生後期～古墳前期(住居跡7軒)	No.33
第111地点	80.00	平成17年1月17日 ～平成17年1月21日	消防車庫建設	古墳前期(住居跡1軒)	No.32
第113地点	119.75	平成17年2月4日 ～平成17年2月15日	個人住宅建設	縄文早期(炉穴1基)、近世以降(土坑16基)	No.42
第120-1地点	460.56	平成17年6月27日 ～平成17年7月7日	保育園建設	縄文中期(住居跡1軒、土坑62基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒、方形周溝墓1基)	No.41
第120-2地点	566.55	平成18年5月30日 ～平成18年6月28日			
第124地点	150.02	平成18年1月12日 ～平成18年1月13日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡3軒)	No.42
第131地点	472.21	平成18年8月30日 ～平成18年9月20日	集合住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡2軒、方形周溝墓5基)	No.41
第137地点	100.00	平成18年11月9日 ～平成18年11月15日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1)、時期不詳(ピット5本)	No.46
第138地点	20.00	平成19年2月5日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(溝跡1本)	No.40

第3表 西原大塚遺跡発掘調査一覧(1)

第1章 遺跡の立地と環境

調査地点	発掘調査面積 (㎡)	発掘調査期間	調査原因	遺 構 の 概 要	第2表文献No.
区画整理	38,242.39	平成元年12月20日 ～平成19年1月12日	区画整理事業	旧石器(石器集中12ヶ所)、縄文早期(炉穴13基)、縄文前期(住居跡2軒、土坑1基)、縄文中期(住居跡101軒、土坑233基、集石13基)、縄文後期(住居跡2軒、土坑9基)、弥生後期～古墳前期(住居跡362軒、方形周溝墓22基)、古墳後期(住居跡6軒)、奈良・平安(住居跡7軒)、中近世(土坑155基、井戸跡6基)	No.20 No.38
第154地点	120.02	平成20年3月17日 ～平成20年3月19日	分譲住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、奈良・平安(住居跡1軒、ピット1本)、中世以降(土坑1基)	No.40
第155地点	120.00	平成19年3月18日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	No.46
第159地点	208.27	平成21年9月30日 ～平成21年10月30日	個人住宅建設	縄文時代(土坑2基)、弥生後期～古墳前期(住居跡8軒)、古墳後期(住居跡1軒)、中世以降(土坑6基、溝跡1本)	No.56
第165地点	110.38	平成22年4月14日 ～平成22年4月29日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、溝跡1本)	No.63
第166地点	126.63				
第169地点	90.00	平成22年10月4日 ～平成22年10月13日	共同住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、掘立柱建築遺構1棟)	No.52
第171地点	100.12	平成22年10月1日 ～平成22年10月12日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	No.63
第172②地点	31.55	平成23年3月11日 ～平成23年3月30日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡5軒、土坑17基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒、方形周溝墓1基)	No.69
第172①・③・④地点	260.79	平成23年6月8日 ～平成23年8月23日	個人住宅建設		
第174①地点	627.54	平成23年10月19日 ～平成24年1月13日	宅地造成	縄文中期(住居跡10軒、屋外炉2基、土坑44基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	No.60
第174②～④地点	300.28	平成23年11月3日 ～平成24年1月13日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡17軒、埋甕1基、土坑24基)、弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)、中・近世(土坑1基)	No.90 (本報告)
第174⑤地点	153.93	平成24年9月10日 ～平成24年10月22日	個人住宅建設		
第179地点	1,380.00	平成24年6月18日 ～平成24年10月5日	集合住宅建設	旧石器(石器集中1ヶ所)、縄文時代(土坑10基)、弥生後期～古墳前期(住居跡13軒、土坑2基)、古墳後期～奈良・平安(溝1本)、中世以降(溝跡4本、土坑1基)	No.61
第180地点	156.00	平成24年6月4日 ～平成24年8月1日	個人住宅建設	縄文前期(住居跡1軒)、縄文(土坑5基)、弥生後期～古墳前期(住居跡12軒、土坑2基)	No.75
第182地点	52.76	平成24年10月3日 ～平成24年10月30日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡1軒)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	No.75
第183地点	18.00	平成24年9月24日 ～平成24年10月3日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	No.75
第184地点	25.06	平成24年9月24日 ～平成24年10月3日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)	No.75
第199地点	174.51	平成26年2月3日 ～平成26年2月21日	個人住宅建設	縄文(ピット7本)、中世以降(土坑14基、溝跡1本)	No.86
第200地点	75.55	平成26年11月4日 ～平成26年11月10日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)	未報告
第203地点	44.00	平成26年11月14日 ～平成26年11月21日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、中世以降(土坑8基)	未報告
第204地点	104.34	平成26年11月27日 ～平成27年1月16日	個人住宅建設	縄文後期(土坑7基)、縄文(集石1基)、弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)	未報告
第207地点	152.09	平成27年10月21日 ～平成27年11月18日	共同住宅建設	縄文(ピット5本)、弥生後期～古墳前期(住居跡3軒、方形周溝墓1基、土坑1基)	No.73
第211地点	220.00	平成29年4月10日 ～平成29年5月9日	分譲住宅建設	縄文(溝跡1本)、弥生後期～古墳前期(住居跡2軒)、中世以降(土坑14基)	No.74
第213地点	635.00	平成29年7月4日 ～平成29年8月26日	分譲住宅建設	中世以降(土坑12基、地下室4基、井戸跡1基、板碑埋納1基、ピット6本)	No.77
第216地点	373.94	平成30年6月19日 ～平成30年10月6日	共同住宅建設	縄文後期(住居跡1軒、土坑31基、ピット104本)、弥生後期～古墳前期(住居跡2軒、掘立柱建築遺構1棟)、中世以降(土坑12基、土坑墓1基)	No.81
第220地点	119.56	平成30年10月31日 ～平成30年12月1日	道路新設工事	旧石器(石器集中1ヶ所、礫群1ヶ所)、縄文(陥穴1基)、中世以降(土坑23基、井戸跡1基、道路状遺構1本、ピット34本)	No.80
第222地点	94.00	平成30年10月18日 ～平成30年11月7日	分譲住宅建設	縄文中期(住居跡7軒、土坑3基)、弥生後期～古墳前期(方形周溝墓1基)	No.80
第223地点	366.93	令和2年4月9日 ～令和2年6月19日	分譲住宅建設	縄文(炉穴1基、土坑6基)、弥生後期～古墳前期(住居跡7軒、溝跡1本)、奈良・平安(住居跡2軒、溝跡1本)	No.88
第224地点	379.57	令和元年5月21日 ～令和元年7月31日	分譲住宅建設	旧石器(石器集中4ヶ所、礫群4ヶ所)、縄文(土坑2基)、中世以降(段切状遺構1ヶ所、土坑40基、道路状遺構1本、ピット104本)	No.79
第225②地点	106.61	平成31年4月16日 ～平成31年4月19日	個人住宅建設	縄文中期(住居跡1軒)、弥生以降(ピット25本)	未報告
第225③地点	122.46	令和3年2月24日 ～令和3年3月15日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒)、弥生以降(ピット49本)、中世以降(土坑1基)	未報告
第225④地点	111.54	令和3年7月28日 ～令和3年8月26日	個人住宅建設	弥生後期～古墳前期(住居跡1軒、掘立柱建築遺構1棟)、弥生以降(ピット49本)、中世以降(土坑8基、火葬土坑1基)	未報告
第227地点	508.08	平成31年3月5日 ～平成31年3月26日	分譲住宅建設	縄文時代(炉穴2基、土坑1基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒)	No.80
第228地点	2,156.00	令和元年9月2日 ～令和2年3月25日	分譲住宅建設	縄文中期(住居跡14軒、土坑19基)、弥生後期～古墳前期(住居跡26軒)、奈良・平安時代(住居跡3軒)、中世以降(柵列4条、土坑1基)	No.84
第231地点	564.22	令和2年4月21日 ～令和2年5月30日	分譲住宅建設	縄文(土坑3基)、弥生後期～古墳前期(住居跡4軒、溝跡1本)、古墳後期～平安(住居跡1軒)、中世(柵列状遺構2条、ピット29本)	No.85
第234地点	222.59	令和3年3月3日 ～令和3年4月18日	集合住宅建設	古墳後期(住居跡1軒)、中世以降(土坑30基、井戸跡1基、段切状遺構1ヶ所)	未報告

第3表 西原大塚遺跡発掘調査一覧(2)



## 第2章 発掘調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

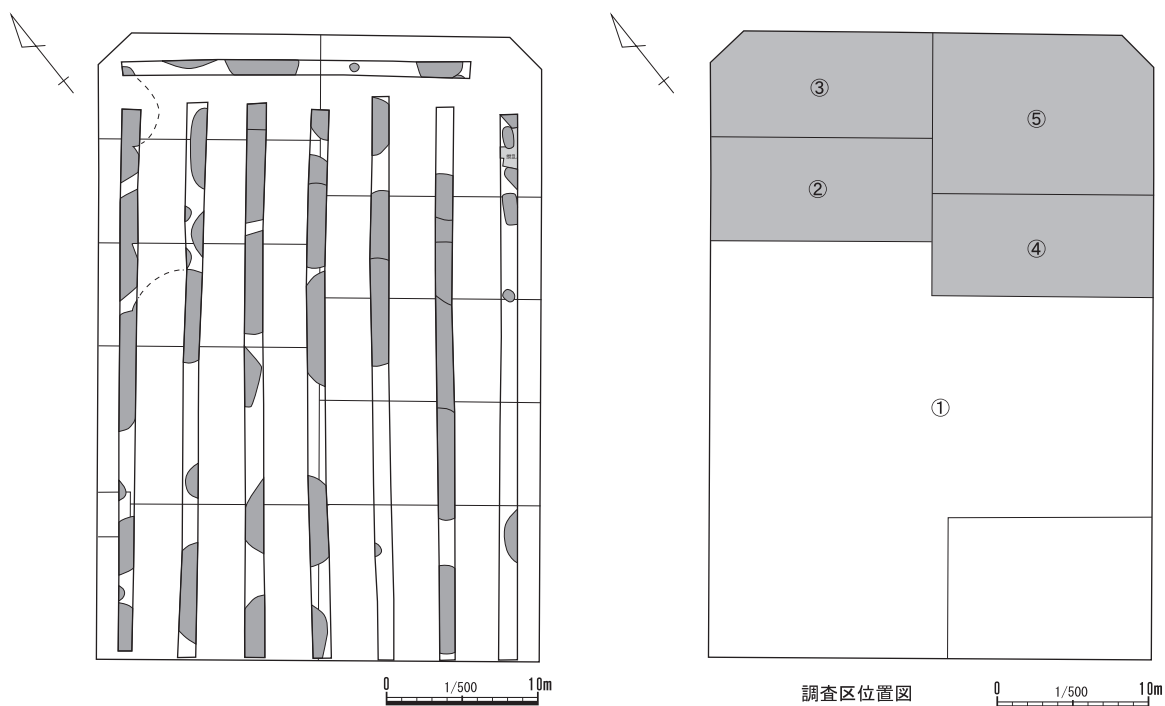
平成23年4月、土地所有者より志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ土木工事計画地内における埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。土木工事計画は、志木市幸町3丁目7204-3に宅地造成工事を行うものである。教育委員会は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード11228-09-007）に該当するため、概ね下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施した上で、当該地における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

2. 確認調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、保存措置を講ずること。また現状保存及び盛土保存が不可能である場合については、記録保存（発掘調査）を実施する必要があること。

平成23年6月、教育委員会は確認調査依頼書を受理し、平成23年6月13日から15日にかけて西原大塚遺跡第174地点として確認調査を実施した。敷地に対して長軸方向に7本、短軸方向に1本のトレンチをそれぞれ設定し、バックホーを使用して表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代中期の住居跡30軒程度、土坑5基、近世以降の土坑1基を確認した（第3図）。

教育委員会は、直ちに土木工事主体者に確認調査の結果を報告し、埋蔵文化財の保存措置に関する協議を行った。協議を進める中で計画が具体化し、第174地点全体が、分譲住宅建設部分（①地点）と個人住宅建設部分（②～④地点）、現状保存部分（⑤地点）に区分された。①～④地点については、十分な文化財保護層が確保できないことから、記録保存（発掘調査）として取り扱うこととなった。これを受けて教育委員会は、①地点については受託事業として平成23年10月19日から平成24年1月



第3図 確認調査時の遺構分布（1／500）

13日まで、②～④地点については国庫補助事業として平成23年10月1日から1月13日まで、一部並行して記録保存（発掘調査）を行った。①地点については発掘調査報告書を刊行している（文献No.60）。

その後、一時現状保存とした⑤地点についても平成24年8月に個人住宅建設が計画され、保存措置に係る事前協議を行った結果、十分な文化財保護層が確保できないことから、記録保存（発掘調査）として取り扱うこととなった。これを受けて教育委員会は、国庫補助事業として平成24年9月10日から10月22日まで記録保存（発掘調査）を実施した。各地点の取扱いと届出等については第4表に示した。

地点名	工事目的	対象面積 (㎡)	保存方法	調査面積 (㎡)	調査期間	土木工事通知	文化財認定
第174②地点	個人住宅建設	100.09	記録保存	100.09	平成23年10月1日 ～平成24年1月13日	平成23年11月8日付 教生文 第5811号	平成24年2月27日付 教生文 第7-291号
第174③地点	個人住宅建設	100.09	記録保存	100.09		平成23年11月8日付 教生文 第5812号	平成24年2月27日付 教生文 第7-292号
第174④地点	個人住宅建設	100.10	記録保存	100.10		平成23年11月8日付 教生文 第5813号	平成24年2月27日付 教生文 第7-293号
第174⑤地点	個人住宅建設	153.93	記録保存	153.93	平成24年9月10日 ～10月22日	平成24年9月21日付 教生文 第5-622号	平成25年3月18日付 教生文 第7-193号

第4表 第174②～⑤地点一覧

## 第2節 調査の経過

### (1) 概要

②～④地点の発掘調査は、全て平成23年10月1日に開始したが、各地点の土木工事計画に併せて順次埋戻しを行う必要があることから、②地点は平成23年12月27日、③地点は平成23年11月30日、④地点は平成24年1月13日までに精査を終了させた。⑤地点については、平成24年9月10日から平成24年10月22日まで調査を実施した。各遺構の発掘調査工程については第5表に示した。

### (2) 各地点の調査経過

#### 1. ②～④地点の発掘調査

平成23年

10月上旬 発掘調査を開始する。調査区の周囲に単管パイプとオレンジネットによる安全柵を設置する。バックホーによる表土剥ぎ作業を実施する。人員を導入し、遺構確認作業、調査区整備、原点移動、器材搬入等を行う。遺構確認作業の結果、③地点で区画整理第23 I地点で検出された37・39 Jを、④地点で区画整理第13 IV地点で検出された86 J・290 Yをそれぞれ確認する。他に、縄文時代中期の住居跡9軒、弥生時代の住居跡1軒を確認する。土木工事計画を考慮し、②・③地点の調査を先行させることとした。37・39 Jの精査を開始し、区第23 I地点と調査区が重複することを確認した。

10月中旬 37・39 Jの土層断面の記録、炉・柱穴の精査を行う。③地点では北側の一部のみの検出となる163 Jの精査を開始し、柱穴の精査を行った。163 Jの精査を完了した。

10月下旬 37・39 Jの完掘写真撮影、平板測量、掘り方精査を行った。41・164 Jの精査を開始した。628・629 Dの精査を開始した。

- 11月上旬 164 J床面出土遺物が、628 Dに壊されていることを確認した。164 J遺物出土状態の写真撮影・平板測量を行った。41・164 Jを完掘し、精査を終了した。165 Jの精査を開始した。数軒の重複が想定されたが、遺構確認面や土層断面の観察では判断できなかった。630・631 Dの精査を行った。631 D北東側に検出した埋甕炉を166 Jとして取り扱うこととした。
- 11月中旬 165 Jの炉・柱穴・壁面・壁溝を検出し、改めて土層断面を観察した結果、165 Jは4軒の住居跡が重複しているものと判断し、それぞれ165・167～169 Jとして取り扱うこととした。
- 11月下旬 165・167～169 Jの遺物出土状態及び完掘状況の写真撮影・平板測量を実施し、精査を完了させた。170 Jの精査を行う。③地点の埋戻しを行う。②地点に位置する土坑群(632～643 D)の精査を開始する。290 Yの精査を開始する。
- 12月上旬 土坑群(632～643 D)の精査を行う。171・172 Jの精査を開始した。重複関係の把握の為、171・172 J共有のセクションを設定し、掘り下げを行った。565 Yの精査を開始する。
- 12月中旬 土坑群(645～649 D)の精査を行う。171・172 Jの精査を行う。171 Jから多量の遺物が出土し、とりわけ、上層(黒褐色土層)と下層(褐色～暗褐色土層)との層界、そして床面付近からの出土が目立つ状況であった。171・172 J共有セクションの観察により、171 Jが172 Jを切ることを確認した。土層断面・遺物出土状態の記録を行った。
- 12月下旬 171・172 Jの柱穴・炉・壁溝の検出後、完掘状況の写真撮影・平板測量を行い、精査を完了させた。これに伴い、②地点の埋戻しを行う。173 Jの精査を開始する。565 Yの精査を行う。

## 平成24年

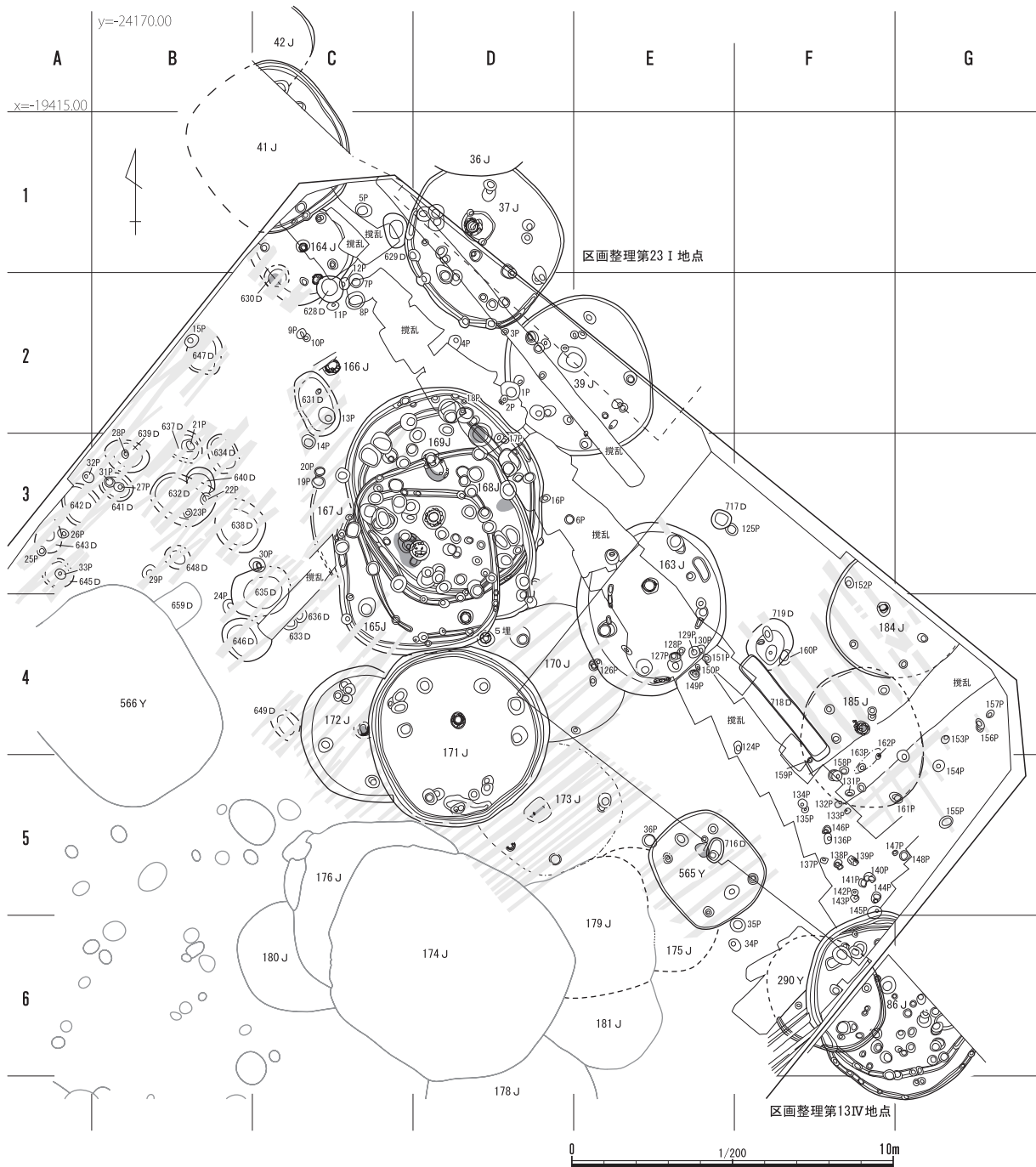
- 1月上旬 173 Jの炉・柱穴・埋甕を検出し、完掘状況の写真撮影・平板測量を行う。565 Yの炉・柱穴を検出し、写真撮影・平板測量を行う。
- 1月中旬 86 Jの精査を行う。86・173 J、290・565 Yの精査を完了する。④地点の埋戻しを行う。プレハブ及び仮設トイレの撤去を行い、調査を完了する。

## 2. ⑤地点の発掘調査

### 平成24年

- 9月上旬 発掘調査を開始する。バックホーによる表土剥ぎ作業を実施する。
- 9月中旬 人員を導入し、遺構確認作業、調査区整備、原点移動、器材搬入等を行う。565 Yの精査を行う。565 Yの精査後、床下から716 Dを検出する。86・163 Jの精査を開始する。
- 9月下旬 86・163 Jの土層断面、遺物出土状態、完掘状況の記録を行う。170・184・185 Jの精査を開始する。重複する184・185 J共通のセクションを設定し掘り下げる。716・717 Dの精査を行う。
- 10月上旬 163 Jの炉体土器埋設状況の観察のため、箱掘りを実施した。163 Jの精査を終了する。184・185 Jの炉・柱穴の精査を行う。718・719 Dの精査を行う。
- 10月中旬 185 Jの炉・柱穴・貼床を検出し、精査を終了する。
- 10月下旬 埋戻し作業、器材撤収を行い、調査を終了する。





第4図 遺構分布図 (1 / 200)

## 第3章 検出された遺構・遺物

### 第1節 縄文時代の遺構・遺物

#### (1) 概要

遺構は、住居跡 17 軒 (37・39・41・86・163～173・184・185 J)、埋甕 1 基 (5 埋)、土坑 24 基 (628～643・645～649・716・717・719 D)、柱穴 49 本 (1～36・125・126・129・144・145・149・152・154・158・160～163 P) を検出した。住居跡・埋甕・土坑は、全て中期中葉から後葉期 (勝坂式から加曽利 E 式期) に帰属する。遺構の分布密度は比較的高く、特に中央部分にあたる C～D-2～5 グリッドには、住居跡が密集して分布している。また、住居跡は調査区中央から東側、土坑は西側に主要な分布域を持つ傾向が看取できる。

遺物は、土器・土製品・石器が出土した。土器は、五領ケ台式・阿玉台式・勝坂式・加曽利 E 式・曾利式・連弧文帰属資料が出土しており、中でも勝坂 3 式と加曽利 E 1 式が主体を占める。土製品は、土器片錘が多く出土し、土偶等の特殊遺物は出土していない。石器は、石鏃・石匙・削器・楔形石器・打製石斧・磨製石斧・石皿・磨石・敲石の他、異形石器や石棒と考えられる特殊遺物も出土している。

#### (2) 住居跡

##### 37 号住居跡

**遺 構** (第 5・6 図)

**[位 置]** (D-1・2) グリッド/③地点・区第 23 I 地点

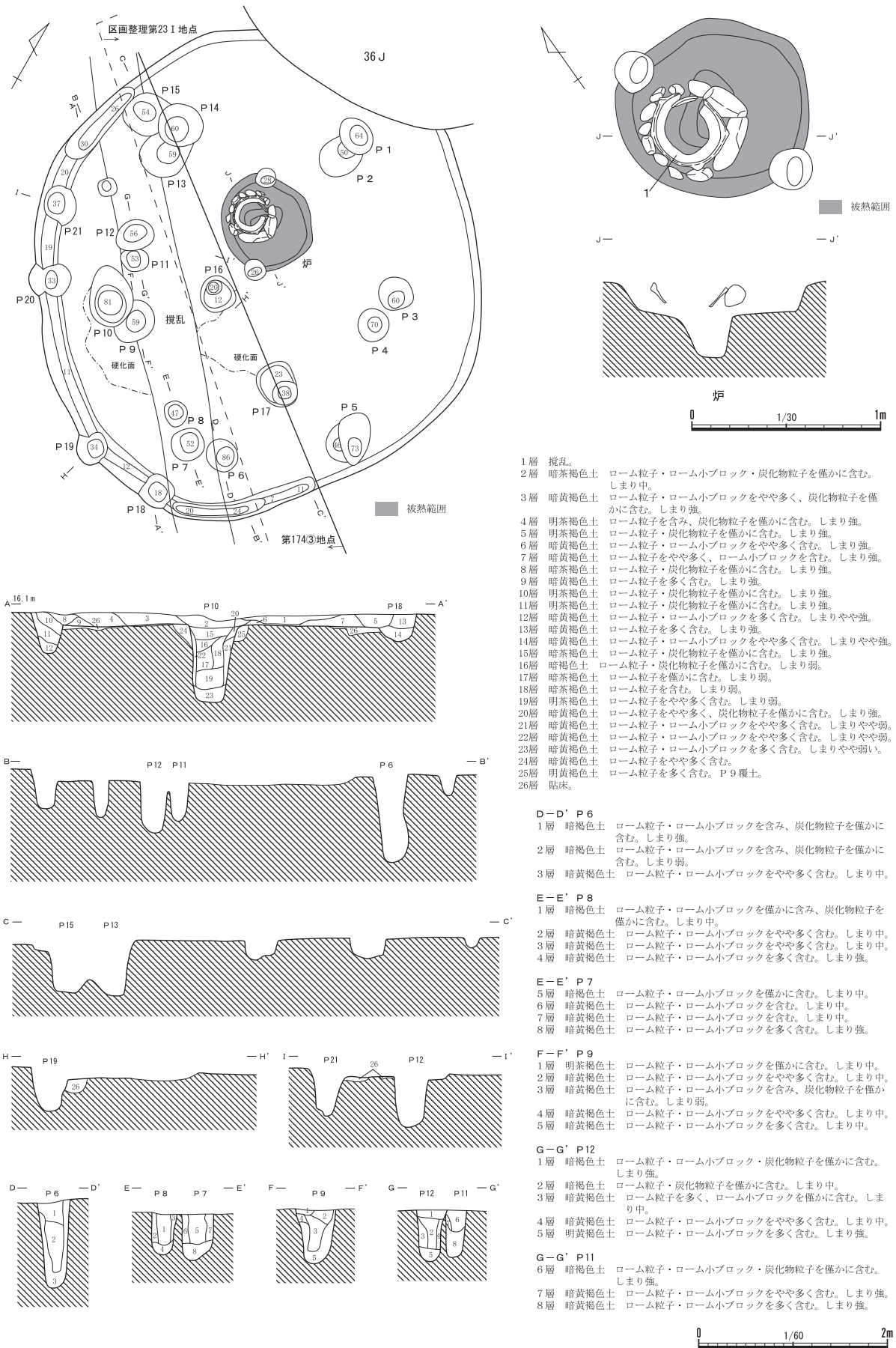
**[検出状況]** 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。東半は区画整理第 23 I 地点 (以下、「区第 23 I 地点」) で検出しており、一部調査区が重複する。今回新たに検出した箇所は西側の一部である。調査区北西-南東方向の溝状の攪乱に壊されている。36 J に切られる。区第 23 I 地点においては 39 J と重複するとされていたが、本地点においては重複関係を確認できなかった。629 D との切合いは不明。

**[構 造]** 平面形：楕円形。規模：長軸 5.1m / 短軸 4.7m / 確認面からの深さ 6.5～11.5cm。主軸：N-34°-W。P 5 と P 6 の中間と、炉の中央を通るラインを主軸と捉えた。壁溝：区第 23 I 地点では検出されていないが、本地点では 1 条検出した。上幅 16～30cm / 下幅 7～14cm / 床面からの深さ 7～30cm。南側及び北西の一部にやや深く掘り込まれた箇所を確認した。壁：約 70° で立ち上がる。床面：平坦。炉跡南西部に一部硬化面を確認した。壁際に貼床を確認した。炉：石囲埋甕炉。区 23 I 地点での検出である。長軸 1.0m / 短軸 0.9m / 床面からの深さ 40cm。深鉢形土器の口縁部 (第 7 図 1) を埋設し、拳大の礫を西側に、長さ 20～30cm のやや長めの礫を東側に密接して配置する。柱穴：21 本検出した。規模と配置から、P 1・2、P 3・4、P 5、P 6～8、P 9～12、P 13～15 を主柱穴として捉えた。6 本柱建物で 1～2 回の建替を想定する。P 18～21 は壁柱穴。

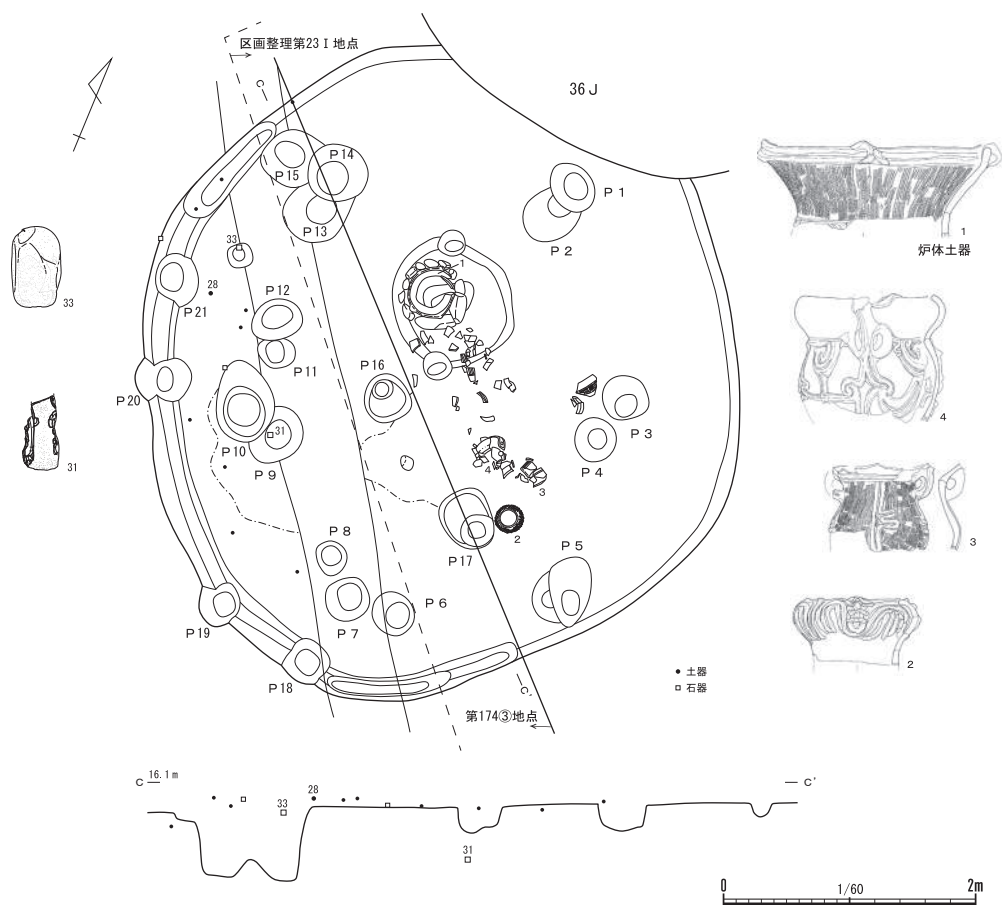
**[覆 土]** ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を僅かに含み、しまりの強い暗黄褐色～明茶褐色土を基調とする。

**[遺 物]** 本地点からは、土器は 73 点 929g、土製品は 1 点 30g、石器は 5 点 (打製石斧 3 点・敲石 1 点・剥片 1 点) 出土した。





第5図 37号住居跡・炉 (1/60・1/30)



第6図 37号住居跡遺物出土状態 (1/60)

[時期] 炉体土器及び覆土出土土器から、中期中葉期（勝坂3b新式期）。

[遺物] (第7～9図、第6～8表、図版19)

[土器] (第7図、第8図13～18・23～29、第6表、図版19)

1～18は既報告資料（文献No.38）である。1は炉体土器で勝坂3b新式の深鉢形土器、2～4は勝坂3b新式の深鉢形土器、5は勝坂3b式の浅鉢形土器である。6～11は加曽利E1式の深鉢形土器で、12は曽利式、13～18は勝坂3式～加曽利E1式土器である。うち8・11・13・18が接合して復元可能となったため実測の上23として掲載する。15は土器片錘であり、実測の上30として掲載する。

今回新たに報告する資料として、実測個体1点、破片資料6点を図示した。23は口縁部が強く内湾する加曽利E1a式のキャリパー形深鉢形土器である。24・25は阿玉台Ⅱ式、26～28は勝坂式、29は加曽利E3式土器である。

[土製品] (第8図19・30、第7表、図版19)

19は既報告資料（文献No.38）で、土器片錘である。

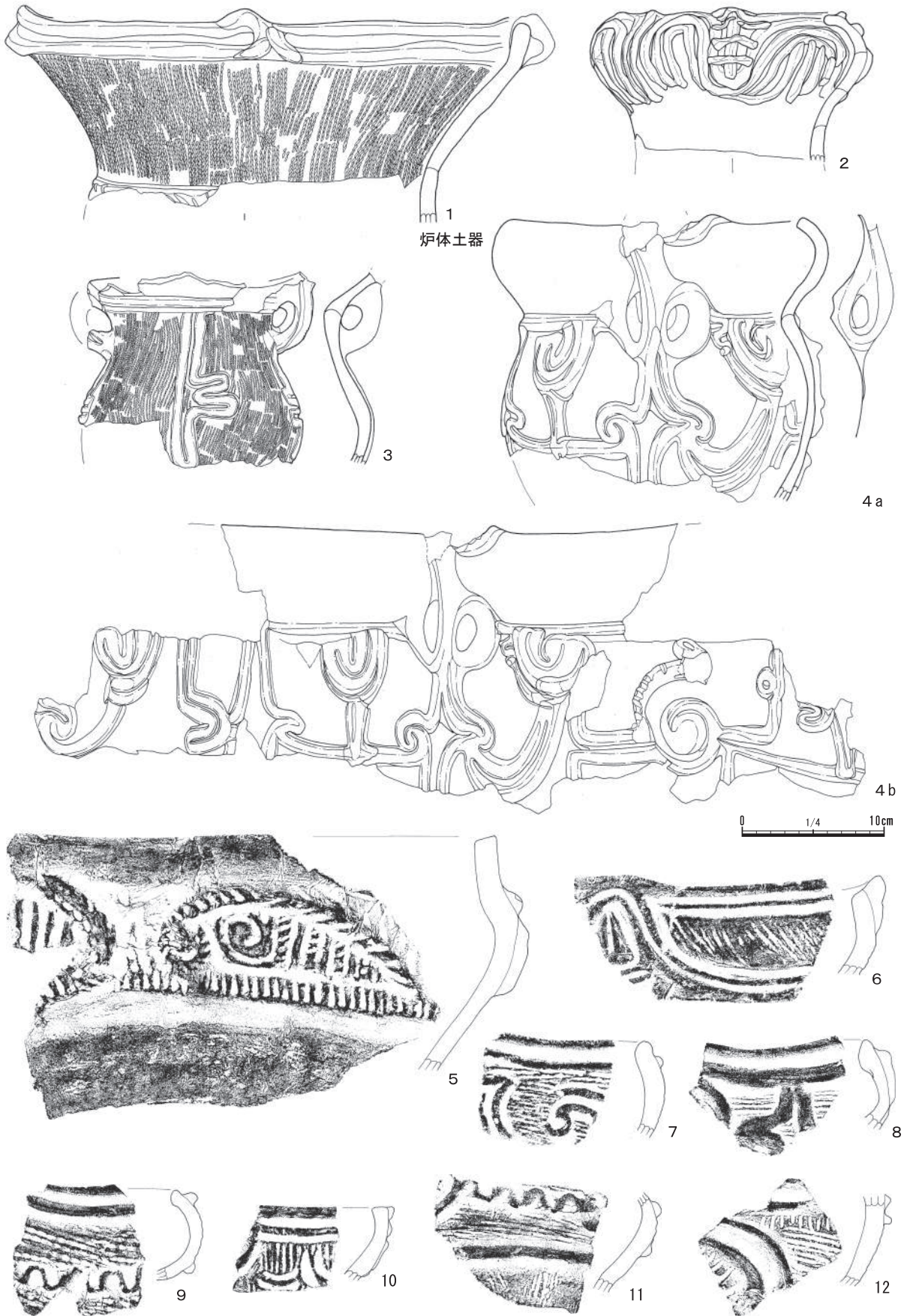
今回新たに報告する資料として、1点図示した。30は土器片錘である。

[石器] (第8図20～22、第9図、第8表、図版19)

20～22は既報告資料（文献No.38）で、打製石斧である。

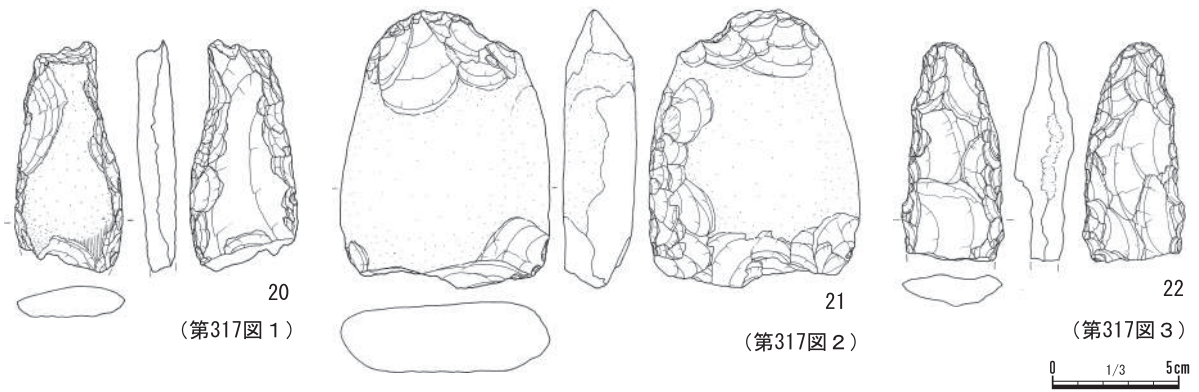
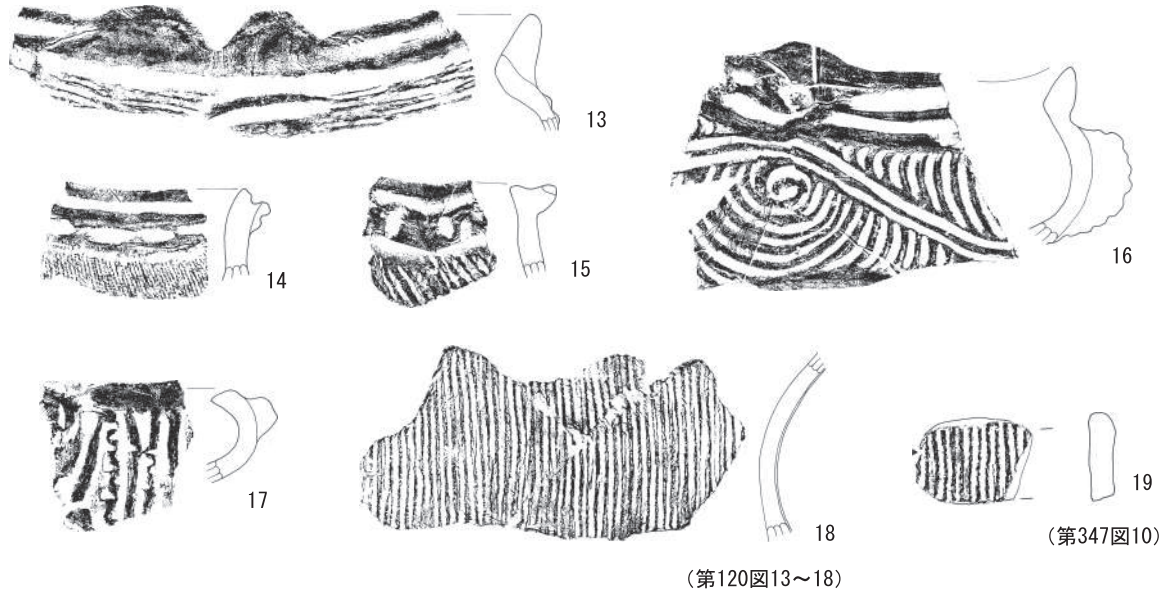
今回新たに報告する資料として、3点図示した。31・32は打製石斧で、33は敲石である。



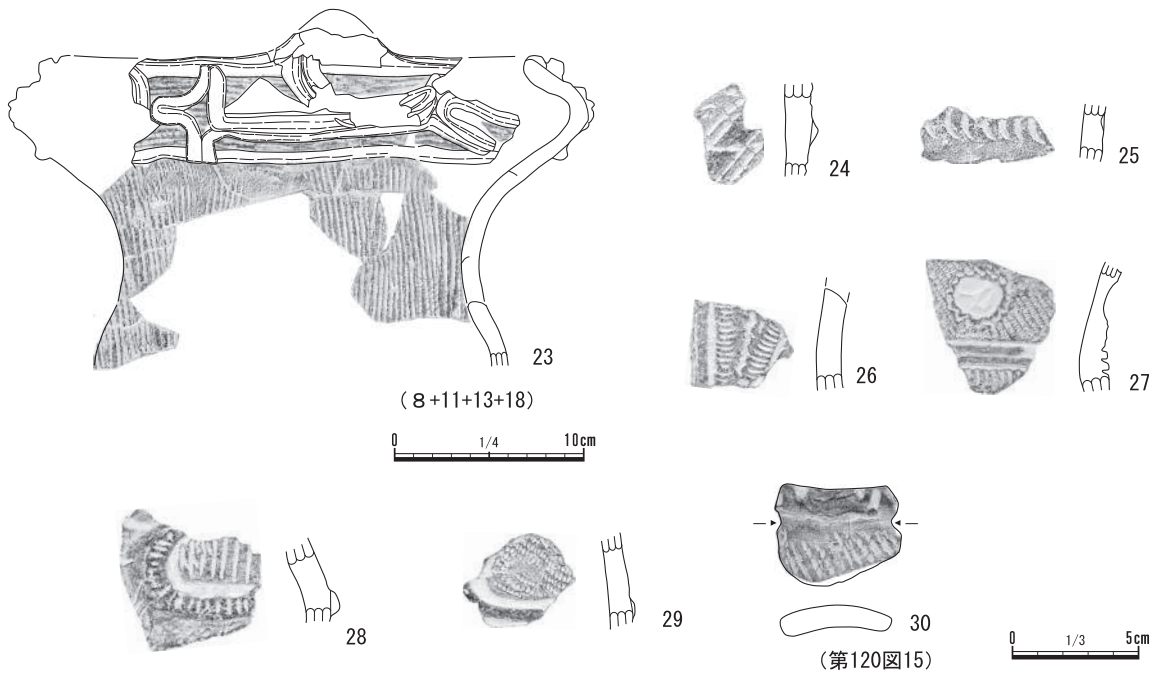


(志木市遺跡調査会調査報告 第13集 第119図・120図 1~12)

第7図 37号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)

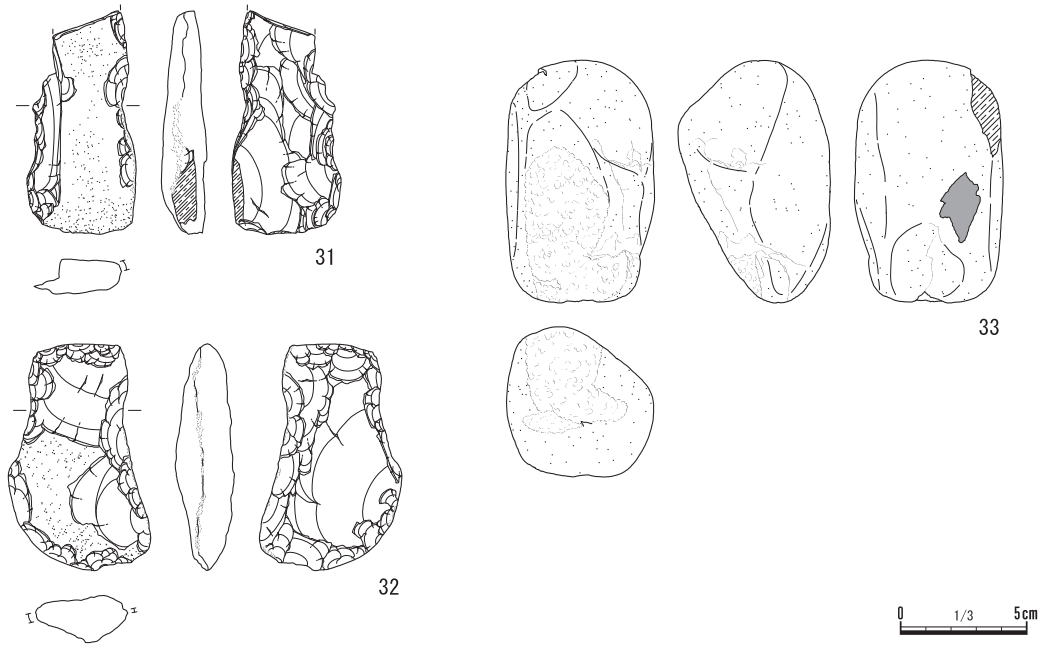


(志木市遺跡調査会調査報告 第13集 第120・317・347図)



第8図 37号住居跡出土遺物2 (1/4・1/3)





第9図 37号住居跡出土遺物3 (1/3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第7図1 図版19-1	深鉢	口縁部～ 頸部 90%	高 [13.4] 口 39.6 厚 1.2	外反して広がる口 縁部/口縁部上端 で直立	口縁部上端には2本1対の隆帯が巡り、部 分的に半環状ないし眼鏡状の突起を形成/ 突起は4単位確認(5単位か)/頸部には 刺突文が施された隆帯が巡る/地文は撚糸 L縦位施文	褐/砂粒微量、 礫少量	勝坂3b新 式	炉体
第7図2 図版19-2	深鉢	口縁部～ 頸部 100%	高 [9.8] 口 12.7 厚 0.9	外反して立ち上 がる頸部/強く内湾 する口縁部	口縁部には2～4本1対の隆帯による波状 文を5単位配す/波状文上位には口唇部か ら直状隆帯が垂下し、それに横位隆帯が3 ～4本重なるキ字状文が配される/キ字状 文の上端で4単位の小突起を形成/波状文 下位には3～4本1対の隆帯が垂下/隆帯 の貼付は甘い/頸部は無文	褐/砂粒・礫中 量	勝坂3b新 式	P17 東側 覆土上層 逆位
第7図3 図版19-3	深鉢	口縁部下 位～胴部 下位 80%	高 [13.8] 厚 1.0	胴部中位に最大径 を持ち、頸部で括 れ、口縁部で広 がる	頸部に隆帯が1本巡り、口縁部と胴部を画 す/口縁部は無文/頸部に橋状把手が対称 位に2単位配される/橋状把手部及びその 中間位置から2本1対(1単位)・3本1対 (3単位)の隆帯が垂下し、十字状文を配す /地文は撚糸R縦位施文	にぶい黄褐/砂 粒微量、礫少 量	勝坂3b新 式	P17 東側 覆土上層
第7図4 図版19-4	深鉢	口縁部～ 胴部中位 60%	高 [23.7] 口 22.2 厚 0.8	胴部中位で膨らみ、 頸部で括れ、口縁 部で内湾して広 がる	口縁部は無文で、突起が付くか/頸部に眼 鏡状把手を1単位確認/胴部には隆帯によ るト字状文・U字状文・渦巻文等が配され る/隆帯による文様間は無文	にぶい褐/砂 粒・礫微量	勝坂3b新 式	P17 東側 覆土上層
第7図5 図版19-5	浅鉢	口縁部～ 体部 破片	厚 1.0	開く体部/口縁部 はやや内湾し、上 端で直立	直立する無文の口縁部上端/押圧文の付さ れた隆帯により口縁部と体部を画し、口縁 部には区画文/区画間には角押文を伴う 縦位沈線列や渦巻文、交互刺突文充填	明黄褐/砂粒・ 礫多量	勝坂3b式	覆土中
第7図6 図版19-6	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部/ 口唇部で肥厚	口縁部上端に2本1対の沈線横走/口縁部 には2本1対の隆帯による弧状文が波頂部 で小突起を形成/区画内には撚糸L縦位充 填施文	暗黄褐/砂粒・ 礫中量	加曾利E1a ～b式	北壁 床上26・ 33cm
第7図7 図版19-7	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	緩やかに内湾する 口縁	地文は撚糸L横位施文/口縁部上端に隆帯 横走/2本1対の隆帯によるS字状文	明黄褐/砂粒・ 礫多量	加曾利E1a 式	覆土中
第7図8					第7図11・第8図13・18と接合し23と して掲載			

第6表 37号住居跡出土土器一覧(1)

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第7図9 図版19-9	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	強く内湾する口縁	地文は粗い撚糸L横位施文/口縁部上端に隆帯横走/口縁部には交互刺突が付された波状隆帯横走	灰褐/砂粒・礫多量	加曾利E1式	覆土中
第7図10 図版19-10	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁/口唇部で肥厚	地文は撚糸R縦位施文/口縁部上端に2本1対の沈線/隆帯・沈線による弧状文	にぶい赤褐/砂粒・礫微量	加曾利E1~2式	覆土中
第7図11					第7図8・第8図13・18と接合し23として掲載			覆土中
第7図12 図版19-12	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	緩やかに内湾する	2本1対の隆帯による弧状文/隆帯間には斜行沈線文が充填	にぶい褐/砂粒・礫多量	曾利II~III式	覆土中
第8図13					第7図8・11第8図18と接合し23として掲載			
第8図14 図版19-14	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁/口唇部で直立	口縁部上端に連鎖状隆帯横走/地文は撚糸R縦位施文	暗褐/砂粒・礫中量	勝坂3式~加曾利E1式	覆土中
第8図15					第8図30(土器片錘)として掲載			
第8図16 図版19-16	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	強く内湾する口縁は断面三角形を呈す/口唇部で外折	口縁部に山形小突起を配す/口縁部上端に2本1対の沈線が横走し、小突起下部で渦巻状文を形成/口縁部は2本1対の沈線による波状文で区画され、区画内に沈線による同心円状文を配す/複弧文系	にぶい褐/砂粒・礫中量	加曾利E1式	覆土中
第8図17 図版19-17	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	強く内湾する口縁	縦位隆帯を密に貼付/隆帯上には刺突・交互刺突文が付される	赤褐/砂粒・礫多量	勝坂3式~加曾利E1式	覆土中
第8図18					第7図8・11第8図13と接合し23として掲載			
第8図23 図版19-23	深鉢	口縁部~ 胴部中位 60%	高 [18.1] 口 [22.6] 厚 0.9	キャリパー形/胴部中位で強く膨らみ、頸部で括れ、幅狭の口縁部で強く内湾	口唇部には1個の小突起と2個一対の小突起が対称位に配される/口唇部に2本、口縁部下端には1本の隆帯が巡り、文様帯を形成/地文は撚糸Lで、口縁部は横位に、胴部は縦位に施文/口縁部には2本1対の偏平な隆帯によるS字状文や十字状文が部分的に確認できる/隆帯脇の処理は甘い/地文→隆帯貼付/第7図8・第8図11・13・18を接合・実測	黄褐/砂粒中量、礫微量	加曾利E1a式	覆土中
第8図24 図版19-24	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	ほぼ直立	やや太めの断面三角形の隆帯垂下/隆帯脇には2本一対の結節沈線が沿う/結節部の先端は平坦	にぶい黄褐/砂粒多量、礫少量、雲母中量	阿玉台II式	P1
第8図25 図版19-25	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	やや外傾	爪形文が横位に巡る	黄褐/砂粒・礫・雲母中量	阿玉台II式	覆土中
第8図26 図版19-26	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外反する胴部	半截竹管状工具の腹面引きによる区画文/沈線には押圧文が沿う/区画文内には波状沈線が縦位に施される/パネル文系	明赤褐/砂粒・礫中量	勝坂2式	P2
第8図27 図版19-27	深鉢	口縁下位 破片	厚 1.2	外反する口縁/上端部は薄手	一端を重ねた半截竹管状工具腹面による並行沈線3本が頸部に巡る/口縁部は単節LR縦位施文/波状沈線により縁取りされた凹部/頸部沈線の下位には押圧文	暗赤褐/砂粒・礫・雲母多量	勝坂2式	P6
第8図28 図版19-28	浅鉢	口縁下位 破片	厚 1.1	内屈	押圧文が付された隆帯による区画文/隆帯脇には単沈線が沿う/区画文内には縦位沈線列充填	にぶい黄褐/砂粒・礫中量	勝坂3式	P21 東側 床上 11.5cm
第8図29 図版19-29	浅鉢 か	口縁下位 破片	厚 0.8	僅かに内湾して外傾	地文は単節RL横位/面取りされた隆帯による区画文/隆帯脇には太く浅い沈線	にぶい黄褐/砂粒・礫微量	加曾利E3式	覆土中

第6表 37号住居跡出土土器一覧(2)

挿図番号 図版番号	種 別	遺存度	長さ/幅/厚み (cm)	重量 (g)	特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第8図19 図版19-19	土器片錘	90%	4.5 / 3.4 / 1.7	20.0	楕円形/袂部は長軸方向に1ヶ所確認、2ヶ所か/胴部片利用/撚糸L縦位施文	暗褐/砂粒・礫多量	加曾利E1式	覆土中
第8図30 図版19-30	土器片錘	90%	4.9 / 3.0 / 0.9	29.8	方形か/袂部2ヶ所/摩耗痕顕著/口縁部片利用/肥厚する口唇部に沈線と押圧文/口縁部には節の長い撚糸Lが斜位施文される	暗赤褐/砂粒・礫多量	勝坂3式	覆土中

第7表 37号住居跡出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第8図20 図版19-20	打製石斧	礫岩	68.8	21.0	13.6	65.0	短冊形／刃部は折れて欠損している／表面に礫面を残す／横長剥片素材／表面刃部付近に線条痕／両側縁とも上部の稜上に潰れが認められ、下部の稜上には磨滅痕が認められる	覆土中
第8図21 図版19-21	打製石斧	凝灰岩	109.2	83.2	27.5	419.0	表裏面に残る礫面は磨面が顕著／上端・右側縁・下端方向からの剥離調整／一部剥離面の稜上に磨面／打斧未製品または磨石、礫器か	覆土中
第8図22 図版19-22	打製石斧	礫岩	85.2	45.1	18.8	68.0	短冊形／基部は尖頭状を呈し、やや半月形となるか／刃部は折れて欠損している／両側縁とも上部の稜上に潰れが認められる	覆土中
第9図31 図版19-31	打製石斧	礫岩	88.6	43.3	18.0	78.7	短冊形／基部は折れて欠損している／表面は刃部を含み原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁の上部の一部・中央部から下部にかけての稜上に潰れが認められ、中央部が一部面状になっている／左側縁は下部の稜上に潰れが僅かに認められる	P9 覆土下層
第9図32 図版19-32	打製石斧	砂岩	89.9	56.5	23.4	113.3	撥形／完形／表面は原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁は上半・下部の稜上に潰れが認められ、中央部が面状になっている／左側縁は、ほぼ全面の稜上に潰れが認められる／縁辺部はほぼ全周に潰れが認められる	P10
第9図33 図版19-33	敲石	砂岩	96.4	59.3	60.9	411.1	表面及び下面端部に敲打痕／裏面は痘痕状の敲打痕か／被熱	北西部 床面直上

第8表 37号住居跡出土石器一覧

## 39号住居跡

## 遺 構 (第10図)

〔位置〕 (D・E-2) グリッド／③地点・区第23 I 地点

〔検出状況〕 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。東半は区第23 I 地点で検出しており、一部調査区が重複する。今回新たに検出した箇所は西半である。調査区北西―南東方向に延びる溝状の攪乱に住居中央と南西壁の一部を壊されている。1・2 P に切られる。

〔構造〕 平面形：楕円形。規模：長軸 4.9m／短軸 4.5m／確認面からの深さ 7～30cm。主軸：N-22°-W。P4とP5、P2とP7、P1とP8の中間と、炉の中央を通るラインを主軸と捉えた。壁溝：検出されなかった。壁：約60°で緩やかに立ち上がる。床面：概ね平坦。全体的に軟弱だが、炉の東側と北西側の一部に硬化面を検出した。炉：地床炉。堀込規模は長軸 96cm／短軸 72cm／床面からの深さ 12cm。被熱により底面が著しく赤化していた。柱穴：18本検出した。規模と配置から、P1、P2、P3・4、P5、P6・7、P8・9を支柱穴として捉えた。P3がP4を切り、P6がP7を切ることから、6本柱建物で、建替1回を想定する。

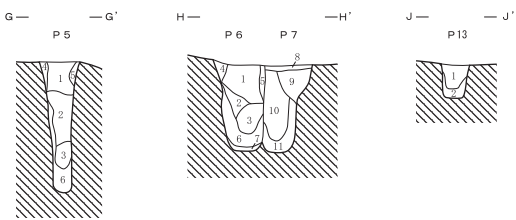
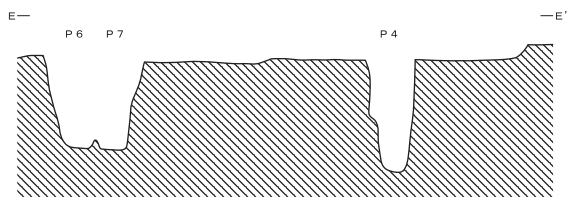
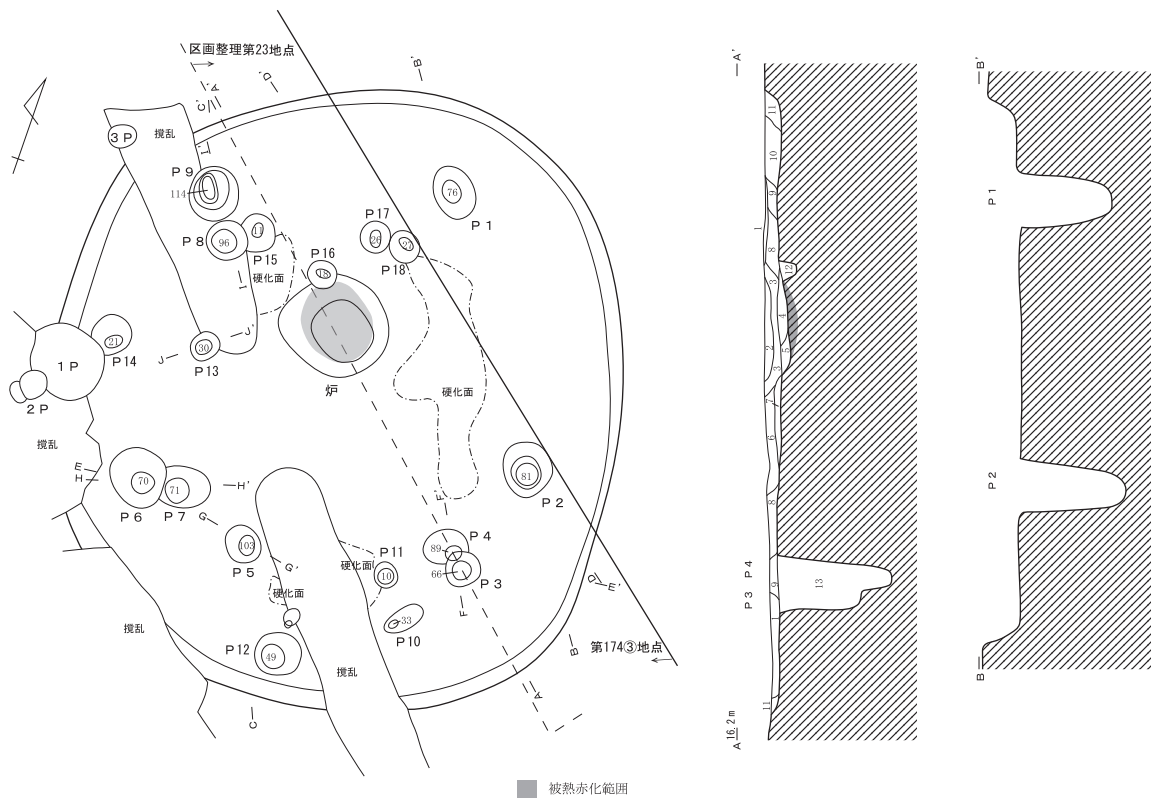
〔覆土〕 住居中央はローム粒子を含み炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む黒褐色～暗茶褐色土を基調とし、床面付近や壁際はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く含む暗黄褐色～暗茶褐色土を基調とする。

〔遺物〕 本地点からは、土器は306点 7,496g、土製品は5点 130g、石器は11点（打製石斧2点・敲石1点・剥片8点）出土した。炉の東側覆土上層から浅鉢形土器（第11図1）が、炉上の覆土中～上層から深鉢形土器（第13図18）が出土した。住居北側中央の覆土中～上層から出土した円筒形深鉢形土器（第13図19）は、164 J 出土土器（第30図8）と遺構間接合した。

〔時期〕 覆土出土土器から中期中葉期（勝坂3 b 古式期）。

## 遺 物 (第11～14図、第9～11表、図版20)





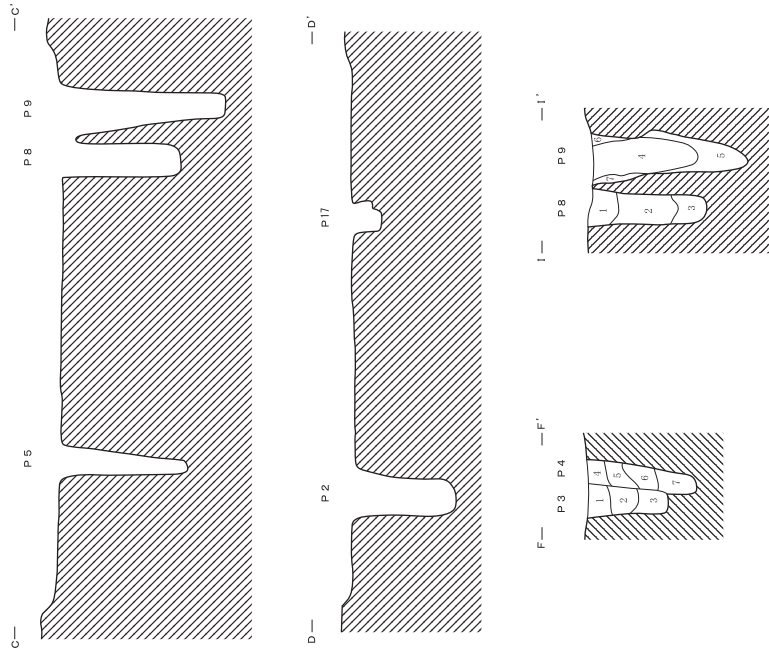
- P 5**
- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 2層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む、炭化物粒子を含む。しまり中。
  - 3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 4層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む、ロームブロックを含む。しまり中。
  - 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む、ロームブロックを含む。しまり中。
  - 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを含む。しまり強。
- P13**
- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 2層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。

- 1層 攪乱。
- 2層 黒褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 3層 暗茶褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 4層 暗赤褐色土 焼土粒子・焼土小ブロックを多く、炭化物粒子をやや多く、ローム粒子を僅かに含む。
- 5層 暗茶褐色土 炭化物粒子・焼土粒子をやや多く、ローム粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。
- 6層 暗茶褐色土 ローム粒子・焼土小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 7層 暗黄褐色土 ローム粒子・焼土小ブロックをやや多く含む、炭化物粒子を僅かに含む。
- 8層 暗黄褐色土 ローム粒子・焼土小ブロックをやや多く含む。
- 9層 明茶褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 10層 明茶褐色土 ローム粒子をやや多く、炭化物粒子を僅かに含む。
- 11層 明黄褐色土 ローム粒子を多く、炭化物粒子を僅かに含む。
- 12層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。16P覆土。
- 13層 P3・P4覆土

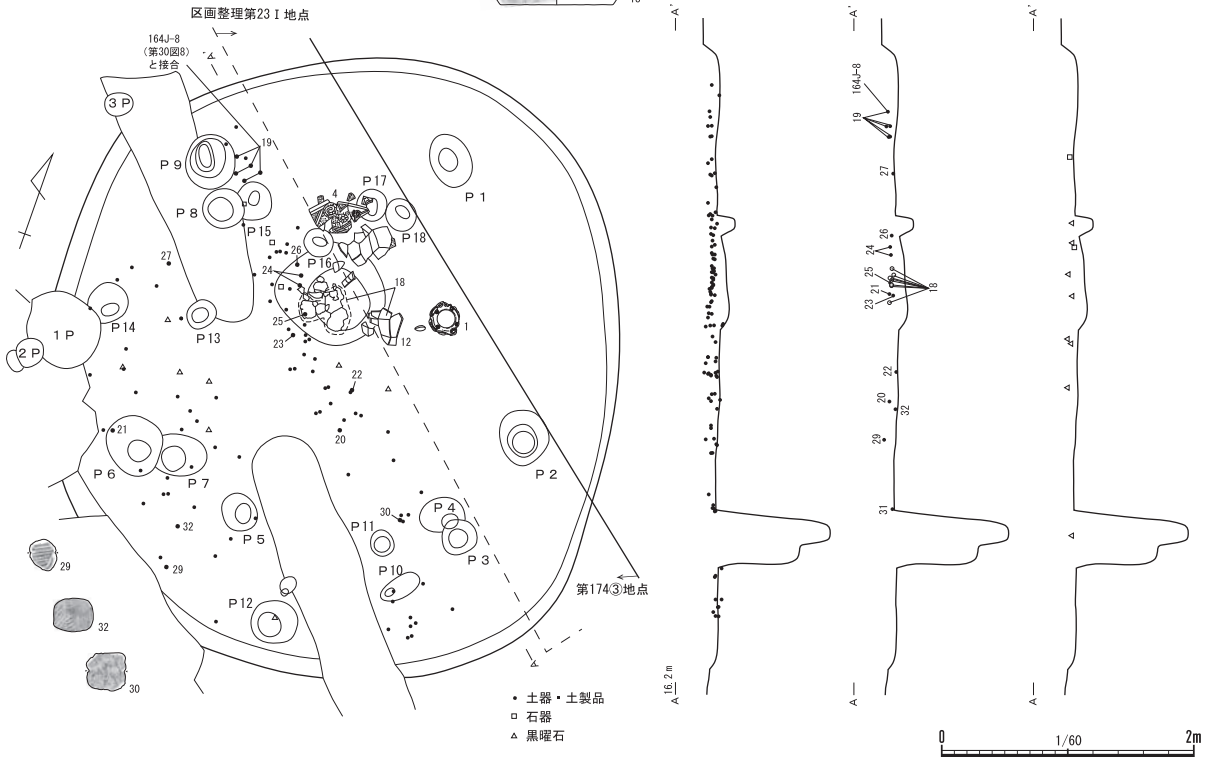
- P 6**
- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 2層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
  - 3層 暗茶褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 4層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
  - 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む、ロームブロックを含む。しまり中。
  - 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。
  - 7層 明黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
- P 7**
- 8層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
  - 9層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 10層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 11層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。

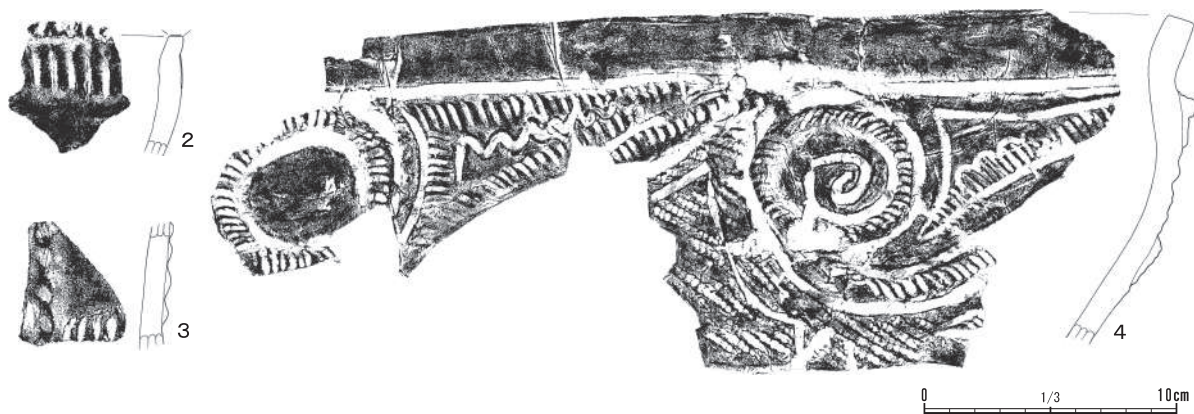
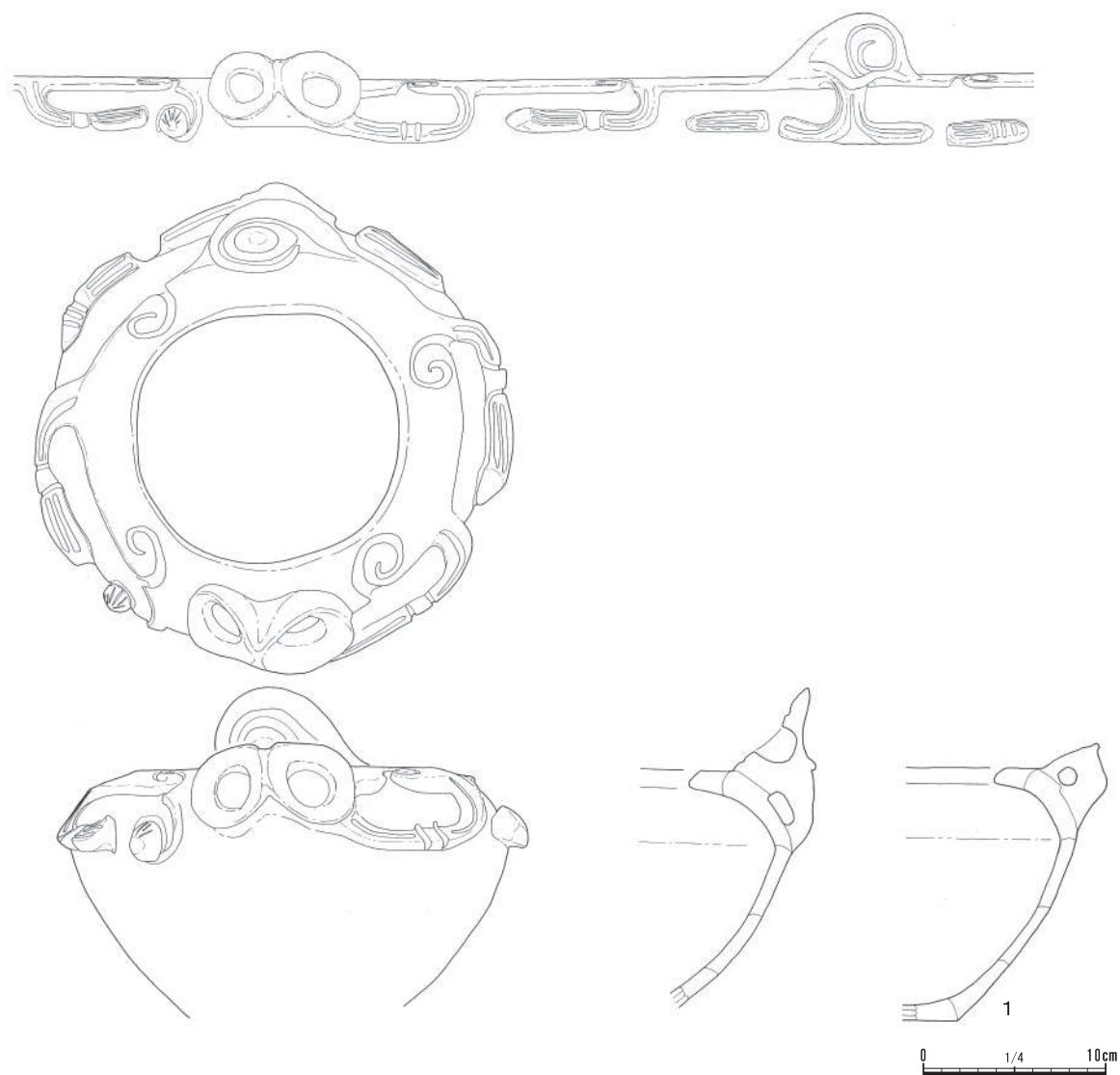


第10図 39号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



- P 8**  
 1層 暗茶褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。  
 2層 暗黄褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。  
 3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
- P 9**  
 4層 暗茶褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。  
 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。  
 6層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。  
 7層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
- P 3**  
 1層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。  
 2層 暗茶褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを多く含む。しまり弱。  
 3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。
- P 4**  
 4層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。  
 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。  
 6層 暗黄褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。  
 7層 暗褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。

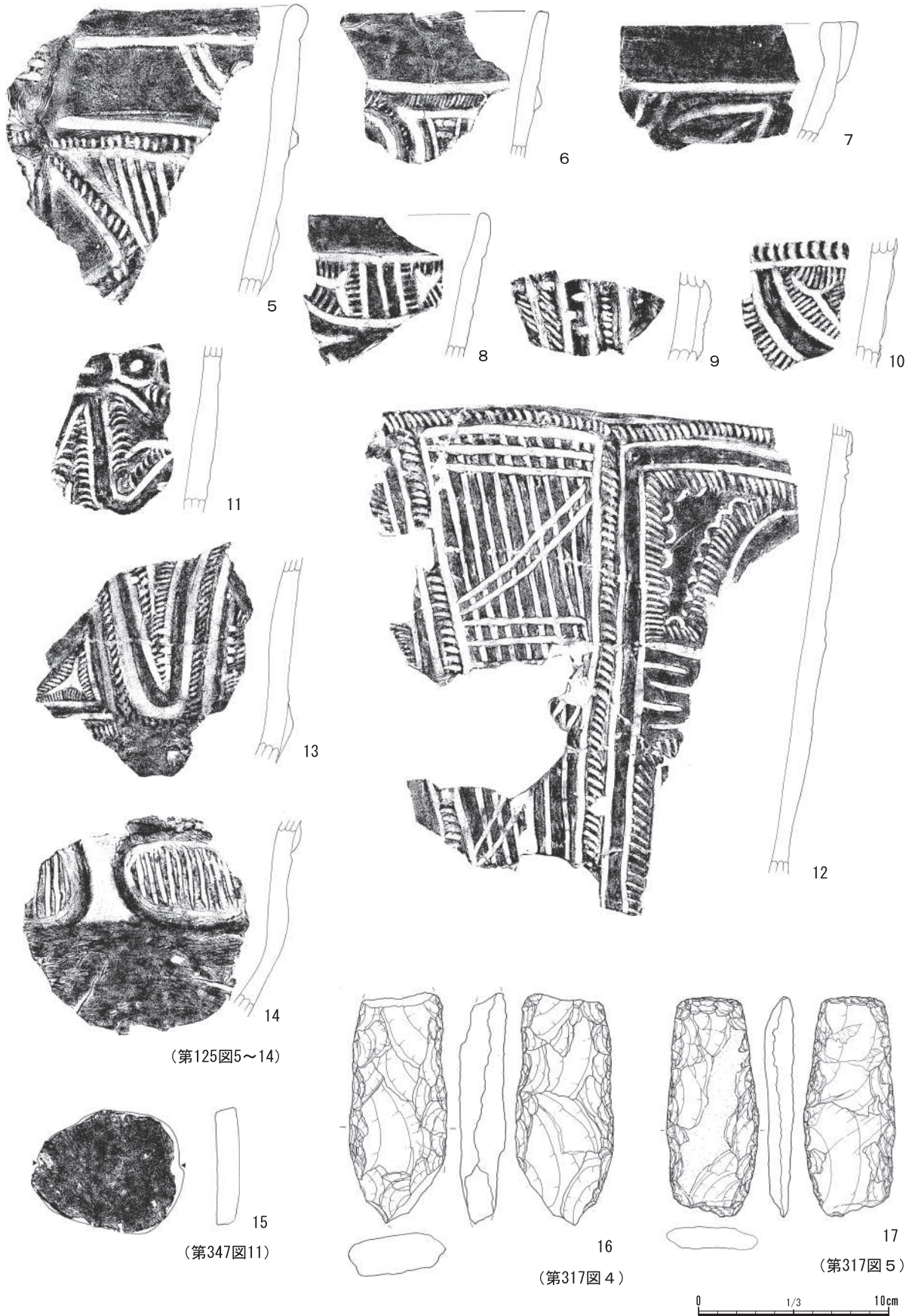




(志木市遺跡調査会調査報告 第13集 第124・125図 1~4)

第11図 39号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)





(第125図5~14)

(第347図11)

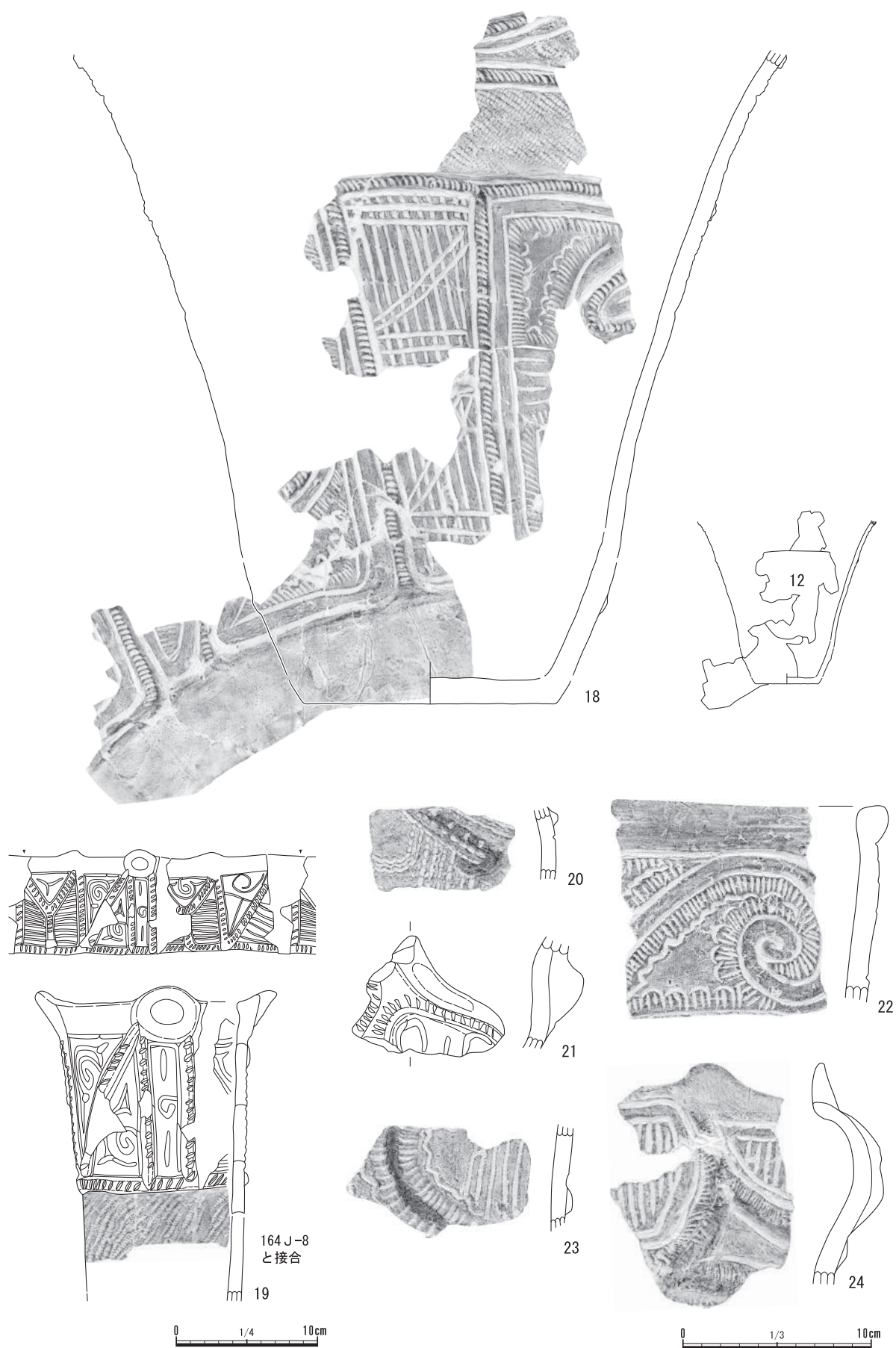
(第317図4)

(第317図5)

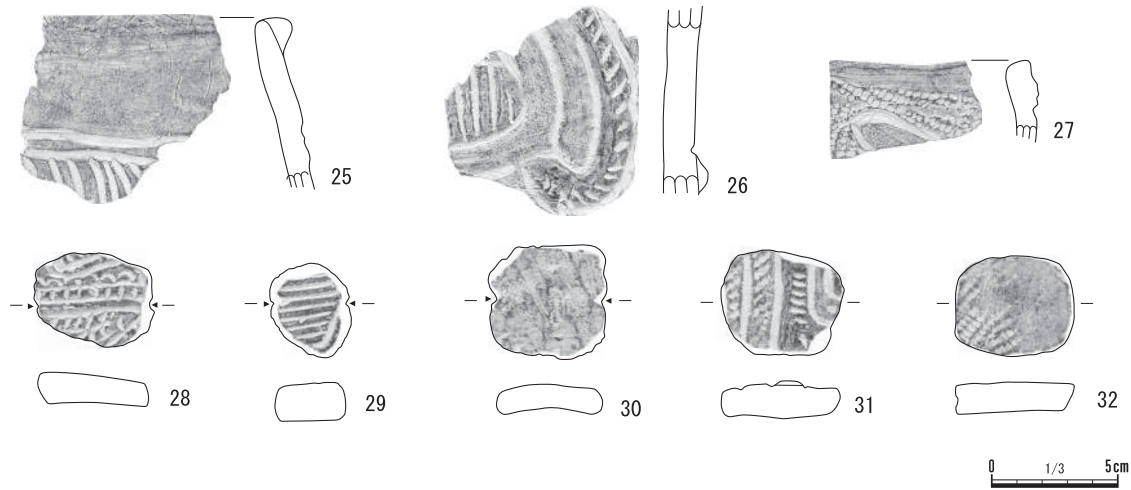
(志木市遺跡調査会調査報告 第13集 第125・347・317図 )

第12図 39号住居跡出土遺物2 (1/3)





第13図 39号住居跡出土遺物3 (1/4・1/3)



第14図 39号住居跡出土遺物4 (1/3)

[土器] (第11・12図5～14、第13図、第14図25～27、第9表、図版20)

1～14は既報告資料(文献No.38)である。1は勝坂3b新式の浅鉢形土器、2・3は阿玉台Ⅱ式、4～14は勝坂3式の深鉢形土器である。

今回新たに報告する資料として、復元個体2点、破片資料8点を図示した。18は勝坂3b古式の大形の深鉢形土器、19は勝坂3b新式の円筒形深鉢形土器である。20・21は阿玉台式、22～26は勝坂式、27は加曽利E3式の深鉢形土器である。

[土製品] (第12図15、第14図28～32、第10表、図版20)

15は既報告資料(文献No.38)で、土器片錘である。

今回新たに報告する資料として、5点図示した。28～30は土器片錘である。31・32は土製円盤。

[石器] (第12図16・17、第11表、図版20)

16・17は既報告資料(文献No.38)で、打製石斧である。

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第11図1 図版20-1	浅鉢	口縁部～ 体部下位 100%	高 [14.8] 口 14.0 厚 0.8	底部を欠く/やや膨らみながら広がる体部下位/強く内湾する口縁	口縁部には大小の眼鏡状突起が対称位に付く/口縁部上端には板状の隆帯がほぼ水平に付き、沈線による渦巻文が4か所(右巻き・左巻きが交互に各2か所)施文/口縁部には沈線により加飾された隆帯による楕円状区画文が5単位配される/体部は無文/部分的に赤彩を確認	褐/砂粒・礫・雲母少量	勝坂3b新式	炉東側 覆土上層
第11図2 図版20-2	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁はやや内湾し、上端で外折	口唇部に押圧文を付す/口縁部上端に縦位の単沈線列が横走	灰褐/砂粒・礫・雲母多量	阿玉台Ⅱ式	覆土中
第11図3 図版20-3	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	直線的に外傾	押圧が付された断面三角形の隆帯垂下/幅広い爪形文列が横走	灰褐/砂粒・礫・雲母多量	阿玉台Ⅱ式	覆土中
第11図4 図版20-4	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口縁部は緩やかに内湾して広がり、上端で肥厚、やや外折	口縁部上端は無文/口縁部には押圧文を付した隆帯による渦巻状文を配す/区画文の上位には並行沈線・角押文・列波状沈線・半円形刺突文が充填/区画文の下位には単節RL横位施文	にぶい赤褐/砂粒・礫中量	勝坂3b式	炉北側 覆土中層
第12図5 図版20-5	深鉢	口縁部～ 胴部中位 破片	厚 1.3	円筒形か/直線的に外傾し、口唇部で肥厚	口縁部上端に沈線横走/口縁部には隆帯・沈線垂下/胴部には押圧文を付した隆帯による区画文/区画文内には縦位沈線列充填	灰褐/砂粒・礫・多量	勝坂3b式	覆土中
第12図6 図版20-6	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	円筒形か/直線的に外傾	口縁部は無文/胴部には押圧文を付した隆帯による区画文/区画内には沈線や三角押文列が充填	にぶい赤褐/砂粒・礫中量	勝坂3b式	覆土中

第9表 39号住居跡出土土器一覧(1)

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第12図7 図版20-7	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	円筒形か/外傾/ 口縁部上端で肥厚	肥厚する口縁部上端は無文/沈線による区 画文	にぶい赤褐/砂 粒・礫多量	勝坂3b式	覆土中
第12図8 図版20-8	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	円筒形か/外傾/ 口縁部上端は薄手	口縁部無文/沈線による区画文/区画文内 には縦位沈線や角押文・三叉文が充填	にぶい赤褐/砂 粒・礫中量	勝坂3b式	覆土中
第12図9 図版20-9	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや外傾	押圧文を付した隆帯垂下/隆帯脇には交互 刺突を伴う単沈線が2本沿う	にぶい褐/砂 粒・礫中量	勝坂3b式	覆土中
第12図10 図版20-10	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや外傾	爪形文と沈線による区画文か/区画内には 沈線と角押文、三叉状文が充填	にぶい赤褐/砂 粒・礫中量	勝坂3式	覆土中
第12図11 図版20-11	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや外傾	2本1対の沈線による区画文/区画内には 爪形文列が沿い、沈線文が充填	灰褐/砂粒・礫 少量	勝坂3式	覆土中
第12図12					第13図19として再掲			覆土中
第12図13 図版20-13	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.0	胴部は下位で屈曲 し、中位でやや外 反して開く	胴部には押圧文が付された隆帯による区画 文/隆帯脇には2本1対の隆帯が沿い、区 画文内には角押文列や三叉状文が充填/屈 曲部下は無文	にぶい赤褐/砂 粒・礫中量	勝坂3式	覆土中
第12図14 図版20-14	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	胴部は下位で屈曲 し、中位でやや外 反して開く	胴部中位には断面カマボコ状の隆帯による 楕円区画文/区画文内には縦位沈線文列が 充填/屈曲部下は無文	にぶい赤褐/砂 粒・礫中量	勝坂3式	覆土中
第13図18 図版20-18	深鉢	頸部~底 部 20%	高 [46.3] 口 18.0 厚 1.1	キャリバー形か/ 底部から胴部下位 は僅かに内湾して 広がる/胴部下位 から上位まではや や外反して広がる	頸部には単節RL横位施文/胴部には押圧 文が付された隆帯による縦長の方形区画文 /隆帯脇には単沈線が1本ないし2本沿う /区画文内には縦位沈線文列や横位・斜位 沈線、半円形刺突文による温泉マーク文が 充填	褐/砂粒・礫少 量	勝坂3b古 式	炉上 覆土上層
第13図19 図版20-19	深鉢	口縁部~ 胴部中位 90%	高 22.3 口 (17.0) 厚 0.9	円筒形/僅かに広 がりながら直線的 に立ち上がる/口 縁部上端でやや開 く/口唇部で肥厚	口縁部上端に円形貼付文による突起1単位 (対称位にもう1単位か)、山形突起2単位 /押圧文が施された隆帯が横位に巡り、胴 部を上位と下位に画する/胴部上位には、 突起から垂下する1本ないし2本の隆帯に よってた器面が4分割され、区画文を配す る(a+b+a'+b')/区画文内には単沈線によ る横位沈線文列・三叉文・渦巻文を充填/ 胴部下位には0段3条単節RL縦位施文/ 隆帯貼付→地文/第30図8と接合	暗赤褐/砂粒多 量、礫少量	勝坂3b新 式	P9 東側 床上7cm
第13図20 図版20-20	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	やや内湾	押圧文が付された断面三角形の隆帯貼付/ 隆帯の端部は折返されて幅広となる/隆帯 脇には先丸ペン先状工具の押しきによる2 本一対の結節沈線が沿う	にぶい橙/砂 粒・礫・雲母多 量	阿玉台II式	中央南側 床上7cm
第13図21 図版20-21	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部/ 波状口縁か/口唇 部肥厚	口縁部に突起(中空か)が付く/口縁部上 端の内外面には押圧文が付された隆帯が貼 付される/単沈線による曲線文	暗褐/砂粒・礫 少量、雲母中量	阿玉台III式	P6 上 床上4cm
第13図22 図版20-22	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	僅かに内湾しなが ら広がる/口唇部 肥厚/バケツ形か	幅広の半截竹管状工具腹面引きによる渦巻 文/渦巻文には幅広の角押文と波状沈線な いし半円形刺突文が沿い、部分的に蓮華文 (温泉マーク文)を形成	にぶい黄橙/砂 粒・礫中量、橙 色粒子中量	勝坂2b式	炉南側 床上6cm
第13図23 図版20-23	深鉢	胴部 破片	厚 0.6		断面台形の隆帯による区画文/隆帯脇には 幅広爪形文と波状沈線が沿う/区画文内 には縦位沈線列が充填	暗褐/砂粒・礫 中量	勝坂2a式	炉南側 床上1.5 cm
第13図24 図版20-24	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部/ 直立する突起	押圧文が密に付された断面三角形の幅広隆 帯による区画文/隆帯脇には単沈線1本な いし2本沿う/区画文内には縦位沈線文列 が充填	暗褐/砂粒・礫 多量	勝坂3a式	炉上 床上6cm
第14図25 図版20-25	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内傾する口縁部/ 口唇部で肥厚	口縁部無文/単沈線2本による区画文/区 画内には沈線文列	砂粒・礫少量	勝坂3式	炉上 床上8cm
第14図26 図版20-26	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	僅かに外反する胴 部	押圧文が付された隆帯による区画文/隆帯 脇には単沈線が沿う/区画文内には縦位沈 線列	砂粒中量、礫多 量	勝坂3式	炉上 床上5cm
第14図27 図版20-27	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内傾する口縁部	口縁部上端は太く浅い沈線による無文部を 形成/単節RL地文/沈線による垂下文/ 沈線内磨消し	砂粒中量・礫少 量	加曾利E3 式	北西部 床上6cm

第9表 39号住居跡出土土器一覧(2)

挿図番号 図版番号	種別	遺存度	長さ／幅／厚み (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 式	出土位置
第12図15 図版20-15	土器片錘	完形	8.0 / 6.2 / 1.5	76.0	方形／大形／挾部は長軸方向に2ヶ所確認／ 摩耗痕顕著／胴部破片利用／無文	暗褐／砂粒・ 礫中量	勝坂式	覆土中
第14図28 図版20-28	土器片錘	完形	4.6 / 3.7 / 1.2	25.2	楕円形／挾部は長軸方向に2ヶ所確認／摩耗 痕顕著／胴部破片利用／半截竹管状工具腹面 引きによる並行沈線／半円形刺突文、角押文 充填／赤色顔料付着	暗赤褐／砂粒・ 礫少量	勝坂3式	覆土中
第14図29 図版20-29	土器片錘	完形	3.7 / 3.2 / 1.5	20.0	楕円形／挾部は短軸方向に2ヶ所確認／摩耗 痕顕著／胴部破片利用／沈線による弧状文／ 沈線文列充填か	暗褐／砂粒多 量、礫少量、 雲母少量	勝坂3式	南西隅 覆土上層
第14図30 図版20-30	土器片錘	完形	4.6 / 4.5 / 1.0	25.8	方形／挾部は長軸方向に2ヶ所確認／摩耗痕 顕著／胴部破片利用／無文	暗赤褐／砂粒・ 礫多量	勝坂式	P11 東側 床面直上
第14図31 図版20-31	土製円盤	95%	4.9 / 4.2 / 1.5	32.2	方形か／摩耗痕顕著／胴部破片利用／角押文 が施された隆帯による区画文／隆帯脇には単 沈線2本が沿う	にぶい褐／砂 粒・礫少量	勝坂3式	覆土中
第14図32 図版20-32	土製円盤	完形	4.7 / 4.0 / 1.2	27.2	楕円形／胴部下位破片利用か／単節 RL 横位 施文部と無文部を確認／	橙／砂粒・礫 少量	勝坂式	P5 西側 覆土下層

第10表 39号住居跡出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第12図16 図版20-16	打製石斧	ホルノエルス	120.9	51.0	22.6	194.8	短冊形／基部・刃部の一部は折れて欠損／両側縁は潰 れて面状になる	覆土中
第12図17 図版20-17	打製石斧	粘板岩	113.6	48.2	12.8	100.1	短冊形／表面の中央部に礫面を残す／基部は平坦に整 えられ、左側縁は直線的、右側縁は弧状を呈し、刃部 は一部欠損か／両側縁の上部と下部に潰れが認められ る／両側縁の下端に光沢を持つ磨滅痕が認められる	覆土中

第11表 39号住居跡出土石器一覧

## 41号住居跡

遺構 (第15・16図)

[位置] (C-1) グリッド／③地点

[検出状況] 調査区北西隅で南壁際の一部を検出した。区第23 I 地点で住居北東側の一部を検出して  
いる。164 J の精査中に壁溝を検出し、平面形から41 J であると判断した。42・164 J に切られる。[構造] 平面形：隅丸方形か。主軸方位：不明。規模：長軸推定 5.0m / 短軸推定 4.5m / 確認面か  
らの深さ 18～22cm。壁溝：1条検出した。全周するか。上幅 20～25cm / 下幅 10～13cm / 床面  
からの深さ 17～35cm。壁：ほぼ壁溝のみの検出のため不明。床面：概ね平坦か。炉：検出されなかつ  
た。埋甕：検出されなかった。柱穴：3本検出した。P1・P2が主柱穴か。

[覆土] ローム粒子を多く含む明褐～褐色土を基調とする。

[遺物] 本地点からは、土器は23点218g出土した。

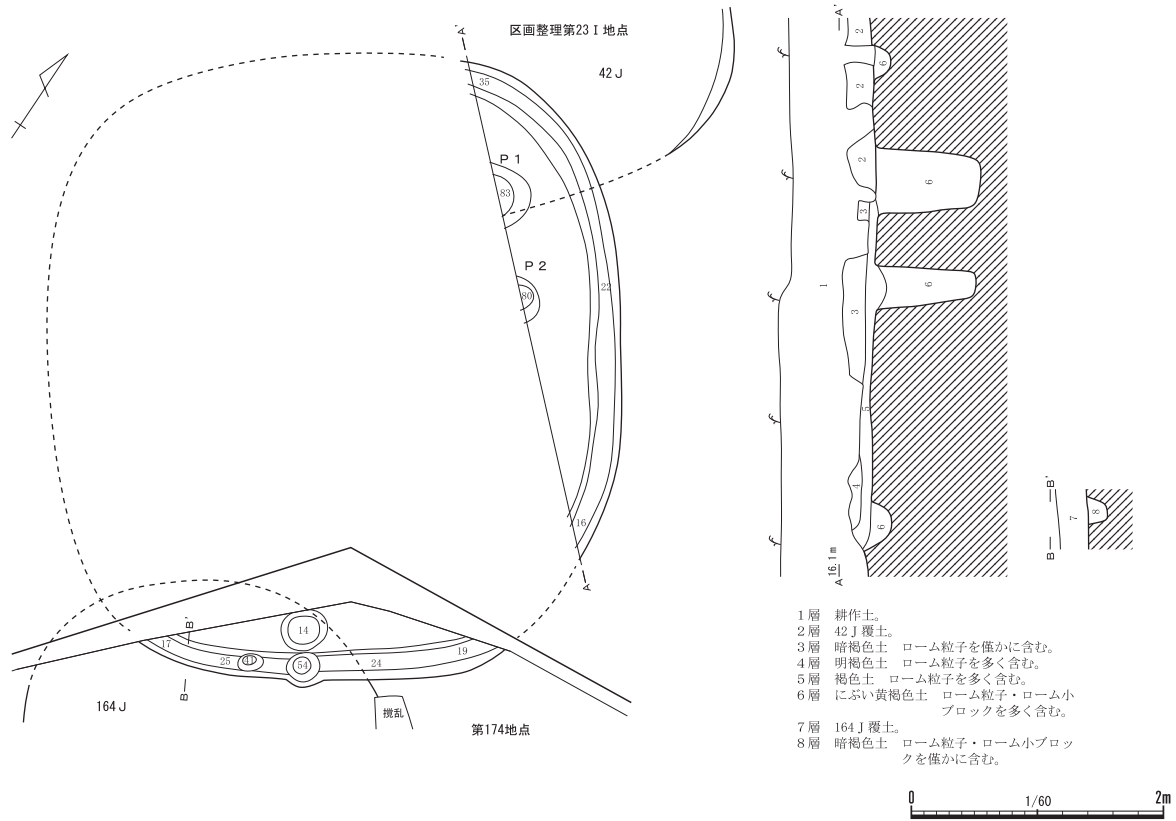
[時期] 164 J に切られることや出土遺物から中期中葉期と思われる。

遺物 (第16図、第12表、図版21-1)

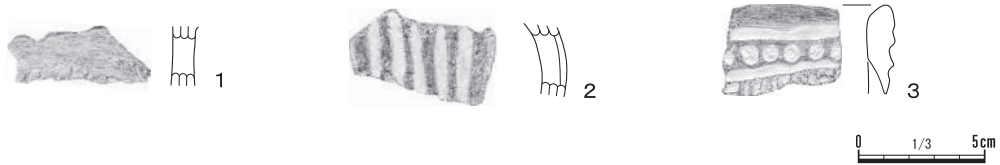
[土器] (第16図1～3、第12表、図版21-1)

破片資料3点を図示した。1は阿玉台 I b～II 式、2は勝坂3式、3は連弧文の深鉢形土器である。





第15図 41号住居跡 (1 / 60)



第16図 41号住居跡出土遺物 (1 / 3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式 型	出土位置
第16図1 図版21-1-1	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	直線的に立ち上がるか	爪形文が横位に巡る	暗褐/砂粒多量、礫微量、雲母微量	阿玉台 I b ~ II 式	覆土中
第16図2 図版21-1-2	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部	縦位隆帯貼付/ラジエーター状文か	赤褐/砂粒・礫多量	勝坂3式	覆土中
第16図3 図版21-1-3	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	外傾して広がる口縁部	口縁部上端に太く浅い2本の沈線/沈線間には円形刺突文/地文は撚糸L縦位/地文→沈線	灰褐/砂粒・礫微量	連弧文	覆土中

第12表 41号住居跡出土土器一覧

## 86号住居跡

**遺 構** (第17・18図)

[位 置] (F・G-6) グリッド/④・⑤地点・区第13Ⅳ地点

[検出状況] ④地点で北西部、⑤地点で北部、区第13Ⅳ地点では南半部をそれぞれ検出した。北東部は未調査部分となる。290 Yに切られる。出土遺物から、145 Pに切られると思われる。北西部と北側の一部を攪乱によって壊されるが、遺存状態は比較的良好である。

[構 造] 平面形：楕円形。主軸方位：N-19°-W。P1～3とP4～6の間と炉の中央を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸5.9m/短軸推定5.2m/確認面からの深さ20～24cm。壁溝：北西の一部を共有する内側と外側の2条を検出した。内側は、上幅約20cm/下幅10cm/床面からの深さ16～28cm。外側は、上幅約18～25cm/下幅5～15cm/床面からの深さ5～33cm。南側がやや浅い傾向にある。南側では壁柱穴と思われる小ピットが複数検出されている。壁：約80°で急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦。直床である。炉：地床炉。掘込規模は長軸55cm/短軸55cm/床面からの深さ10cm。埋嚢：検出されなかった。柱穴：26本検出した。規模と配置からP1～3、P4～P6、P8・9、P11・12を主柱穴と捉えた。未調査区である住居北東部にP8・9、P11・12対象位置の主柱穴を想定できようか。P3・4が内側壁溝と重複することなどから、6本柱建物で、建替1回・拡張1回を想定する。主柱穴の他、主軸を挟みP7とP15、P18とP19、P20とP21・22、P23とP24、P25とP26が概ね対象位置に配置される。

[覆 土] 概ね上層はローム粒子を含み炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む黒褐色土(A-A'2層)で、下層はローム粒子を多くローム小ブロックを含み炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土(A-A'3層)を基調とした、しまりの強い均質な土壌が堆積していた。

[遺 物] 本地点からは、土器は424点7,752g、土製品は1点50g、石器は12点(打製石斧2点・磨製石斧1点・敲石2点・剥片7点)出土した。住居南東側の覆土中～上層を中心に復元個体を含む多量の遺物が出土している。

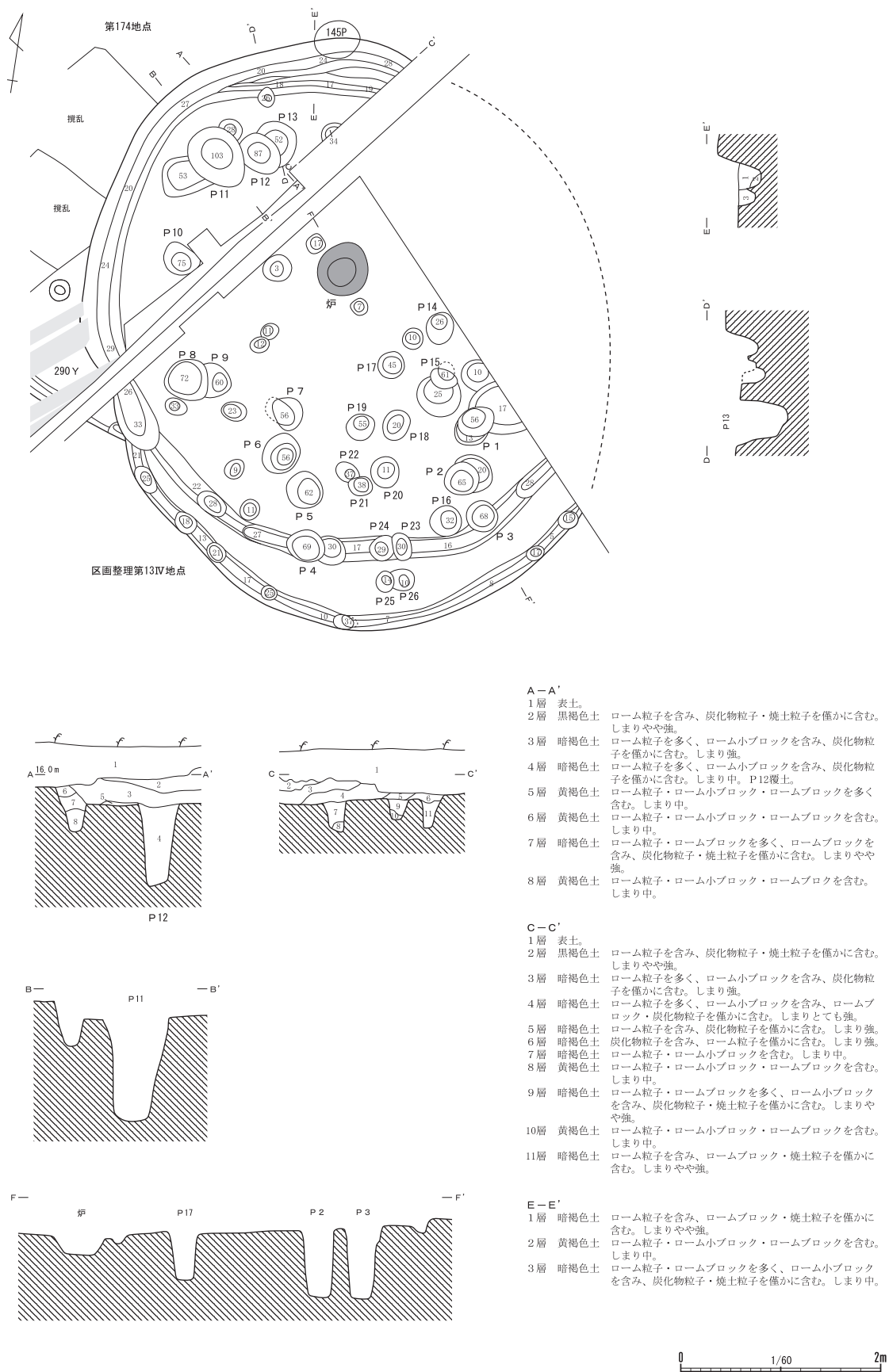
[時 期] 覆土出土土器から中期中葉末～後葉初頭期(勝坂3b新式～加曾利E1a式期)

**遺 物** (第19～22図、第13～15表、図版21～23-1)

[土 器] (第19・20図、第21図25～31、第13表、図版21～23-1)

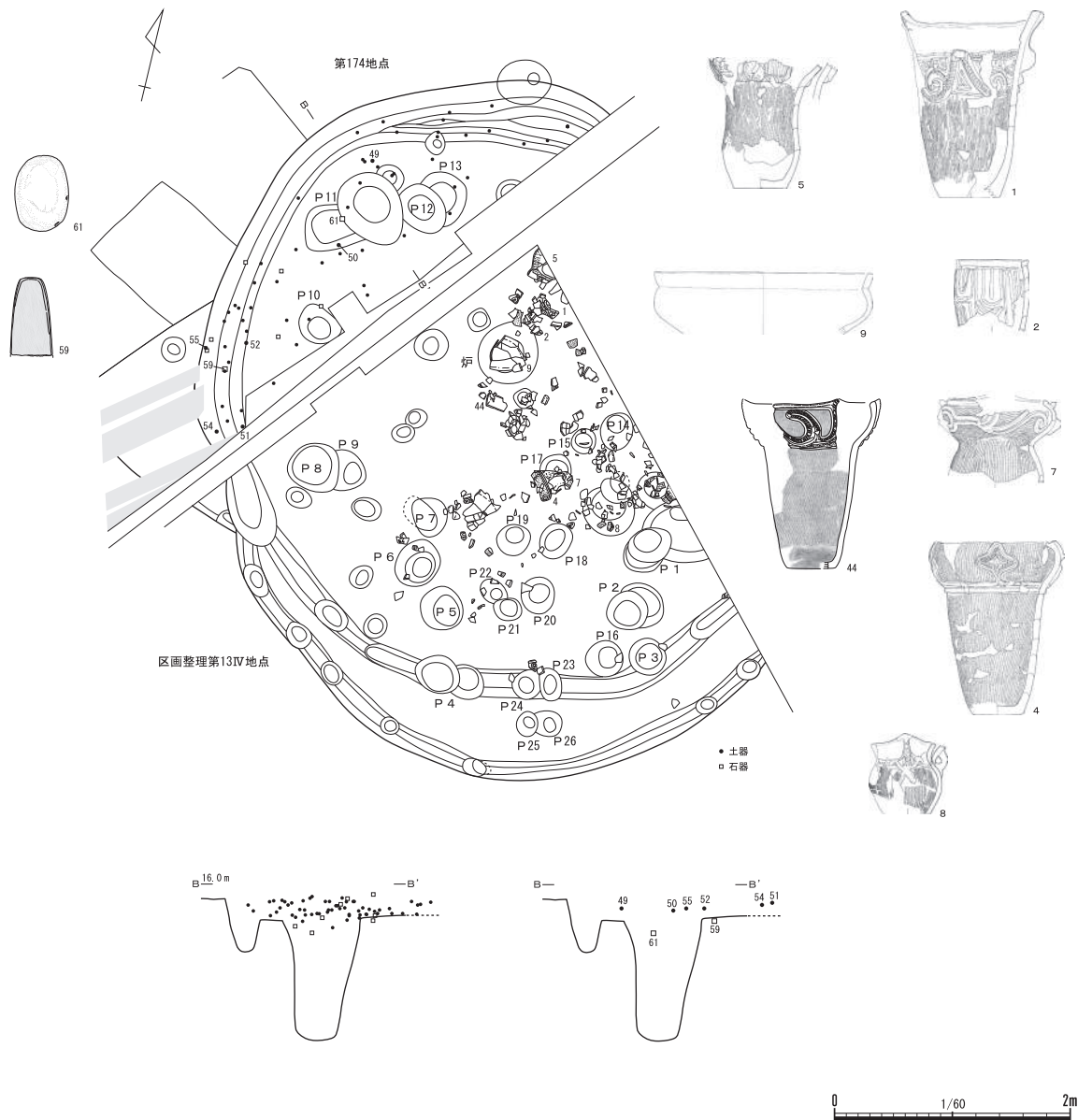
1～31は既報告資料(文献No.38)である。1は勝坂3b新式の円筒形深鉢形土器で、口縁部がやや外反する。2は勝坂3b新式の円筒形深鉢形土器で、沈線のみで文様が配される。3は、加曾利E1a式のキャリパー形深鉢形土器で、胴部に半截竹管状工具の腹面引きによる直状・波状沈線が垂下する。4は勝坂3b新式のキャリパー形深鉢形土器で、口縁部に隆帯による十字状文が配される。5は勝坂3b新式のキャリパー形深鉢形土器で、胴部に撚糸Lが縦位施文される。6・7は加曾利E1a式の深鉢形土器で、地文を撚糸Lとし、口縁部にS字状文を配する。8は勝坂3b新式期のやや壺状を呈する深鉢形土器で、撚糸L縦位施文後、貼付文を施す。9は加曾利E1式の浅鉢形土器である。10は勝坂式、11は阿玉台Ⅱ式、12～20は勝坂式、21～31は加曾利E式の深鉢形土器である。21は他の破片と接合し、44として掲載している。

今回新たに報告する資料として、復元個体1点、破片資料12点を図示する。44は加曾利E1a式のキャリパー形深鉢形土器で、撚糸L縦位施文後、口縁部にS字状文を配する。第20図21と接合した。45～47は阿玉台Ⅱ式、48は勝坂1式、49・50は勝坂2式、51～53は勝坂3b新式、54は勝坂3



- A-A'**
- 1層 表土。
  - 2層 黒褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。P12覆土。
  - 5層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
  - 6層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
  - 7層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 8層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
- C-C'**
- 1層 表土。
  - 2層 黒褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりとて強。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 6層 暗褐色土 炭化物粒子を含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
  - 8層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
  - 9層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 10層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
  - 11層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
- E-E'**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 2層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。

第17図 86号住居跡 (1/60)



第18図 86号住居跡遺物出土状態（1／60）

式～加曾利 E 1 式、55 は加曾利 E 1 式、56 は連弧文の深鉢形土器である。

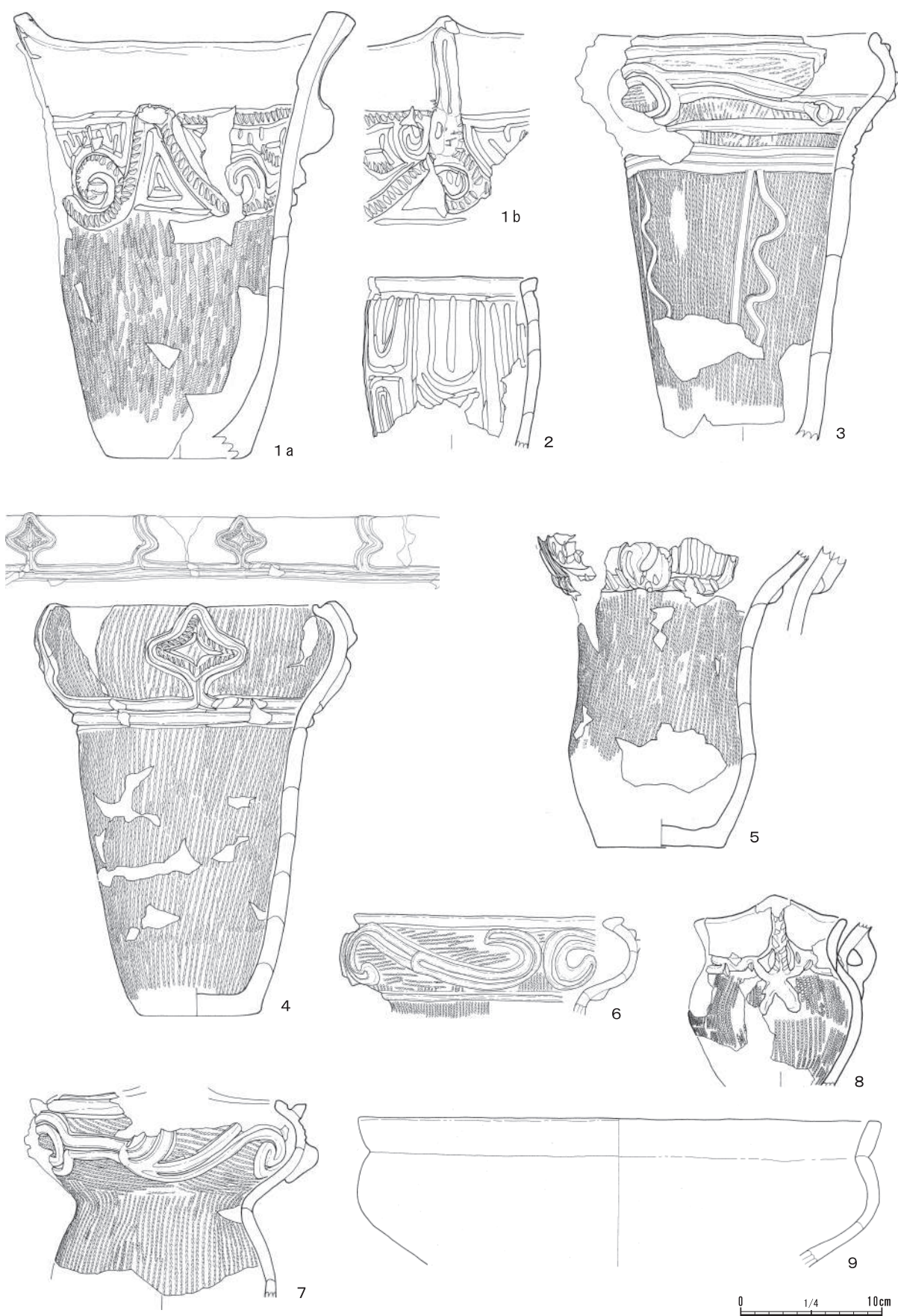
[土製品]（第21図32～35、第22図57、第14表、図版22・23－1）

32～35 は既報告資料（文献No.38）で、土器片錘である。いずれも中期の土器片を転用している。今回新たな報告資料として1点を図示する。57 は土器片錘である。中期の土器片を転用している。

[石器]（第21図36～43・第22図58～61、第15表、図版22・23－1）

36～43 は既報告資料（文献No.38）で、36・37 は石鏃、38 は削器、39 は剥片、40～43 は打製石斧。今回新たな報告資料として4点図示する。58 は打製石斧、59 は磨製石斧、60・61 は敲石である。

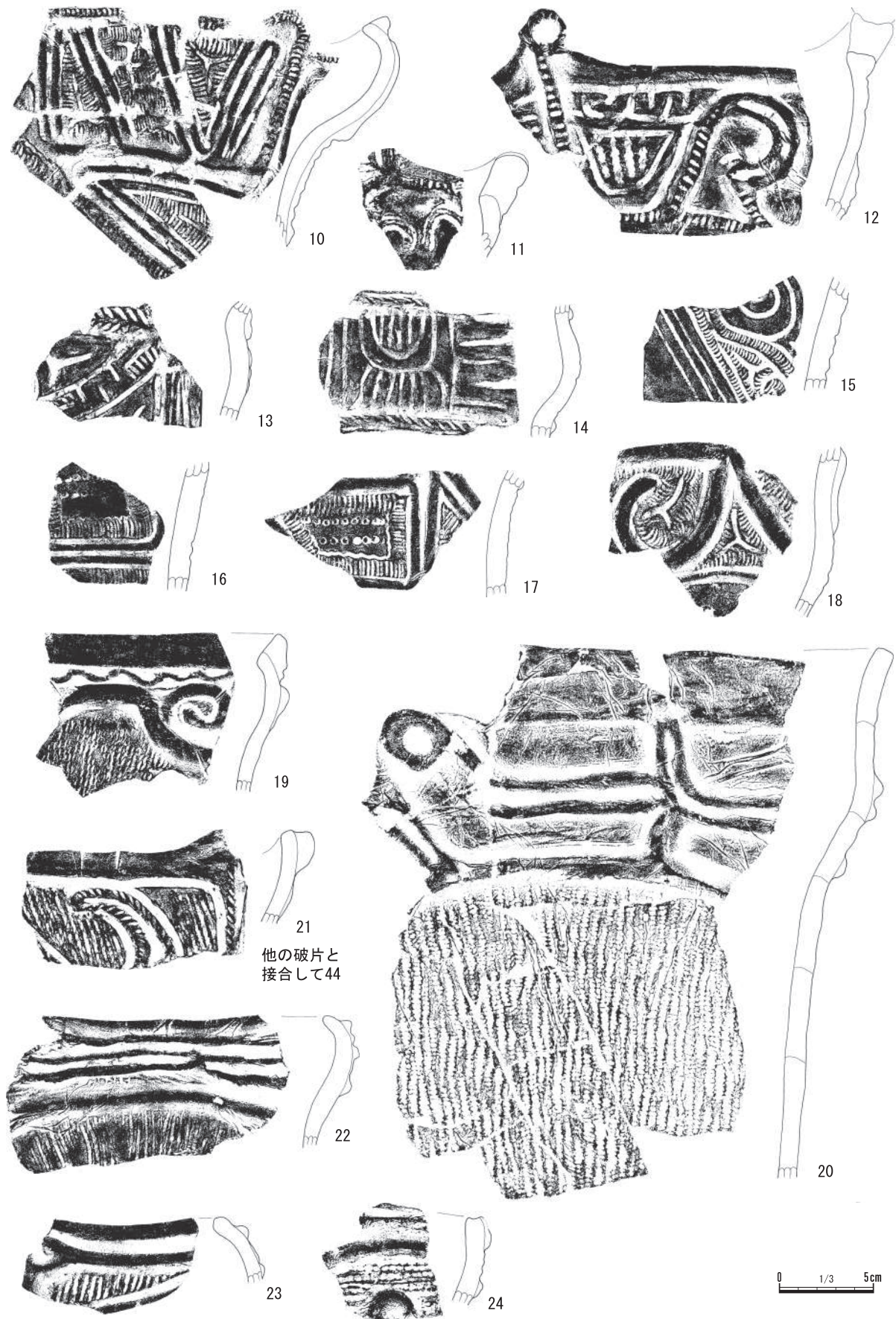




(志木市遺跡調査会調査報告 第13集 第205図)

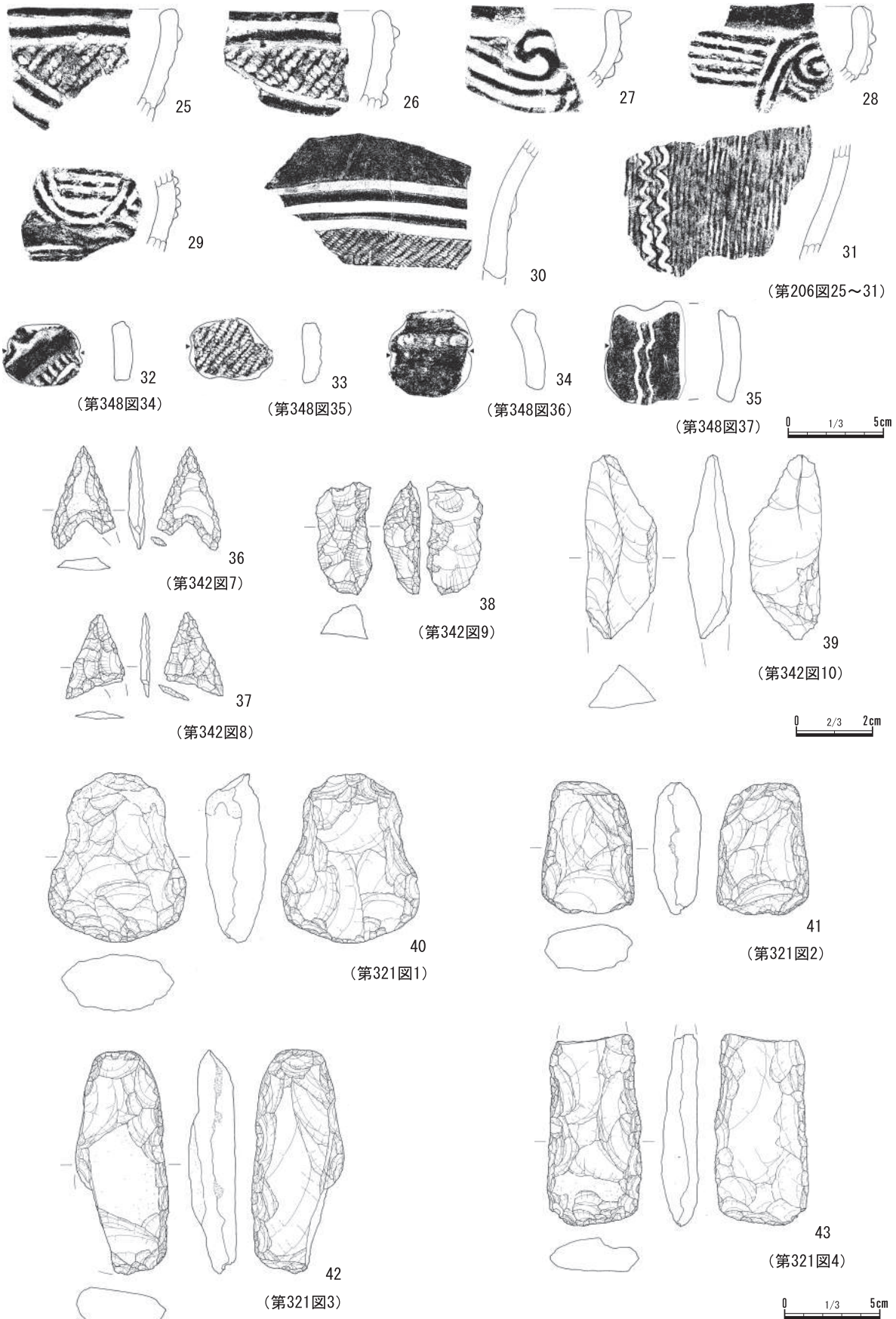
第19図 86号住居跡出土遺物1 (1/4)





(志木市遺跡調査会調査報告 第13集 第206図10~24)

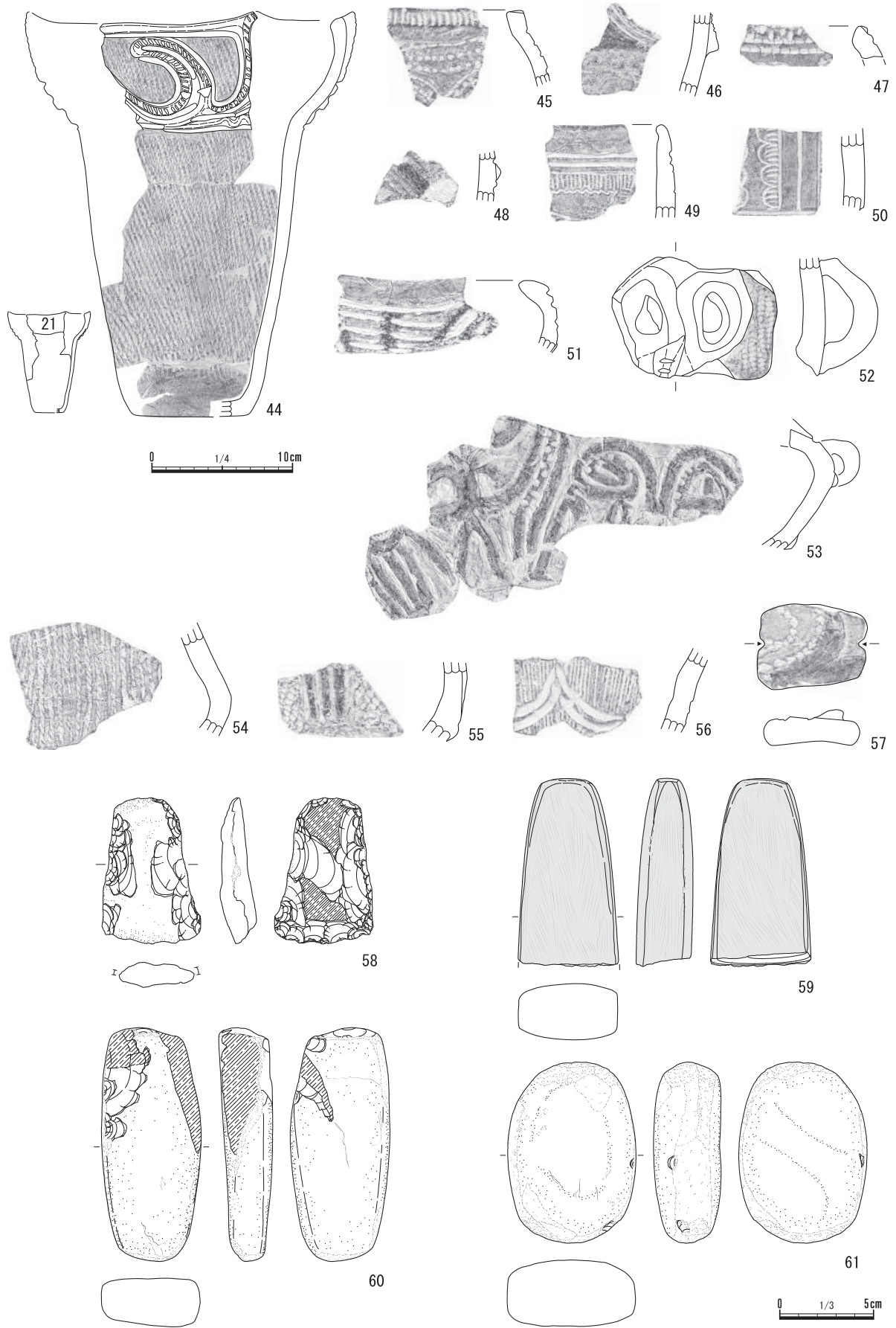
第20図 86号住居跡出土遺物2 (1/3)



(志木市遺跡調査会調査報告 第13集 第206・348・342・321図)

第21図 86号住居跡出土遺物3 (1/3・2/3)





第22図 86号住居跡出土遺物4 (1/4・1/3)



第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第19図1 図版21-2-1	深鉢	口縁部～ 底部 60%	高 31.4 口 (26.2) 厚 1.0	円筒形／口縁部で 外反／口縁部内面 で幅広に肥厚	沈線により口縁部と胴部上位・下位を画す ／口唇部に尖頭状と板状の小突起を対称位 に付す／尖頭状突起から沈線による背割隆 帯が垂下／口縁部は無文／胴部上位には押 圧文が付された隆帯による連結された渦巻 状文を配す／隆帯脇には単沈線2本が沿 い、口縁部と胴部下位との間に区画文を形 成／区画文内には角押文や沈線による三叉 文等を充填／胴部下位は0段多条単節RL 斜位施文のみ	灰褐／砂粒・礫 多量	勝坂3b新 式	炉北東側 覆土中層
第19図2 図版21-2-2	深鉢	口縁部～ 胴部中位 90%	高 [12.2] 口 11.5 厚 0.9	円筒形／胴部中位 で膨らむ／口縁部 で肥厚	幅狭の口縁部は無文／胴部は縦位沈線より 器面が5分割／区画内には2～4本1対 の沈線により、上半にU字状文、下半に逆 U字状文を配す／三叉状文を配す	灰褐／砂粒・礫 多量	勝坂3b新 式	炉北東側 覆土中層
第19図3 図版21-2-3	深鉢	口縁部～ 胴部下位 70%	高 [29.0] 口 (19.5) 厚 1.0	キャリパー形／直 線的に広がる円筒 形の胴部／内湾し て広がる口縁部	地文は撚糸Lで、口縁部上半は横位、口縁 部下半以下は縦位施文／口縁部上端と下端 に断面カマボコ状隆帯が横走／口縁部には 2本1対の隆帯によるS字状文を配す／頸 部には一端を重ねた半截竹管状工具腹面引 きによる並行沈線4本が横走／胴部には半 截竹管状工具腹面引きによる1対の直状・ 波状沈線が4単位垂下	灰褐／砂粒・礫 多量	加曾利E1a 式	覆土中
第19図4 図版21-2-4	深鉢	口縁部～ 底部 90%	高 30.0 口 19.6 底 8.4 厚 1.0	キャリパー形／平 坦な底部／やや内 湾しながら広がる 胴部／内湾して広 がる口縁部／口唇 部内折	地文は撚糸R縦位で、口縁部最上端から胴 部下位まで施文し、胴部下端では無文とな る／口唇部には沈線1本が巡る／頸部には 2本1対の断面カマボコ状隆帯が横走し、 口縁部と胴部を画す／口縁部には沈線が施 された背割隆帯による菱形状文・波状文を 交互に2単位ずつ配す／菱形状文の内側 には押圧文が付される	灰褐／砂粒・礫 少量	勝坂3b新 式	P17上 覆土中層
第19図5 図版21-2-5	深鉢	口縁部中 位～底部 80%	高 [22.3] 底 8.7 厚 0.8	キャリパー形／胴 部下位に膨らみ を持ち、算盤玉状を 呈す／胴部上位で 括れ、口縁部は内 湾して広がる	地文は撚糸L縦位施文で、区画文を配す口 縁部にも一部確認できる／頸部に斜位沈線 が付された隆帯が横走し、胴部と画す／口 縁部には交互刺突・沈線を付した隆帯によ る区画文を配す／区画文内には縦位沈線文 列を充填／胴部は地文のみで、屈曲部以下 無文／地文→隆帯貼付	明褐／砂粒・礫 中量	勝坂3b新 式	覆土中
第19図6 図版21-2-6	深鉢	口縁部～ 頸部 40%	高 [7.0] 口 (18.6) 厚 1.0	キャリパー形／口 縁部は強く内湾し て広がる／口唇部 肥厚	地文は撚糸Lで、口縁部は横位、頸部以下 は縦位施文／頸部に断面カマボコ状の隆帯 が横走し、口縁部と胴部を画す／口縁部に 2本1対の隆帯によるS字状文	にふい赤褐／砂 粒・礫中量	加曾利E1a 式	覆土中
第19図7 図版21-2-7	深鉢	口縁部～ 胴部下位 40%	高 [17.4] 厚 0.9	キャリパー形／胴 部中位で強く内湾 ／頸部で強く括れ る／口縁部で強く 内湾して広がる	地文は撚糸Lで、口縁部上～中位は横位に、 下位は縦位に施文／口縁部上端には2本1 対の太い隆帯が横走／口縁部には2本1対 の隆帯による連結されたS字状文を配す／ 胴部は地文のみ	にふい赤褐／砂 粒・礫少量	加曾利E1a 式	P17上 覆土中層
第19図8 図版21-2-8	深鉢	口縁部～ 胴部下位 70%	高 [14.0] 口 11.5 厚 0.7	球胴状に膨らむ胴 部／頸部で括れ、 口縁部で外反して 広がる	地文は撚糸L縦位施文／頸部には交互刺突 文や沈線が付された隆帯が横走し口縁部と 胴部を画す／口唇部に山形突起2単位を対 称位に配す／突起から押圧文が付された隆 帯が垂下し、頸部で眼鏡状突起（1箇所 のみ）を形成し、胴部では山形貼付文を形成 ／地文施文→隆帯貼付	にふい赤褐／砂 粒・礫少量	勝坂3b新 式	P15上 覆土中
第19図9 図版21-2-9	浅鉢	口縁部～ 体部下位 60%	高 10.5] 口 37.8 厚 0.8	胴部中～上位で強 く内湾／口縁部は 肥厚して外傾	無文／内面に赤色顔料の付着を僅かに確認	黄褐／砂粒少 量、礫中量、3 ～7mm角礫少 量	加曾利E1 式	炉上 覆土中
第20図10 図版22-10	深鉢	口縁部～ 胴部上位 20%	厚 1.3	頸部で括れ、口縁 部は内湾／口唇部 で肥厚	口縁部上端に巡る押圧文を付した隆帯が小 突起と区画文を形成／隆帯脇には半截竹管 状工具腹面による並行沈線が沿い、角押文 や三叉状文を充填	にふい赤褐／砂 粒・礫多量	勝坂2～3 式	覆土中
第20図11 図版22-11	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部／ 口唇部で肥厚／波 状口縁か	波状口縁の波頂部に沈線／口縁部上端には 押圧文を付す／口縁部には複数の先丸ペン 先状工具の押引による逆U字状文	にふい褐／砂 粒・礫・雲母多 量	阿玉台Ⅱ式	覆土中

第13表 86号住居跡出土土器一覧(1)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第20図12 図版22-12	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	樽形か／緩やかに 内湾する口縁部／ 口唇部で肥厚	口縁部に配された上端が窪む小突起から押 圧文を付した隆帯が垂下し、S字状区画を 形成するか／隆帯脇には1～2本の単沈線 が沿い、区画内には交互刺突文・三角押文 列が充填	にぶい褐／砂 粒・礫中量	勝坂3式	覆土中
第20図13 図版22-13	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	内湾する	矢羽状沈線や交互刺突文が付された幅広の 隆帯による区画文／隆帯脇には単沈線が沿 い、区画内には三叉状文充填	褐灰／砂粒・礫 少量	勝坂3b式	覆土中
第20図14 図版22-14	深鉢	口縁部か 破片	厚 0.9	内湾する	斜行・矢羽状沈線が付された隆帯による横 位区画／区画内には沈線による縦位沈線文 列等が充填	にぶい赤褐／砂 粒・礫少量	勝坂3b式	覆土中
第20図15 図版22-15	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	外傾する	3本1対の細い結節沈線による区画文か／ 角押文を伴う沈線、沈線による円形文、三 叉状文が充填	にぶい赤褐／砂 粒・礫中量	勝坂3式	覆土中
第20図16 図版22-16	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	外反して外傾	一端を重ねた半截竹管状工具腹面による方 形区画か／沈線には幅広爪形文と極小の半 円形刺突文が沿い、区画内には半円形・円 形刺突文列が充填／第20図17と同一個体 か	にぶい赤褐／砂 粒・礫中量	勝坂2式	覆土中
第20図17 図版22-17	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	外反して外傾	一端を重ねた半截竹管状工具腹面による方 形・三角形区画か／沈線には幅広爪形文と 極小の半円形刺突文・波状沈線が沿い、区 画内には円形刺突文列が充填／第20図16 と同一個体か	にぶい赤褐／砂 粒・礫中量	勝坂2式	覆土中
第20図18 図版22-18	深鉢	口縁部か 破片	厚 1.1	下位で内湾して広 がり、上位で外反	断面カマボコ状隆帯による区画文／隆帯脇 には幅広爪形文が沿い、三叉状文が充填／ 下端には2本1対の並行沈線横走	にぶい褐／砂 粒・礫中量	勝坂2式	覆土中
第20図19 図版22-19	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	口縁部は内湾して 広がり、上端で断 面三角形に肥厚	口縁部上端に交互刺突が付された細い隆帯 が横走／口縁部中位以下は燃糸L縦位施文 ／口縁部中位に断面台形の隆帯が横走し、 一部渦巻状文を形成／地文→隆帯	にぶい褐／砂 粒・礫大量	勝坂3b新 式	覆土中
第20図20 図版22-20	深鉢	口縁部～ 胴部下位 30%	厚 1.2	胴部は下位でやや 膨らみ、中～上位 で僅かに外反／口 縁部は内湾し、上 端で直立	直立する幅広の無文口縁／口縁部には2本 1対の隆帯によるクランク状文／一部のク ランク状文の端部は円形貼付文／口縁部と 胴部は横走する隆帯で画す／胴部には0段 3条単節RL斜位施文／隆帯貼付→地文	灰褐／砂粒・礫 中量	勝坂3b新 式	覆土中
第20図21					第22図44と接合し、再掲。			
第20図22 図版22-22	深鉢	口縁部 20%	厚 0.8	口縁部は内湾して 開く／口唇部で肥 厚	地文は燃糸Lで、口縁部上端は斜位に、中 位以下は縦位施文／口縁部上端と注意に隆 帯が横走し幅狭に画し、2本1対の隆帯が 横走／地文→隆帯貼付	にぶい赤褐／ 砂粒多量、礫 微量	加曾利E1 式	覆土中
第20図23 図版22-23	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部／ 波状を呈するか	地文は燃糸L縦位施文／断面カマボコ状隆 帯による端部が渦巻状を呈すS字状文	灰褐／砂粒・ 礫中量	加曾利E1 式	覆土中
第20図24 図版22-24	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部／ 口唇部肥厚	地文は条の太い燃糸L横位施文／隆帯によ るS字状文を配すか	にぶい褐／砂 粒多量、礫微 量	加曾利E1 式	覆土中
第21図25 図版22-25	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	ゆるやかに内湾す る口縁部	地文は節の大きい単節LR横位施文／口縁 部上端に隆帯1本が横走／口縁部には2本 1対の隆帯による弧状文	灰褐／砂粒・ 礫多量	加曾利E1 ～2式	覆土中
第21図26 図版22-26	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	ゆるやかに内湾す る口縁部	地文は節の大きい単節LR横位施文／口縁 部上端に隆帯1本が横走／口縁部には隆帯 による弧状文	灰褐／砂粒・ 礫多量	加曾利E1 ～2式	覆土中
第21図27 図版22-27	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	強く内湾する口縁 部	地文は燃糸L横位施文か／2本1対の隆帯 によるS字状文	にぶい赤褐／ 砂粒・礫多量	加曾利E1 式	覆土中
第21図28 図版22-28	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部	半截竹管状工具腹面引きによる渦巻状文／ 空白部には横位沈線文列	にぶい赤褐／砂 粒・礫多量	加曾利E1 式	覆土中
第21図29 図版22-29	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部	2本1対の幅狭の隆帯によるU字状区画／ 区画内外には複数の横位隆帯	にぶい赤褐／砂 粒・礫多量	加曾利E1 式	覆土中

第13表 86号住居跡出土土器一覧(2)

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第 21 図 30 図版 22-30	深鉢	頸部 破片	厚 1.0	外反する頸部	3本1対の太い沈線が横走し、頸部と胴部 を画す／頸部は無文／胴部は地文単節RL 縦位施文	にぶい褐／砂 粒・礫少量	加曾利E2 式	覆土中
第 21 図 31 図版 22-31	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	内湾する胴部	地文は燃糸L縦位施文／2本1対の波状沈 線垂下	灰褐／砂粒・礫 少量	加曾利E2 式	覆土中
第 22 図 44 図版 23-1-44	深鉢	口縁部～ 底部 30%	高 28.7 口 (21.5) 底 (8.3) 厚 1.1	キャリパー形／胴 部はやや広がって 立ち上がる／内湾 して広がる口縁部	地文は燃糸L縦位で胴部下端は無文／口縁 部上端と頸部に隆帯が巡る／頸部の隆帯に は部分的に交互刺突文／口縁部には押圧文 を伴う隆帯によるS字状文／口唇部の小突 起から押圧文が施された隆帯が垂下しS字 状文と連結／隆帯脇には沈線が沿う	にぶい黄褐／砂 粒・礫少量	加曾利E1a 式	炉南側 覆土中層
第 22 図 45 図版 23-1-45	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	内湾する口縁部／ 口唇部は直立	口唇部に押圧文／口唇部上端に竹管状工 具の押し引きによる結節沈線が1本巡る／1本 引きの結節沈線2本による弧状文／竹管状 工具の端部押しによる円形刺突文列が2本 横位に巡る	暗褐／砂粒・礫・ 雲母少量	阿玉台I b 式	覆土中
第 22 図 46 図版 23-1-46	深鉢	口縁部～ 頸部	厚 0.8	僅かに内湾して外 傾	断面三角形の隆帯／隆帯の上位には3本一 対の細い沈線が沿う	灰褐／砂粒多 量、礫・雲母中 量	阿玉台II式	覆土中
第 22 図 47 図版 23-1-47	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部は内湾／口 唇部直立	口唇部に竹管状工具の押し引きによる結節沈線が横 位に2本巡る	橙／砂粒・礫微 量	阿玉台II式	覆土中
第 22 図 48 図版 23-1-48	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	僅かに内湾	断面三角形の隆帯による区画文／隆帯脇に は2列の結節沈線文	暗褐／砂粒・礫 微量	勝坂1式	覆土中
第 22 図 49 図版 23-1-49	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	直立する口縁／口 唇部にかけてやや 薄くなり、内面で 僅かに肥厚	半截竹管状工具の腹面引きによる区画文／ 沈線には角押し文と波状沈線が沿う／区画文 内には単沈線による弧状文	黒褐／砂粒多 量、礫少量、珩 礫微量	勝坂2式	北東部 床上9.5 cm
第 22 図 50 図版 23-1-50	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	ほぼ直立する口縁	単沈線が3本垂下／沈線には蓮華文（温泉 マーク文）が沿う	黒褐／砂粒多 量、礫少量	勝坂2式	北東部 床上6.5 cm
第 22 図 51 図版 23-1-51	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部／ 口唇部は	隆帯による貼付文／隆帯間は横位の短沈線 が充填	にぶい赤褐／ 砂粒・礫中量	勝坂3b新 式	北東部 床上11cm
第 22 図 52 図版 23-1-52	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	僅かに内湾する胴 部	太い隆帯による眼鏡状把手／把手から押し 文が付けられた隆帯が1本垂下	暗赤褐／砂 粒・礫多量	勝坂3b新 式	北東部 床上8cm
第 22 図 53 図版 23-1-53	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	強く内湾する口縁 部	口縁部中に双環状把手／多条の隆帯によ る逆U字状文	にぶい黄褐／ 砂粒・礫少量	勝坂3b新 式	北東部 覆土
第 22 図 54 図版 23-1-54	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	屈曲する胴部／底 部付近か	燃糸R縦位施文	にぶい赤褐／ 砂粒・礫少量	勝坂3式～ 加曾利E1 式	北東部 床上9.5 cm
第 22 図 55 図版 23-1-55	深鉢	底部 破片	厚 1.1		地文は単節RL縦位／3本一対の隆帯が垂 下／隆帯脇には沈線が沿う	にぶい橙／砂 粒・礫中量	加曾利E1 b～c式	北東部 床上8cm
第 22 図 56 図版 23-1-56	深鉢	頸部 破片	厚 1.2	外傾する胴部／僅 かに外折する口縁 部	地文は条線縦位／2本一対の沈線による弧 状文／弧状文は左から右へ展開	橙／砂粒・礫少 量	連弧文	北東部 覆土中

第13表 86号住居跡出土土器一覧(3)

挿図番号 図版番号	種 別	遺存度	長さ／幅／厚み (cm)	重量 (g)	特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第 21 図 32 図版 22-32	土器片錘	完形	4.0 / 3.2 / 0.9	15.2	楕円形／挾部は長軸方向に2ヶ所確認／摩耗 痕顕著／胴部破片利用／角押し文列、三叉状文	暗赤褐／砂粒・ 礫微量	勝坂3式	覆土中
第 21 図 33 図版 22-33	土器片錘	完形	4.3 / 3.2 / 0.9	14.4	楕円形／挾部は不明瞭だが長軸方向に1ヶ所 か／摩耗痕未発達／胴部破片利用／0段3条 単節RL	暗褐／砂粒・ 少量	勝坂3式	覆土中
第 21 図 34 図版 22-34	土器片錘	90%	4.3 / 4.2 / 0.9	23.6	円形／挾部は長軸方向に2ヶ所確認／摩耗痕 顕著／胴部破片利用／断面カマボコ状隆帯脇 に太い結節沈線が沿う	にぶい黄褐／ 砂粒・礫・雲 母多量	阿玉台II式	覆土中
第 21 図 35 図版 22-35	土器片錘	70%	[4.2] / 5.3 / 0.9	28.0	方形か／挾部は長軸方向に1ヶ所確認(2ヶ 所か)／摩耗痕未発達／胴部破片利用／複列 の波状沈線	暗褐／砂粒・ 礫・雲母多量	阿玉台II式	覆土中
第 22 図 57 図版 23-1-57	土器片錘	完形	5.7 / 4.4 / 1.4	50.0	方形／挾部2ヶ所／口縁部破片利用か／隆帯 による区画文／区画文内側の隆帯脇には三角 押し文が2列沿う	暗赤褐／砂粒 中量、礫微量	勝坂1式	覆土中

第14表 86号住居跡出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第21図36 図版22-36	石鏃	チャート	26.1	16.1	3.8	1.2	凹基無茎／右脚部を欠損／平面形状は縦長状／側縁は直線的／基部の挟りは深く、頂点はやや丸みを帯びる／縦長剥片を素材とするか	覆土中
第21図37 図版22-37	石鏃	黒曜石	22.2	15.2	2.8	0.6	凹基無茎／右脚部を欠損／平面形状は縦長状／側縁は直線的／基部の挟りは浅い／脚部の先端は鋭角	覆土中
第21図38 図版22-38	削器	黒曜石	28.8	4.7	9.1	3.2	分厚い縦長剥片を素材とする／右側縁は表裏方向に剥離調整され刃部を形成／刃角は70～90°	覆土中
第21図39 図版22-39	剥片	凝灰岩	48.3	18.4	11.8	9.1	表面左側、裏面は礫面で、光沢を持つ磨面を形成する／打製石斧の刃部片か	覆土中
第21図40 図版22-40	打製石斧	砂岩	88.7	71.8	36.1	221.3	撥形／完形／基部と刃部は丸味があり、両側縁はやや括れる／表面基部付近に礫面を残す／両側縁の中央やや下部と刃部に潰れが認められる／刃部及び表裏面の一部に、僅かに赤色の土壌ないし顔料の付着が認められる	覆土中
第21図41 図版22-41	打製石斧	礫フェルス	68.9	48.2	24.9	114.7	短冊形／基部はやや丸みを持ち、右側縁はやや膨らみ、左側縁はやや括れ、刃部は平坦である／基部稜上の一部、左側縁稜上の上部、右側縁稜上の全体に潰れが認められ、特に右側縁の潰れは著しい／刃部表裏面の剥離調整は大きく、折損後の再調整か	覆土中
第21図42 図版22-42	打製石斧	砂岩	115.8	49.2	22.9	167.0	短冊形／表面の一部に礫面を残す／基部はやや丸みを持ち、右側縁は直線的／刃部の一部を欠損／左側縁は中央の一部を除き、上部から下部にかけて節理面で欠損／左側縁稜上の全体、右側縁稜上の一部に潰れが認められる	覆土中
第21図43 図版22-43	打製石斧	礫フェルス	100.3	49.7	19.4	133.6	短冊形／基部は欠損か／表面中央に礫面を残す／両側縁と刃部は直線的／両側縁稜上の下部に潰れが認められる	覆土中
第22図58 図版23-1-58	打製石斧	礫フェルス	78.0	52.6	19.4	77.7	表面は、基部・刃部を含み原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁は中央部の稜上に潰れが認められ、面状になっている／左側縁はほぼ全面の稜上に潰れが認められ、下部が面状になっている／刃角は約60°と鈍く、表面からのみの調整／折損後、刃部再生か	北東部 覆土中
第22図59 図版23-1-59	磨製石斧	閃緑岩	100.3	53.6	30.4	292.9	定角式／断面形状は長辺が緩やかな弧を描く長方形／刃部欠損	北東部 壁溝内
第22図60 図版23-1-60	敲石	砂岩	124.7	53.2	28.8	293.6	右・上面の稜上、左・下面の面上に敲打痕／左面の敲打痕は剥離を伴う／敲打痕はいずれも細かく、下面が比較的粗い	北東部 覆土中
第22図61 図版23-1-61	敲石	砂岩	96.6	68.5	36.1	402.0	全周縁の面全体に敲打痕／左右面は細かい敲打痕で、上下面の敲打痕は左右面より後で粗い	P11内 覆土上層

第15表 86号住居跡出土石器一覧

## 163号住居跡

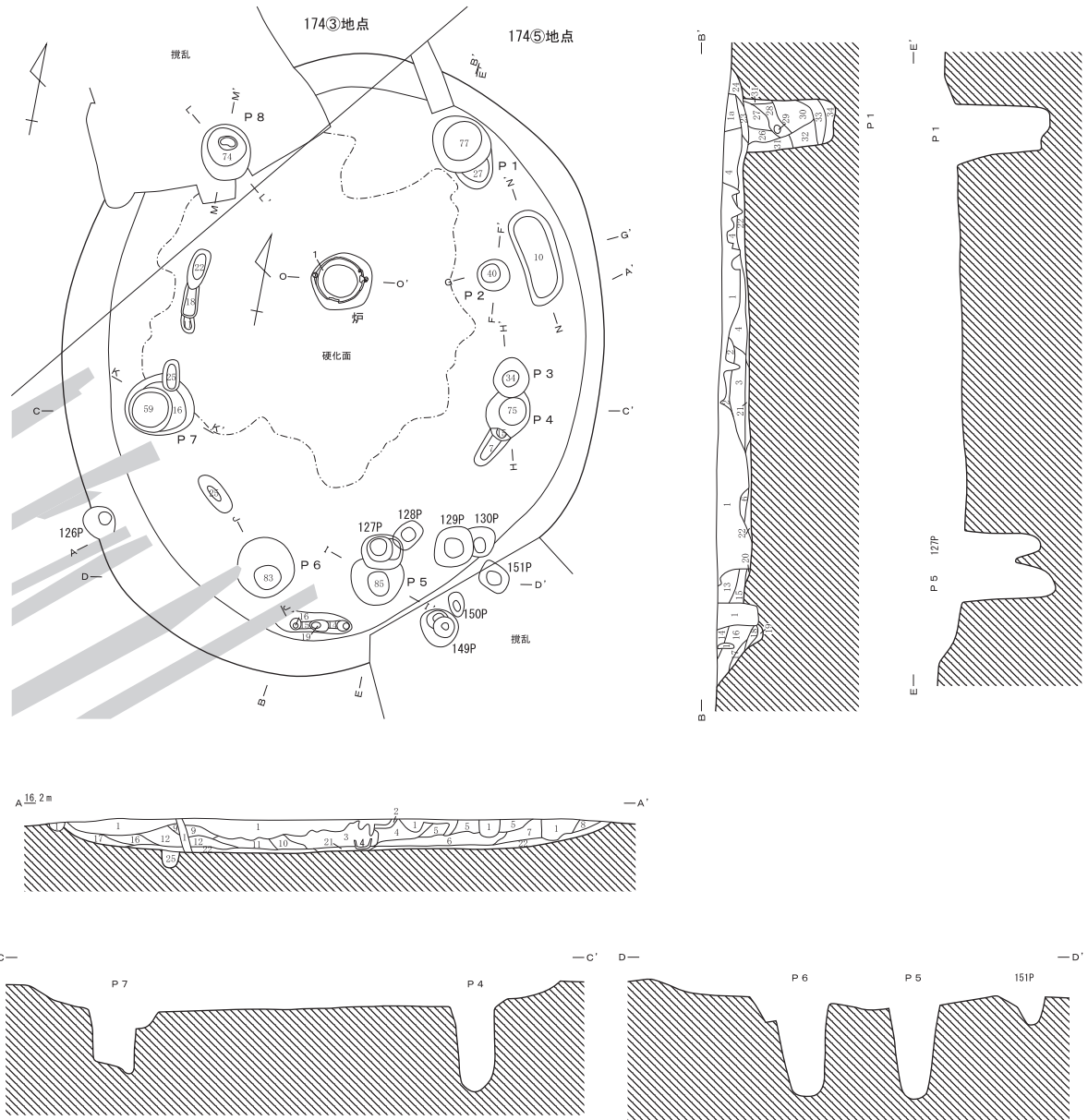
遺 構 (第23・24図)

[位 置] (E-3・4) グリッド／③・⑤地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。北西の一部を③地点で検出したが、大部分は⑤地点での検出である。北西壁と南東壁の一部と住居中央の覆土を、調査区北西—南東方向に延びる溝状の攪乱に壊される。

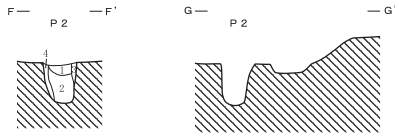
[構 造] 平面形：楕円形。主軸方位：N-9°-W。P5とP6、P4とP7、P1とP8のそれぞれの中間と炉の中央を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸 5.3m／短軸 4.6m／確認面からの深さ



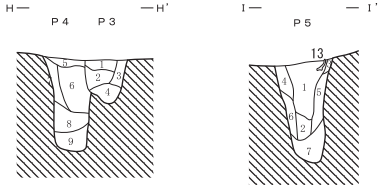


- A-A' B-B'
- 1層 攪乱及び後世のピット。
  - 2層 黒褐色土 炭化物粒子を含み、ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 3層 暗赤褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、焼土粒子を多く含む。しまりやや強。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子を多く含む、炭化物粒子・焼土粒子を含む。しまりやや強。
  - 6層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 7層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 8層 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 9層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
  - 10層 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 11層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 12層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 13層 黒褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 14層 暗褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 15層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 16層 暗褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 17層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 18層 灰黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
  - 19層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
  - 20層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 21層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりとても強。
  - 22層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりとても強。
  - 23層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 24層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 25層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - P1
  - 26層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 27層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 28層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。
  - 29層 ロームブロック。
  - 30層 暗茶褐色土 ローム小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり弱い。
  - 31層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強い。
  - 32層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱い。
  - 33層 暗黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱い。
  - 34層 灰黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱い。

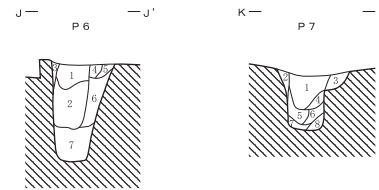
第23図 163号住居跡・炉 (1/60・1/30)



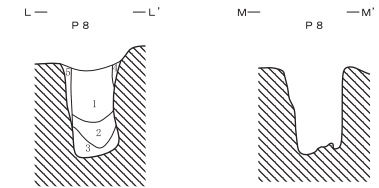
- F-F' P 2**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・黒色土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 3層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 4層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。



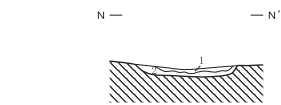
- H-H'**
- P 3**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含む。しまり強。
  - 2層 暗黄褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 3層 暗黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
  - 4層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
- P 4**
- 5層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
  - 6層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
  - 7層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり弱。
  - 8層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
  - 9層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。



- I-I' P 5**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり中。
  - 3層 暗茶褐色土 ローム粒子を多く、ロームブロックを含み、ローム小ブロック・黒色土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 4層 暗茶褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 6層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 7層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を含む。しまり中。



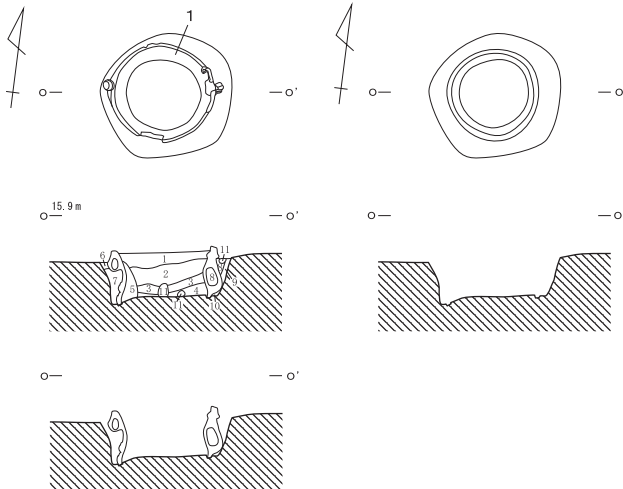
- J-J' P 6**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ロームブロック・炭化物粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 3層 灰黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 5層 にぶい黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
  - 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 7層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。



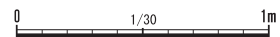
- K-K' P 7**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに、炭化物粒子を含む。しまり弱。
  - 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 5層 にぶい黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・黒色土粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 6層 灰黄褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

- L-L' P 8**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
  - 2層 暗茶褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
  - 3層 暗黄褐色土 ローム粒子をやや多く、炭化物粒子を僅かに含む。
  - 4層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。
  - 5層 明黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。

- N-N'**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含み、炭化物粒子を含む。しまりやや強。
  - 2層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。



- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子・黒色土粒子・黒色土ブロックを含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。やや粘性あり。
- 6層 暗黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
- 8層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
- 9層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
- 10層 灰黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
- 11層 被熱により硬化したロームブロック。



27～30cm。壁溝：検出されなかった。壁：約15～20°で皿状にゆるやかに立ち上がる。畝状耕作痕等による攪乱を受け、遺存状態は悪い。床面：概ね平坦である。炉を中心とした住居北側に硬化面を検出した。直床である。炉：埋甕炉。深鉢形土器の上半部（第25図1）を埋設していた。掘込規模は長軸52cm／短軸48cm／床面からの深さ17cm。炉体土器埋設状況の観察を目的に箱掘りを実施した結果、炉体土器と密接した掘り込み状況であったことを確認した。下層に焼土粒子・焼土小ブロックを含み、底面は被熱により硬化していたものの、赤化範囲を捉えることはできなかった。柱穴：8本検出した。形態・配置から、P1、P4、P5、P6、P7、P8を主柱穴と捉え、6本柱建物を想定する。建替や拡張は想定できない。P8の底面からは根当たりと思われる硬化面を検出した。主柱穴間に溝状の掘込を検出した。

〔覆土〕 攪乱によって削平され、覆土の遺存状態は悪い。概ね、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を微量～中量含む暗褐色土（A-A'3～6層、9・12・16層）を基調とする。住居中央には焼土粒子を多く含む暗赤褐色土（A-A'・B-B'3層）が堆積していた。床面直上にはローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土が堆積していた。

〔遺物〕 土器は659点19,552g、土製品は2点17g、石器は52点（石鏃2点・打製石斧12点・磨製石斧2点・磨石1点・敲石3点・石皿1点・剥片31点）出土した。住居中央付近の床面直上から覆土中層を中心に遺物が出土した。特に炉体土器である第25図1を始め、復元個体の多くは当該箇所からの出土である。第25図2は住居中央の床面付近から潰れた状態で出土した。第27図37の石皿は、住居北東部の床面直上から出土した。覆土中層から出土した第25図6は、165・168・169・171J出土土器と遺構間接合または同一個体と思われる土器で、本住居跡出土土器として一括して図示している。北西と南東の一部で出土遺物が少ないのは、攪乱の影響と思われる。また、炭化種実が出土しており、自然科学分析の結果、オニグルミとダイズ属であることが判明している（付編「自然科学分析」193ページを参照）。

〔時期〕 炉体土器及び覆土出土土器から中期中葉期（勝坂3b新式期）。

〔遺物〕（第25～27図、第16～18表、図版23-2・24）

〔土器〕（第25・26図7～24、第16表、図版23-2・24）

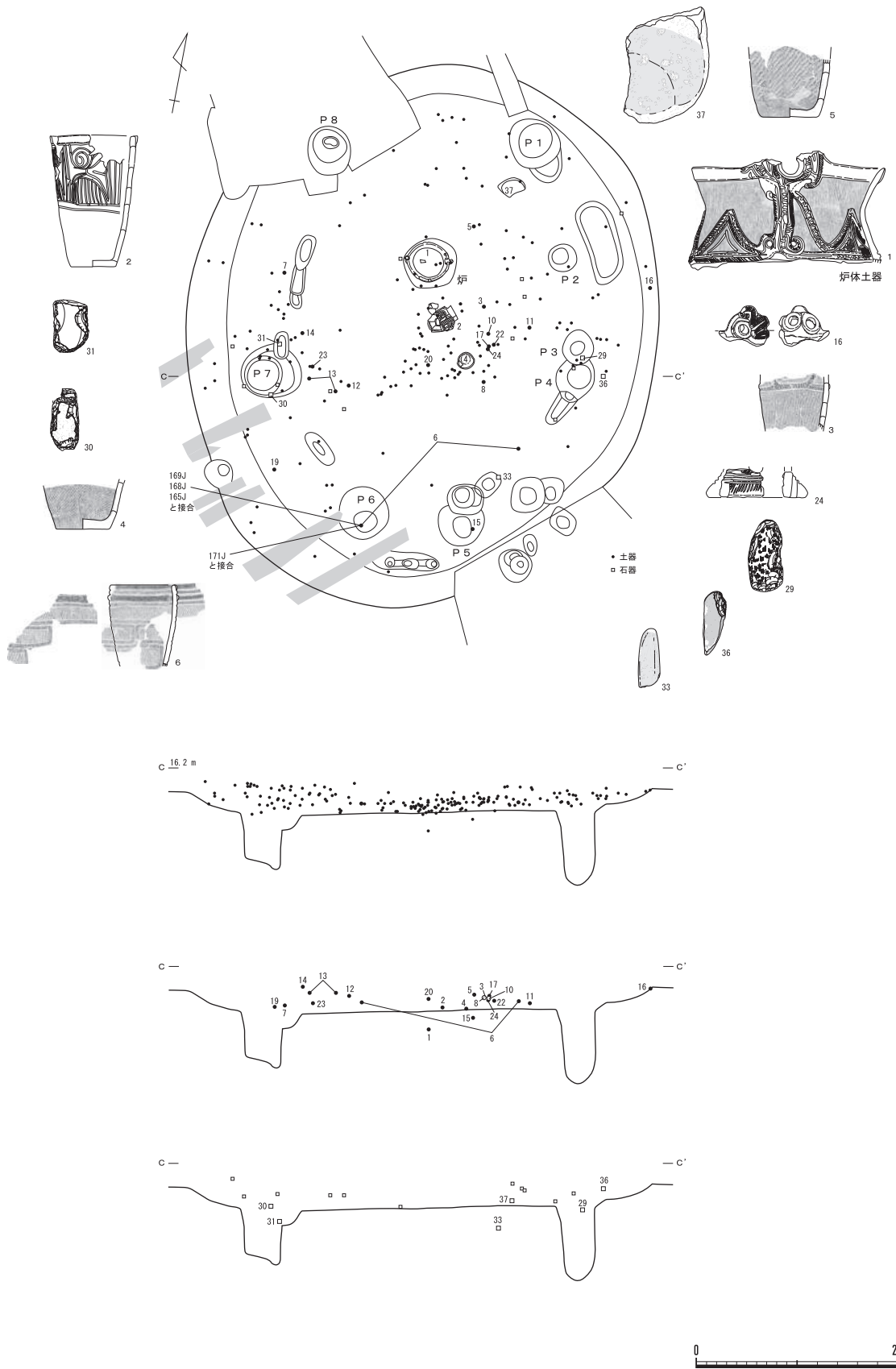
復元個体6点、破片資料18点を図示した。1は炉体土器で、勝坂3b新式の大形の深鉢形土器である。撚糸L縦位施文後、隆帯による三角形区画文等を配する。2は勝坂3b新式の円筒形深鉢で、沈線のみで文様を配する。3～5は勝坂3式の円筒形深鉢形土器である。6は勝坂3a式の円筒形深鉢形土器で、半截竹管状工具の腹面引きによる並行沈線で方形区画を多段に配する。7・8は阿玉台式、9～18は勝坂式、19は加曾利E3式、20は曾利式の深鉢形土器である。21・22は勝坂式の浅鉢形土器である。23は勝坂式の有孔罅付土器である。24は勝坂3式の器台形土器で、底部付近に縦位沈線列による刻みが付され、上部に孔が穿たれる。

〔土製品〕（第26図25・26、第17表、図版24）

2点を図示した。25・26は土器片錘である。いずれも方形を呈し、中期の土器片を転用している。

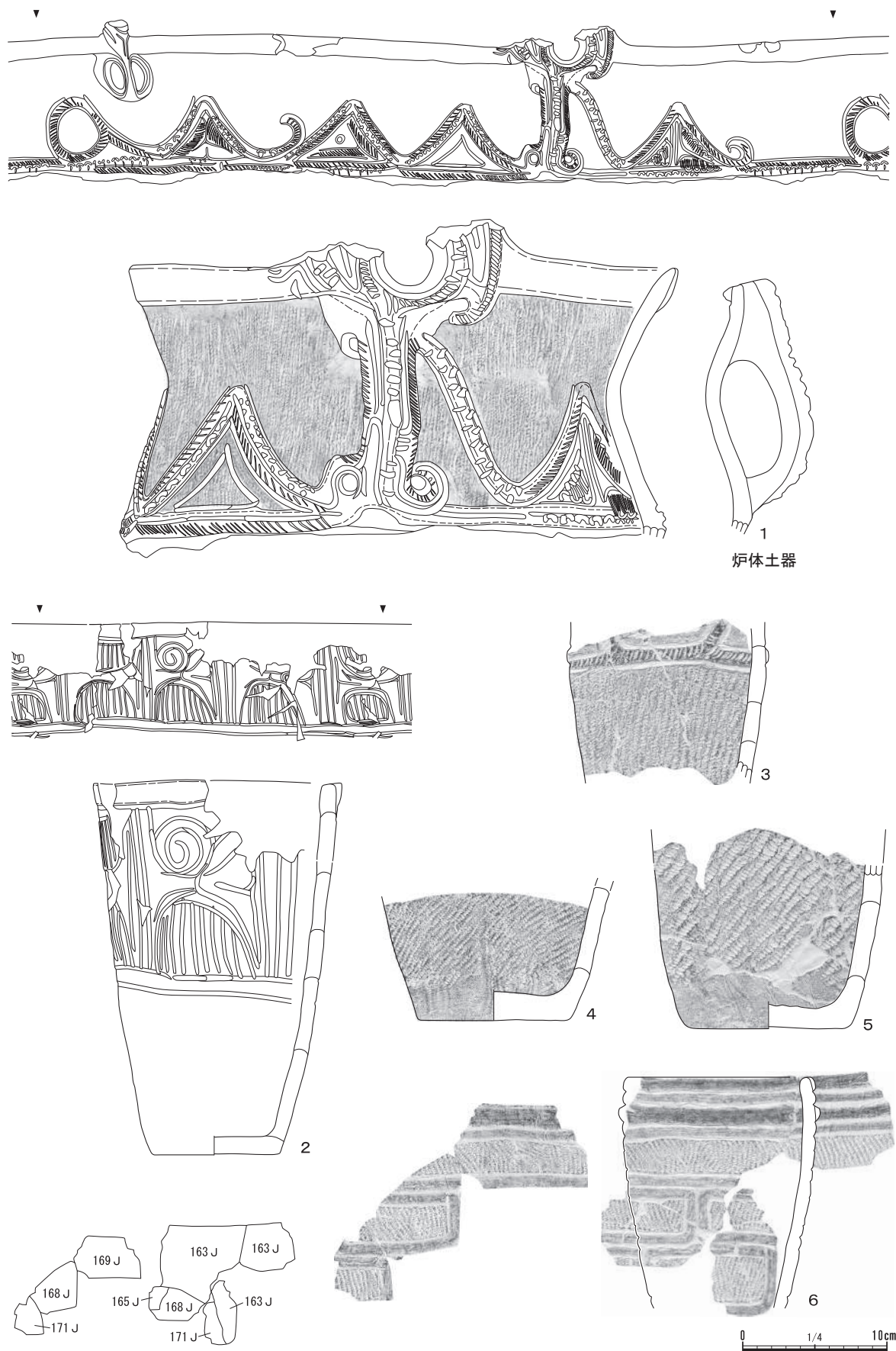
〔石器〕（第27図、第18表、図版24）

11点を図示した。27・28は凹基無茎の石鏃である。29～31は短冊形の打製石斧である。32・33は磨製石斧の基部片である。34～36は磨面を伴う敲石である。36にはタール状物資の付着が確認できる。37は石皿で、表裏面に磨面・凹部が確認できる。

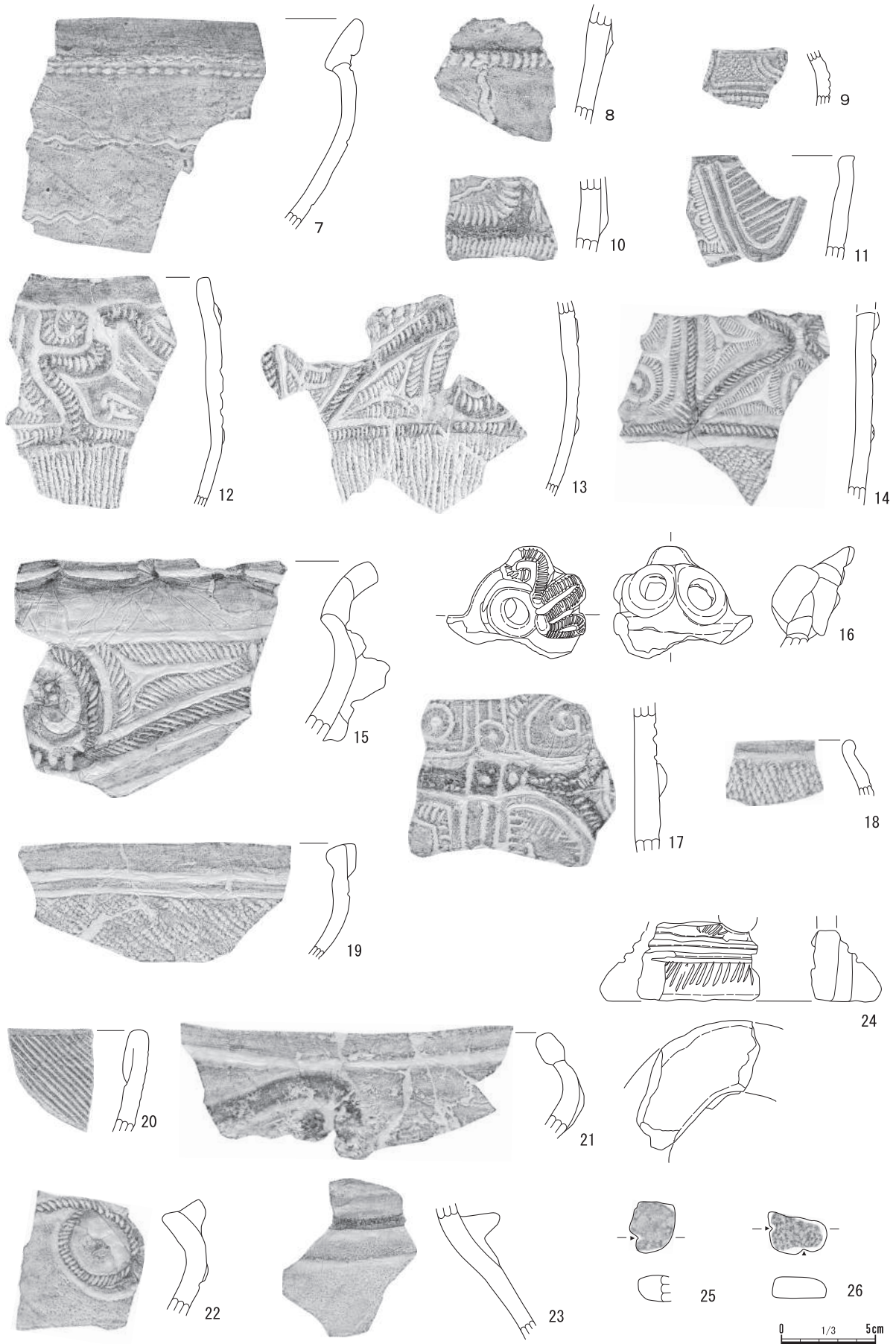


第24図 163号住居跡遺物出土状態 (1/60)





第25図 163号住居跡出土遺物1 (1/4)



第26図 163号住居跡出土遺物2 (1/3)



第27図 163号住居跡出土遺物3 (2/3・1/3・1/4)



挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第 25 図 1 図版 23-2-1	深鉢	口縁部～ 頸部 100%	高 [24.9] 口 38.1 厚 1.1	キャリパー形か/ 頸部以下を欠損か 口縁部中位で括 れ、口縁部上半で 外傾して広がる/ 口唇部は肥厚/大 形	口縁部上端に幅広の無文肥厚帯/口唇部上 端に大形の円環状把手 1 単位、対称位に小 突起・眼鏡状把手 1 単位配す/円環状把手 下端から口縁部中位まで橋状把手が付され る/押圧文・半円形刺突・交互刺突・沈線 が施された隆帯により、口縁部に三角形区 画文 4 単位・円形区画文 1 単位が配される /区画文内は押圧文列や三叉文を充填/地 文は撚糸 L 縦位/地文→隆帯貼付を原則と し一部区画文内にも地文が施されるが、円 形区画文内は地文が磨り消され、一部隆帯 上に地文が施文される	明褐/砂粒少 量、礫中量	勝坂 3b 新 式	炉体
第 25 図 2 図版 23-2-2	深鉢	口縁部～ 底部 80%	高口 底 26.1 (16.8) 厚 8.9 1.1	円筒形/僅かに内 湾して広がりなが ら立ち上がる/口 縁部上端は外面で 肥厚	幅狭の口縁部は無文/胴部上端に 1 本、胴 部中位に 2 本の沈線が横位に巡り文様帯を 形成/文様帯内は 3 本の縦位沈線により 4 単位に区画/区画内は単沈線による渦巻文 や半楕円区画文を上下に配置/半楕円区 画文は単沈線 2 本で描かれ、区画内は縦位 沈線が充填/文様は単沈線のみで描かれる /胴部下半は無文/内面底部付近高さ 5cm 程度までコゲ	暗赤褐/砂粒中 量、礫微量	勝坂 3b 新 式	炉南側 覆土下層 床上 6cm
第 25 図 3 図版 23-2-3	深鉢	胴部中位 ～下位 50%	高 [11.3] 厚 1.1	円筒形/やや広が りながら立ち上 がる胴部/胴部中 位で膨らむ	押圧文が施された隆帯によって胴部下位と 上位を画し、胴部上位には区画文を配す/ 隆帯脇には単沈線が沿う/胴部下位には 0 段 3 条単節 RL 斜位施文/隆帯貼付→地文 /内面には縦方向のミガキ調整が顕著に確 認できる	暗赤褐/砂粒中 量、礫・灰 少量	勝坂 3b 式	炉南東側 床上 12 cm
第 25 図 4 図版 23-2-4	深鉢	胴部下位 ～底部 70%	高底 厚 9.2 10.7 1.1	円筒形か/底部か らやや広がりなが ら立ち上がる	底部下端を残して器面全面に単節 RL 縦位 施文	暗赤褐/砂粒中 量、礫微量	勝坂 3 式	炉南側 覆土下層 床直
第 25 図 5 図版 23-2-5	深鉢	胴部下位 ～底部 60%	高底 厚 [13.8] 11.6 1.3	円筒形か/広がり ながら立ち上 がる胴部/底部内面に 成形痕が残る	胴部下位には節がやや大きい 0 段 3 条単節 RL 縦位施文/底部付近は無文	橙/砂粒・礫少 量	勝坂 3 式	炉北東側 床上 10 cm
第 25 図 6 図版 23-2-6	深鉢	口縁部～ 胴部下位 40%	高 [16.3] 口 (13.0) 厚 1.3	円筒形/やや広が りながら立上 がる胴部/口縁部でや や肥厚して内傾	口縁部には断面カマボコ状の隆帯が 2 本横 走し、隆帯の下部に半截竹管状工具腹面に よる並行沈線が沿う/胴部は、一旦を重ね た半截竹管状工具腹面引きの平行沈線によ る多段の方形区画文/区画文内には単節 R L が縦位を基調に施文/ 165・168・169・ 171 J 出土土器と接合し、一括して掲載	にぶい黄褐/砂 粒・礫少量	勝坂 3a 式	P 6 上覆 土下層 165・ 168・ 169・ 171 J 覆 土中
第 26 図 7 図版 24-7	深鉢	口縁部 破片	口 (31.0) 厚 1.2	内湾して広がる口 縁部/口唇部は断 面三角形に肥厚し て外傾	口縁部上端に半截竹管状工具の押し引きによ る結節沈線が巡る/口縁部には波状沈線が 2 本横位に巡る	暗褐/砂粒・礫・ 雲母中量	阿玉台 II 式	西側 床上 9cm
第 26 図 8 図版 24-8	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.0	やや外傾する胴部	断面三角形の隆帯による区画/隆帯脇には 幅広の爪形文列が沿う/区画内には波状 沈線	褐/砂粒・礫中 量、雲母微量	阿玉台 III 式	中央南側 床上 12 cm
第 26 図 9 図版 24-9	深鉢	口縁下位 破片	厚 0.7	内傾する口縁	細い竹管状工具の押し引きによる多条の結節 沈線が区画文を形成/区画文内には半円形 刺突文列が充填	暗褐/砂粒・礫 少量	勝坂 1a 式	覆土中
第 26 図 10 図版 24-10	深鉢	胴部下位 破片	厚 0.9	僅かに外傾	隆帯による区画文/隆帯脇には幅広の爪形 文/区画文内には波状沈線と爪形文が充填	にぶい黄橙/砂 粒・礫少量	勝坂 2 式	中央 床上 9cm
第 26 図 11 図版 24-11	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	やや外傾/内面の 口縁部上端で僅か に凹む/口唇部外 面で僅かに肥厚	半截竹管状工具による区画文/区画文内 には半円形刺突による蓮華文(温泉マーク文) や一端を重ねた半截竹管状工具腹面による 集合沈線が充填	にぶい黄橙/砂 粒・礫微量	勝坂 2 式	中央東側 床上 5cm

第 16 表 163 号住居跡出土土器一覧 (1)



第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第 26 図 12 図版 24-12	深鉢	口縁部～ 胴部下位 破片	口 厚 (7.5) 0.7	小形の樽形／胴部 中位に最大径を持 ち、口縁部で窄ま る／口縁部内面で 肥厚	口縁部と胴部は単沈線で、胴部上半と下半 は隆帯によって画される／胴部上半は隆帯 による区画文／区画内には単沈線による三 叉文や押圧文列が充填／隆帯脇には単沈線 1本が沿う／胴部下半は燃糸 R 縦位が隆帯 貼付後に施文	明赤褐／砂粒中 量、礫少量	勝坂 3b 古 式	P7 東側 床上 16.5 cm
第 26 図 13 図版 24-13	深鉢	胴部上位 ～下位 破片	厚 0.7	小形の樽形／胴部 中位に最大径を持 つ	胴部上半と下半を押圧文を付した隆帯によ り画す／胴部上半は隆帯による区画文／区 画内には単沈線による三叉文や押圧文列が 充填／隆帯脇には単沈線 1本が沿う／胴部 下半は燃糸 R 縦位が隆帯貼付後に施文	明赤褐／砂粒中 量、礫少量	勝坂 3b 古 式	P7 東側 覆土上層
第 26 図 14 図版 24-14	深鉢	胴部中位 破片	厚 1.0	円筒形か／ほぼ直 立する胴部	隆帯によって胴部上半と下半を画す／胴部 上半は隆帯による区画文／隆帯脇には太く 浅い沈線と角押文が沿う／区画文内には沈 線による三叉文・渦巻文／胴部下半には単 節 R L 縦位施文	橙／砂粒・礫中 量	勝坂 3b 古 式	P7 東側 覆土上層
第 26 図 15 図版 24-15	深鉢	口縁部 破片	口 厚 (20.5) 1.2	口縁部は内湾し、 上端で外反して開 く／口縁はやや波 状を呈する	口唇部に連鎖状隆帯が巡る／口縁部上端の 無文部は沈線で画す／口縁部文様帯内は断 面台形の隆帯による渦巻文／隆帯上には押 圧文が伴い、隆帯脇には単沈線が 1本ない し 2本沿う／区画文内には押圧文と三叉状 文を充填	暗褐／砂粒多 量、礫少量	勝坂 3b 新 式	P 5 内 覆土上層
第 26 図 16 図版 24-16	深鉢	把手 破片	厚 0.9	やや外傾	円環状の隆帯により外面 1・内面 2ヶ所の 孔のある中空把手を形成／外面縁部には 角押文が施された隆帯を波状に貼付する	橙／砂粒・礫少 量	勝坂 3 式	東壁際 床上 12cm
第 26 図 17 図版 24-17	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	ほぼ直立する胴部	押圧文・円形刺突・角押文・沈線が施され た隆帯による区画文／隆帯脇には半截竹管 状工具による並行沈線／区画内には角押文 や渦巻文が充填	橙／砂粒・礫多 量	勝坂 3 式	中央 床上 13cm
第 26 図 18 図版 24-18	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾して窄まる口 縁部／肥厚して直 立する口唇部	口縁部上端に浅い沈線／地文は燃糸 L 縦位 施文	暗赤褐／砂粒多 量	勝坂 3 式	覆土中
第 26 図 19 図版 24-19	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	やや内湾して広が る／口唇部内外面 で肥厚	口縁部上端に太い沈線が 2本巡る／地文は 単節 R L 横位施文	暗褐／砂粒多 量、礫微量	加曾利 E3 式	南西壁際 床上 1cm
第 26 図 20 図版 24-20	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	僅かに内湾して外 傾／口縁部上端内 面で肥厚	半截竹管状工具の一端を重ねた腹面引きに よる斜行沈線文／口唇部は無文	明褐／砂粒・礫 少量	曾利 II 式	中央 床上 10cm
第 26 図 21 図版 24-21	浅鉢	口縁部 破片	口 厚 (23.0) 0.9	口縁部内湾／口縁 部上端は薄く、口 唇部は断面台形状 に肥厚	地文無文の口縁部に太い隆帯による渦巻文 ／渦巻文端部はやや肥厚し突起状を呈す／ 内面に赤色顔料付着	明赤褐／砂 粒・礫少量	勝坂 3 式	覆土中
第 26 図 22 図版 24-22	浅鉢	口縁部 破片	厚 0.9	口縁部内湾／口唇 部内面で断面三角 形状に肥厚	無文の口縁部に押圧文が付された隆帯によ る円形区画文／隆帯脇には浅い沈線が沿う	暗褐／砂粒・ 礫多量、雲母 微量	勝坂 3 式	中央 床上 7cm
第 26 図 23 図版 24-23	有孔 罎付	口縁部 破片	厚 1.0	僅かに内湾して内 傾する口縁部	断面三角形の太い隆帯が罎部を形成／罎直 下には厚さ 2mm 程度の肥厚帯／破片右上端 部に僅かに孔部の痕跡を確認／破片中央右 端部に抉部 1カ所確認、土器片錘か	明黄褐／砂粒・ 雲母多量、礫少 量	勝坂 3 式	P7 東側 床上 6.5cm
第 26 図 24 図版 24-24	器台	脚部 破片	高 [4.3] 底 (15.0)	肥厚する脚部下位 から脚部中央まで 括れて立ち上がる ／底面は平滑	脚部下端に縦位沈線列が巡り、直上に沈線 が 3本横位に巡る／脚部中位に孔を 1カ所 確認／脚端部は無文	明黄褐／砂粒・ 礫少量	勝坂 3 式	中央 床上 13cm

第 16 表 163 号住居跡出土土器一覧 (2)

挿図番号 図版番号	種別	遺存度	長さ／幅／厚み (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第26図25 図版24-25	土器片錘	30%	[2.7] / 2.5 / 1.4	9.0	方形か／抉部1ヶ所確認／無文	橙／砂粒・礫 少量	中期	覆土中
第26図26 図版24-26	土器片錘	60%	[3.0] / 2.0 / 1.1	8.0	方形か／抉部2ヶ所確認、4ヶ所か／摩耗痕 顕著／胴部破片利用か／単節RL縦位施文か	暗褐／砂粒多 量・礫少量	中期	覆土中

第17表 163号住居跡出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第27図27 図版24-27	石鏃	チャート	25.8	14.0	3.1	0.7	完形／凹基無茎／側縁は直線状／抉りは深く弧状を呈 す／平面形状は縦長状	覆土中
第27図28 図版24-28	石鏃	チャート	25.8	15.6	4.6	1.4	側縁は直線状で鋸歯縁／抉りは深く頂点は丸みを帯び る／右脚部欠損	覆土中
第27図29 図版24-29	打製石斧	砂岩	106.5	51.2	28.9	222.5	短冊形／基部・刃部はやや丸みを持ち、左側縁は膨ら み、右側縁は括れる／表裏・左面が磨滅している／表面・ 左側面に原礫面が残存、両側縁に敲打剥離が認められ る／右側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、上部 が面状になっている／左側縁は下部の一部の稜上に潰 れが認められる／刃部の稜上にも潰れが認められる	P3 上 床上 7cm
第27図30 図版24-30	打製石斧	片状砂岩	91.6	41.9	17.9	79.7	短冊形／基部の一部は折れて欠損している／表面に原 礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側 縁は上部から中央部にかけての稜上に局所的に潰れが 認められる／左側縁は中央部の稜上に潰れが認められ る	P7 南側 床上 4cm
第27図31 図版24-31	打製石斧	玄武岩	77.4	52.8	16.9	89.2	短冊形／両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁中央 部の一部の稜上に潰れが認められる／左側縁はほぼ全 面の稜上に潰れが認められ、上部が滑らかな面状になっ ている	P7 北側溝 溝底直上
第27図32 図版24-32	磨製石斧	緑色岩	78.7	42.7	34.9	162.1	基部の先端まで磨滅している／基部のみ残存／表面中 央部に敲打痕／着柄痕か	覆土中
第27図33 図版24-33	磨製石斧	緑色岩	87.1	32.1	23.2	123.8	乳棒状／基部と側縁に研磨より後の敲打痕がみられる ／再生品か／刃部欠損／裏面はやや平坦で、研磨が顕 著	P5 北東側
第27図34 図版24-34	敲石	閃緑岩	122.0	47.3	50.3	348.2	表裏面全面に磨痕／裏面中央部の一部、及び全周縁の 面全体に敲打痕／敲打痕が磨痕の後段階／周縁の敲打 後は右面が最も細かい	覆土中
第27図35 図版24-35	敲石	砂岩	97.6	53.3	32.1	236.1	表裏面ほぼ全面に磨痕／敲打による浅い凹みが表裏右 面各1ヶ所ずつあり／側面の広範囲は一部に剥離を伴 う敲打痕／敲打痕が磨痕の後段階	覆土中
第27図36 図版24-36	敲石	砂岩(凝灰 岩質)	94.2	34.1	20.8	71.7	右面に剥離を伴う敲打痕／表面のほぼ全面及び裏面の 一部にタール状物質付着	P4 東側 床上 13cm
第27図37 図版24-37	石皿	安山岩	228.9	167.8	70.3	2872.5	表面に3ヶ所、裏面に2ヶ所、敲打による凹み／表面 の使用面の敲打が粗く、凹みの前段階の可能性／表面 の敲打及び凹みは磨痕の前、裏面は後	P1 南西側 床面直上

第18表 163号住居跡出土石器一覧

## 164号住居跡

### 遺 構 (第28・29図)

[位 置] (B・C-1・2) グリッド/③地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。調査区北西に延びると想定される。区第24 I地点では検出されていない。東壁の一部を攪乱に、南壁の一部を628 Dに、西壁の一部を畝状耕作痕や630 Dに壊される。41 Jを切り、628・630 Dに切られる。

[構 造] 平面形：円形。主軸方位：N-9°-W。P2とP3の中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸推定3.0m/短軸2.7m/確認面からの深さ11~26cm。壁溝：検出されなかった。壁：約48~50°で緩やかに立ち上がる。床面：概ね平坦であるが、中央部分が僅かに深くなるすり鉢状を呈する。直床である。炉：埋甕炉。掘込規模は長軸52cm/短軸48cm/床面からの深さ17cm。胴部下半を打ち欠いた深鉢形土器(第30図1)が、南側に位置する把手部がやや高くなるように傾いて埋設されていた。掘込の南西側が被熱により赤化していたが、埋設土器には剥落等の著しい被熱痕跡は確認できない。埋甕：検出されなかった。柱穴：4本検出した。規模・配置からP1~P4が主柱穴と思われる。床面からの深さは65~79cmである。

[覆 土] 一部を攪乱や土坑に壊されるが、覆土の遺存状態は比較的良好である。上~中層はローム粒子を中量~多量含み、焼土粒子・炭化物粒子等を僅かに含むにぶい褐色~暗褐色土(A-A'3・4層)、床面付近はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む黄褐色土(A-A'6層)が堆積していた。全体的にしまりは強い。

[遺 物] 土器は349点8,306g、土製品は1点20g、石器は8点(打製石斧2点・石皿1点・剥片5点)出土した。住居中央の床面~覆土上層を中心に出土した。土器は炉体土器(第30図1)の他、床面直上から小形鉢(第30図2)や浅鉢(第30図4)が出土した。浅鉢は一部を628 Dに壊されていた。第30図8は39 J出土の第13図19と接合している。また、出土した炭化種実について自然科学分析を行ったが、同定不能であった(付編「自然科学分析」193ページを参照)。

[時 期] 炉体土器及び床面直上・覆土出土土器から中期中葉期(勝坂3 a式期)。

### 遺 物 (第30図、第19~21表、図版25)

[土 器] (第30図1~11、第19表、図版25)

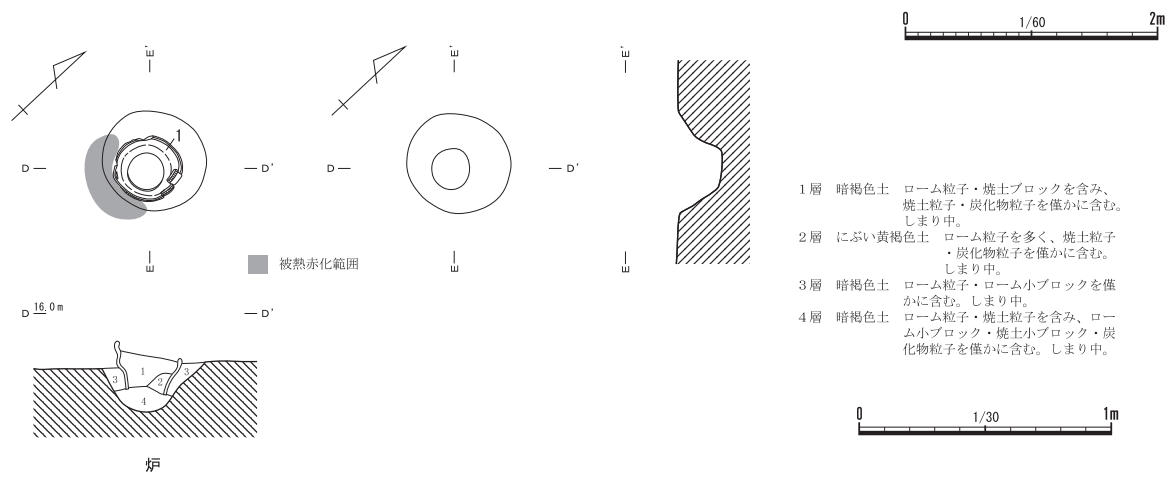
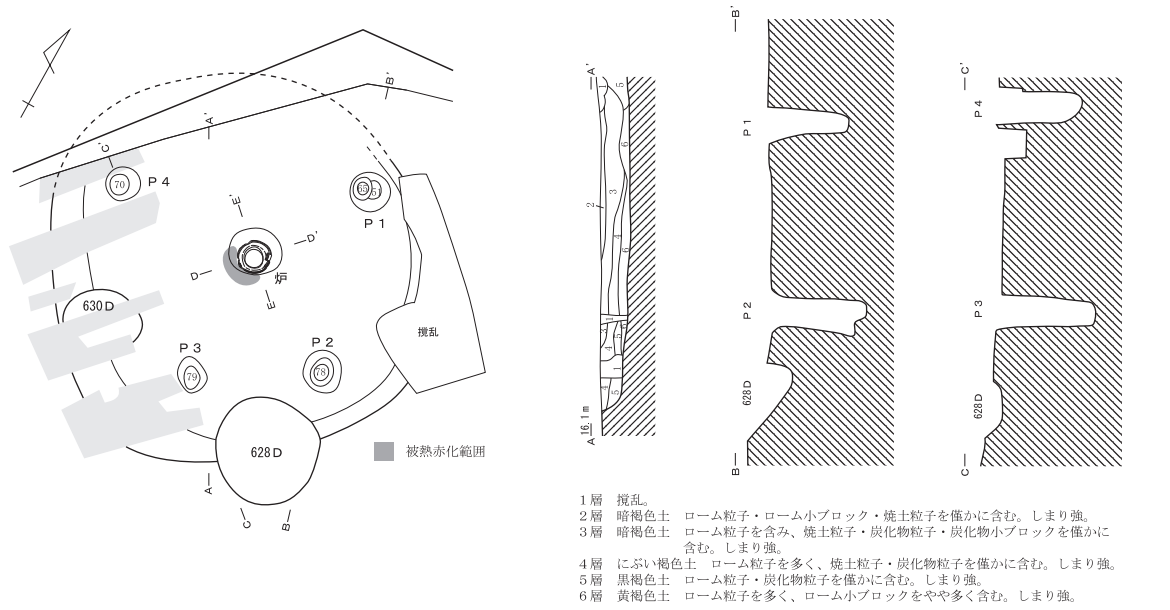
復元個体4点、破片資料7点を図示した。1は炉体土器で、円環状把手が付く勝坂3 a式のキャリパー形深鉢形土器である。2は勝坂3 a式の小形の鉢形土器で、眼鏡状突起を持ち、体部には大小の楕円形区画を3単位配する。3は勝坂2 b式の小形の深鉢形土器である。4は勝坂3 a式の浅鉢形土器で、断面四角形の太い隆帯による楕円区画文が配される。5・6は阿玉台式、7は勝坂式、8は勝坂3 b新式、9は勝坂3式~加曾利E 1式、10は加曾利E 3 c式の深鉢形土器である。11は中期中葉期の浅鉢形土器で、器面に僅かながら赤色顔料の付着が確認できる。

[土 製 品] (第30図12、第20表、図版25)

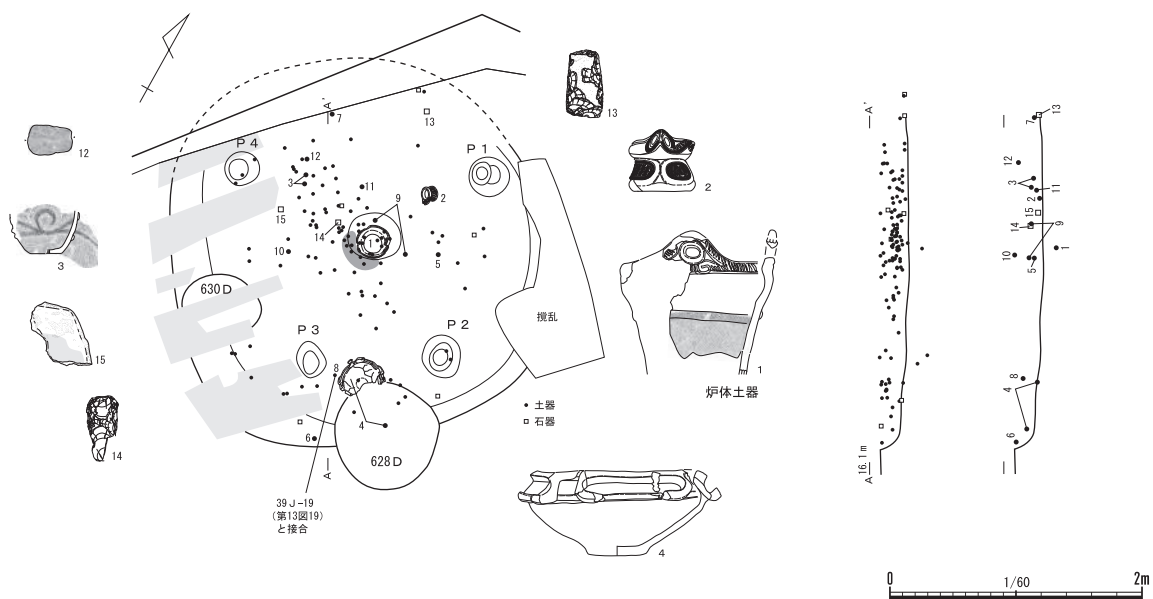
1点を図示した。12は土器片錘である。中期の土器片を転用している。

[石 器] (第30図13~15、第21表、図版25)

3点を図示した。13・14はホルンフェルス製の短冊形を呈する打製石斧である。15は閃緑岩製の石皿で、やや厚手である。

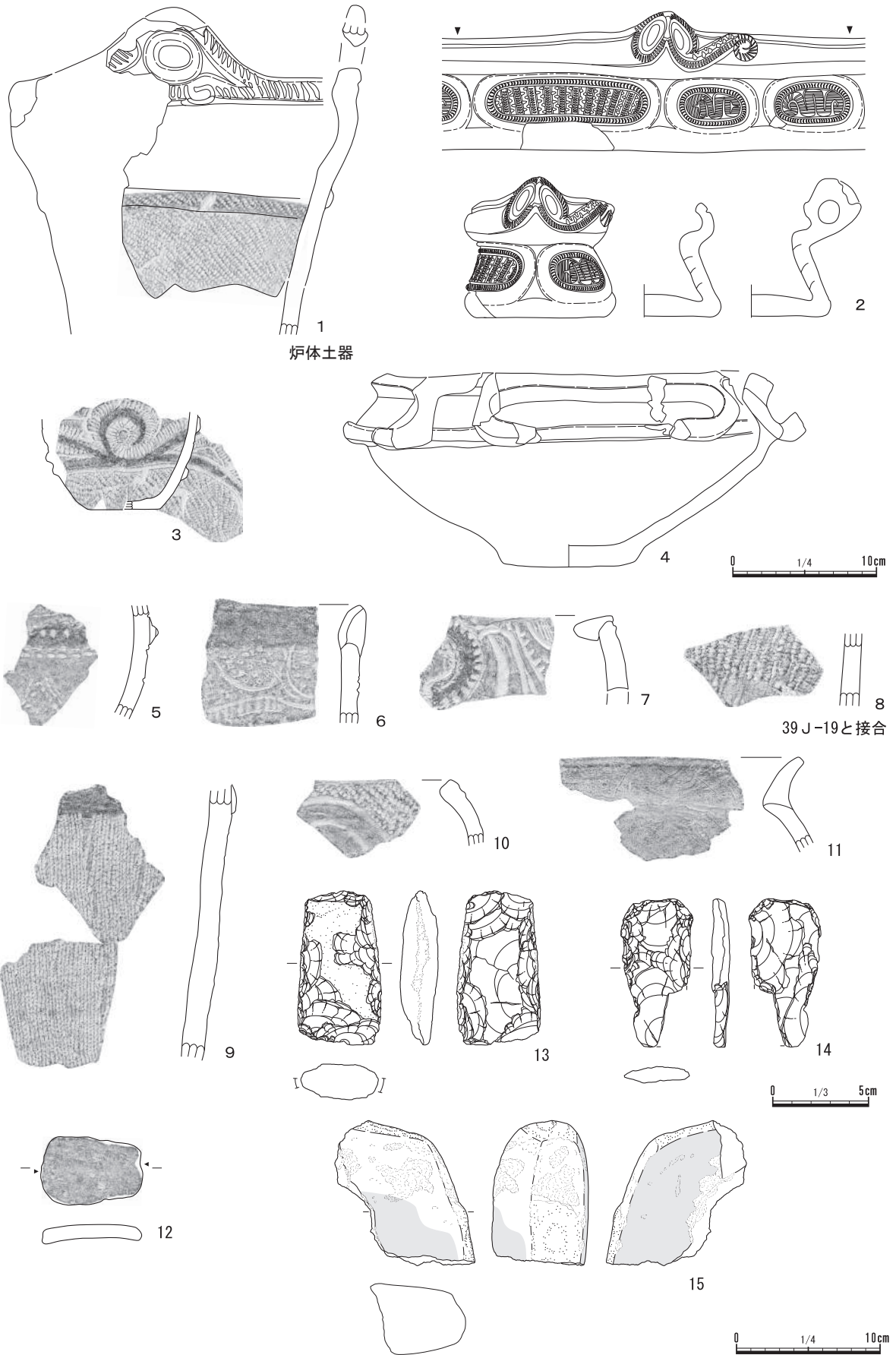


第28図 164号住居跡・炉 (1/60・1/30)



第29図 164号住居跡遺物出土状態 (1/60)





第30図 164号住居跡出土遺物(1/4・1/3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎土	時 期 式	出土位置
第30図1 図版25-1-1	深鉢	口縁部～ 胴部中位 80%	高 [20.7] 口 24.0 厚 1.3	キャリバー形／や や直線的に開きな がら立ち上がる胴 部／内湾して広がる 口縁部	円環状の孔を伴う板状の山形把手1単位／ 口縁部は無文／口縁部上端と頸部に隆帯が 巡る／口縁部上端の隆帯上には押圧文が、 頸部の隆帯上には縄文が付される／胴部 には単節RL横位施文	にぶい褐／砂 粒・礫少量	勝坂3a式	炉体
第30図2 図版25-1-2	鉢	口縁部～ 底部 95%	高 9.6 口底 8.6 厚 9.0 1.0	僅かに上底状を呈 する底部／内傾し て直線的に立ち上 がる体部／頸部で 括れ、口縁部は強 く内湾して広がる	口縁部上端に沈線が巡る／無文の口縁部 には縁辺に沈線と押圧文が施された眼鏡状把 手が一単位付く／把手から右側へ延びる隆 帯は、沈線によって分割されて交互刺突文 や押圧文が付され、端部で渦巻状の小突起 を形成／体部には断面カマボコ状の隆帯に よって楕円区画文(大:1単位、小:2単位) が配される／隆帯脇区画文内側には、半截 竹管状工具の腹面押し引きによる押圧文の 付された半隆線が沿う／区画文(大)内 には縦位沈線が充填され、沈線間は交互刺突 と押圧文が交互に施される／区画文(小) 内には、沈線と三叉文によってW字状が1 単位、M字状が1単位配される	にぶい赤褐／砂 粒・礫微量、雲 母極微量	勝坂3a式	住居中央 北西寄り 床面直上
第30図3 図版25-1-3	深鉢	胴部下位 ～底部 50%	高底 [6.8] (5.0) 厚 0.7	底部からやや膨ら みながら立ち上がる	断面カマボコ状の隆帯によって上半と下半 を画す／上半は渦巻状の区画文を配す／隆 帯脇には細く深い沈線もしくは角押文が沿 う／区画文内には沈線による三叉文が充填 される下半は単節RL横位背施文	にぶい橙／砂 粒・礫少量	勝坂2b式	住居中央 北西寄り 床上9cm
第30図4 図版25-1-4	浅鉢	口縁部～ 底部 60%	高 13.5 口底 27.0 厚 9.5 0.8	底部直上は急斜に 立ち上がる／僅か に内湾して大きく 開く体部／内湾す る口縁部	口縁部上端と下端に断面四角形の隆帯が巡 る／口縁部上端の隆帯直下から下端の隆帯 上にかけてC字状・逆C字状の隆帯が貼付 され、楕円区画文を形成／全面が赤彩され るか／遺存状態が悪く脆弱なためパラロイ ドB72・キシレン溶液を浸させた	赤褐／砂粒・礫 少量	勝坂3a式 期	南西壁際 床面直上
第30図5 図版25-1-5	深鉢	口縁部下 位～胴部 上位 破片	厚 0.8	やや内湾する	押圧文が付された断面三角形の隆帯による 区画／隆帯脇には先丸ペン先状工具の押し 引きによる複数の結節沈線が沿う	明褐／砂粒・礫・ 雲母少量	阿玉台Ⅱ式	炉東側 床上5cm
第30図6 図版25-1-6	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	円筒形か／波状口 縁／口縁部上端で 肥厚	細い沈線による半楕円区画／区画文内に竹 管状工具の端部による円形刺突文が充填／ 破片下端には幅広の結節沈線	暗褐／砂粒・礫 微量、雲母少量	阿玉台Ⅲ式	南西壁際 床上13.5 cm
第30図7 図版25-1-7	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	僅かに膨らんで内 傾する口縁部／口 唇部は内折	側縁に押圧文が付された断面台形の隆帯に よる区画文／沈線による区画や刺突文／内 折する口唇部は無文	暗赤褐／砂粒・ 礫少量	勝坂3b式	北西壁際 床上3.5cm
第30図8	深鉢	胴部下位 破片			39J出土土器(第13図19)と接合			
第30図9 図版25-1-9	深鉢	胴部上位 破片	厚 1.2	外傾して広がる胴 部	破片上端に隆帯／胴部には撚糸L縦位施文 ／施文順序は隆帯→地文	褐／砂粒・礫少 量	勝坂3式～ 加曾利E1 式	炉上 床上9cm
第30図10 図版25-1-10	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾して内傾	地文に単節RL横位施文／太く浅い沈線に よる逆U字状文／沈線間磨消し	暗褐／砂粒・礫 多量	加曾利E3c 式	住居中央 西寄り 床上23cm
第30図11 図版25-1-11	浅鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾して窄まる口 縁部／外折する口 縁部	全面無文／口縁部内面に赤色顔料付着	にぶい黄褐／砂 粒中量、礫・雲 母少量	中期中葉	住居中央 北寄り 床上3.5cm

第19表 164号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	種別	遺存度	長さ／幅／厚み (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 式	出土位置
第30図12 図版25-1-12	土器片錘	90%	5.3 / 3.4 / 0.7	20.5	方形か／扶部2ヶ所／周縁全面摩耗か／胴部片利用／無文	にぶい／幅／砂粒・礫・雲母少量	阿玉台Ⅱ式か	北部 床上17cm

第20表 164号住居跡出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第30図13 図版25-13	打製石斧	礫ノフェルス	80.5	43.8	19.8	90.8	短冊形／表面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁はほぼ全面に稜上の潰れが認められ、上部から中央部にかけて面状になっている／左側縁は上半部と下部の一部の稜上に潰れが認められ、上半部の一部が面状になっている	北東隅 覆土下層
第30図14 図版25-14	打製石斧	礫ノフェルス	77.5	37.7	9.6	27.6	短冊形／右側面下半・刃部右半が折れて欠損している／両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁中央部の稜上に潰れが僅かに認められる／左側縁も中央部の一部の稜上に潰れが僅かに認められる	炉西側 覆土上層
第30図15 図版25-15	石皿	閃緑岩	101.1	97.6	67.2	673.9	表面の中央付近と裏面のほぼ全面に磨痕／破面の稜上に敲打がみられる	炉西側 覆土下層

第21表 164号住居跡出土石器一覧

### 165・167～169号住居跡

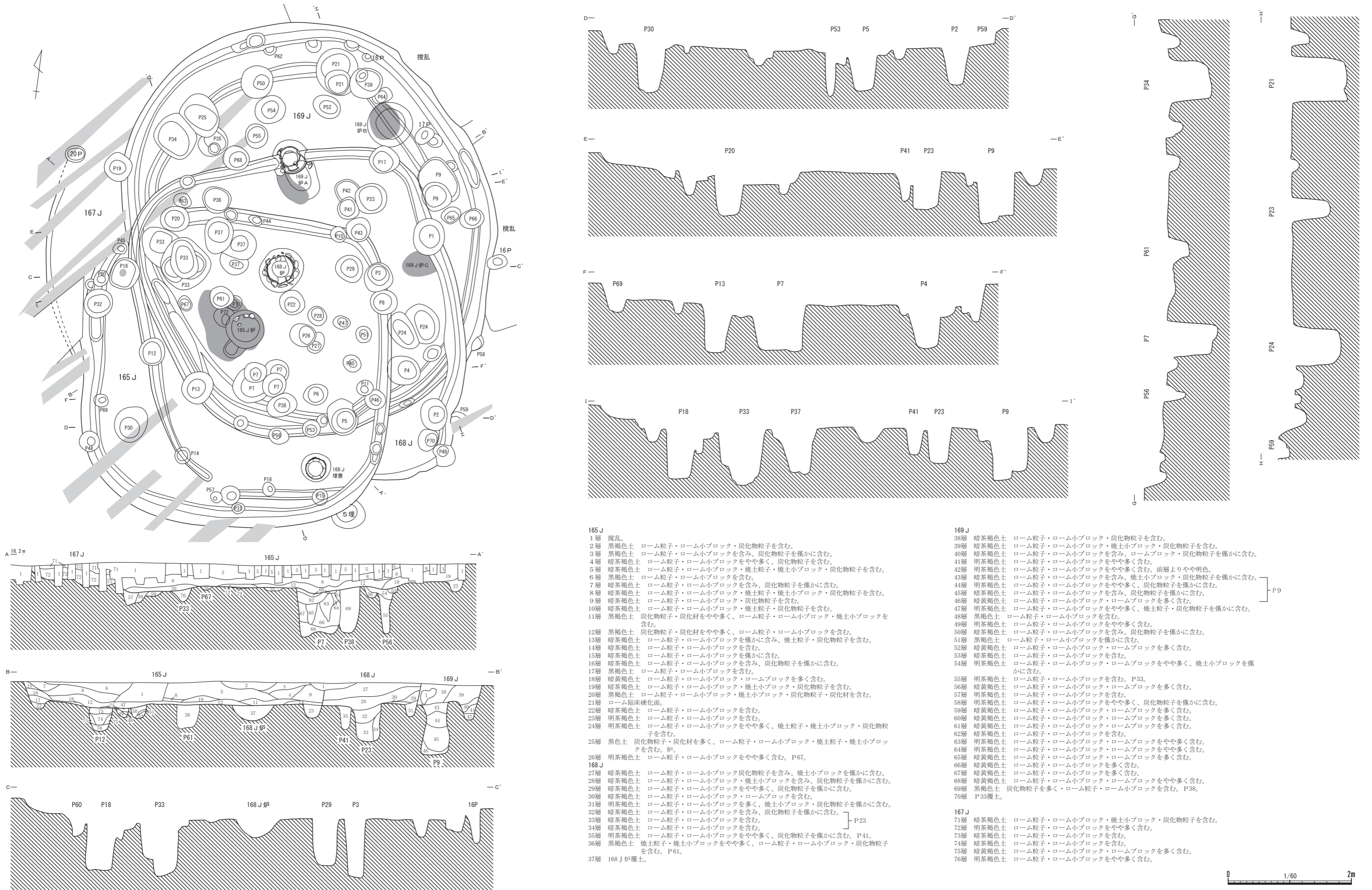
これらの住居跡は、表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した住居跡である。精査開始当初から複数軒の重複を想定していたが、明確な平面形とその切合関係が把握できなかったことから、一旦、遺構範囲全体を「165 J」として精査を進め、個別の住居跡として判断できた段階で、それぞれ遺構名を付すこととした。遺構の掘り下げにあたっては、畝状耕作痕の走方向を考慮し、北西—南東方向（第31図A—A'）と南西—北東方向（第31図B—B'）の2本のセクションを設定した上で、土層断面を観察しながら行った。

しかし、167 Jを除き、重複する住居跡の床面レベルがほぼ同一であることに加え、覆土も均質な堆積状況を示していたことから、個別の住居跡を識別することは困難であった。結果的には、壁溝・炉・柱穴の検出が進み、それぞれの配置や規模、炉体土器の型式、切合関係を把握した上で、それぞれの住居跡と付帯施設を峻別することとなった。覆土の分層、特に各住居跡の境界の識別にあたっては、上記の認識を基にやや恣意的に行ったものである。

以上の経緯から、165・167～169号住居跡の範囲内から出土した遺物のうち、一括して取り上げた遺物については「165 J」として取扱い、遺物の注記も「165 J」として記している。位置の記録作業を行った遺物については、認識した切合い関係に基づき、整理作業段階で各住居跡に帰属させ、注記もそれぞれ個別の住居ごとに記した。

また、柱穴についても、精査開始段階では帰属する住居跡を判断することが困難であったことから、通番を付して精査した。整理作業段階で柱穴の規模や配置等からそれぞれの住居跡に帰属させたが、ここでは便宜的に発掘作業段階の柱穴番号を変更せずに掲載することとした。

第1節 縄文時代の遺構・遺物



第31図 165・167～169号住居跡 (1/60)



## 165号住居跡

**遺 構** (第31～34図)

[位 置] (C・D-3・4) グリッド/②・③地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。西側を畝状耕作痕に壊されるが遺存状態は良好である。168・169 Jと同時に掘下げたため、主に壁溝によって平面形を把握した。167・168・169 Jを切り、5埋に切られる。

[構 造] 平面形：隅丸方形。主軸方位：N-S。P 5とP 30の中間と炉の中心を通るラインを主軸として捉えた。規模：長軸5.1m/短軸5.0m/確認面からの深さ41cm。壁溝：1条検出した。上幅23～33cm/下幅9～23cm/床面からの深さ13～22cm。壁：約70°でやや急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦である。直床である。炉：添石炉。北側に拳大の礫が3点添えられていた。炉の覆土下層から深鉢形土器の口縁部片(第35図1)が出土した。掘込規模は長軸58cm/短軸51cm/床面からの深さ30cm。底面は被熱により硬化していた。また、炉の西側が被熱により著しく赤化していた。埋嚢：検出されなかった。柱穴：規模と配置からP 29、P 5、P 30、P 18を主柱穴として捉えた。P 37も主柱穴の可能性がある。4～5本柱建物を想定する。建替・拡張は不明。

[覆 土] 上～中層は、ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物粒子を含む暗茶褐色土を基調とする(5・8層)。床面付近は、ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・炭化材を中量～やや多量に含む黒褐色土を基調とする(12・20層)。

[遺 物] 土器は3,390点48,552g、土製品は16点484g、石器は99点(石鏃1点・石匙1点・打製石斧31点・磨製石斧4点・磨石9点・敲石1点・凹石1点・石皿3点・剥片48点)出土した。床面～覆土上層まで住居全体で万遍なく出土した。炉内出土の深鉢形土器の口縁部片(第35図1)のほか、P 30底面付近から出土した土器片錘(第37図47)や、P 5覆土中層から出土した磨製石斧(第38図64)などが、特徴的な出土状況を示している。また、床面直上から炭化材が出土しており、自然科学分析の結果、クリであることが判明している(付編「自然科学分析」193ページを参照)。

[時 期] 炉内出土土器から中期後葉期(加曾利E 1 b式期)。

**遺 物** (第35～38図、第22～24表、図版25-2～27-1)

**土 器** (第35・36図、第22～24表、図版25-2・26)

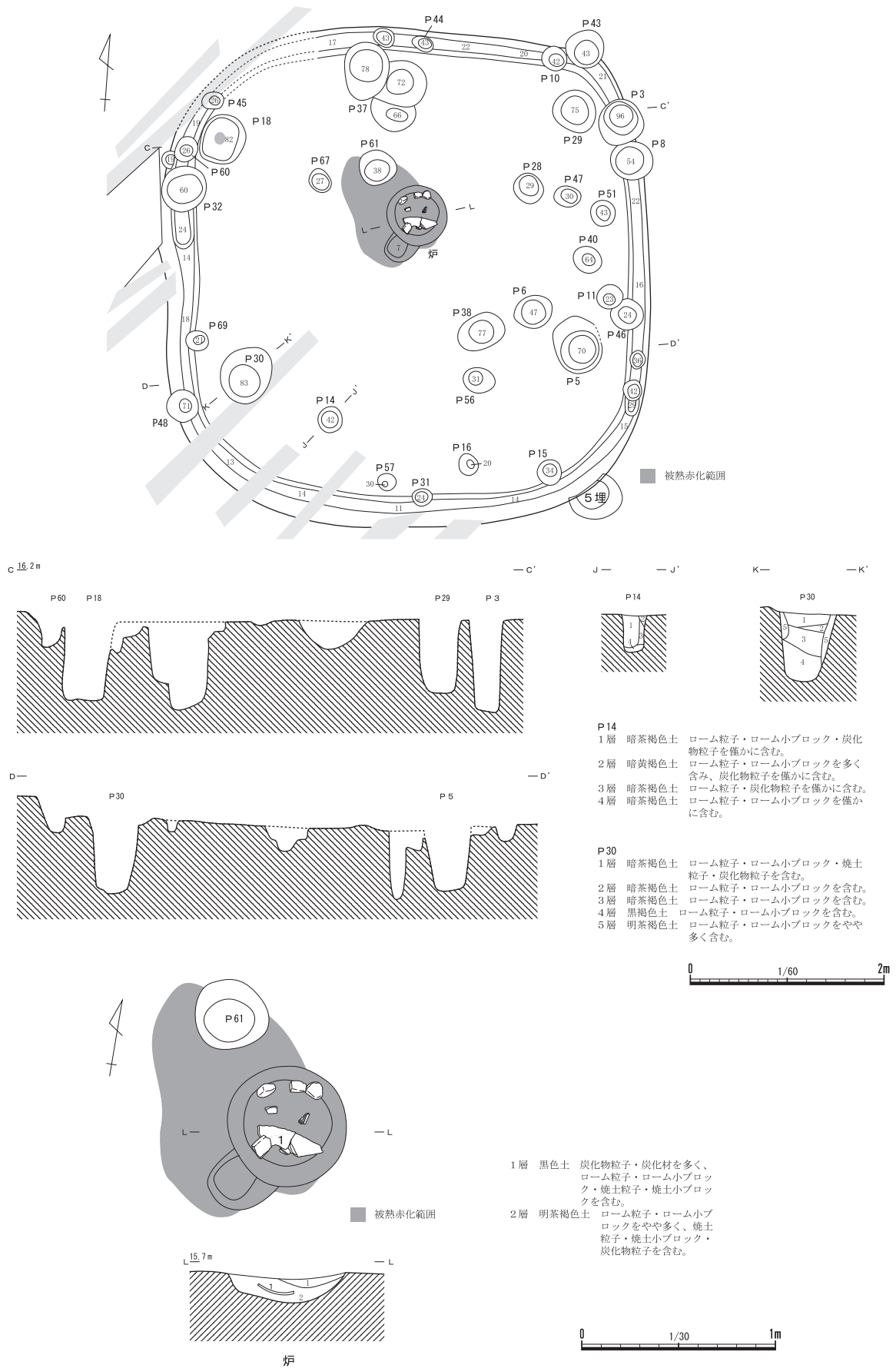
復元個体3点、破片資料30点を図示した。1は炉内出土土器で、頸部無文帯を持つ加曾利E 1 b式の深鉢形土器である。2は勝坂3 b式と思われる深鉢形土器で、先丸ペン先状工具の押し引きによる結節沈線列を多用する。3は加曾利E 1 b式の深鉢形土器で、口縁部は撚糸L縦位施文に逆C字状把手を持ち、頸部は無文帯となる。4～9は阿玉台式、10～16は勝坂式、17～25は加曾利E式、26～28は曾利式、29・30は連弧文の深鉢形土器である。31・32は勝坂式の浅鉢形土器である。33は勝坂式の有孔罅付土器である。

**土 製 品** (第37図34～49、第23表、図版26)

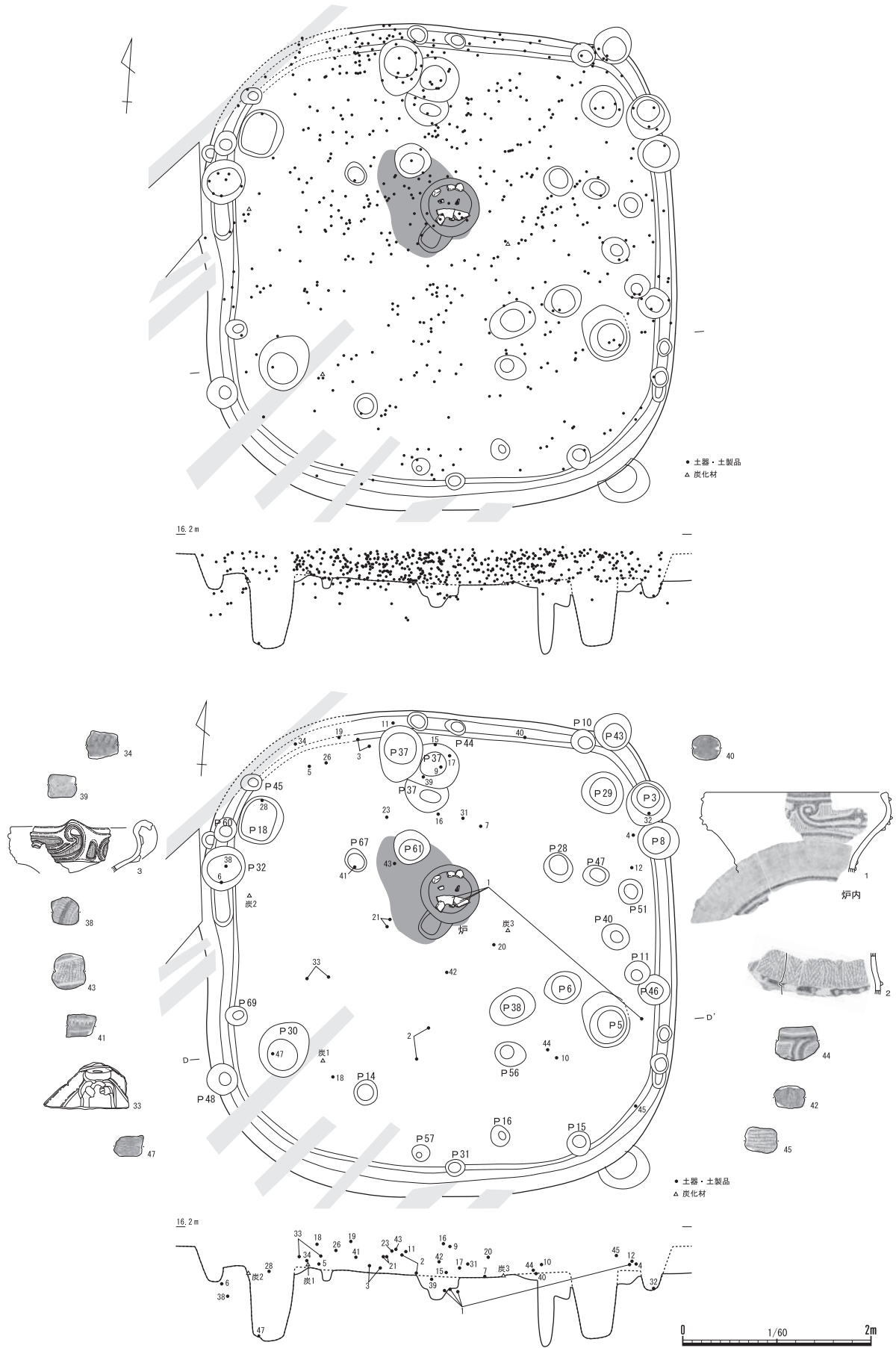
16点を図示した。34～49は土器片錘である。全て中期の土器片を転用している。

**石 器** (第37図50～57・38図、第24表、図版26・27-1)

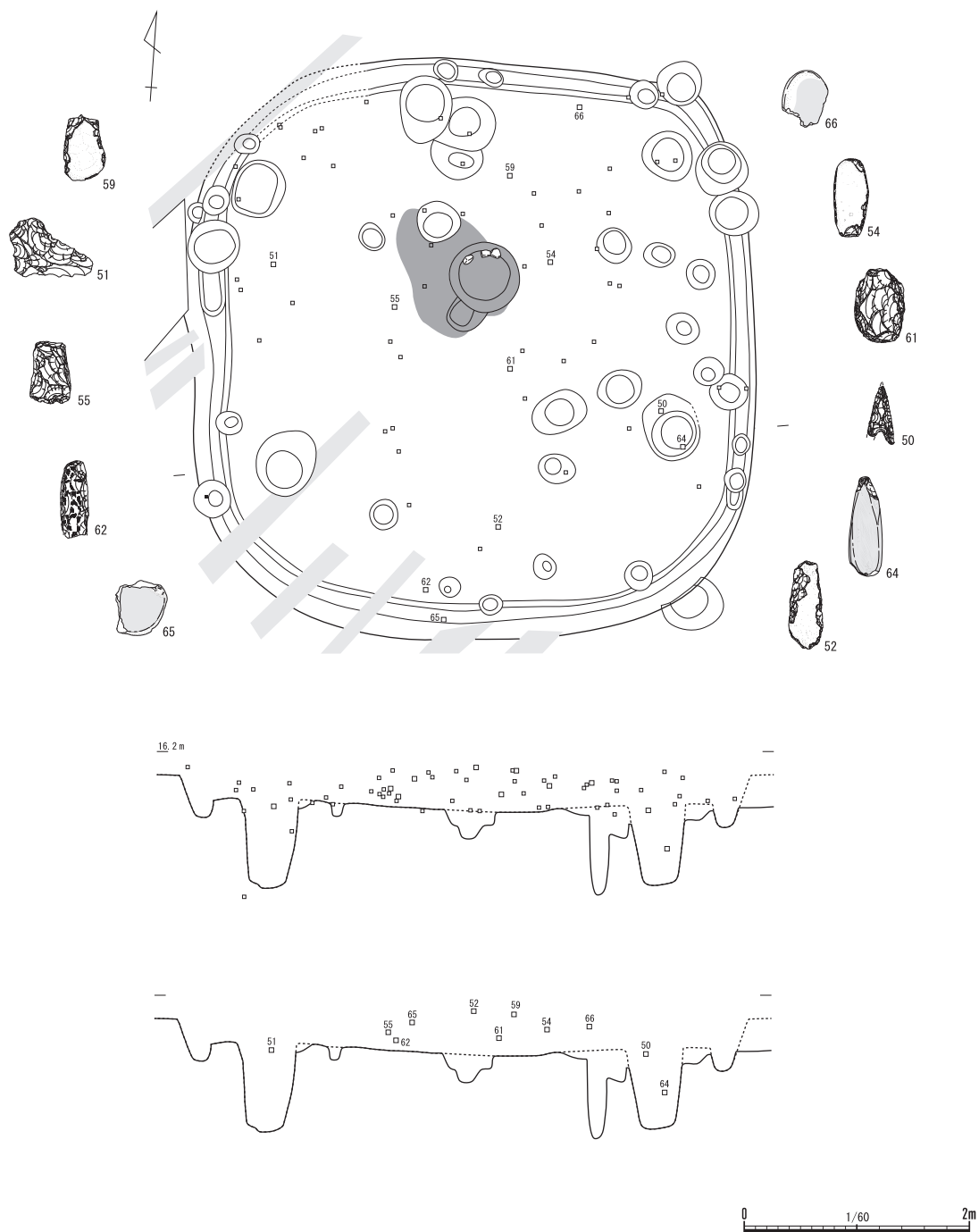
19点を図示した。50は石鏃、51は石匙、52～62は打製石斧、63・64は磨製石斧、65・66は磨石、67は敲石、68は凹石である。



第32図 165号住居跡・炉 (1/60・1/30)

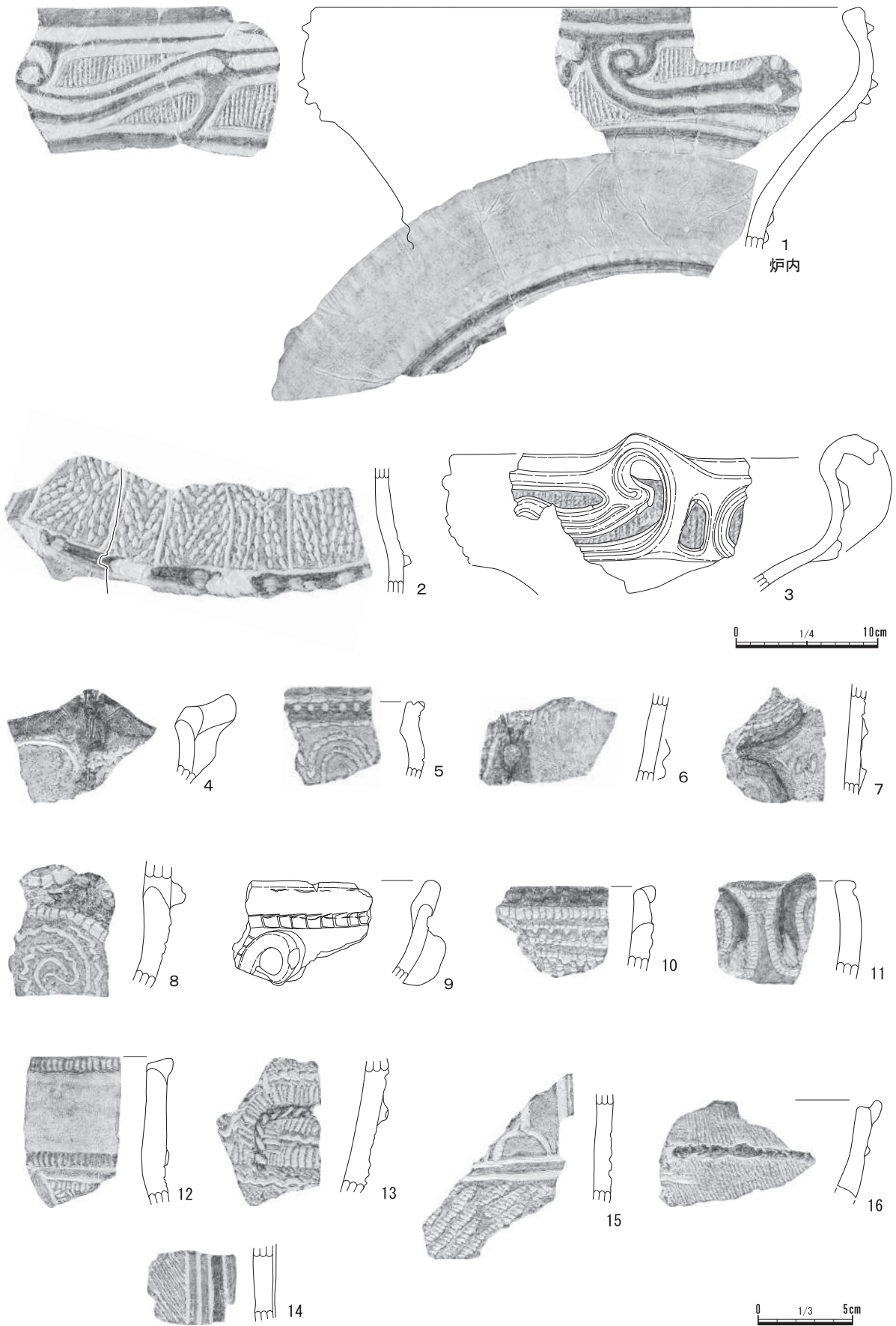


第33図 165号住居跡遺物出土状態1 (1/60)



第34図 165号住居跡遺物出土状態2 (1/60)

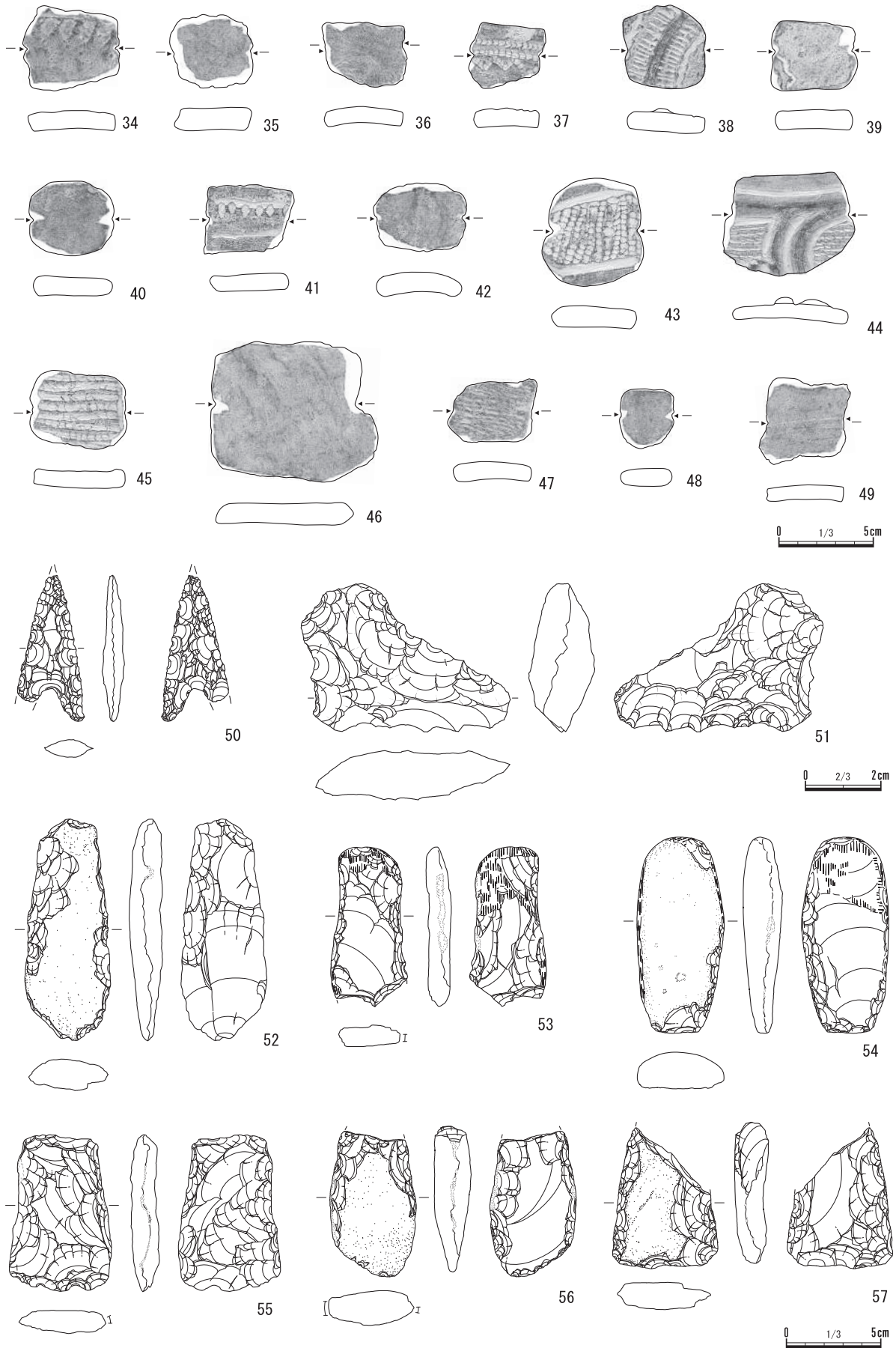




第35図 165号住居跡出土遺物1 (1 / 4・1 / 3)



第36図 165号住居跡出土遺物2 (1 / 3)



第37図 165号住居跡出土遺物3 (1/3・2/3)





第38図 165号住居跡出土遺物4 (1/3)



挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第 35 図 1 図版 25-2-1	深鉢	口縁部～ 胴部上位 30%	高 [17.2] 口 (39.2) 厚 1.1	キャリパー形／頸部で外反／口縁部で内湾／口唇部で肥厚	口縁部上端と下端は 1 本、頸部下端は 2 本の隆帯が巡り、文様帯を画する／地文は撚糸 L で口縁部は横位、胴部は縦位施文／口縁部には 2 本 1 対の隆帯による端部が渦巻状文化した S 字状文が配される／頸部は無文／顕著な被熱痕跡は確認できない	橙／砂粒中量、礫少量	加曾利 E1b 式	炉内
第 35 図 2 図版 25-2-2	深鉢	胴部下位 40%	高 [8.6] 厚 1.0	屈折底をもつキャリパー形か／外反して窄まる胴部下位	胴部下端には部分的に押捺が施された隆帯が巡る／胴部に深い沈線が 6 本垂下して方形区画を配するか／沈線間には先丸ペン先状工具の押し引きによる結節沈線が充填される／底部は無文	にぶい褐／砂粒・礫中量	勝坂 3b 式か	中央南側 床上 2・ 19cm
第 35 図 3 図版 25-2-3	深鉢	口縁部 25%	高 [11.2] 口 (27.4) 厚 1.2	広がる頸部／内湾する口縁部	口縁部の地文は撚糸 L 縦位施文／口縁部上端から下端にかけて逆 C 字状の橋状把手が付く／2 本 1 対の隆帯による S 字状文を配すか	褐／砂粒少量、礫中量	加曾利 E 1 b 式	南西 床上 11 cm・21cm
第 35 図 4 図版 25-2-4	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部／内湾上端に稜を持つ	口縁部に小突起／小突起から断面台形の隆帯が垂下して区画文を形成／隆帯脇にはペン先状工具の押し引きによる結節沈線が 1 列沿う	褐／砂粒・礫・雲母中量	阿玉台 I b 式	北西壁際 覆土下層
第 35 図 5 図版 25-2-5	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部／上端で外傾	口唇部及び口縁部上端にペン先状工具の押し引きによる結節沈線／口縁部には 2 本 1 対の結節沈線による弧状文	褐／砂粒・礫・雲母中量	阿玉台 I b 式	北西隅 覆土下層
第 35 図 6 図版 25-2-6	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	外傾する胴部	爪形文列が横位に巡る／押圧が施された隆帯が垂下	にぶい橙／砂粒・礫・雲母微量	阿玉台 II 式	覆土中
第 35 図 7 図版 25-2-7	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	外傾して直線的に立ち上がる胴部	断面三角形の隆帯による懸垂文／隆帯の左側縁にはペン先状工具の押し引きによる複列の結節沈線が沿う	褐／砂粒・礫・雲母中量	阿玉台 II 式	炉跡北東 覆土下層
第 35 図 8 図版 25-2-8	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや内湾する胴部／上部で僅かに外反／頸部付近か	断面カマボコ状の隆帯脇に幅広の結節沈線／幅狭の波状沈線による渦巻文	黒褐／砂粒・礫・雲母多量	阿玉台 III 式	覆土中
第 35 図 9 図版 25-2-9	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部／外傾する口唇部	口縁部上端に幅広の結節沈線／断面カマボコ状の隆帯による円形貼付文	暗褐／砂粒多量、礫微量、雲母多量	阿玉台 III 式	床上 32 cm
第 35 図 10 図版 26-10	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	僅かに内湾する口縁部／口唇部外面で肥厚	幅広・幅狭の角押文と交互刺突文による区画文／区画文内には角押文列が充填か	赤褐／砂粒微量、礫少量	勝坂 1a 式	南東部 覆土中層
第 35 図 11 図版 26-11	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内湾する口縁部／口唇部は平滑	口縁部上端から断面三角形の隆帯が垂下し区画文を形成／隆帯脇には竹管状工具の押し引きによる結節沈線が 1～2 列沿う	にぶい褐／砂粒・礫微量	勝坂 1a 式	北壁際 覆土上層
第 35 図 12 図版 26-12	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	円筒形か／やや外傾する	口縁部上端にと下端に押圧文が付された隆帯が巡る／口縁部は無文／隆帯下には半截竹管状工具による並行沈線と角押文が沿う	にぶい赤褐／砂粒多量、礫・雲母微量	勝坂 2a 式	覆土中
第 35 図 13 図版 26-13	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	僅かに内湾して外傾する胴部	斜位に押圧文が付された細い隆帯による区画文／隆帯脇には幅広爪形文と波状沈線が沿う／部分的に単節 LR 縦位施文	暗赤褐／砂粒少量、礫中量	勝坂 2a 式	覆土中
第 35 図 14 図版 26-14	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに外反する／胴部中位か	断面カマボコ状の隆帯による区画文／隆帯脇には半截竹管状工具の一端を重ねた腹面引きによる並行沈線が 3 本沿う／区画文内には細い集合沈線文が充填	赤褐／砂粒微量、礫少量	勝坂 2a 式	覆土中
第 35 図 15 図版 26-15	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	円筒形か／直線的に立ち上がる	2 本 1 対の沈線により胴部を上半と下半に画する／上半は沈線による区画文と区画文内には三叉文／下半は 0 段多条の RL 縦位施文	にぶい赤褐／砂粒・礫中量	勝坂 3b 新式	中央北側 覆土下層
第 35 図 16 図版 26-16	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	やや外反する口縁部／口唇部外面で肥厚し、受口状を呈する	地文は撚糸 R 縦位施文／細く抑えの甘い隆帯が横位に貼付される／施文順序は地文→隆帯	褐／砂粒・礫少量	勝坂 3b 新式期か	中央北側 覆土上層

第 22 表 165 号住居跡出土土器一覧（1）

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第36図17 図版26-17	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部	口縁部には節が粗く条間の広い擦糸L縦位 施文/口縁部の上端と下端に隆帯が巡る/ 2本1対の隆帯による直状ないしS字状文 /頸部は無文	にぶい赤褐/砂 粒・礫少量	加曾利E1b ~c式	P37上 覆土中層
第36図18 図版26-18	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内湾する口縁部	口縁部には擦糸L横位施文/口縁部の上端 と下端に隆帯が1本巡る/2本1対の隆帯 による直状ないしS字状文/頸部は無文	にぶい褐/砂 粒・礫少量	加曾利E1b ~c式	中央 覆土中層
第36図19 図版26-19	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	強く内湾する口縁 部	地文は擦糸L横位施文/口縁部上端に背の 高い隆帯が巡る/口縁部文様帯内には抑え の甘い2本1対の隆帯によるS字状文	にぶい橙/砂粒 多量、長石少量	加曾利E1b ~c式	北壁際 覆土上層
第36図20 図版26-20	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	強く内湾する口縁 部	太い沈線によって渦巻文・波状文・横位沈 線文が描かれる	にぶい褐/砂粒 中量、礫少量	加曾利E1b ~c式	中央 覆土中層
第36図21 図版26-21	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	僅かに内湾して立 ち上がる/胴部下 半	地文は単節RL縦位施文/沈線で両脇を抑 えられた隆帯が直状に垂下/複弧文系	にぶい褐/砂 粒・礫中量	加曾利E1b ~c式	炉跡西側 覆土中層
第36図22 図版26-22	深鉢	口縁部~ 頸部 破片	厚 1.4	内湾する口縁部	口縁部から頸部の地文は単節RL横位施文 /口縁部と頸部は断面カマボコ状の隆帯で 画す/口縁部には2本1対の隆帯による弧 状文	にぶい褐/砂 粒・礫中量	加曾利E1 c式	覆土中
第36図23 図版26-23	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	やや内湾する口縁 部	地文は単節RL横位施文/太い隆帯による 方形ないし楕円形区画文・円形区画文を配 す	にぶい褐/砂 粒・礫多量、チ ャート礫中量	加曾利E3 式	北西部 覆土上層
第36図24 図版26-24	深鉢	口縁部下 位~頸部 破片	厚 0.8	やや外反する頸部 /わずかに内湾す る口縁部	地文は複節RLRで、口縁部は横位、頸部以 下は縦位施文/太い沈線が2本巡り、口縁 部と頸部を画す/口縁部直下から磨消を伴 う沈線が垂下	にぶい赤褐/砂 粒・礫多量	加曾利E3 式	覆土中
第36図25 図版26-25	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	外傾する胴部	地文は複節LRL縦位施文/2本1対の太く 浅い沈線が垂下/沈線間の磨消は甘い	橙/砂粒中量、 礫少量	加曾利E3 式	覆土中
第36図26 図版26-26	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部/ 口唇部内折	口唇部と口縁部には太く深い単沈線による 斜行文列/頸部に沈線が横位に巡るか/斜 行沈線文系	にぶい赤褐/砂 粒・礫少量	曾利Ⅲ式	北西部 覆土
第36図27 図版26-27	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	僅かに外反	断面カマボコ状の隆帯貼付後、太い単沈線 による斜行文	にぶい赤褐/砂 粒・礫少量	曾利Ⅲ~Ⅳ 式	覆土中
第36図28 図版26-28	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	外傾して内湾する 口縁部/口唇部内 折	口唇部には沈線が巡り、押圧文が付される /口縁部には単沈線による矢羽状文	にぶい赤褐/砂 粒・礫少量、雲 母微量	曾利Ⅲ~Ⅳ 式	P18上 覆土下層
第36図29 図版26-29	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	ややない湾して広 がる口縁部	口縁部上端は無文/口縁部は条線が縦位地 文/細い沈線が二本横走し、沈線間に円形 の刺突文が充填	灰褐/砂粒中 量、礫多量、 砂岩小礫少量	連弧文	覆土中
第36図30 図版26-30	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに内湾	地文は擦糸L縦位施文/3本1対の沈線に よる円形文や弧状文	明褐/砂粒中 量、礫多量、チ ャート礫少量	連弧文	覆土中
第36図31 図版26-31	浅鉢	口縁部~ 体部 破片	厚 1.0	体部で開き、口縁 部で内折	口唇部に刺突文/口縁部上端には幅広角押 文が横走し、それに幅狭角押文が直行/体 部は無文	暗褐/砂粒多 量、礫微量	勝坂1式	炉北側 覆土中層
第36図32 図版26-32	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.0	口縁部内湾/口唇 部外傾	口唇部無文/口縁部上端に交互刺突が付さ れた隆帯が巡る/隆帯脇には単沈線が沿う	にぶい褐/砂粒 少量、礫微量	勝坂3式	P3内
第36図33 図版26-33	有孔 罎付	体部上位 破片	厚 0.7	僅かに外反しなが ら内傾する体部上 位	体部上端に円形貼付文が上向きに付き、そ の下部には眼鏡状突起が付くか/円形貼付 文から低く幅広の隆帯が斜位に垂下	にぶい褐/砂粒 多量、礫微量、 雲母多量	勝坂3式	中央西側 床上14・ 18cm

第22表 165号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号 図版番号	種別	遺存度	長さ／幅／厚み (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時 期 式	出土位置
第37図34 図版26-34	土器片錘	完形	5.1 / 3.0 / 0.9	27.4	方形／抉部2ヶ所／周縁摩耗未発達／胴部片利用／指頭捺痕が横位に巡る	暗褐／砂粒・礫・雲母中量	阿玉台1b式	北西壁際 覆土下層
第37図35 図版26-35	土器片錘	完形	4.4 / 3.2 / 1.1	24.6	方形／抉部は長軸方向に2ヶ所／周縁部は摩耗痕が未発達／無文	にぶい黄褐／砂粒・礫・雲母多量	阿玉台式	覆土中
第37図36 図版26-36	土器片錘	60%	4.4 / [2.5] / 0.8	15.2	方形か／抉部は長軸方向に2ヶ所か／周縁部は一部摩耗／口縁部片利用か／無文	黒褐／砂粒・礫・雲母少量	阿玉台式	覆土中
第37図37 図版26-37	土器片錘	80%	3.9 / 2.9 / 1.0	17.4	方形／抉部2ヶ所／周縁は部分的に摩耗／口縁部破片利用／口縁部上端に竹管状工具の押し引きによる結節沈線が巡り、波状文が沿う	にぶい黄褐／砂粒少量、礫微量	勝坂1a式	覆土中
第37図38 図版26-38	土器片錘	完形	4.4 / 4.0 / 1.2	28.2	方形／抉部2ヶ所／周縁摩耗顕著／胴部片利用／断面カマボコ状隆帯の脇には角押文と波状沈線が沿う	にぶい黄褐／砂粒少量、礫微量	勝坂2式か	P32内
第37図39 図版26-39	土器片錘	完形	4.5 / 3.0 / 1.0	25.4	方形／抉部は長軸方向に2ヶ所／周縁は摩耗／胴部片利用／波状沈線を確認	にぶい黄褐／砂粒・礫微量	勝坂2式か	P37内 覆土上層
第37図40 図版26-40	土器片錘	完形	4.5 / 3.3 / 1.0	24.0	楕円形／抉部は長軸方向に2ヶ所／周縁部は全面摩耗痕顕著／破片右上に半円形刺突文が確認できる	にぶい黄橙／砂粒中量、礫少量	勝坂2式か	北壁際 覆土下層
第37図41 図版26-41	土器片錘	完形	4.6 / 3.3 / 0.9	21.2	方形／抉部2ヶ所／胴部片利用か／半截竹管状工具による区画文、区画文内に刺突文	にぶい橙／砂粒中量、礫少量	勝坂3式か	P67上 覆土上層
第37図42 図版26-42	土器片錘	完形	5.0 / 3.5 / 1.0	24.2	楕円形／抉部は長軸方向に2ヶ所／周縁部の摩耗は未発達／胴部片利用／無文	黒褐／砂粒・礫多量	勝坂式か	炉南側 覆土中層
第37図43 図版26-43	土器片錘	完形	5.7 / 4.5 / 1.1	42.8	円形／抉部2ヶ所／周縁の摩耗顕著／口縁部破片利用／断面台形の隆帯による口縁部楕円区画文か	暗褐／砂粒・礫少量	加曾利E1c式	炉北西側 覆土上層
第37図44 図版26-44	土器片錘	完形	6.9 / 4.4 / 0.8	53.0	方形か／抉部は長軸方向に2ヶ所／周縁は全面摩耗／内湾する口縁部片利用／捺糸L横位施文に2本1対のS字状文	暗褐／砂粒多量・礫少量	加曾利E1b～c式	165J 覆土下層
第37図45 図版26-45	土器片錘	完形	5.0 / 3.8 / 0.9	26.8	方形／抉部は不明瞭だが長軸方向に2ヶ所か／周縁は部分的に摩耗／胴部破片利用／節が大きい捺糸L縦位施文	黒褐／砂粒・礫中量	加曾利E1b～c式	南東隅 覆土上層
第37図46 図版26-46	土器片錘	90%	8.9 / 6.2 / 1.1	106.0	大形／方形／抉部は長軸方向に2ヶ所か／周縁は部分的に摩耗／胴部片利用／無文	にぶい赤褐／砂粒・礫中量	加曾利E式か	覆土中
第37図47 図版26-47	土器片錘	90%	4.5 / 3.1 / 0.9	15.8	方形／抉部は不明瞭だが長軸方向に2ヶ所か／周縁は部分的に摩耗／胴部片摩耗／捺糸R縦位施文か	灰白／砂粒多量、礫微量	中期	P30内 覆土下層
第37図48 図版26-48	土器片錘	完形	3.2 / 2.1 / 0.9	12.0	楕円形か／抉部は短軸方向に2ヶ所／周縁部は全面が摩耗痕が顕著／浅鉢体部片利用か／赤色顔料付着	にぶい黄褐／砂粒・礫・雲母多量	中期	覆土中
第37図49 図版26-49	土器片錘	完形	4.5 / 4.0 / 0.7	20.2	方形／抉部は不明瞭だが長軸方向に2ヶ所か／周縁は部分的に摩耗／胴部片摩耗／無文	赤褐／砂粒・礫少量	中期	覆土中

第23表 165号住居跡出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第37図50 図版26-50	石鏃	チャート	38.7	17.8	5.9	2.8	凹基無茎／側縁は直線状／抉りは深く、頂点は丸みを帯びる／平面形状は縦長状／先端部及び左脚部欠損／基部は僅かに磨滅するか	P5内 覆土上層
第37図51 図版26-51	石匙	チャート	39.3	55.5	17.5	27.4	両面加工／やや厚手／粗い刃部をもつ	北西部 床面直上
第37図52 図版27-1-52	打製石斧	片状砂岩	117.3	45.5	17.6	108.3	短冊形／表面に原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剝離が認められる／右側縁上部の一部の稜上、左側縁上部・下部の一部の稜上に潰れが僅かに認められる	中央南側 覆土上層

第24表 165号住居跡出土石器一覧(1)

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第37図53 図版27-1-53	打製石斧	片状砂岩	84.5	40.7	13.4	56.0	短冊形／刃部は折れて欠損／表面の基部付近・裏面上半は磨滅しており、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁は上部の一部から中央部にかけての稜上に潰れが認められ、部分的に面状になっている／左側縁は中央部から下部にかけての稜上に潰れが認められる	覆土中
第37図54 図版27-1-54	打製石斧	砂岩	103.9	46.3	20.8	131.2	短冊形／裏面上部・右側縁上半・左側縁が磨滅している／表面は原礫面が広く残存し、右側縁上半・左側縁に及ぶ／右側縁の中央部から下部にかけての稜上に潰れが認められ、中央部が滑らかな面状になっている	炉東側 覆土上層
第37図55 図版27-1-55	打製石斧	砂岩	82.9	54.1	15.4	82.3	短冊形／両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められ、中央部が僅かに面状になっている／左側縁の上部・下部の稜上にも潰れが認められ、上部が面状になっている	炉西側 覆土中層
第37図56 図版27-1-56	打製石斧	砂岩	77.0	45.9	19.6	84.7	短冊形／上半は折れて欠損している／表面は刃部を含み原礫面が残存し、稜側縁に敲打剥離が認められる／右側縁はほぼ全面の稜上に潰れが認められる／左側縁もほぼ全面の稜上に潰れが認められ、部分的に面状になっている	覆土中
第37図57 図版27-1-57	打製石斧	礫ノフェル	74.7	19.6	18.0	80.3	短冊形／上半は折れて欠損している／表面は原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁は稜上に局所的に潰れが僅かに認められる／左側縁中央部の稜上に潰れが認められる	覆土中
第38図58 図版27-1-58	打製石斧	礫ノフェル	75.1	45.0	16.9	59.9	撥形／刃部は折れて欠損している／表面に原礫面が残存し、稜側縁に敲打剥離が認められる／両側縁の潰れは不明瞭である	覆土中
第38図59 図版27-1-59	打製石斧	礫ノフェル	87.8	55.6	20.3	101.4	短冊形／表面は刃部を含み原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／両側縁の潰れは不明瞭／基部を欠損するか	炉北側 覆土上層
第38図60 図版27-1-60	打製石斧	礫ノフェル	118.7	53.2	24.7	157.7	分銅形／左側縁の一部がガジリによって欠損している／表面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／稜側縁中央部の稜上に潰れが認められる	覆土中
第38図61 図版27-1-61	打製石斧	礫ノフェル	98.7	66.9	33.8	287.4	短冊形／両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁は中央部の稜上に潰れが認められ、その上部が面状になっている／左側縁は右側縁の面状の潰れとほぼ対称の位置に面状の潰れが認められる	炉南側 覆土中層
第38図62 図版27-1-62	打製石斧	凝灰岩	103.0	37.5	17.9	105.8	短冊形／基部が折れて欠損し、表裏面は磨滅している／裏面・左側面の一部に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁はほぼ全面の稜上に潰れが認められ、中央部と下部が面状になっている／左側縁は中央部と下部の一部の稜上に潰れが認められ、中央部は滑らかな面状になっている	南壁際 覆土下層
第38図63 図版27-1-63	磨製石斧	凝灰岩	57.1	32.6	27.8	53.2	基部に研磨前の剥離を伴う敲打痕と研磨後の細かい敲打痕／後者は細かく、先端のみ／基部のみ残存／被熱か	覆土中
第38図64 図版27-1-64	磨製石斧	砂岩	132.7	44.7	37.1	353.7	乳棒状／上下面に剥離を伴う粗い敲打痕、及びその後段階の細かい敲打痕／刃部は敲打により平坦になっている／欠損か	P5内 覆土中層
第38図65 図版27-1-65	磨石	石英閃緑岩	73.3	68.5	35.0	237.7	表裏面の全面に磨痕／右面の破面の端部に粗い敲打痕	南壁際 覆土上層
第38図66 図版27-1-66	磨石	流紋岩	75.5	61.1	37.9	183.0	表裏面のほぼ全面に磨痕／右面上部に線状の敲打痕	北壁際 覆土上層
第38図67 図版27-1-67	敲石	砂岩	99.5	52.3	32.6	149.2	上面から右面上部にかけて裏面への剥離を伴う粗い敲打痕がみられ、右面の他の範囲は細かい敲打痕／磨石からの転用か	覆土中
第38図68 図版27-1-68	凹石	閃緑岩	94.9	59.2	50.6	405.7	全面に磨痕／敲打による小さな凹みや粗い敲打痕が各面に数カ所ずつみられ、磨痕の後段階／一部被熱赤化	覆土中

第24表 165号住居跡出土石器一覧(2)



167号住居跡

遺 構 (第39図)

[位 置] (C-3) グリッド/②地点

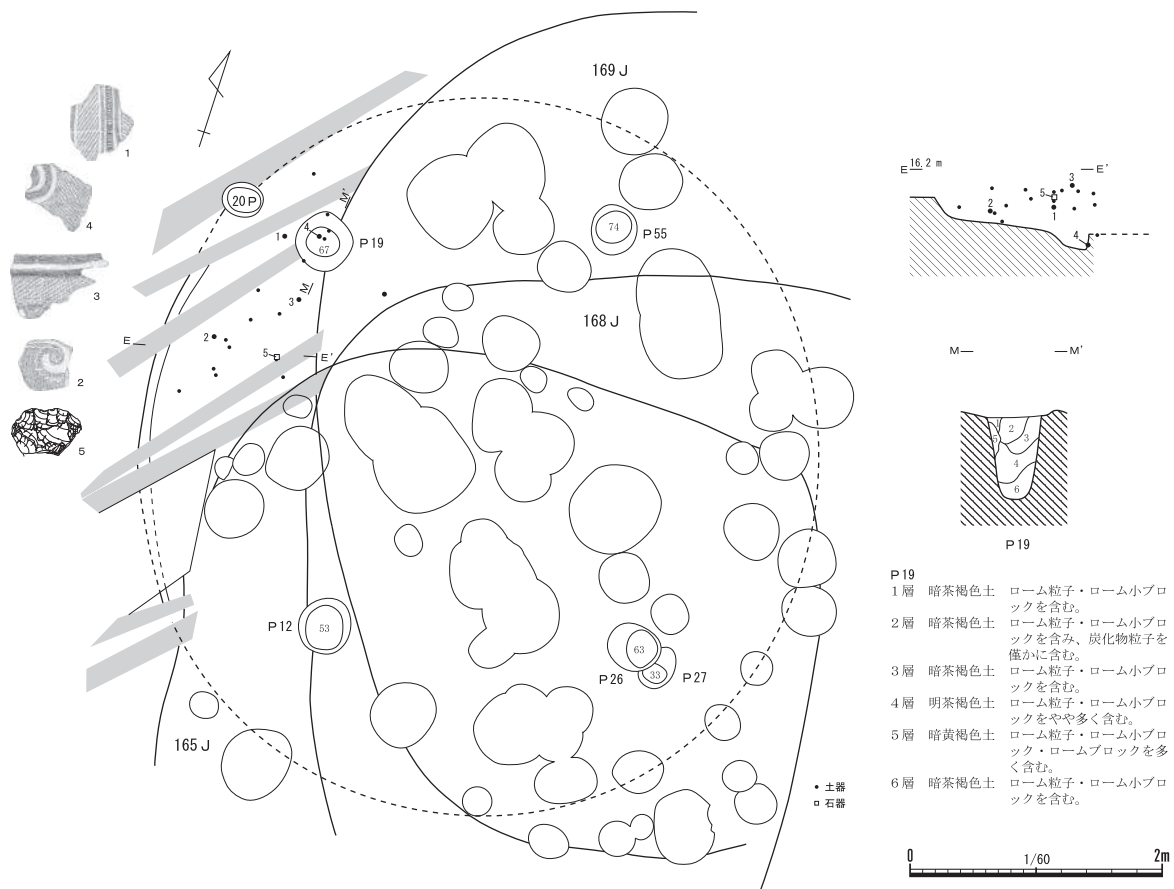
[検出状況] 165・168・169 Jの精査中、平面形と床面の高さの差異から個別の住居跡として認識・検出した。165・168・169 Jに切られる。

[構 造] 平面形：不明。主軸方位：不明。規模：長軸不明/短軸不明/確認面からの深さ約30cm。壁溝：検出されなかった。壁：北西部のみの検出である。約55°で緩やかに立ち上がる。床面：北西部のみの検出である。中央に向かって窪むか。直床である。炉：検出されなかった。埋甕：検出されなかった。柱穴：配置・規模から5本を当該住居跡に帰属させた。P12、P19、P55、P26が支柱穴。

[覆 土] 165・168・169 Jや畝状耕作痕に壊されており、遺存状態は悪い。上層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物粒子を含む暗茶褐色土を基調とし、下層はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調とする。

[遺 物] 土器は36点904g、石器は3点(打製石斧2点・剥片1点)出土した。覆土中～上層から疎らに出土した。

[時 期] 169 Jに切られることや出土遺物から、中期中葉期(勝坂式期)。



第39図 167号住居跡・遺物出土状態(1/60)

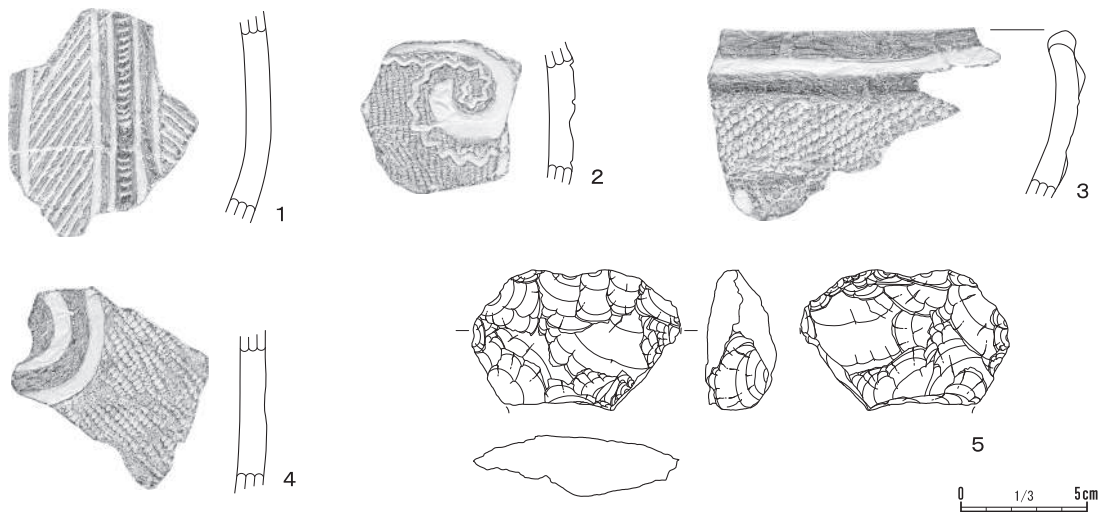
**遺物** (第40図、第25・26表、図版27-2)

[土器] (第40図、第25表、図版27-2)

破片資料4点を図示した。1は勝坂式、2～4は加曽利E式の深鉢形土器である。

[石器] (第40図、第26表、図版27-2)

1点図示した。5は打製石斧である。



第40図 167号住居跡出土遺物 (1 / 3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 式	出土位置
第40図1 図版27-2-1	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.0	胴部下位でやや膨らむ／胴部中位は直線的に立上がる	押圧文の付された隆帯の両脇に半截竹管状工具の腹面引きによる並行沈線が沿い区画文を形成／区画内には単沈線による斜行沈線文が充填	にぶい赤褐／砂粒・礫多量	勝坂2式	P19 西側覆土上層
第40図2 図版27-2-2	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	ほぼ直立	地文は単節RL やや斜位施文／太く浅い沈線とそれに並行する波状沈線による渦巻文	褐／砂粒・礫中量、雲母微量	加曽利E2式	西壁際覆土中層
第40図3 図版27-2-3	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	やや内湾して広がる／口唇部やや肥厚	地文は単節LR 横位施文／口縁部は上端と下端に太く背の低い隆帯が巡り幅狭の区画文を形成／口縁部下端から太く浅い沈線が垂下／沈線間は磨消	黒褐／砂粒・礫多量	加曽利E3式	P19 南側覆土上層
第40図4 図版27-2-4	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	ほぼ直立	地文は単節RL / 2本1対の太く浅い沈線による弧状文／沈線間は磨消	暗赤褐／砂粒多量、礫微量	加曽利E3式	P19 内覆土上層

第25表 167号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第40図5 図版27-2-5	打製石斧	礫ノフィル	55.8	82.7	28.1	127.6	基部の破片／分銅形か	西部覆土上層

第26表 167号住居跡出土石器一覧

## 168号住居跡

**遺 構** (第41～44図)

[位 置] (C・D-3) グリッド/②・③地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。165・167・169 J と同時に精査を進める中で、覆土堆積状況や壁溝・柱穴・炉などから平面形等を捉えた。167・169 J を切り、165 J に切られる。

[構 造] 平面形：隅丸方形。主軸方位：N - 20° - W。埋甕と炉跡の中心を結んだラインを主軸と捉えた。規模：長軸 5.6m / 短軸 5.2m / 確認面からの深さ約 38cm。壁溝：1 条検出した。上幅 11 ~ 36cm / 下幅 6 ~ 12cm / 床面からの深さ 2 ~ 32cm。南西と南東の隅は検出できなかった。北側で 169 J 炉 A を切り、炉体土器を溝状に壊していた。壁：南東で遺存する一部と土層断面で特徴を捉えた。約 80° で急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦か。165・169 J と床面レベルが概ね同一であり、また覆土堆積状況の観察 (A - A'・B - B') でも明確な床面の切り合い等は確認できなかった。炉：石囲埋甕炉。掘込規模は長軸 74cm / 短軸 70cm / 床面からの深さ 25cm。胴部下半を打ち欠いた深鉢形土器 (第 45 図 1) を埋設し、拳大の礫を密接して配置していた。炉体土器や炉石は被熱により赤化していたが、掘込内外に明確な被熱赤化・硬化範囲は検出できなかった。炉体土器は上端が欠損していた。埋甕：1 基検出した。南壁際に深鉢形土器の口縁部 (第 45 図 2) が埋設されていた。口縁部上端を欠損していた。柱穴：配置・規模から 18 本を帰属させた。P 23・41・42、P 4、P 13、P 20・36 を主柱穴と捉え、4 本柱建物を想定する。建替・拡張は想定できない。

[覆 土] 大半を 165 J や畝状耕作痕に壊されており、遺存状態は悪い。上層はローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土小ブロックを僅かに含む暗茶褐色土を基調とし (B - B' 27 層)、下層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土を基調とする。

[遺 物] 土器は 394 点 15,501g、土製品は 2 点 80 g、石器は 38 点 (石鏃 1 点・打製石斧 7 点・磨製石斧 2 点・磨石 2 点・石棒 1 点・剥片 25 点) 出土した。炉体土器 (第 45 図 1)・埋甕 (第 45 図 2) の他は、床面から覆土上層にかけて多く出土した。

[時 期] 炉体土器及び埋甕から中期後葉期 (加曾利 E 1 a 式期)。

[所 見] 炉体土器及び埋甕の上端部欠損は、165 J 構築に伴うものと想定できようか。

**遺 物** (第 45・46 図、第 27 ~ 29 表、図版 28)

[土 器] (第 45 図・第 46 図 12 ~ 18、第 27 表、図版 28)

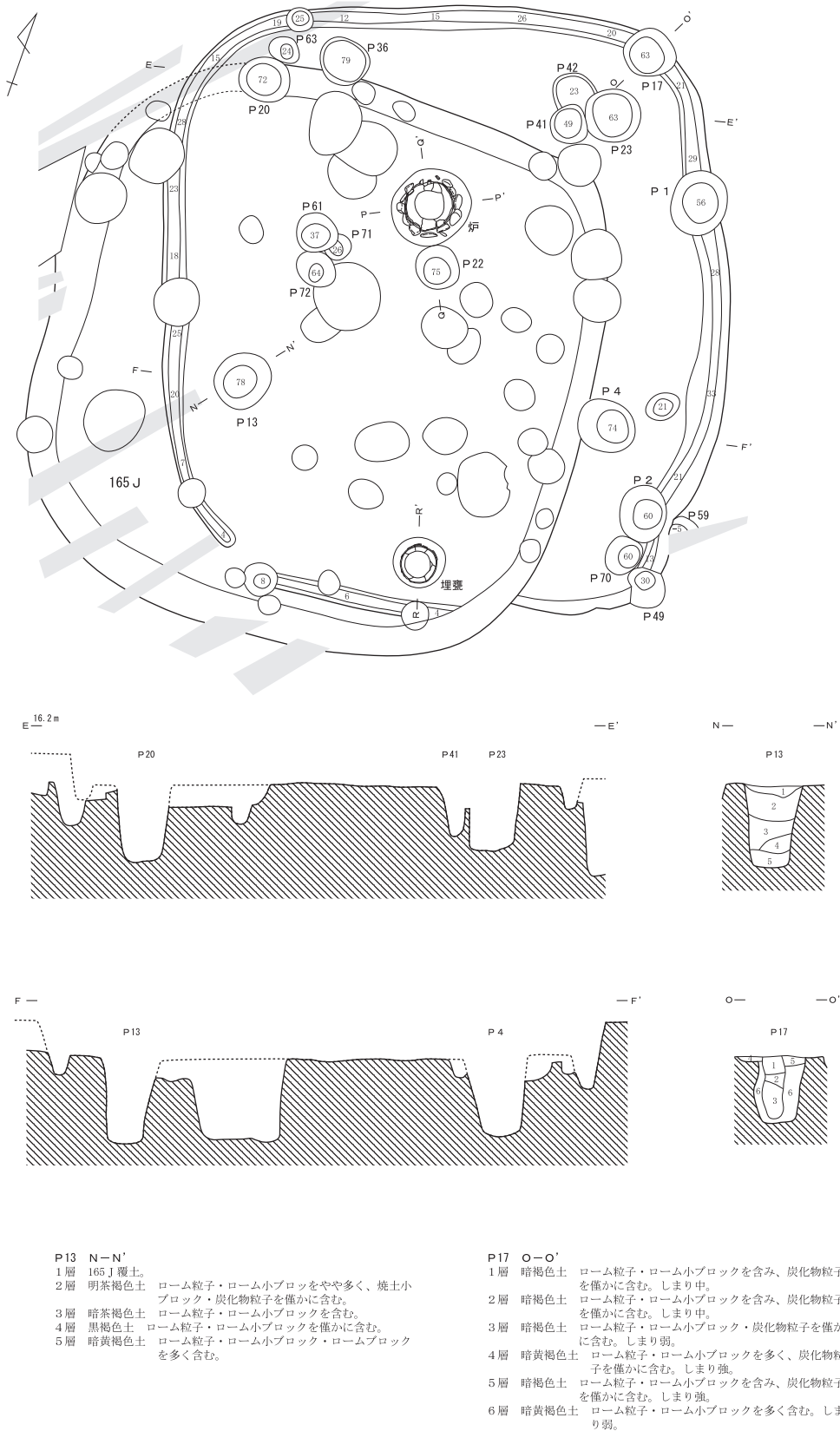
復元個体 4 点、破片資料 14 点を図示した。1 は炉体土器で、口縁部に太めの隆帯による連結された S 字状文を配する加曾利 E 1 a 式の深鉢形土器である。2 は埋甕で、頸部無文帯を持つ加曾利 E 1 a 式の深鉢形土器である。3 は隆帯による懸垂文を配す加曾利 E 1 b ~ c 式の深鉢形土器である。4 は沈線による同心円状文を配す加曾利 E 1 b ~ c 式の深鉢形土器である。5 ~ 7 は阿玉台式、8 ~ 14 は勝坂式、15 ~ 17 は加曾利 E 式の深鉢形土器である。18 は阿玉台 II 式のミニチュア土器である。

[土 製 品] (第 46 図 19・20、第 28 表、図版 28)

2 点を図示した。19・20 は土器片錘である。

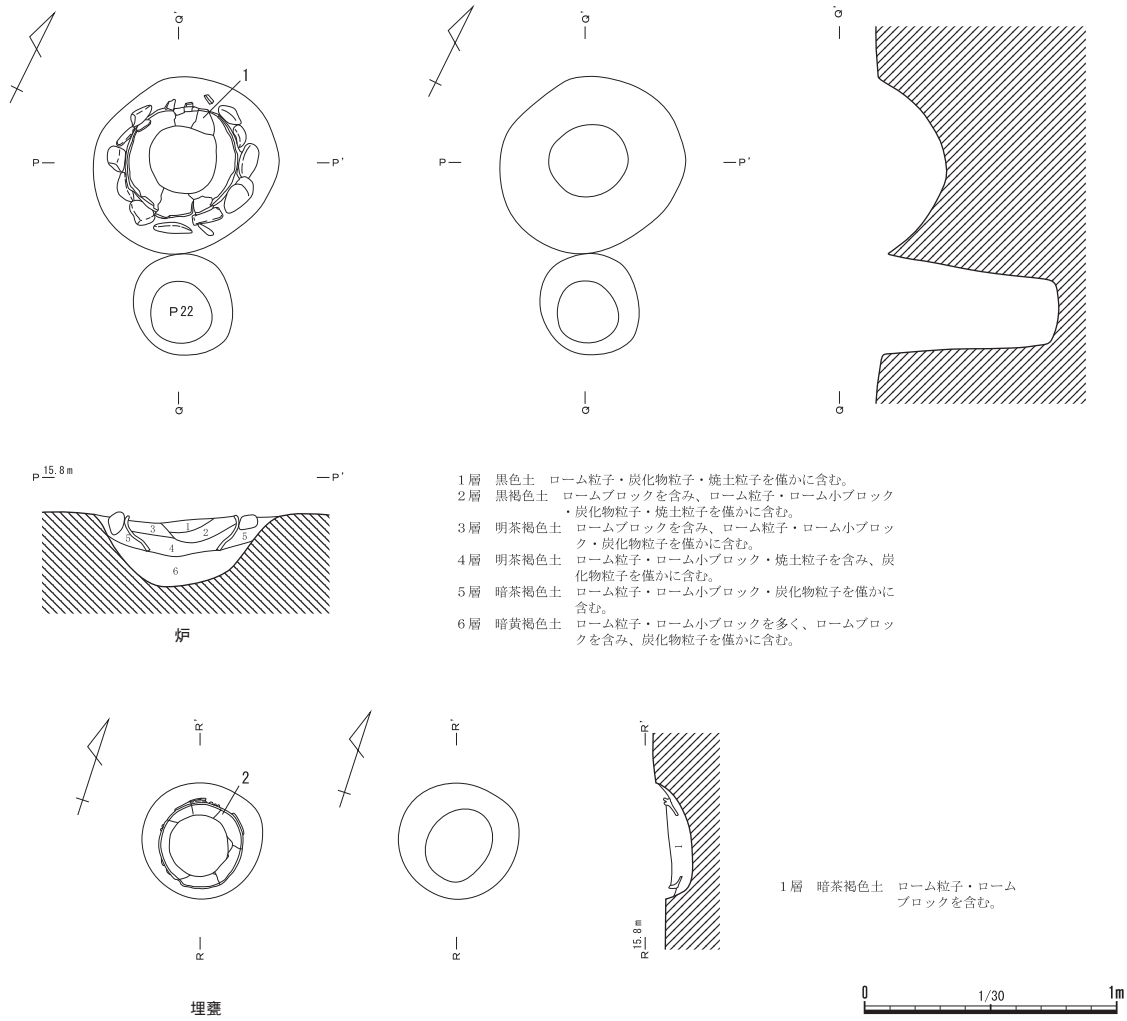
[石 器] (第 46 図 21 ~ 27、第 29 表、図版 28)

7 点を図示した。21 は石鏃、22 ~ 24 は打製石斧、25 は磨製石斧、26 は磨石である。27 は石棒の可能性はある。

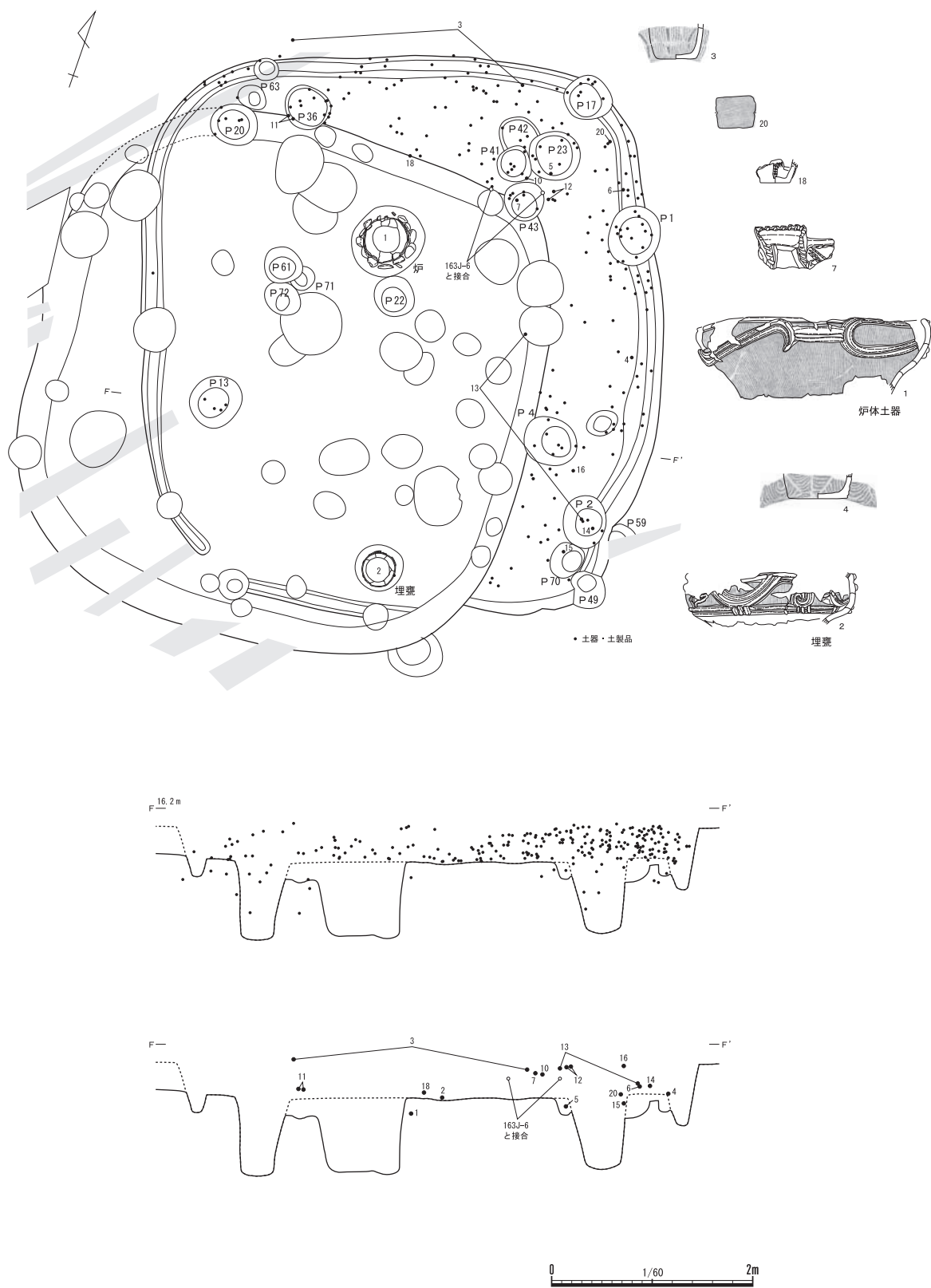


第41図 168号住居跡 (1/60)

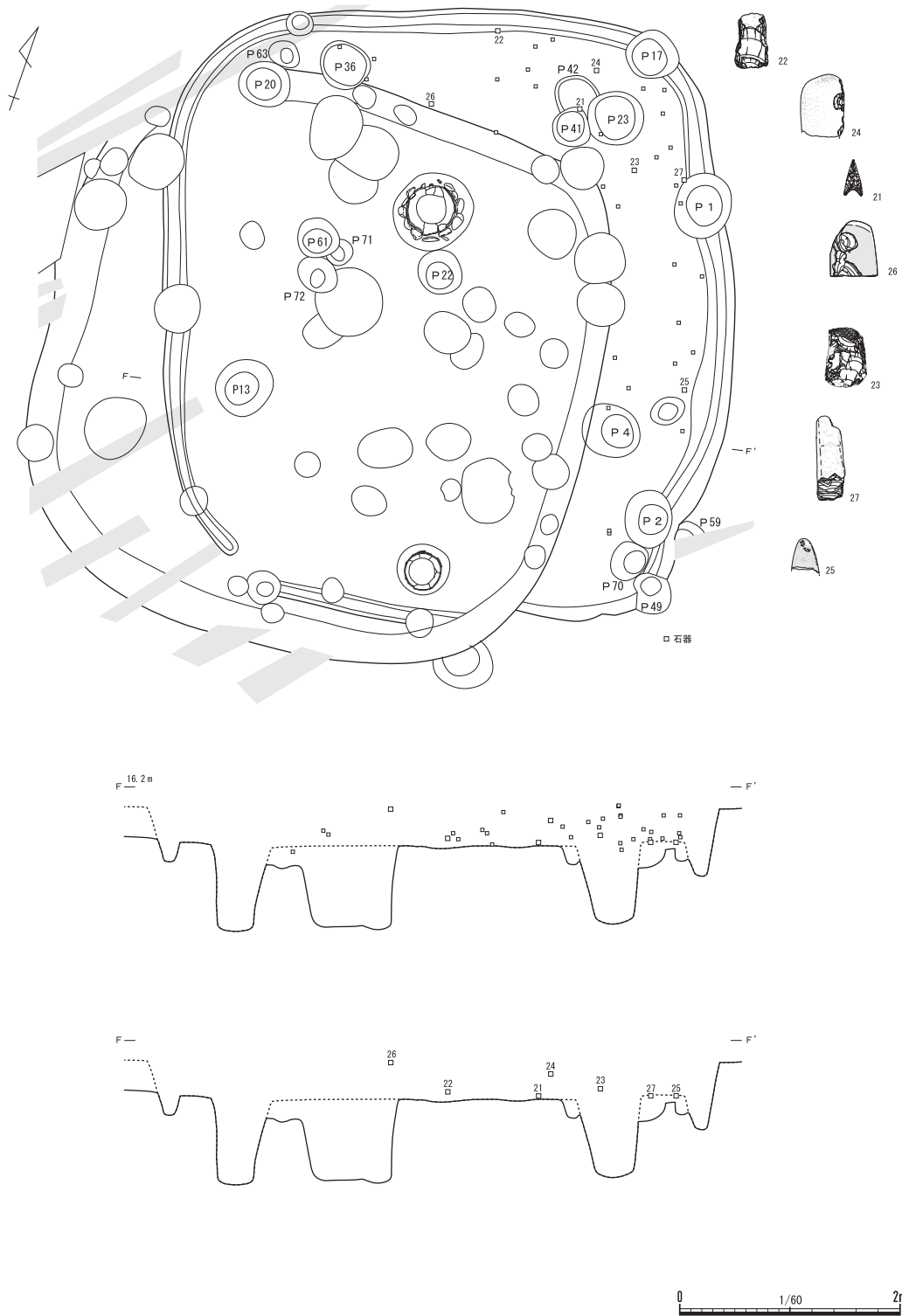




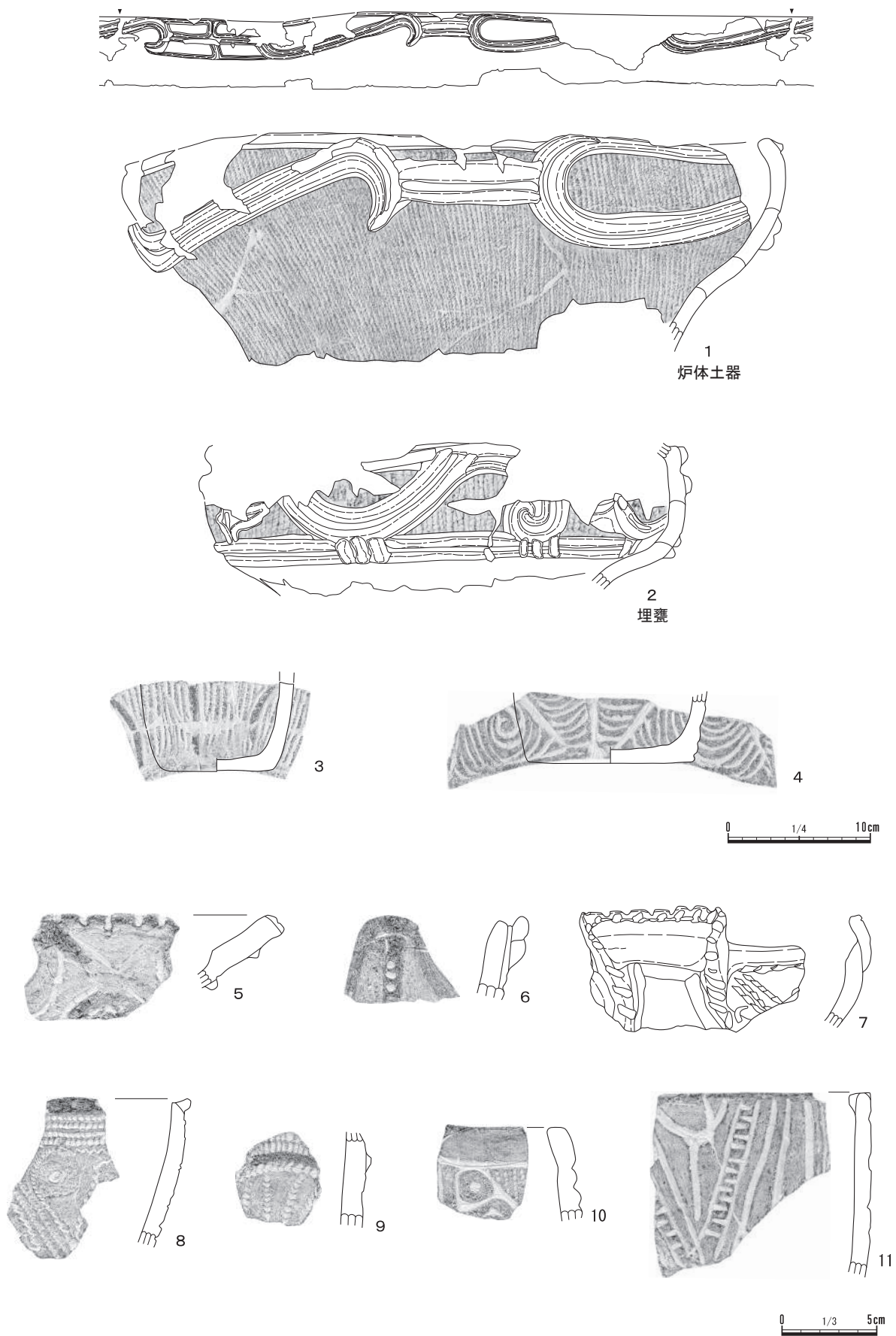
第42図 168号住居跡炉・埋葬 (1/30)



第43図 168号住居跡遺物出土状態1 (1/60)



第44図 168号住居跡遺物出土状態2 (1/60)



第45図 168号住居跡出土遺物1 (1/4・1/3)





第46図 168号住居跡出土遺物2 (1 / 3・2 / 3)

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第45図1 図版28-1	深鉢	口縁部～ 頸部 90%	高 [16.2] 口 (45.5) 厚 1.1	やや外反して広がる頸部/内湾して広がる口縁部	地文燃糸L縦位施文/口縁部上端には隆帯が1本巡る/口縁部と頸部の区画は不明瞭/口縁部には2本1対の隆帯によるS字状文が3単位配され、十字状文や2本1対の横位隆帯により連結/S字状文の端部は肥厚/地文施文→隆帯貼付/口縁部内面上端に被熱痕跡顕著	暗黄褐/砂粒・礫中量	加曾利E1a式	炉体
第45図2 図版28-2	深鉢	口縁部～ 頸部 60%	高 [11.0] 口 (32.0) 厚 1.1	外反して広がる頸部/緩やかに内湾しながら口縁部	地文は燃糸L縦位/口縁部は上端1本、下端は2本の隆帯で画し、2本1対の隆帯によるS字状文4単位、十字状文1単位を配す/S字状文の一部から2～3本1対の短い直状隆帯が口縁部下端の隆帯に垂下/S字状文の端部は中空の把手ないし突起を形成するか/頸部は無文	暗黄褐/砂粒・礫多量	加曾利E1a式	埋篋
第45図3 図版28-3	深鉢	胴部下位～ 底部 90%	高底 [6.3] (7.8) 厚 1.1	平坦な底部/内湾して広がりながら立上がる胴部下位	地文は燃糸R縦位/波状隆帯3単位と直状隆帯4単位が交互に垂下/一部表面に被熱痕跡が著しい	黄褐/砂粒・礫中量	加曾利E1b～c式	北壁際 床上26・33cm
第45図4 図版28-4	深鉢	胴部下位～ 底部 80%	高底 [5.0] (11.6) 厚 1.1	平坦な底部/直線的に広がりながら立上がる胴部下位	器面がやや太い沈線により三角形に区画/区画内には沈線による同心円状の文様が隙間なく配される	暗赤勝/砂粒・礫多量	加曾利E1b～c式 複弧文系	東壁際 床上3cm
第45図5 図版28-5	深鉢	口縁部 把手部 破片	厚 1.3	外傾する把手部/板状の把手部か	上端には沈線状の押圧文/外面に断面三角形の隆帯による区画文/隆帯脇の一部に結節沈線が1列沿う	暗褐/砂粒・礫中量、雲母少量	阿玉台I b式	P23内 覆土上層
第45図6 図版28-6	深鉢	把手部 破片	厚 1.1	板状の把手ないし波状口縁の波頂部	波頂部から押圧文を付した隆帯が垂下/隆帯は波長部で短い隆帯2本に抑えられる	暗褐/砂粒・礫中量、雲母多量	阿玉台I b式	東壁際 福土下層
第45図7 図版28-7	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	板状の把手/口縁部内湾	縁辺に押圧文が付された扇形の把手/口縁部上端に隆帯が横走/隆帯脇には切出状工具の押しきによる結節沈線	暗褐/砂粒・礫・雲母中量	阿玉台I b式	P43上 覆土上層
第45図8 図版28-8	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾して広がる口縁部/やや樽形となるか	口縁部上端には押捺が施された隆帯が巡る/先端加工された角押文や三角押文が複列施され、区画文を形成/区画内には円形貼付文が施されたか(剥落)	にふい褐/砂粒・礫中量	勝坂1式	覆土中
第45図9 図版28-9	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや外傾	断面台形の隆帯脇には幅広角押文や三角押文が沿い、区画文内には三角押文列	にふい褐/砂粒・礫多量	勝坂1式	覆土中
第45図10 図版28-10	深鉢	口縁部 破片	厚 1.3	内傾/口縁部上端で肥厚	口縁部上端は無文/沈線による区画文、円形文/区画文内にはペン先状工具の押しきによる結節沈線文列充填	にふい褐/砂粒多量、礫微量	勝坂3式	P41上 覆土上層
第45図11 図版28-11	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	円筒形か/口唇部内面で断面三角形状に肥厚	複列の太く深い沈線によるV字状区画か/一部沈線間に交互刺突が施される/区画文内には沈線による三叉状文	暗赤褐/砂粒・礫中量、チャート礫少量	勝坂3式	覆土中
第46図12 図版28-12	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	円筒形か/やや外傾	断面台形の幅広の隆帯により胴部上位と下位を画す/胴部上位には隆帯による区画文/胴部下位には燃糸L縦位施文/施文順序は隆帯貼付→地文施文	にふい褐/砂粒・礫多量、6mmチャート角礫を含む	勝坂3式	P43東側 覆土上層
第46図13 図版28-13	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	内湾する口縁部	口縁部に縦位隆帯と渦巻状文によるラジエーター状文	褐/砂粒・礫中量	勝坂3式	東部 覆土上層
第46図14 図版28-14	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	ほぼ直立する/円筒形か	胴部中に押し文を付した断面幅広三角形の隆帯が巡り上位と下位を画す/胴部上位に単沈線2本が沿う隆帯による区画文/胴部下位は燃糸L縦位施文/施文順序は隆帯→地文	暗赤褐/砂粒・礫少量	勝坂3式	P14上 覆土下層
第46図15 図版28-15	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	強く内湾する口縁部/口唇部で肥厚	2本1対の隆帯によるS字状文/隆帯による複弧文/複弧文系か	にふい黄橙/砂粒多量、礫少量	加曾利E1式	P70内 覆土上層
第46図16 図版28-16	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	ほぼ直立する	地文は燃糸L縦位施文/2本1対の隆帯による垂下文・弧状文	橙/砂粒・礫中量	加曾利E1式	P4南側 覆土上層
第46図17 図版28-17	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや外反	地文は単節RL縦位施文/施文単位ごとに横方向に間隙をもつ	灰褐/砂粒・礫中量	加曾利E2式か	覆土中
第46図18 図版28-18	ミチユ7	底部 破片	底厚 4.4 0.7	平坦な底部/やや内湾して開く胴部	刻みを付された断面三角形の隆帯が3単位垂下/一部爪形文列が横走	暗褐/砂粒・礫微量、雲母多量	阿玉台II式	炉北側 床上6.5cm

第27表 168号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	種別	遺存 状態	長さ／幅／厚み (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 式	出土位置
第46図19 図版28-19	土器片錘	完形	5.6 / 4.5 / 0.9	33.8	楕円形／扶部2ヶ所／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用か／一部に多裁竹管状工具の腹面押し文	暗赤褐／砂粒中量・礫・雲母微量	阿玉台Ⅲ式	覆土中
第46図20 図版28-20	土器片錘	完形	5.8 / 4.7 / 1.1	45.8	方形／扶部2ヶ所／周縁摩耗僅か／円筒形深鉢口縁部片利用／無文	褐／砂粒・礫微量	勝坂3式	北東隅 覆土下層

第28表 168号住居跡出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第46図21 図版28-21	石鏃	チャート	24.7	12.7	3.4	0.6	凹基無茎／側縁は直線状／挟りは深く弧状／平面形状は縦長状	P42 上 覆土下層
第46図22 図版28-22	打製石斧	砂岩	75.3	45.0	12.6	53.1	短冊形／上半部がやや括れる／表面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁の上半と下半の一部の稜上に潰れが認められ、上半は一部面状になっている／左側縁はほぼ全面の稜上に潰れが認められ、下部の方がやや幅が広がっている	北壁際 覆土下層
第46図23 図版28-23	打製石斧	粘板岩	81.5	56.6	30.1	136.9	短冊形／両側縁は直線的／表面に原礫面が僅かに残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁中央部の稜上に潰れが認められる／左側縁は中央部から下部にかけての稜上に潰れが確認され、中央部は面状になっている	P23 南側 覆土下層
第46図24 図版28-24	打製石斧	砂岩	85.7	59.5	23.8	176.7	短冊形／刃部は折れて欠損し、基部を含み表裏面に原礫面が広く残存する／右側縁に敲打剥離が認められ、上部・中央部の一部の稜上に潰れが認められる／表面基部付近に磨面が認められる	P42 北側 覆土上層
第46図25 図版28-25	特殊磨石	緑色岩	47.1	37.5	27.9	50.9	乳棒状／基部のみ残存／基部付近に研磨より後の敲打痕がみられる	東壁際 覆土下層
第46図26 図版28-26	磨石	閃緑岩	76.0	64.5	27.5	221.1	表裏面ほぼ全面に磨痕／右面に細かい敲打痕がみられ、敲打痕は磨痕の後段階	北部 覆土上層
第46図27 図版28-27	石棒?	砂岩	115.1	39.3	32.4	186.2	表裏面に敲打痕／裏面下部は敲打により凹部が形成されるか／両側縁は磨面を形成／敲打により成形される	P1 北側 覆土下層

第29表 168号住居跡出土石器一覧

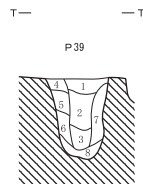
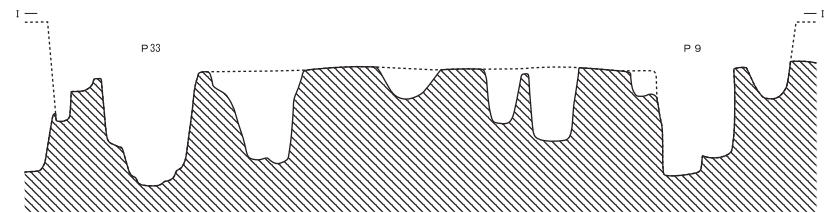
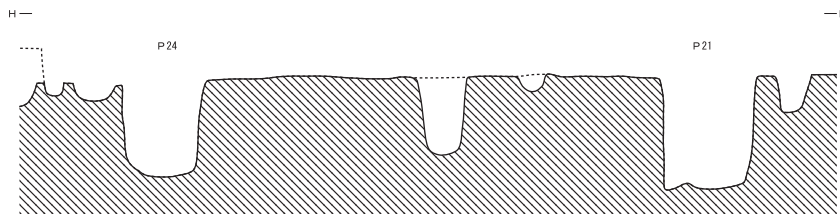
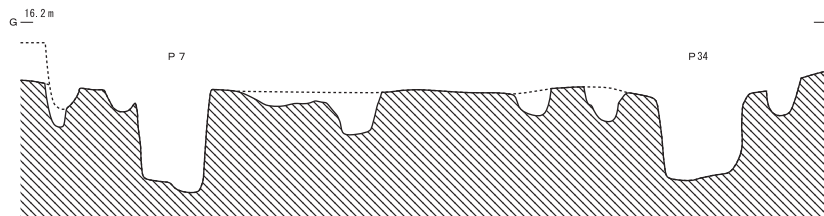
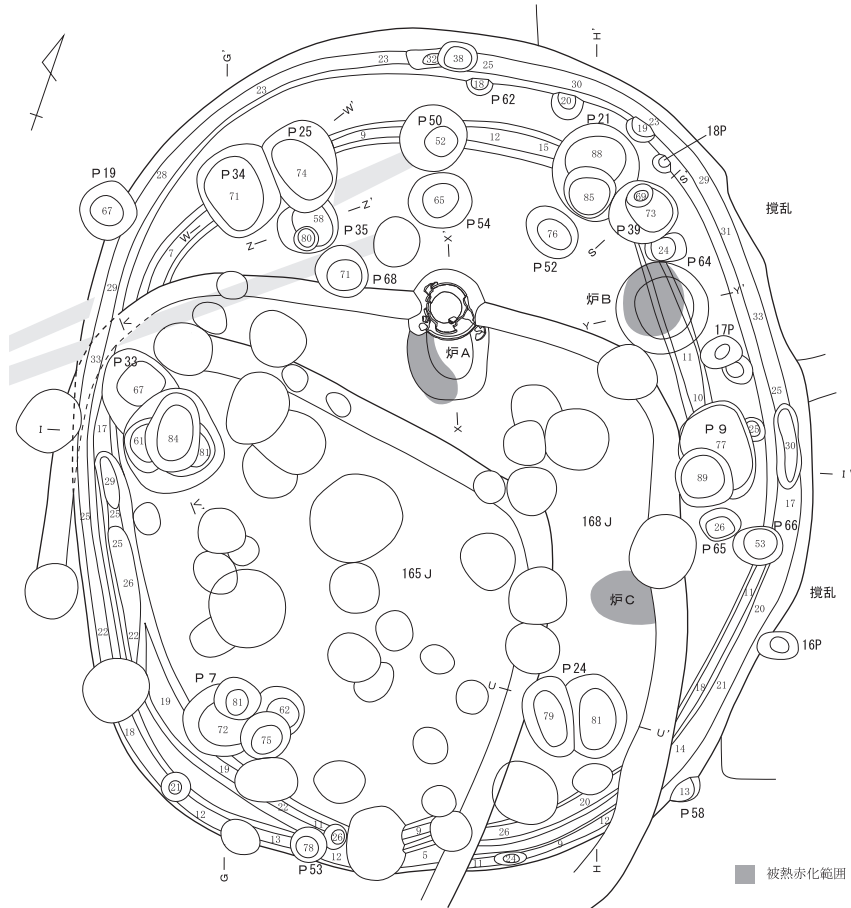
### 169号住居跡

**遺 構** (第47～49図)

[位置] (C・D-2・3) グリッド／②・③地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。165・167・168 Jと同時に精査を進める中で、覆土堆積状況や壁溝・柱穴・炉などから平面形等を捉えた。167 Jを切り、165・168 Jに切られる。16～17 Pと重複するが、新旧関係は不明である。

[構造] 平面形：楕円形。主軸方位：N-22°-W。P24とP7の中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸6.7m／短軸6.0m／確認面からの深さ約38cm。壁溝：内側と外側の2条検出した。壁溝同士の明確な切合いは観察できなかったが、柱穴及び炉Bとの重複関係から、内側が古く、

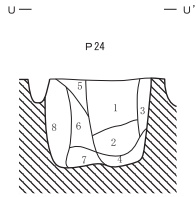


- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 2層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 3層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 4層 暗茶褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。
- 6層 暗茶褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを僅かに含む。
- 7層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 8層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。

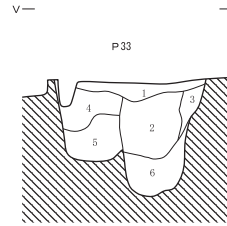


第47図 169号住居跡・炉 (1/60・1/30)

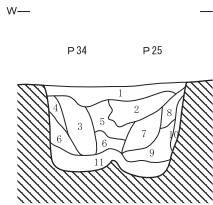




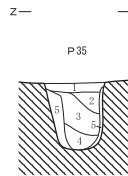
- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 2層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 3層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 4層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。  
 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。  
 6層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。  
 7層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。  
 8層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。



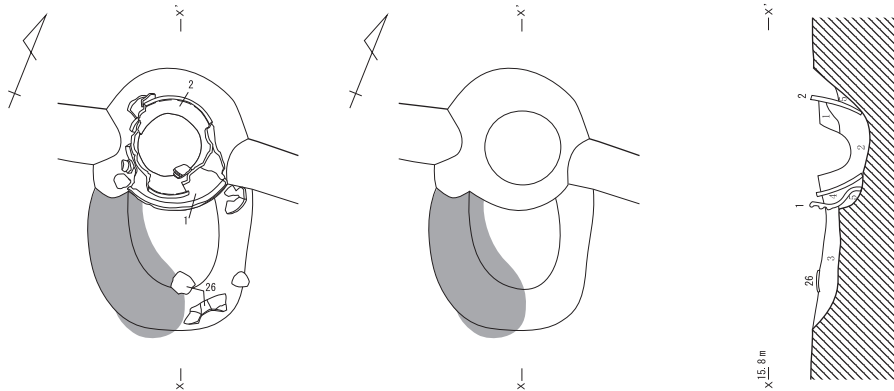
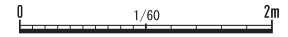
- 1層 黒色土 炭化物粒子・炭化材を多く、ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロックを含む。  
 2層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 3層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。  
 4層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。  
 5層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。  
 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。



- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 2層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。  
 3層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 4層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。  
 6層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。  
 7層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。  
 8層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。  
 9層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 10層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。  
 11層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。



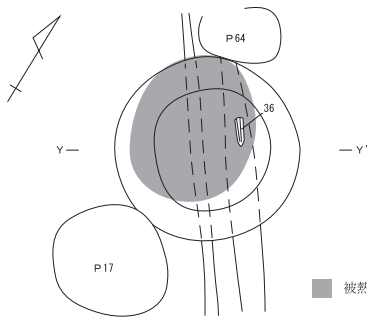
- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 2層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。  
 3層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。  
 4層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 5層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。



炉A

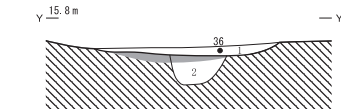
■ 被熱赤化範囲

- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。  
 2層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。  
 3層 明茶褐色土 焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 4層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。  
 5層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。

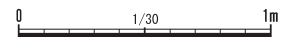


炉B

■ 被熱赤化範囲



- 1層 暗茶褐色土 焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。  
 2層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、焼土粒子・焼土小ブロックを含む。  
 169 J 旧壁溝。



外側が新しいと判断し、拡張を想定する。内側は上幅13～24cm/下幅6～23cm/床面からの深さ7～26cmで、炉Bに切られる。外側は上幅23～36cm/下幅6～25cm/床面からの深さ5～33cm。壁：約75°で急斜に立ち上がる。床面：概ね平坦か。165・168 Jと床面レベルが概ね同一であり、また覆土堆積状況の観察(A-A'・B-B')でも明確な床面の切り合いは確認できなかった。直床である。炉：3基検出した。＜炉A＞埋甕炉。住居中央やや北よりに検出した。掘込規模は長軸105cm/短軸65cm/床面からの深さ22cm。炉北側には、外側にキャリパー形深鉢(第50図1)が、内側に円筒形深鉢(第50図2)が、入れ子状に埋設されていた。南側には土器片(第52図26)がまとまって出土した。南西壁際が著しく被熱赤化していた。168 Jの壁溝に炉体土器を溝状に壊される。＜炉B＞地床炉。住居北東側に検出した。掘込規模は長軸73cm/短軸72cm/床面からの深さ7cm。内側の壁溝を切る。＜炉C＞地床炉。住居南東側に検出。掘り込みは検出できなかった。床面が被熱赤化していた。168 Jの壁溝に切られる。埋甕：検出されなかった。柱穴：24本を帰属させた。配置・規模からP21・39・52、P9、P24、P7、P33、P25・34・35を支柱穴と捉えた。6本柱建物で、拡張1回・建替1回程度を想定する。内側の壁溝と重複しないP52とP35は拡張前の支柱穴か。住居主軸上の奥壁側に位置するP54・50については、規模・形態が似ることから、拡張・建替前後に対応する同一機能を有する柱穴である可能性がある。

[覆土] 大半を165・168 Jや畝状耕作痕に壊されており、遺存状態は悪い。ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む暗茶褐色土を基調とする。

[遺物] 土器は579点24,743g、土製品は2点117g、石器は38点(異形石器1点・楔形石器1点・打製石斧9点・磨製石斧1点・磨石1点・石皿1点・石棒?1点・剥片23点)出土した。炉体土器(第50図1・2)の他、床面直上から略完形のキャリパー形深鉢(第50図3)が、覆土下層からキャリパー形深鉢の底部(第50図5)が出土した。P7の床面レベルからは異形石器(第52図29)が、炉B直上から石棒の可能性のある石器(第52図36)が被熱した状態で出土した。また、炭化種実が出土しており、自然科学分析の結果、オニグルミであることが判明している(付編「自然科学分析」193ページを参照)。

[時期] 炉体土器及び覆土出土土器から中期後葉期(加曾利E1a式期)。

[遺物] (第50～52図、第30～32表、図版29・30-1)

[土器] (第50・51図・第52図26、第30表、図版29・30-1)

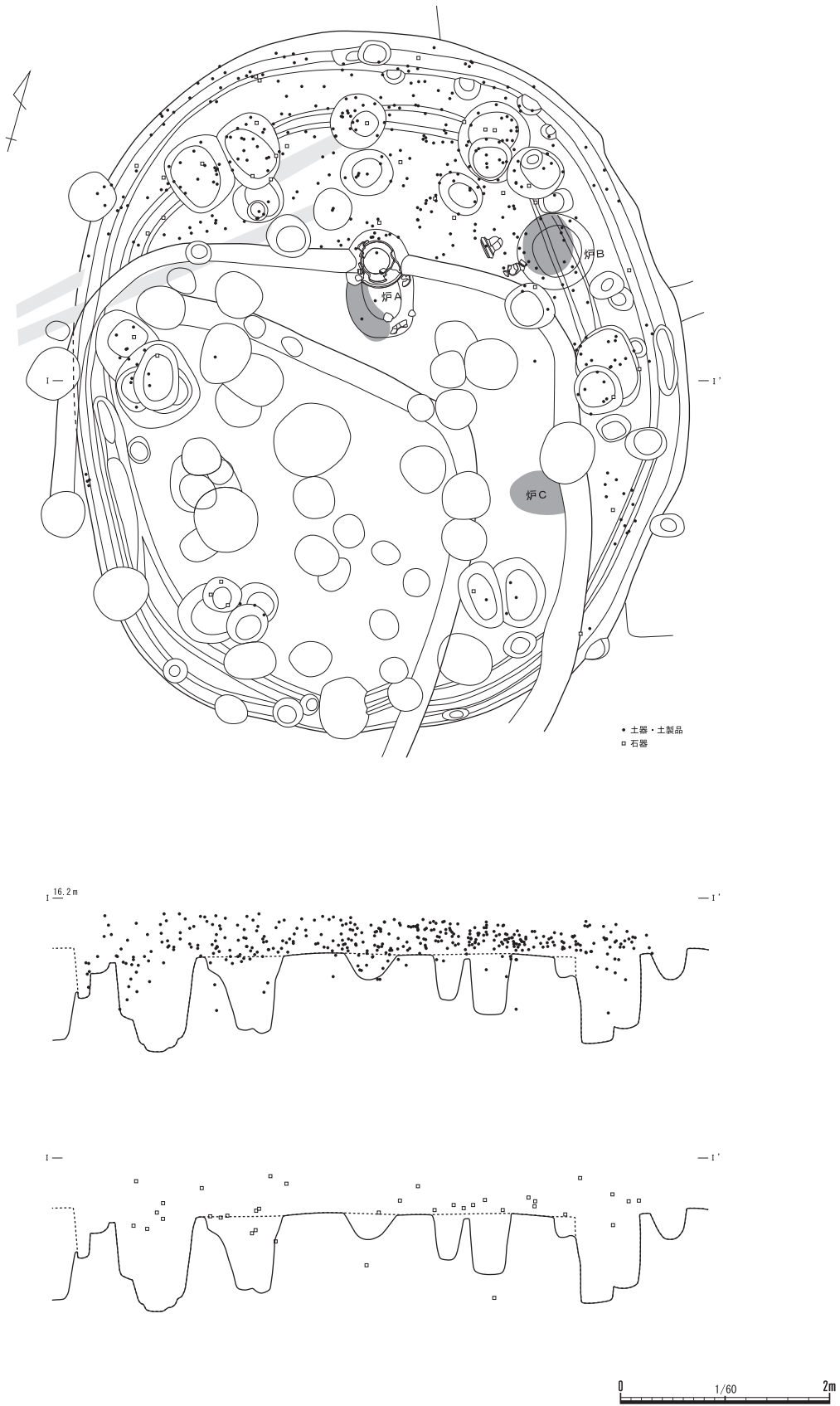
復元個体5点、破片資料21点を図示した。1は炉体土器で、口縁部に2本1対の隆帯によるS字状文が配された加曾利E1a式のキャリパー形深鉢形土器である。2は炉体土器で、抑えの甘い隆帯による懸垂文が配された加曾利E1a式期の円筒形深鉢形土器である。3は床面直上から出土した、加曾利E1a式のキャリパー形深鉢形土器である。4は半截竹管状工具による並行沈線を多用する加曾利E1a式のキャリパー形深鉢形土器である。5は波状隆帯が垂下する加曾利E1式の深鉢形土器である。6～8は阿玉台式、9～16は勝坂式、17～23は加曾利E式、24は連弧文の深鉢形土器である。25・26は勝坂式の浅鉢形土器である。

[土製品] (第52図27・28、第31表、図版30-1)

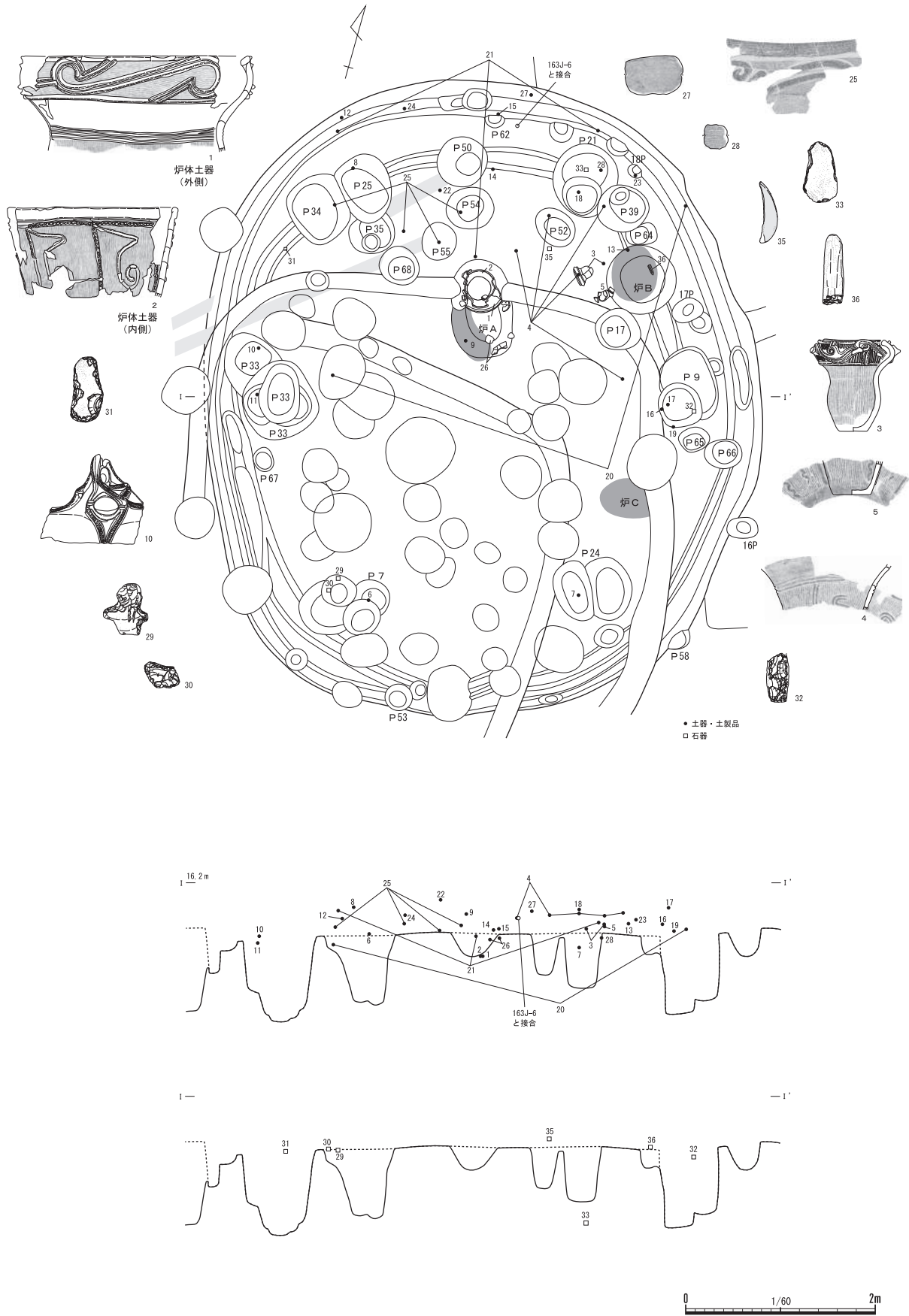
2点を図示した。27・28は土器片錘である。

[石器] (第52図29～36、第32表、図版30-1)

8点を図示した。29は異形石器、30は楔形石器、31～34は打製石斧、35は磨石。36は石棒の可能性はある。

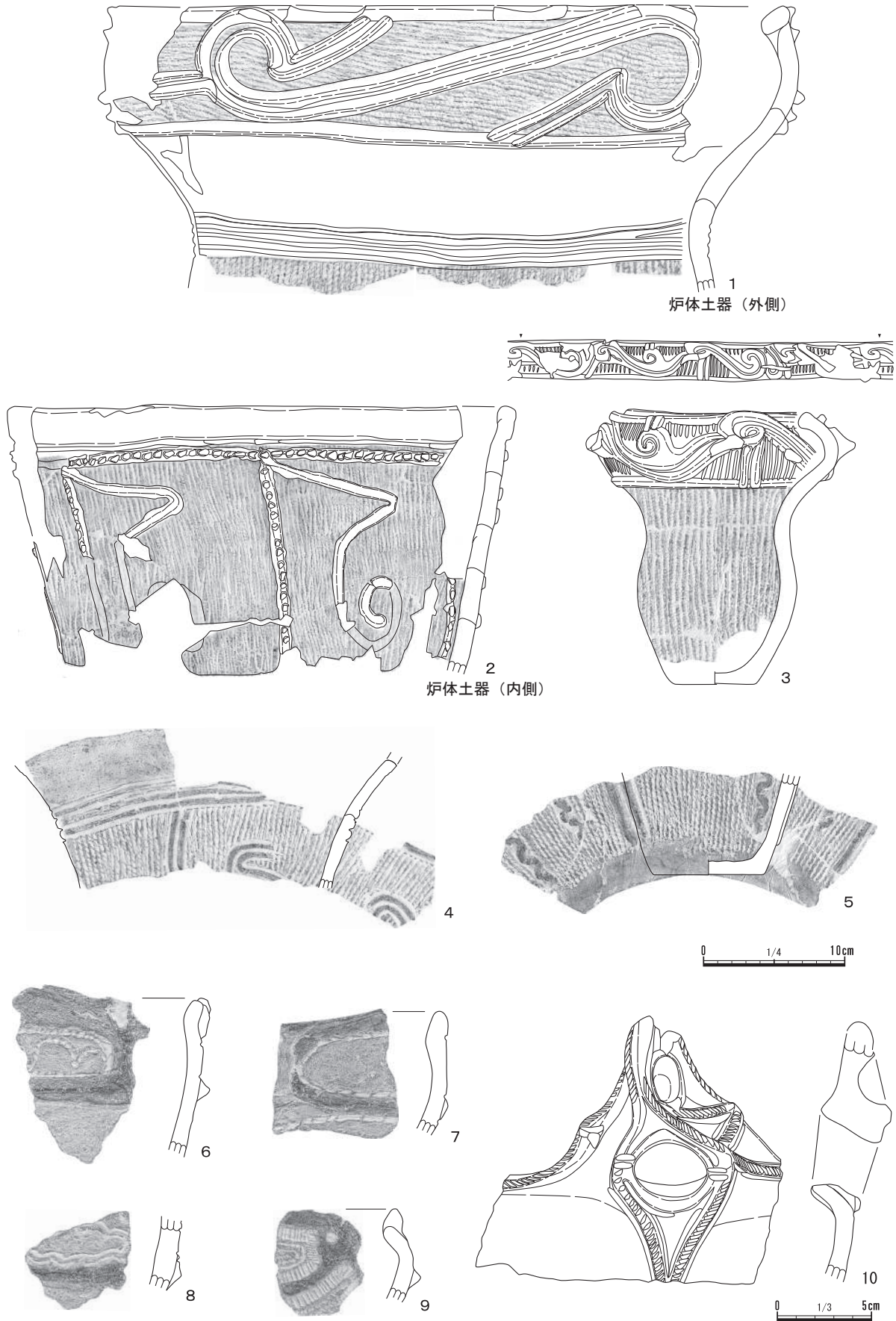


第48図 169号住居跡遺物出土状態1 (1/60)

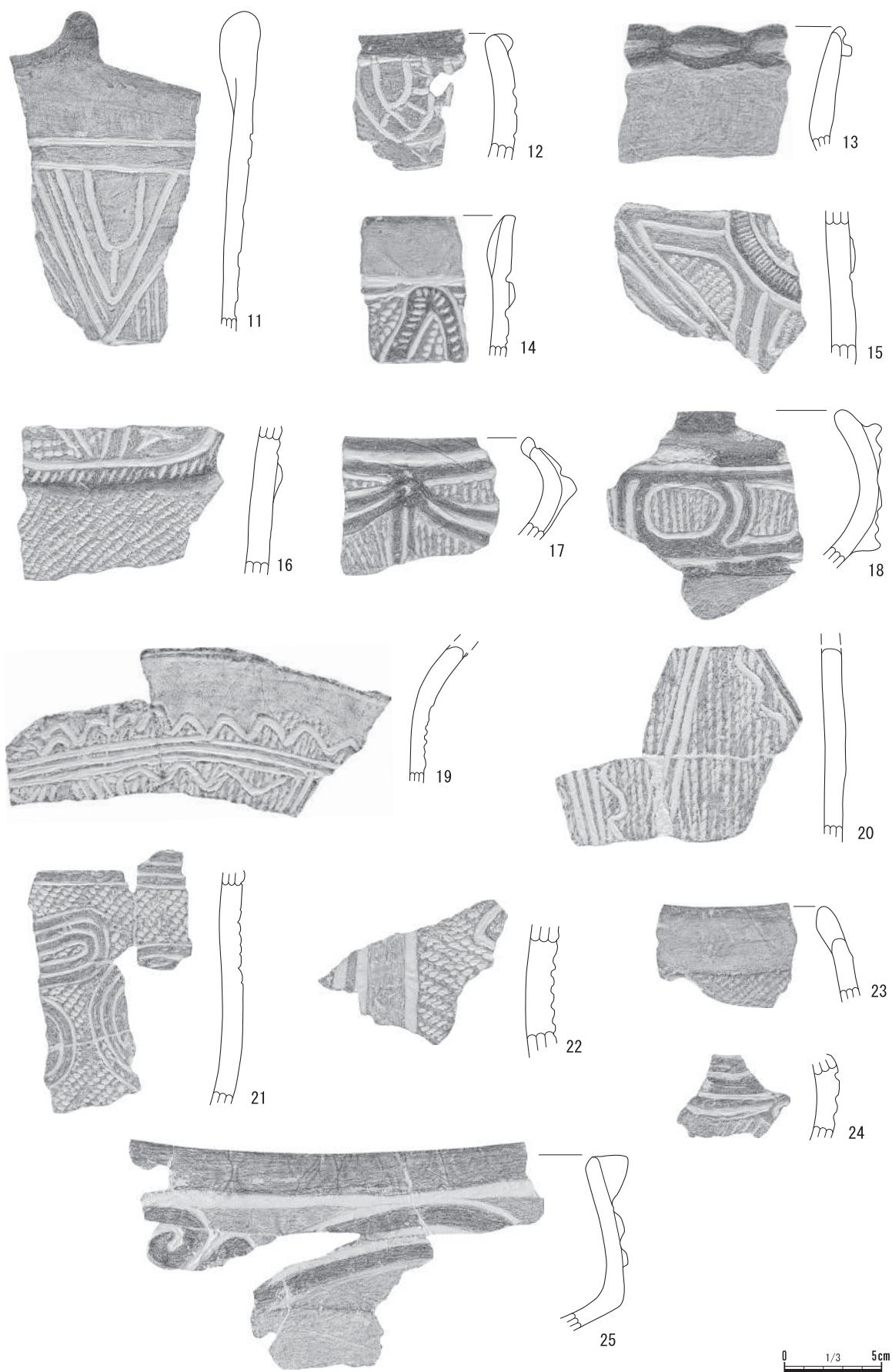


第49図 169号住居跡遺物出土状態2 (1/60)

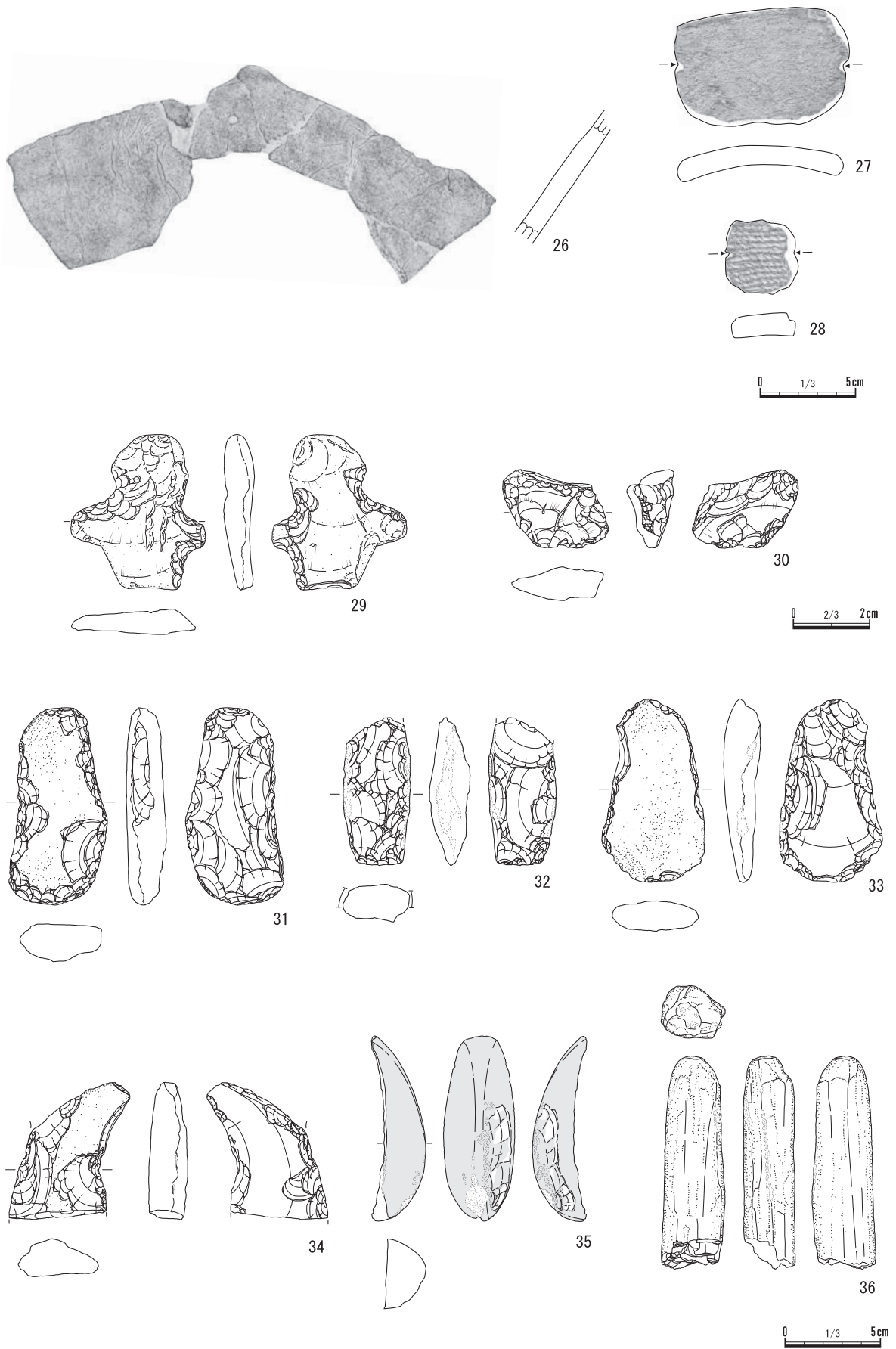




第50図 169号住居跡出土遺物1 (1 / 4・1 / 3)



第51図 169号住居跡出土遺物2 (1 / 3)



第52図 169号住居跡出土遺物3 (1 / 3・2 / 3)



第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第 50 図 1 図版 29-1	深鉢	口縁部～ 胴部上位 40%	高 [20.4] 口 (47.0) 厚 1.4	キャリパー形／頸 部で括れ、口縁部 は内湾して広がる ／口唇部は肥厚／ 大形	地文は燃糸 L で口縁部は横位に、胴部は縦 位に施文／口縁部は地文施文後、隆帯によ り頸部と画され、2 本 1 対の隆帯によ り端部が変形した S 字状文を配す／隆帯には 一部を除き沈線は沿わず、貼付はやや甘く、 S 字状文を描出する 2 本の隆帯間には間隙 があり地文が観察できる／頸部は無文／胴 部上端には地文施文後に粗雑ながら一端を 重ねた半截竹管状工具による並行沈線 4 本 が巡り頸部と画す	にぶい黄褐／砂 粒中量、礫少量	加曾利 E1a 式	炉 A 炉体 外側
第 50 図 2 図版 29-2	深鉢	口縁部～ 胴部中位 60%	高 [19.0] 口 (36.2) 厚 1.2	円筒形／直線的に 開きながら立上る ／口縁部上端で 肥厚	肥厚する無文の口縁部／口縁部直下には沈 線 1 本が巡る／胴部は燃糸 R 縦位施文後、 刺突文が施された隆帯が口縁部直下から垂 下し、器面を縦位 6 単位に区画／区画内 には刺突の施されない隆帯による変形した渦 巻状文を配す／区画文描出後、口縁部直下 に刺突の施された隆帯が横位に貼付され、 区画文との重複部分は小突起状を呈する／ 隆帯脇に沈線は伴わず、貼付は甘く、部分 的に剥落する／胴部上位以上が被熱赤化	明黄褐／砂粒少 量、礫微量	加曾利 E1a 式期	炉 A 炉体 内側
第 50 図 3 図版 29-3	深鉢	口縁部～ 底部 95%	高 [19.6] 口 (12.6) 底 5.8 厚 1.1	キャリパー形／底 部は平坦／やや内 湾しながら立上る ／胴部下位／胴部 中位で膨らみ頸部 で括れる／口縁部 は強く内湾して広 がる	口縁部上端と下端を隆帯で画し、2 本 1 対 の隆帯により S 字状文を 4 単位配し、空白 部には縦位沈線を充填／S 字状文は左端部 がやや突起化し、そこから 2 本 1 対の直状 隆帯が垂下／頸部以下は燃糸 L 縦位施文／ 地文は口縁部下端の隆帯貼付後に施文／ 口縁部上半外面にス／胴部外面の一部が 被熱による赤化・剥落	黄褐／砂粒中 量、礫・雲母少 量	加曾利 E1a 式	炉 B 西側 床面直上・床上 7.5cm
第 50 図 4 図版 29-4	深鉢	頸部～胴 部上位 40%	高厚 [9.0] 0.8	キャリパー形か／ 胴部上位から頸部 にかけて外反して 広がる	頸部は無文／胴部は燃糸 R 縦位施文／一端 を重ねた半截竹管状工具による横位の並行 沈線 4 本が頸部と胴部を画す／頸部から半 截竹管状工具による垂下文	にぶい黄褐／砂 粒中量、礫少量	加曾利 E1a 式	炉 B 西側 床上 13 ～ 20cm
第 50 図 5 図版 29-5	深鉢	胴部下位 ～底部 70%	高底 [7.3] (7.8) 厚 0.9	平坦な底部からほ ぼ直線的に立上る 胴部	地文は燃糸 R 縦位施文／1 本ないし 2 本 1 対の直状隆帯と、波状隆帯が垂下	明黄褐／砂粒中 量、礫微量	加曾利 E1a ～ b 式	炉 B 西側 床上 7cm
第 50 図 6 図版 29-6	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	やや内湾する口縁 部／口縁部上端で 外反／波状口縁と なるか	断面三角形の隆帯による区画文／隆帯脇 にはペン先状工具の押し引きによる結節沈線 が 1 本沿う／区画文内には結節沈線による 波状文／頸部無文	灰褐／砂粒・礫 少量、雲母中量	阿玉台 I b 式	P25 上 覆土下層
第 50 図 7 図版 29-7	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	やや内湾する口縁 部／口縁部上端で 外反／波状口縁か	断面三角形の隆帯により口縁部と頸部 を画し、口縁部で楕円区画文を形成／隆帯脇 にはストロークの長い結節沈線が沿う	灰褐／砂粒・礫 少量、雲母中量	阿玉台 I b 式	P24 内 覆土上層
第 50 図 8 図版 29-8	深鉢	頸部 破片	厚 1.1	外傾する頸部	幅広の断面三角形の隆帯による区画文／隆 帯脇と区画文内には半截竹管状工具の腹面 による並行沈線	灰褐／砂粒・ 礫・雲母少量	阿玉台 II 式	P25 上 覆土上層
第 50 図 9 図版 29-9	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部／ 直立する口縁部上 端	断面カマボコ状の隆帯による重三角区画 文か／区画文上端に円形貼付文／隆帯脇に は幅広角押文と三角押文が沿う／区画文内 には三角押文列が充填	暗褐／砂粒・礫 多量	勝坂 1 式	炉 A 上覆 土上層
第 50 図 10 図版 29-10	深鉢	口縁部 破片	厚 1.4	内湾する口縁部／ 口唇部内折	口縁部に円環状の孔 1 か所・凹部 1 か所を 持つ山形把手が付く／口唇部と把手の稜上 に押圧文を付した隆帯を貼付／口縁部は無 文	極暗褐／砂粒・ 礫中量、雲母少 量	勝坂 3b 式	P33 上 覆土下層
第 51 図 11 図版 29-11	深鉢	口縁部～ 胴部中位 破片	厚 0.7	円筒形／ほぼ直立 する胴部から口縁 部／口唇部肥厚	口縁部は無文で、突起 1 か所確認／横走 する 2 本の沈線により口縁部と胴部上半を 画す／胴部上半は 2～4 本の沈線による V 字状区画文／区画内には単沈線による三叉 状文や縦位沈線列が充填	灰褐／砂粒多 量、礫微量	勝坂 3b 式	P33 上 覆土下層

第 30 表 169 号住居跡出土土器一覽 (1)



挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第51図12 図版29-12	深鉢	口縁部 破片	厚 1.3	内湾する口縁部/ 口唇部外面で肥厚	口縁部には単沈線2～3本によるU字状文/ 沈線間の一部には直行する短沈線が引かれ 梯子状となる	極暗褐/砂粒・ 礫中量	勝坂3b式	北壁際覆 土上層
第51図13 図版29-13	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	外傾する口縁部/ 口唇部外面で肥厚	口唇部に連鎖状隆帯貼付/口縁部無文	にぶい褐/砂粒 中量、礫少量	勝坂3b式	炉B上 覆土中層
第51図14 図版29-14	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	ほぼ直立する/口 縁部内面で幅広に 肥厚	口縁部無文/太く深い沈線により口縁部 と胴部上半を画す/押圧文が付された断面 台形の隆帯による区画文/隆帯脇には単沈 線が1本沿う/区画文内には先丸ペン先状 工具の押引文列	にぶい褐/砂粒 中量、礫微量	勝坂3b式	P50 東側 覆土下層
第51図15 図版29-15	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	ほぼ直立する胴部	押圧文の付された断面台形の隆帯による 区画文/隆帯脇には沈線が1本沿う/区画 文内には先丸ペン先状工具の押引きによる 角押文列が充填	にぶい赤褐/砂 粒多量、礫微量	勝坂3b式	北壁際覆 土下層
第51図16 図版29-16	深鉢	胴部中位 破片	厚 1.0	僅かに外傾/円筒 形か	押圧文の付された隆帯により胴部上半と 下半を画す/胴部上位は隆帯・沈線による 区画文/胴部下半には0段3条単節RL 縦 位施文	灰褐/砂粒・礫 少量	勝坂3b式	P9 上 覆土中層
第51図17 図版29-17	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	強く内湾する口縁 部	地文は撚糸L縦位施文/口縁部上端に2本 1対の隆帯が横走/2本1対の隆帯による 弧状文が配され、連結部は渦巻状文を形成 /渦巻状文から2本1対の隆帯垂下	にぶい褐/砂 粒・礫少量	加曾利E1 b～c式	P9 上 覆土上層
第51図18 図版29-18	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部	地文は撚糸L縦位施文/口縁部上位と下端 に2本1対の隆帯が横走し、口縁部を画す /口縁部には2本1対の隆帯による楕円区 画文/頸部無文	褐/砂粒多量、 礫少量	加曾利E1 b～c式	P21 上 覆土上層
第51図19 図版29-19	深鉢	頸部～胴 部上位 破片	厚 1.0	外反して広がる胴 部上位から頸部	頸部無文/胴部には撚糸L縦位施文/胴部 上端に波状沈線1本、直状沈線2～3本が 横走/横位沈線から沈線2～3本が斜位に 垂下/一部の沈線は半截竹管状工具の腹面 引き	にぶい黄褐/砂 粒・礫多量	加曾利E2 式	P9 南側 覆土下層
第51図20 図版30-1-20	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	ほぼ直立する胴部	地文は撚糸L縦位施文/3本1対の直状沈 線、半截竹管状工具の腹面引と波状沈線が 斜位方向に垂下し、1本の波状沈線が垂下 する	にぶい黄褐/砂 粒・礫多量	加曾利E2 式	東壁際 覆土下層
第51図21 図版30-1-21	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	胴部下位で僅かに 膨らみ、上位で外 反	地文は単節LR縦位施文/1端を重ねた半 截竹管状工具の腹面引きによる沈線による 弧状文	にぶい黄褐/砂 粒・礫中量	加曾利E1 ～2式	北部 覆土中～ 上層
第51図22 図版30-1-22	深鉢	胴部中位 破片	厚 1.4	外反する胴部中位	地文は単節LR縦位施文/沈線間が磨り消 された3本1対の沈線と波状沈線が垂下	にぶい黄橙/砂 粒・礫中量	加曾利E3 式	P54 西側 覆土上層
第51図23 図版30-1-23	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾して内傾する 口縁部	口縁部上位は無文/地文は単節LR横位施 文	にぶい黄褐/砂 粒少量、礫多量	加曾利E4 式	北東隅 覆土中層
第51図24 図版30-1-24	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや内湾する	地文は撚糸L縦位/3本1対の沈線による 弧状文	暗赤褐/砂粒多 量、礫少量	連弧文	北壁際 覆土上層
第51図25 図版30-1-25	浅鉢	口縁部～ 体部 破片	厚 0.8	直線的に開く体部 /口縁部で僅かに 内湾して内折/口 縁部上端外面で肥	2本1対の断面台形の幅広隆帯によるS字 状文/地文は無文	にぶい黄橙/砂 粒多量、礫少量	勝坂3式	北部 覆土中層
第52図26 図版30-1-26	浅鉢	体部 破片	厚 1.0	直線的に開く体部	無文/内面に部分的に赤色顔料付着か	にぶい赤褐/砂 粒中量	勝坂式か	炉A内

第30表 169号住居跡出土土器一覧(2)

挿図番号 図版番号	種 別	遺存 状態	長さ/幅/厚み (cm)	重量 (g)	特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第52図27 図版30-1-27	土器片錘	完形	9.8 / 5.9 / 1.1	94.0	方形/袂部2ヶ所/周縁摩耗僅顕著/深鉢口 縁部片利用/無文	黒褐/砂粒多 量、礫微量	勝坂3式	北壁際 覆土上層
第52図28 図版30-1-28	土器片錘	完形	3.6 / 3.8 / 1.2	23.0	方形/袂部2ヶ所/周縁摩耗僅か/胴部片利 用/撚糸L縦位施文	暗褐/砂粒多 量・礫中量	加曾利E1 式	P21 内 覆土上層

第31表 169号住居跡出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第52図29 図版30-1-29	異形石器	黒曜石	40.8	35.4	8.1	9.2	ズリ素材に二次加工で抉りを施す／石偶か	P7 上 覆土下層
第52図30 図版30-1-30	楔形石器	黒曜石	20.6	27.8	12.3	5.0	上部折れ面平坦部からの両極剥離と、左右にも両極剥離が認められる	P7 上 覆土下層
第52図31 図版30-1-31	打製石斧	ホルンフェルス	103.6	51.6	20.9	135.3	短冊形／基部と刃部はやや丸みをもち、左側縁は直線的、右側縁は膨らむ／表裏面は基部を含み原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／両側縁の潰れは不明瞭である	北西隅 覆土下層
第52図32 図版30-1-32	打製石斧	砂岩	77.6	35.6	21.4	65.8	短冊形／基部は折れて欠損している／刃部は平坦で、両側縁はやや膨らみを持つ／両側縁に敲打剥離が認められ、ほぼ全面の稜上に潰れが認められる／潰れは広範囲が面状になっている	P9内 覆土上層
第52図33 図版30-1-33	打製石斧	砂岩	96.2	54.0	19.4	107.1	表面に原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁中央部の稜上に潰れが認められ、その上部・下部が面状になっている／左側縁中央部の稜上にも面状の潰れが狭い範囲で認められる	P21内 覆土下層
第52図34 図版30-1-34	打製石斧	砂岩	71.9	63.3	20.4	86.1	基部は尖頭状を呈し、左側縁は膨らみ、右側縁は括れ、半月状を呈する／下半・基部が折れて欠損し、基部側は再調整が施される／表面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁の稜上に潰れが認められる	P33内
第52図35 図版30-1-35	磨石	凝灰岩	97.2	28.5	37.4	100.1	全面に顕著な磨面／右面の剥離を伴う敲打痕は磨痕の後段階、下部の粗い敲打は磨痕の後段階	P52 南側 覆土下層
第52図36 図版30-1-36	石棒?	結晶片岩	112.0	33.4	27.3	149.7	上面の端部・右面の稜上に敲打痕／ほぼ全面に顕著な磨面が形成／被熱が著しく、やや赤化している	炉B直上

第32表 169号住居跡出土石器一覧

### 166号住居跡

**遺 構** (第53図)

[位 置] (C-2) グリッド／③地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。炉のみの検出である。畝状耕作跡により北半を攪乱されている。

[構 造] 平面形：不明。主軸方位：不明。規模：不明。掘込は確認できなかった。壁溝：検出されなかった。壁：検出されなかった。床面：検出されなかった。炉：埋甕炉。掘込みの規模長軸52cm／短軸推定40cm／深さ25cm。胴部下半を打ち欠いた深鉢形土器(第54図1)が埋設されていた。埋甕：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。

[覆 土] 炉以外の覆土は検出されなかった。

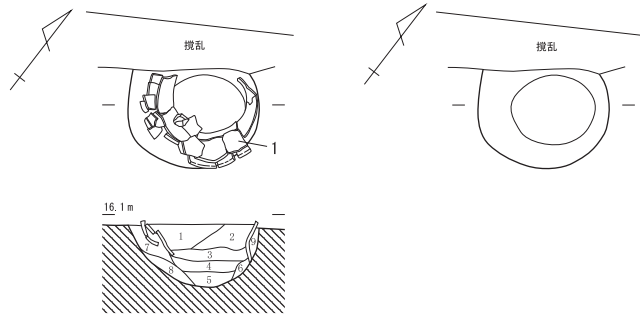
[遺 物] 土器は11点4,180g出土した。炉体土器(第54図1)が出土した。

[時 期] 炉体土器から中期後葉期(加曾利E4式期)

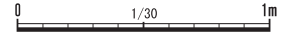
**遺 物** (第54図、第33表、図版30-2)

[土 器] (第54図、第33表、図版30-2)

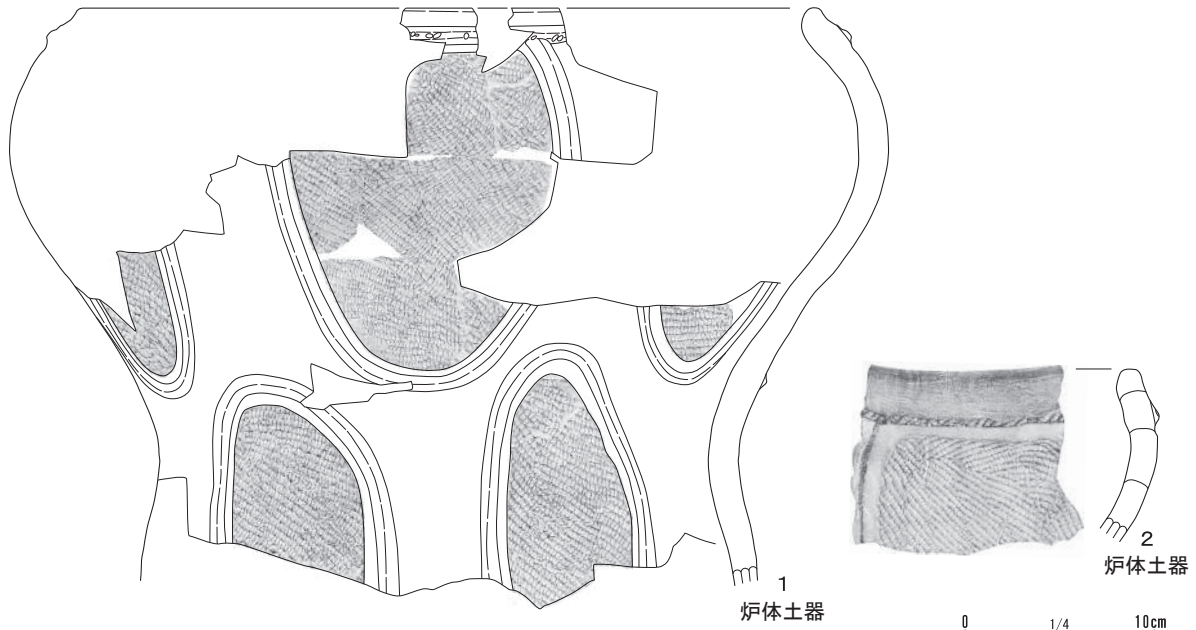
復元個体1点、破片資料1点を図示した。1は炉体土器で、微隆起線による対向U字状文が施された加曾利E4式の深鉢形土器である。2は加曾利E4式の深鉢形土器である。



- 1層 暗褐色土 ローム小ブロックを含み、ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
- 2層 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
- 3層 褐色土 ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く、ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり強。
- 4層 暗赤褐色土 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物粒子を含み、ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
- 5層 暗赤褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
- 6層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。
- 8層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
- 9層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。



第53図 166号住居跡炉 (1 / 30)



第54図 166号住居跡出土遺物 (1 / 4)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第54図1 図版30-2-1	深鉢	口縁部～ 胴部中位 60%	高 [31.8] 口 (39.4) 厚 1.4	キャリパー形／胴部で膨らみ、頸部で括れ、口縁部で強く内湾して広がる	口縁部上端は無文／口縁部上端に微隆起線が巡る／口縁部には微隆起線によるU字状区画文を配し、胴部には逆U字状ないし楕円状の区画文を配す(6単位確認、7単位か)／口縁部上端の微隆起線上と区画文内には単節LRが縦位施文される	にぶい黄褐／砂粒・礫微量、明褐粒子(土器粒か) 中量含む	加曾利E4式	炉体
第54図2 図版30-2-2	深鉢	口縁部 破片	厚 1.4	キャリパー形か／内湾する口縁部	口縁部上端は無文／口縁部上位に微隆起線が横走／微隆起線が垂下し区画文となるか／区画文内には単節LR縦位施文(口縁部上部は横位施文)／第54図1と同一個体か	にぶい黄褐／砂粒・礫微量、明褐粒子(土器粒か) 中量含む	加曾利E4式	炉体

第33表 166号住居跡出土土器一覧

## 170号住居跡

**遺 構** (第55図)

[位 置] (D・E-4) グリッド/②・③・④地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。163・165・168・171 J、5埋に切られる。畝状耕作跡の攪乱を受けており、遺存状態は悪い。掘込は浅く、僅かな覆土の検出、調査区壁面の土層観察、柱穴、炉などから住居跡として認識した。

[構 造] 平面形：円形か。主軸方位：不明。規模：長軸推定 4.2m / 短軸不明 / 確認面からの深さ約 17cm。壁溝：検出されなかった。壁：皿上に立ち上がる。床面：中央部分が僅かに深いか。直床である。炉：地床炉。掘込はないが、住居中央が被熱赤化していたことから炉と捉えた。被熱範囲の規模は長軸推定 60cm / 短軸推定 50cm / 床面からの深さ 2 cm。埋甕：検出されなかった。柱穴：5本検出した。P1・P2・P4・P5が主柱穴か。4本柱建物を想定する。

[覆 土] 畝状耕作痕や 163・165・168・171 J、5埋に壊され、遺存状態は悪い。上層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を基調とし (B-B' 3層)、下層はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む褐色土を基調とする (B-B' 4層)。

[遺 物] 土器は 37 点 446g、石器は 4 点 (石皿 1 点・剥片 3 点) が僅かに出土した。

[時 期] 覆土出土土器及び切合いから中期中葉期 (勝坂式期)。

**遺 物** (第56図、第34表、図版 31-1)

[土 器] (第56図、第34表、図版 31-1)

破片資料 4 点を図示した。1 は阿玉台Ⅱ式、2～4 は勝坂式の深鉢形土器である。

## 171号住居跡

**遺 構** (第57～60図)

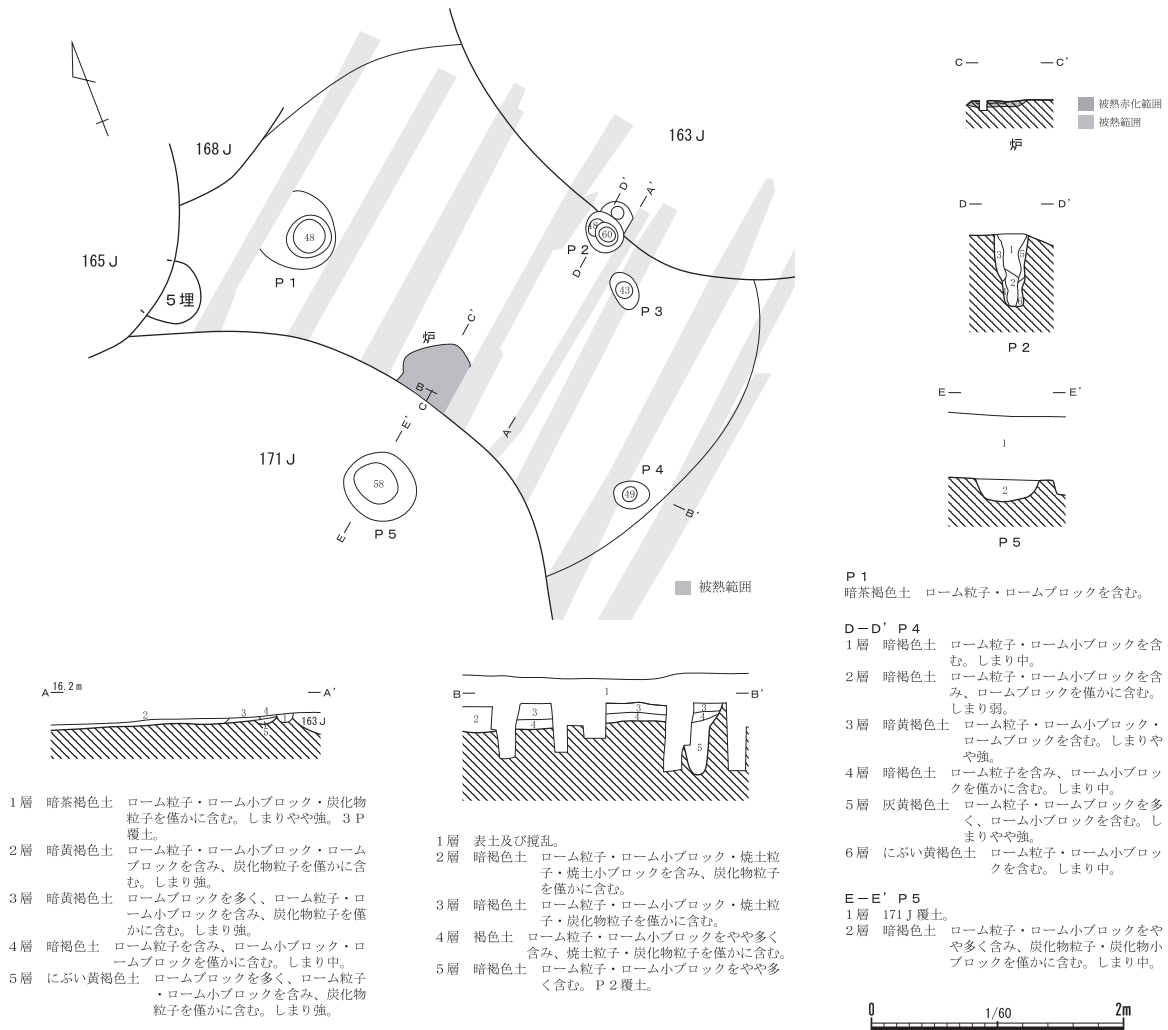
[位 置] (C・D-4・5) グリッド/②・④・⑤地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。170・172 J を切り、165・173 J に切られる。調査工程上の都合から、173 J に先行して本住居跡の精査を実施した。切合い関係確認のためのセクションも設定しなかったが、出土遺物から新旧関係を判断した。

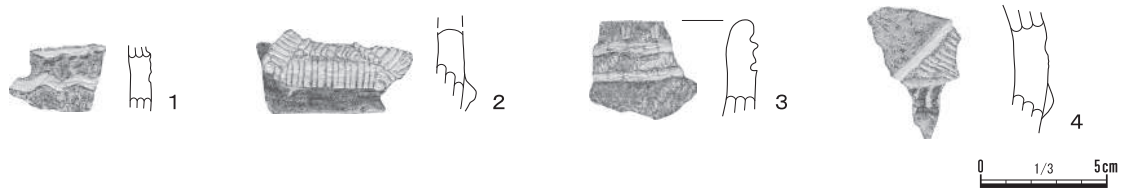
[構 造] 平面形：円形。主軸方位：N-S。P3とP6、P1とP9の中間と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸 5.6m / 短軸 5.6m / 確認面からの深さ約 44cm。壁溝：1条検出した。全周する。上幅 17cm～30cm / 下幅 6～13cm / 床面からの深さ 3～19cm。壁：約 70°で急斜に立ち上がる。ほぼ全周が畝状耕作痕の攪乱を受けており、遺存状態は悪い。床面：概ね平坦だが、北東側にやや傾斜する。炉を中心とした主柱穴の内側に硬化面を検出した。直床である。炉：石囲埋甕炉。掘込規模は長軸 52cm / 短軸 44cm / 床面からの深さ 10cm。頸部以下を打ち欠いた深鉢形土器 (第61図1) を埋設し、礫を密接して配する。拳大の礫を北側に、長さ約 24cm のやや長めの礫を南側に配する。掘込底面が被熱していた。埋甕：検出されなかった。柱穴：9本検出した。配置・規模から P1、P2、P3・4、P6・7、P8、P9 を主柱穴と捉え、6本柱建物を想定する。P10 は入口施設に関連する柱穴か。建替・拡張は想定できない。

[覆 土] 覆土中～上層を畝状耕作痕に壊されており、遺存状態は悪い。畝状耕作痕の走方向に並行





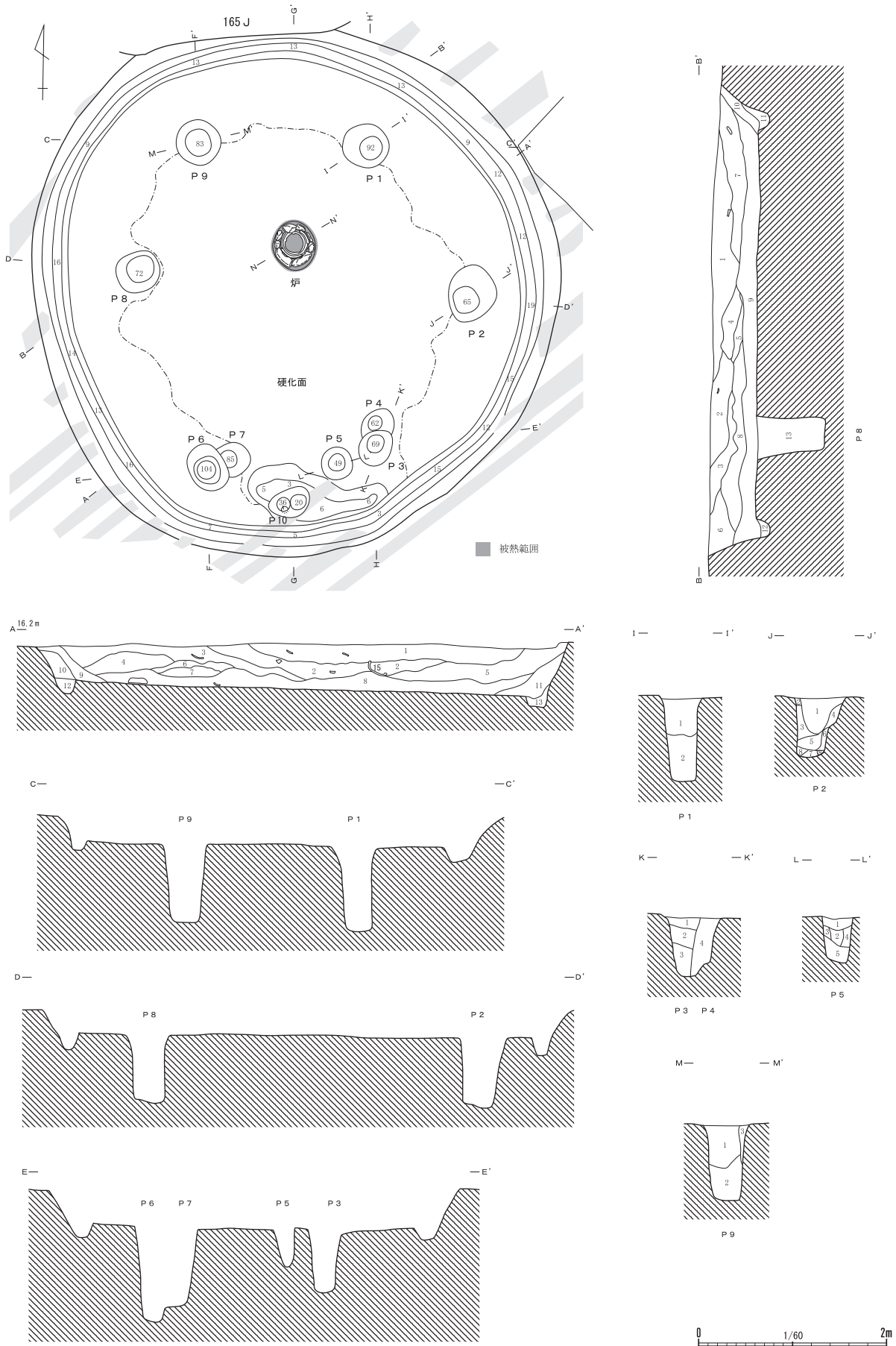
第55図 170号住居跡 (1/60)



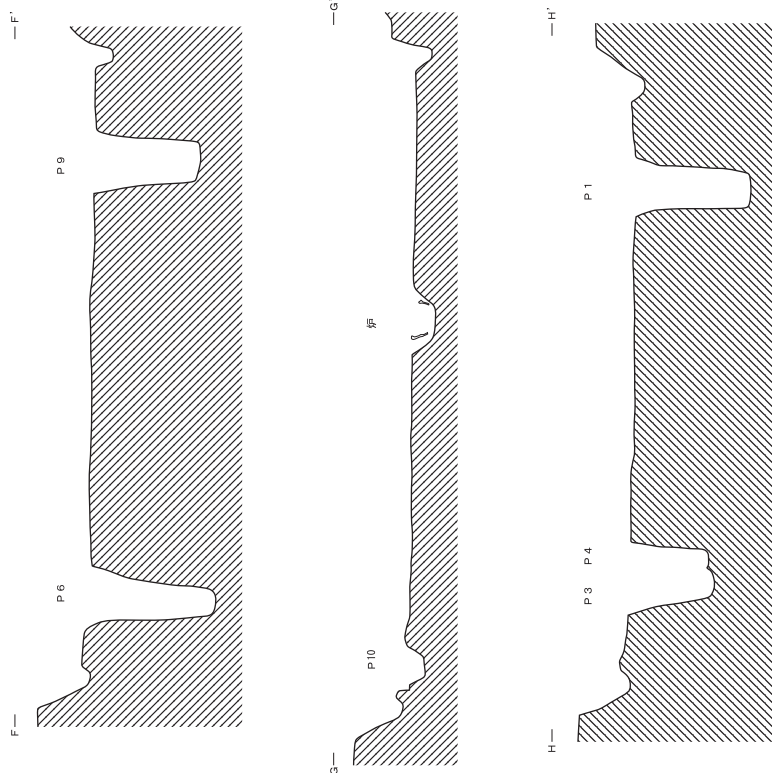
第56図 170号住居跡出土遺物 (1/3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎土	時 期 式 型	出土位置
第56図1 図版31-1-1	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	直線的に立上がる 胴部	波状沈線が2本横走	黒褐/砂粒・礫 多量、5mmの 白色角礫中量、 雲母少量	阿玉台Ⅱ式	覆土中
第56図2 図版31-1-2	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	上端で僅かに内湾	断面カマボコ状の隆帯による区画文/隆帯 脇には幅広角押文と三角押文が沿う	暗赤褐/砂粒・ 礫多量	勝坂1b式	覆土中
第56図3 図版31-1-3	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	わずかに内湾/口 縁部は丸みを持つ	口唇部に刺突/地文は無節L横位施文/口 縁部上端に結節沈線2本が横走	暗赤褐/砂粒微 量	中期	覆土中
第56図4 図版31-1-4	深鉢	胴部 破片	厚 1.4	わずかに内湾	半截竹管状工具の腹面による押圧文を付 された隆帯による区画文	暗赤褐/砂粒多 量、礫少量	勝坂3式	覆土中

第34表 170号住居跡出土土器一覧



第57図 171号住居跡・炉 (1/60・1/30)



- A-A'**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 2層 黒褐色土 炭化物粒子を含み、ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 4層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 5層 褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 6層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
  - 7層 黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 8層 黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含み、焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 9層 黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 10層 黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 11層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 12層 黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。
  - 13層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。

- B-B'**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 2層 黒褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 4層 黒褐色土 10~30mmの砂利を多く含み、ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 5層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 6層 褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 7層 褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 8層 褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 9層 褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 10層 暗褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
  - 11層 黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
  - 12層 黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。
  - 13層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。P.8覆土。

- I-I' P.1**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 2層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり弱。

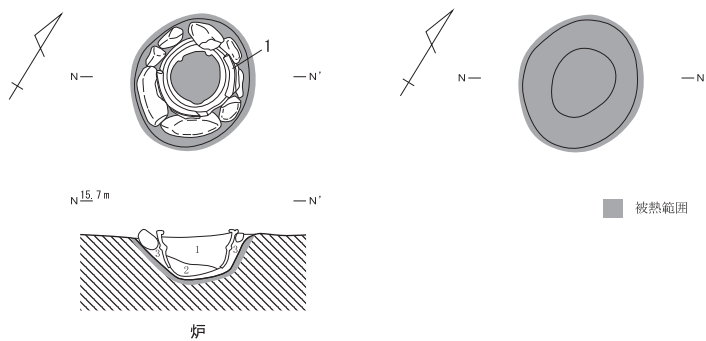
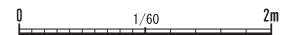
- J-J' P.2**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 2層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
  - 3層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり弱。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 5層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり弱。
  - 6層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり弱。
  - 7層 明黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。上面に柱根痕。
  - 8層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。

- K-K' P.3**
- 1層 褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり弱。

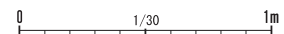
- P.4**
- 4層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。

- L-L' P.5**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 2層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
  - 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。

- M-M' P.9**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 2層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり弱。
  - 3層 明黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを含む。



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。



するようにセクションを設定し、土層観察を行った。概して、上層はローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を微量～中量含む黒褐色～暗褐色土（A-A' 1～4層）を基調とし、下層はローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを中量～多量含み、焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを微量含む暗褐色～黄褐色土（A-A' 5～10層）を基調とする。

**[遺物]** 住居中央の床面～覆土上層を中心に実測個体を含む遺物が多量に出土した。土器は 2,161 点 70,825g、土製品は 22 点、石器は 77 点（石鏃 3 点・打製石斧 17 点・磨製石斧 5 点・磨石 2 点・敲石 7 点・石皿 2 点・剥片 41 点）出土した。炉体土器（第 61 図 1）を含め、復元個体が 25 点出土している。特に、上層の黒褐色～暗褐色土（A-A' 1～4層）と、下層の暗褐色～黄褐色土（A-A' 5～10層）との層界からの出土が多い。床面付近から出土した浅鉢（第 64 図 25）は、第 67 地点 132 J 出土土器と接合している。覆土上層と床面付近から出土した土器が、163 J 出土土器と遺構間接合しており、第 25 図 6 として図示している。また、炭化種実が出土しており、自然科学分析の結果、オニグルミであることが判明している（付編「自然科学分析」193 ページを参照）。

**[時期]** 炉体土器及び覆土出土土器から中期中葉期（勝坂 3 b 新式期）。

**[遺物]**（第 61～68 図、第 35～37 表、図版 31-2～35）

**[土器]**（第 61～67 図 53、第 35 表、図版 31-2～35）

復元個体 25 点、破片資料 28 点を図示した。1 は炉体土器で、連鎖状隆帯を付した幅広無文口縁を持つ勝坂 3 b 新式の深鉢形土器である。2 は頸部無文帯を持つ加曾利 E 1 b 式の深鉢形土器である。3 は口縁部に半球状貼付文を持つ勝坂 3 b 新式、4 は地文施文後に隆帯による区画文が配される勝坂 3 b 式のキャリパー形深鉢形土器である。5 は区画文に押圧文を伴う沈線が多用され、6 は胴部上半にただの文様帯を有し、7 は幅広の口縁部無文帯を持ち、8 は胴部の上半・下半共に地文に沈線が用いられ、9 は胴部上半に狭い文様帯を持ち、10 は隆帯による渦巻状ないし S 字状文を配し、11 は胴部上半に文様が充填されない楕円区画文を配し、12 は渦巻状貼付文伴う山形突起を持つ、いずれも勝坂 3 b 新式の円筒形深鉢形土器である。13 は区画文内に押圧文を伴う沈線による三叉文が充填される勝坂 3 b 古式の円筒形深鉢形土器である。14・15 は器面全面に地文が施され、抑えの甘い細い隆帯により直状・渦巻状の懸垂文が連結した区画文が配される勝坂 3 b 新式の深鉢形土器である。16 は口縁部に 2 本の隆帯が巡る勝坂 3 b 新式の深鉢形土器である。17～22 は勝坂 3 式の深鉢形土器である。23 は隆帯による区画文を持つ勝坂 3 b 式、24 は第 67 地点 132 J と遺構間接合した加曾利 E 1 c 式、25 は沈線による幅広の背割隆帯が付された勝坂 3 b 新式の浅鉢形土器である。26・27 は阿玉台 II 式、28・29 は勝坂 1 a 式、30・31 は勝坂 2 式、32～44 は勝坂 3 b 式の深鉢形土器である。45 は阿玉台 III 式の浅鉢形土器である。46 は勝坂 3 式～加曾利 E 1 式の深鉢形土器である。47～49 は加曾利 E 1 式、50 は加曾利 E 2 式、51 は曾利 II 式、52 は連弧文の深鉢形土器である。53 は補修孔が確認できる勝坂式土器である。

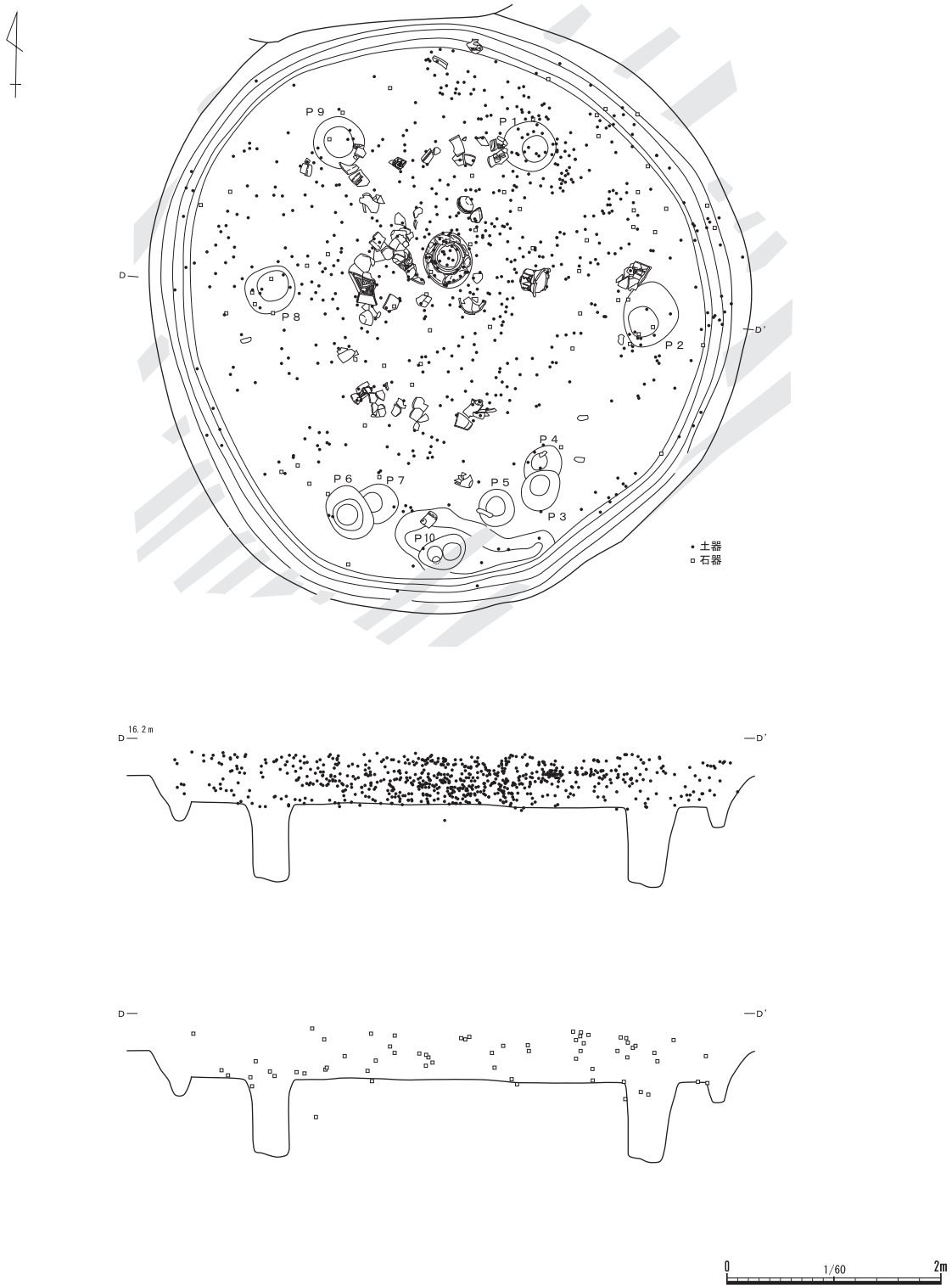
**[土製品]**（第 67 図 54～75、第 36 表、図版 35）

22 点を図示した。54～75 は土器片錘である。いずれも中期初頭～後葉期の土器片を転用している。

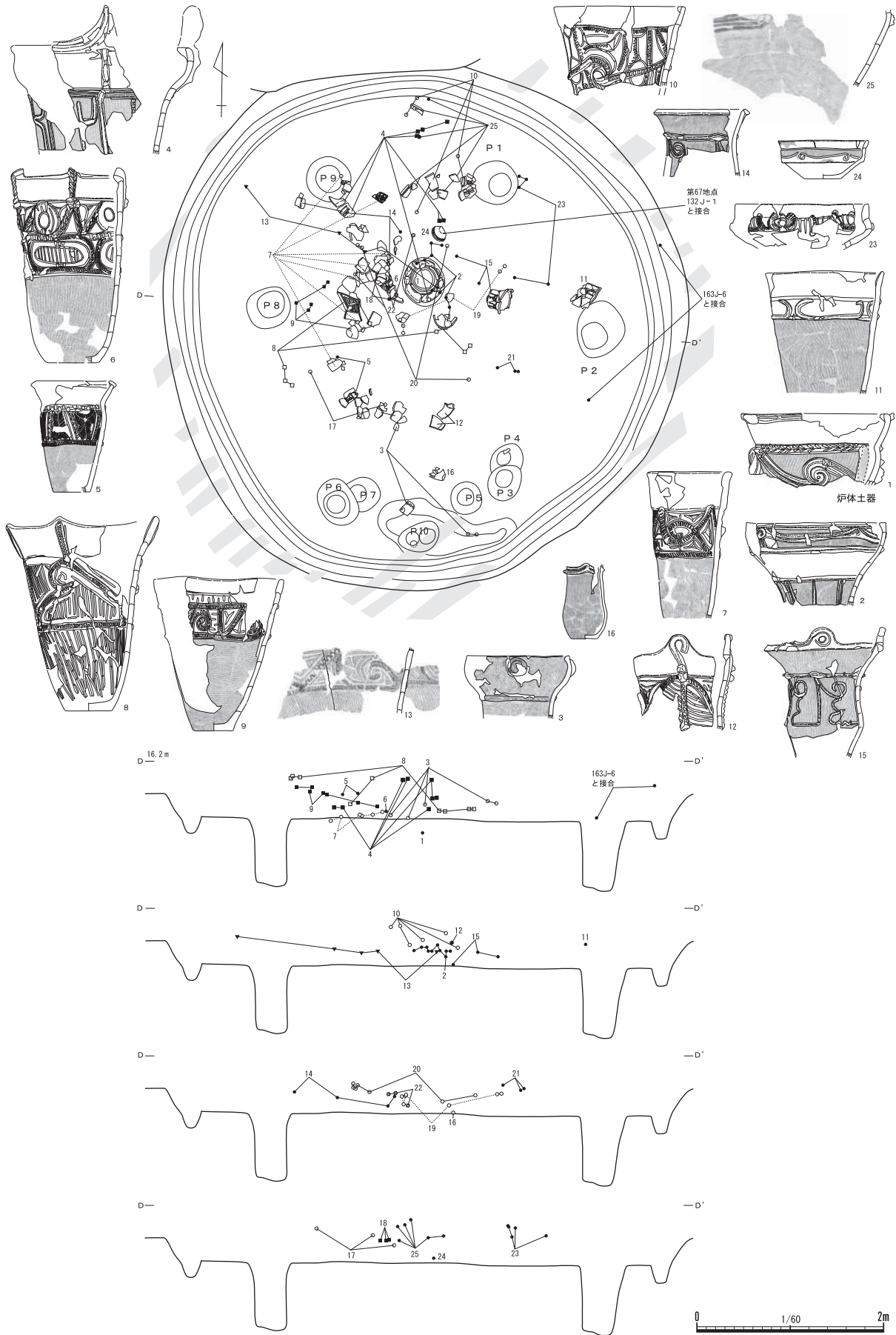
**[石器]**（第 67 図 76～78・第 68 図、第 37 表、図版 35）

15 点を図示した。76 は黒曜石製、77 は頁岩製の凹基無茎の石鏃である。78 は黒曜石製の石鏃未成品である。79～86 は打製石斧である。87 は凝灰岩製の磨製石斧である。88・89 は磨面を伴う敲石である。90 は縁辺が厚く、両面に磨面と敲打痕が認められる石皿である。

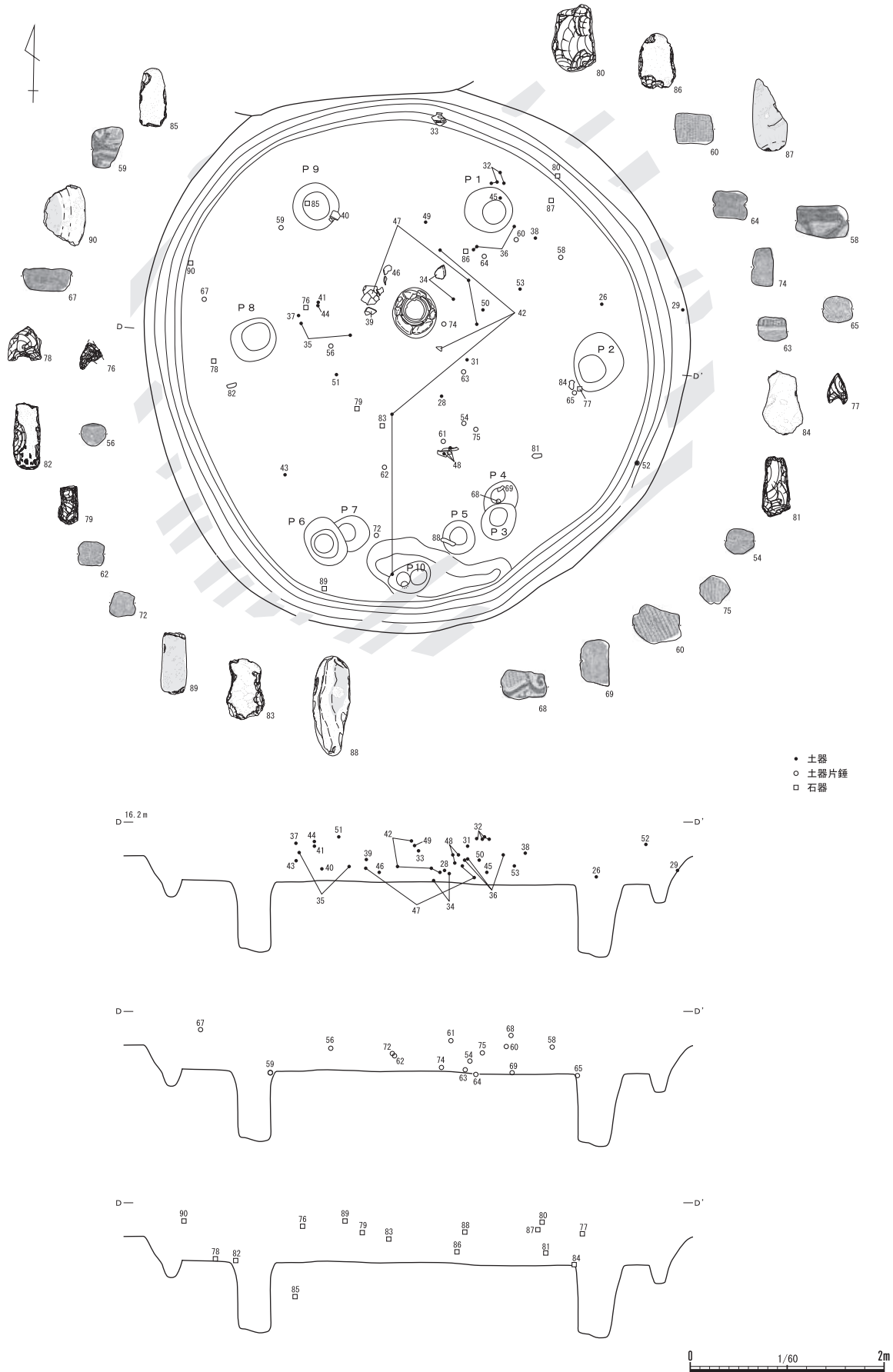




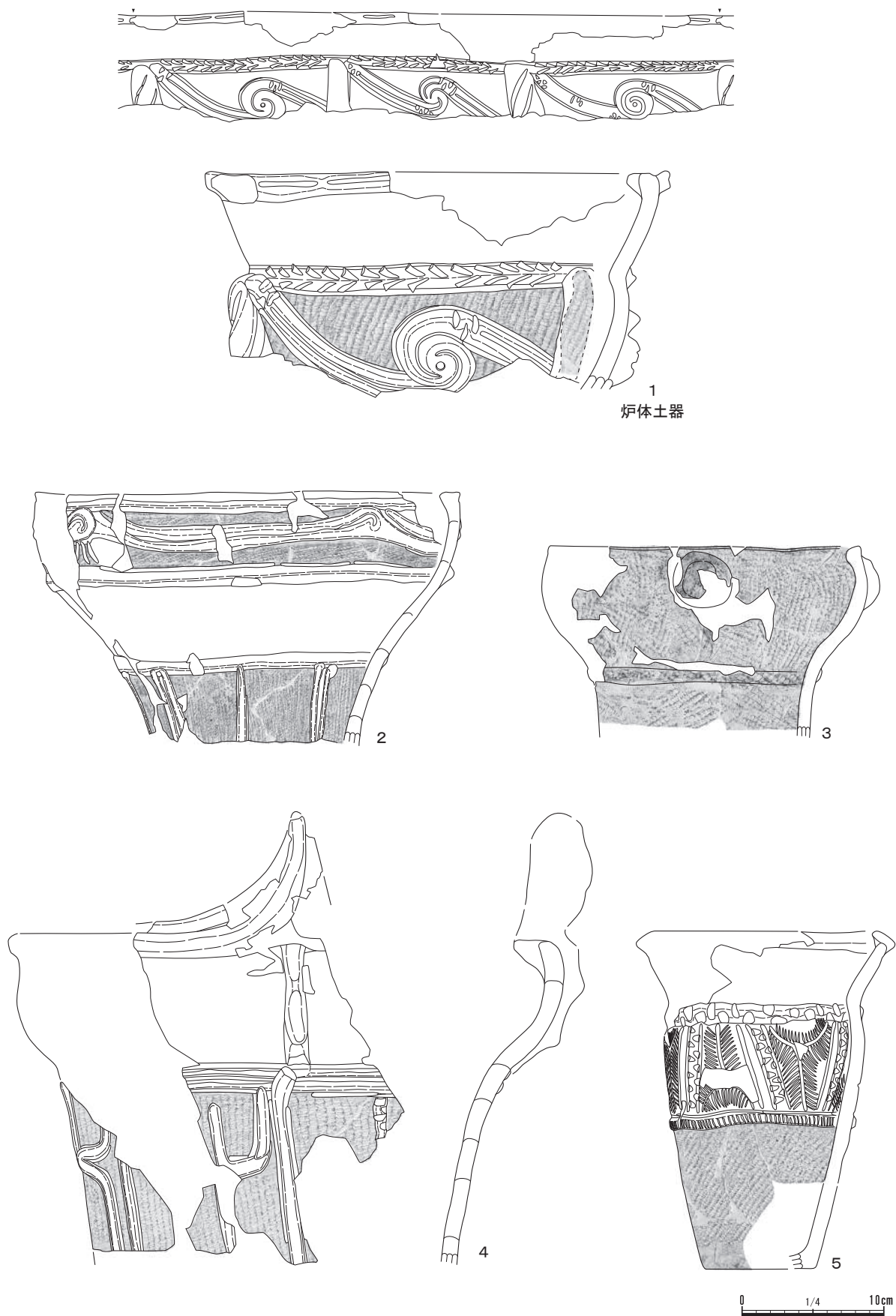
第58図 171号住居跡遺物出土状態1 (1/60)



第59図 171号住居跡遺物出土状態2 (1/60)



第60図 171号住居跡遺物出土状態3 (1/60)



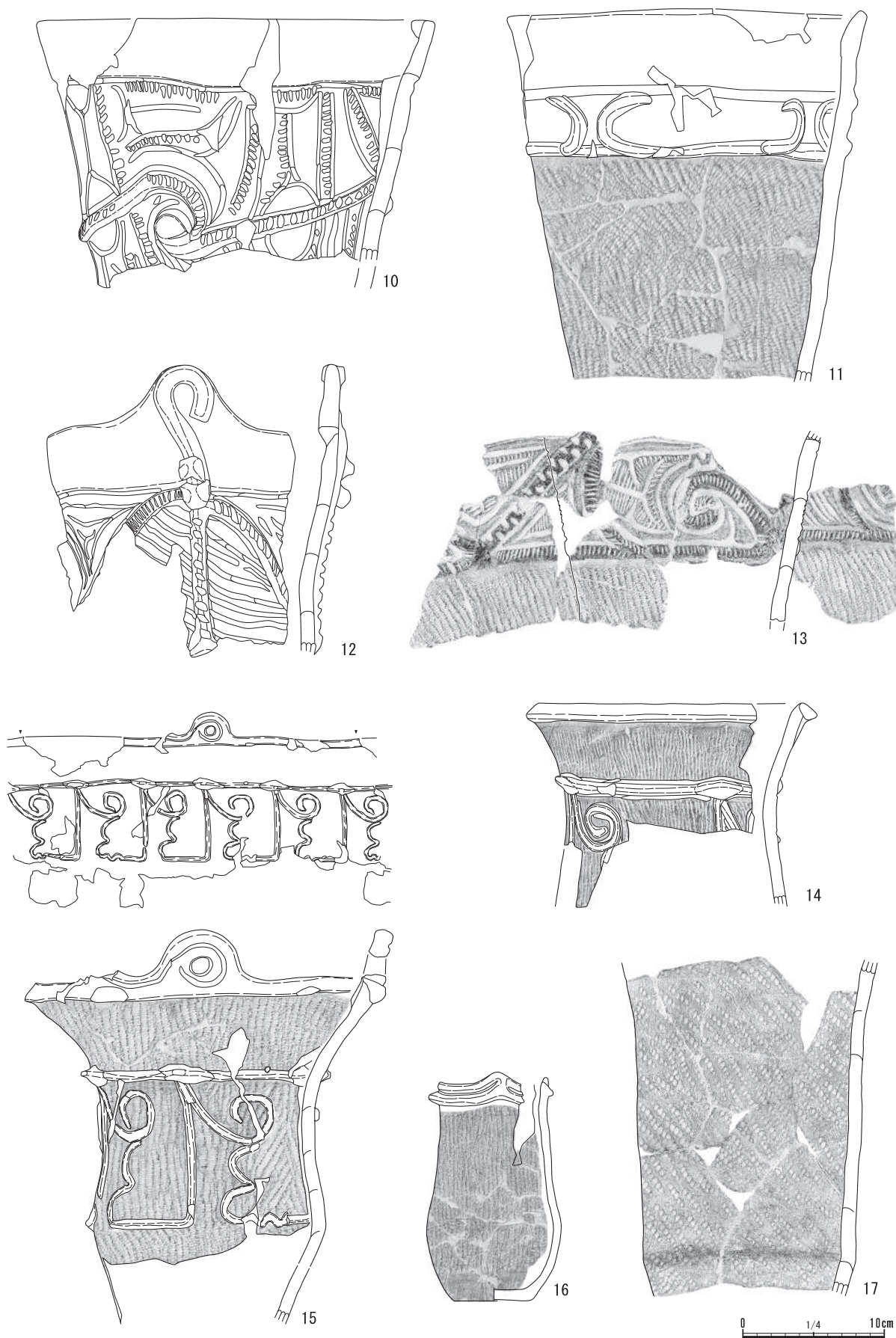
1  
炉体土器

第61図 171号住居跡出土遺物1 (1/4)

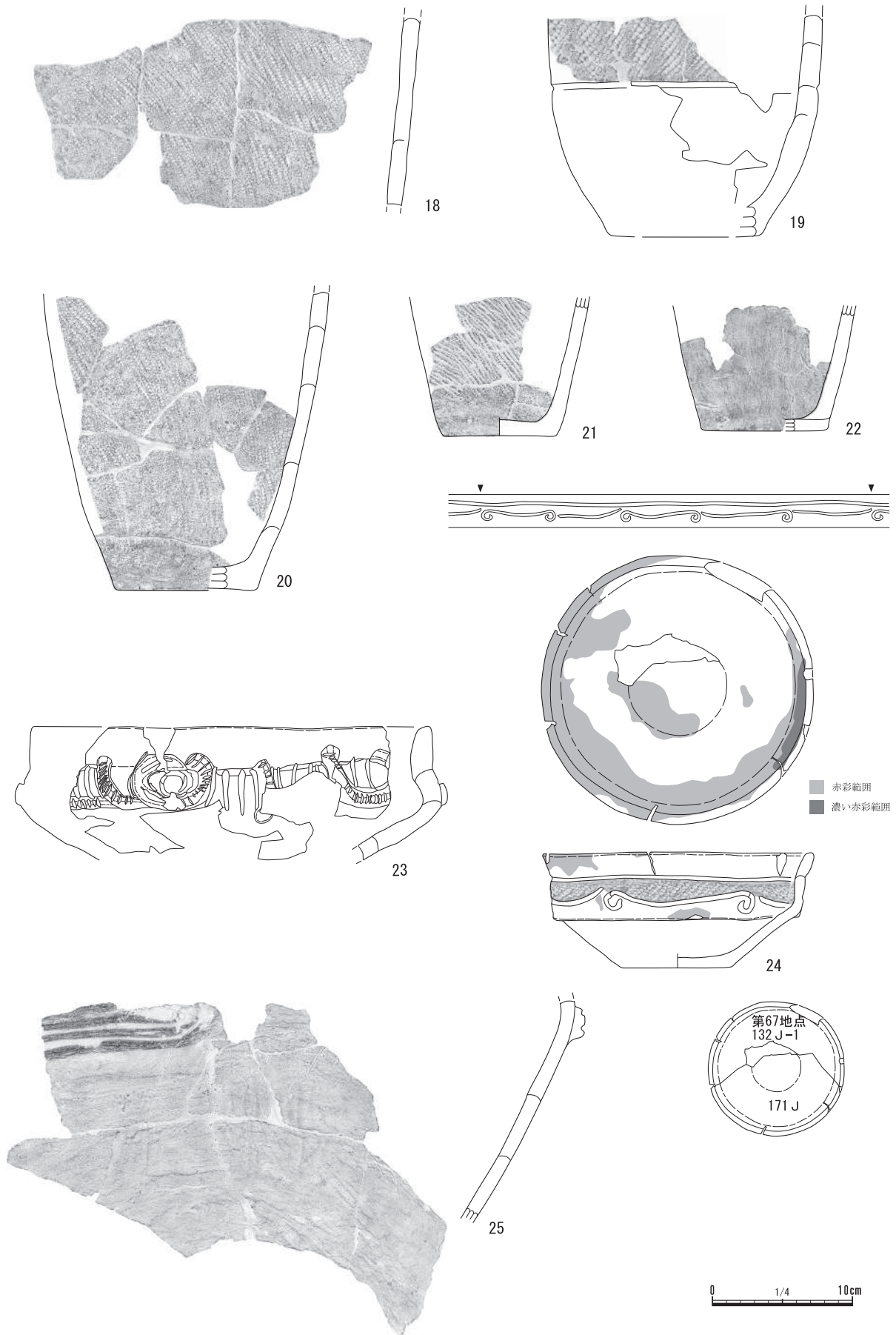




第62図 171号住居跡出土遺物2 (1/4)

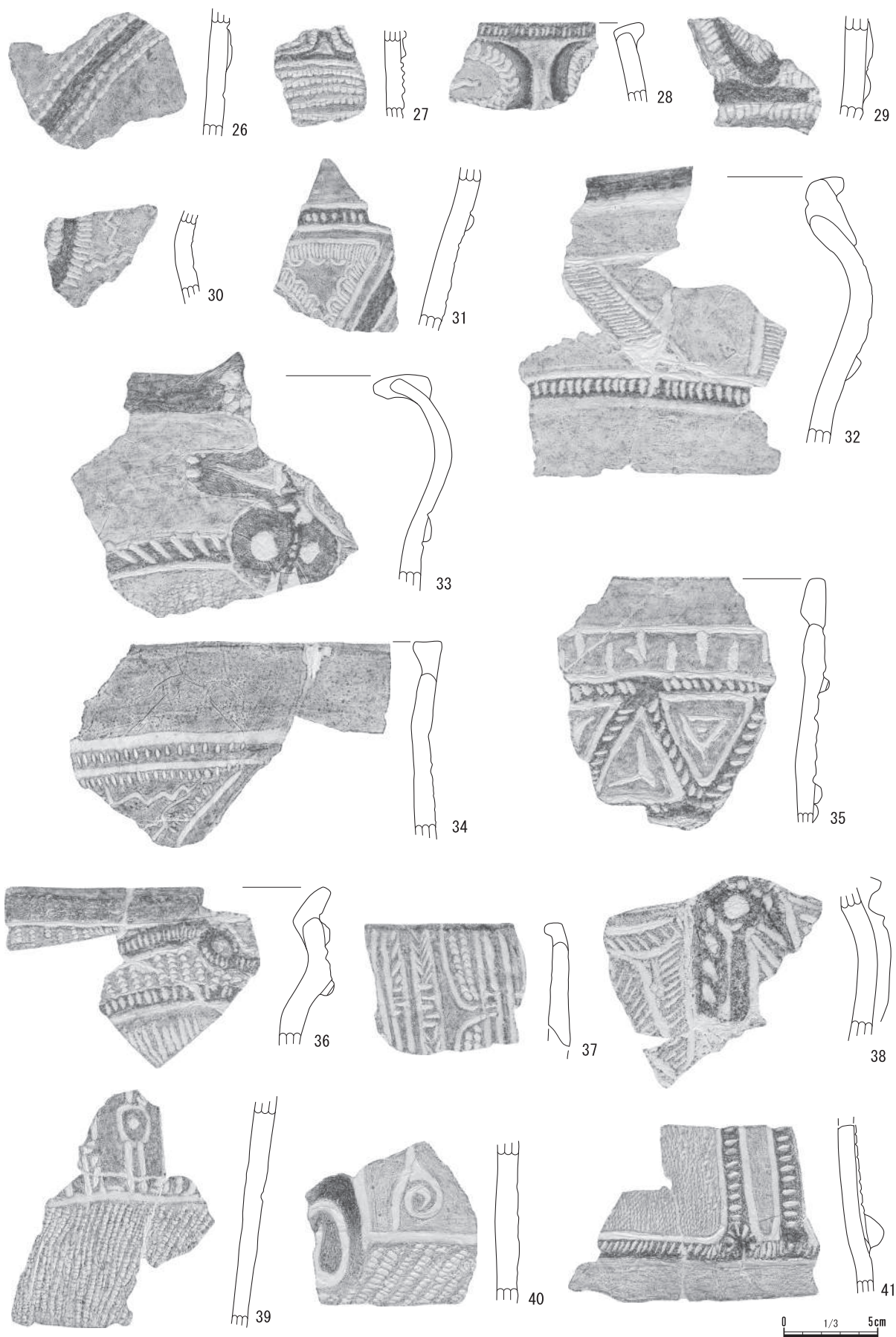


第63図 171号住居跡出土遺物3 (1 / 4)



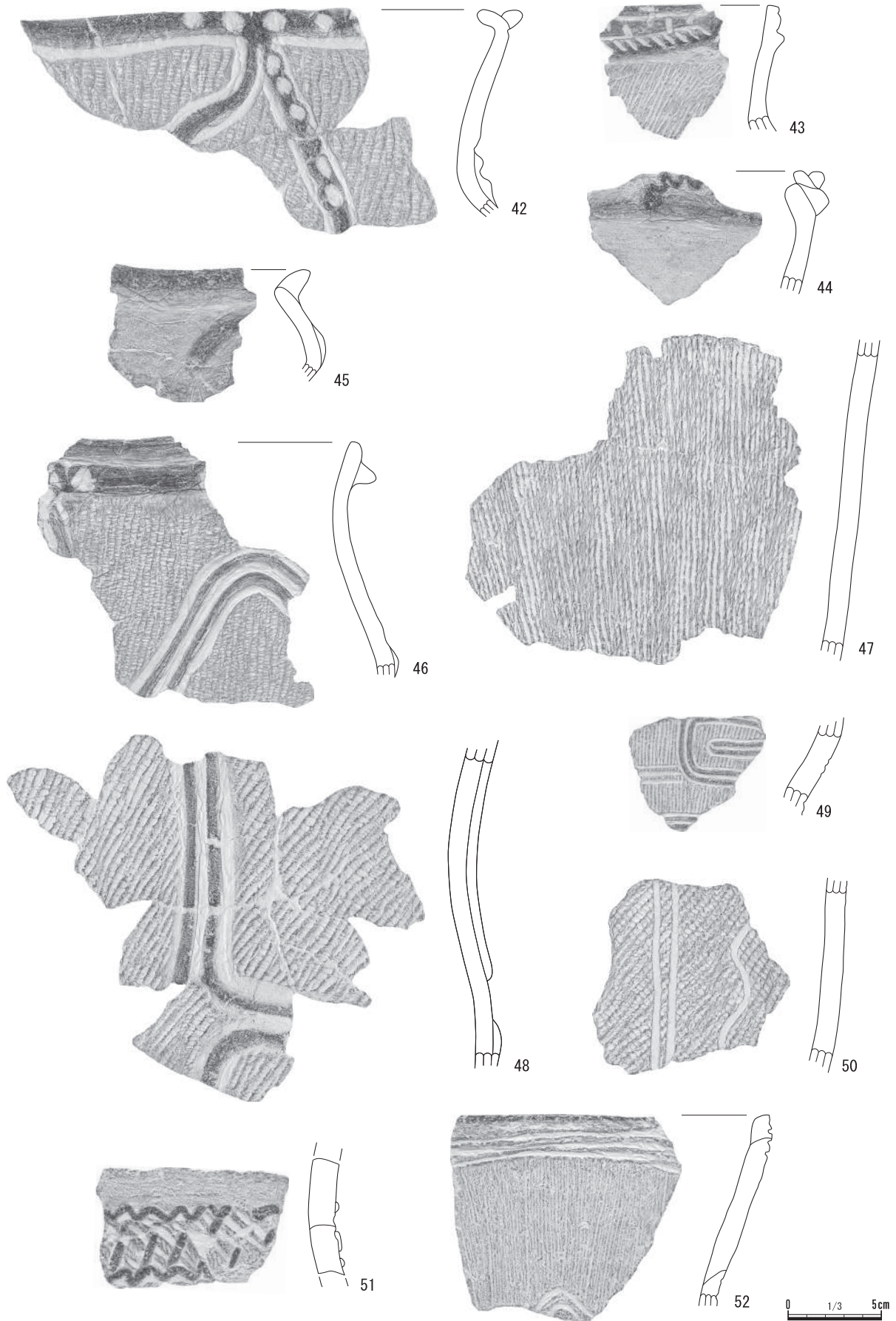
第64図 171号住居跡出土遺物4 (1/4)



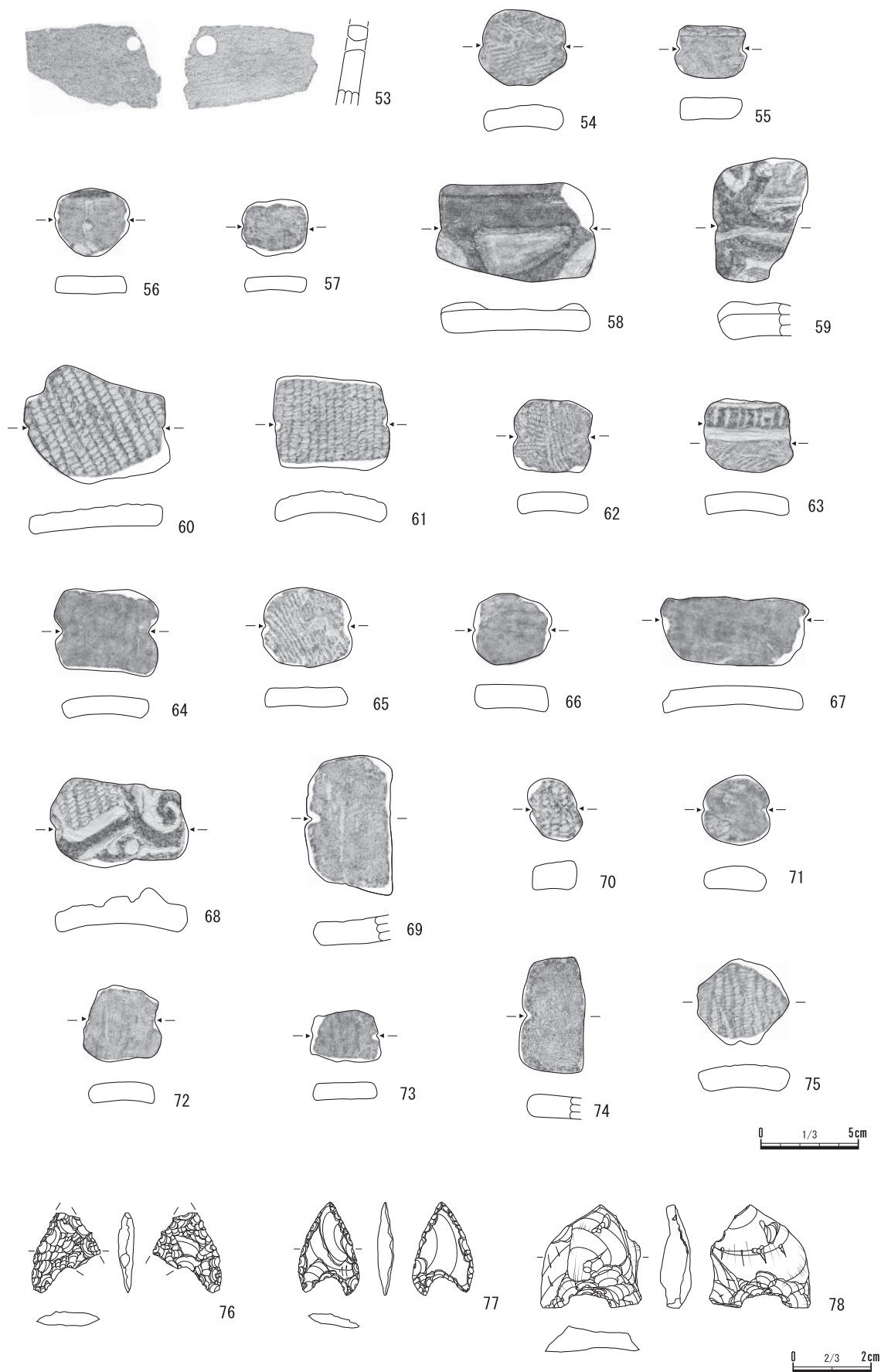


第65図 171号住居跡出土遺物5 (1 / 3)

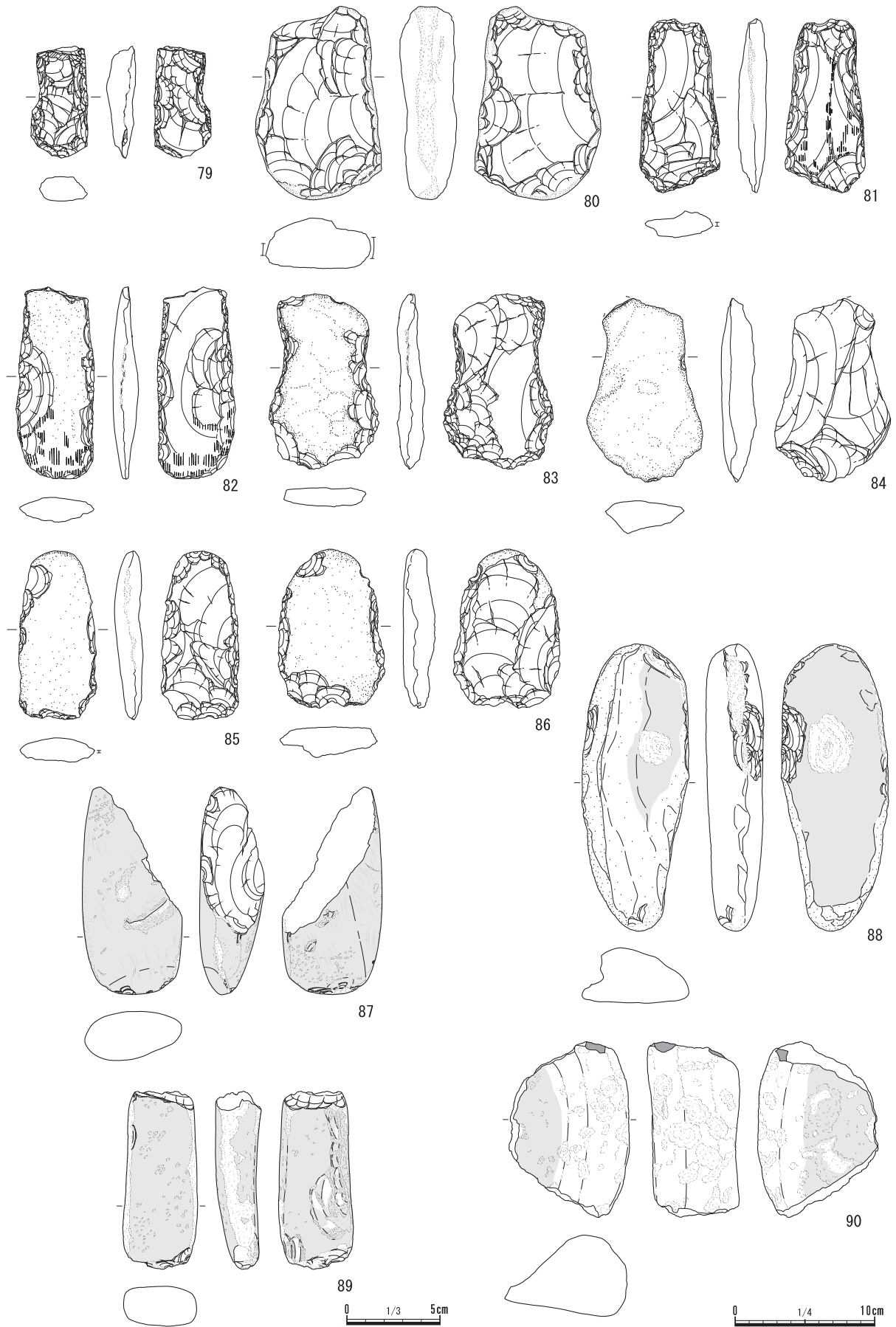




第66図 171号住居跡出土遺物6 (1 / 3)



第67図 171号住居跡出土遺物7 (1/3・2/3)



第 68 図 171 号住居跡出土遺物 8 (1 / 3・1 / 4)



第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第 61 図 1 図版 31-2-1	深鉢	口縁部 90%	高 [16.0] 口 32.8 厚 1.2	やや内湾して広がる口縁部からさらに外傾して立上がる口縁部が付く／口唇部は肥厚	口唇部には沈線が巡る／上端に連鎖状隆帯が巡る無文の口縁部が付く、二重口縁となる／無文の口縁部直下に巡る隆帯上には矢羽状沈線／下段の口縁部には、地文に0段多条RL縦位施文後、太い網状の隆帯を3本垂下(1本は剥落)させ区画し、区画内には中央に沈線が引かれた太い背割り隆帯によるS字状文を3単位配す	明黄褐／砂粒多量、礫中量、雲母微量	勝坂 3b 新式	炉体
第 61 図 2 図版 31-2-2	深鉢	口縁部～ 胴部中位 60%	高 [17.7] 口 30.0 厚 0.8	キャリパー形／胴部中位から頸部まで外半／口縁部で緩やかに内湾／口唇部肥厚	地文は燃糸Lで、口縁部は横位、胴部は縦位施文／口縁部は2本1対の隆帯により端部が渦巻状を呈する弧状文を配す／一部の渦巻状文から沈線が3本垂下／頸部は無文／胴部上端に隆帯が巡り、1～2本1対の隆帯が直状に垂下／隆帯は背が低く抑えも甘い	にぶい赤褐／砂粒・礫多量	加曾利 E1b 式	炉南側 床上 11～ 22cm
第 61 図 3 図版 31-2-3	深鉢	口縁部～ 東部上位 80%	高 [13.8] 口 22.0 厚 0.9	直線的に立上がる胴部／内湾して広がる口縁部／キャリパー形／口唇部で肥厚	頸部に背の低い断面カマボコ状の隆帯横走／口縁部上位には半球状の貼付文が2箇所対称位に施される／地文は単節RLで、口縁部・胴部ともに施文方向は一定でない／半球状貼付文の一部と頸部の隆帯上	橙／砂粒・礫少量	勝坂 3b 新式	南部 床上 1～ 16cm
第 61 図 4 図版 31-2-4	深鉢	口縁部～ 胴部中位 30%	高 [32.5] (26.0) 厚 1.1	キャリパー形／やや外傾する胴部／内湾して広がる口縁部／口唇部内面で断面三角形形状に肥厚	口縁部には大形の山形把手／把手から無文の口縁部に鎖状の隆帯垂下／頸部には2本1対の隆帯が巡る／胴部は0段3条RL斜位施文後、隆帯が一部ト字状に垂下／隆帯は断面カマボコ状で抑えはやや甘く、一部に交互刺突が付される	暗赤褐／砂粒微量	勝坂 3b 新式	北部 床上 13.5 ～ 50cm
第 61 図 5 図版 31-2-5	深鉢	口縁部～ 底部 50%	高 23.8 口 (18.3) 底 (7.8) 厚 1.0	開く口縁部を持つ円筒形／底部から僅かに膨らみながら立ち上がり、胴部上位で最大径を持ち、頸部で括れ、口縁部は直線的に開き、口唇部は内	口縁部は無文／頸部に交互刺突が施された隆帯が、胴部中位には押圧文が付された隆帯が巡り画す／文様帯内には、一方の沈線間に交互刺突を伴う3本1対の沈線による重台形区画文を配す／台形区画文内には押圧文が沿う三叉状文が充填／胴下位は胴部中位の隆帯貼付後に0段多条単節RL縦位施文	暗赤褐／砂粒・礫少量	勝坂 3b 新式	中央西側 床上 25～ 29cm
第 62 図 6 図版 31-2-6	深鉢	口縁部～ 底部 50%	高 41.6 口 (24.5) 底 (11.0) 厚 1.0	円筒形／平坦な底部／胴部は中位まで僅かに膨らみながら立ち上がり、上位はやや直線的に広がる／口唇部で内折	口縁部は無文で、沈線により胴部と画す／口唇部から矢羽状沈線が付された隆帯が垂下／胴部中位に押圧文が付された隆帯が巡り上半と下半を画す／胴部上半はさらに大きく背の低い隆帯による円形区画文を配す上段と、押圧文が付された隆帯による楕円区画文を配す下段に画す／楕円区画文内には縦位沈線文列・交互刺突・交互沈線文が充填／胴部下半は0段3条RL斜位施文で底部付近は無文	にぶい黄褐／砂粒中量・礫少量	勝坂 3b 新式	炉西側 床上 8.5cm
第 62 図 7 図版 32-7	深鉢	口縁部～ 胴部下位 70%	高 [31.4] 口 (18.3) 厚 1.2	円筒形／胴部から口縁部までやや広がりながら直線的に立上がる／口縁部上端内面で肥厚	幅広の無文の口縁部／胴部は押圧文が付された隆帯により上下半に画す／胴上半には押圧文が付された隆帯により渦巻状文・三角文・Y字状文等の区画文を配す／区画文間は単沈線による三叉状文・渦巻状文・三角押文列を充填／胴下半には隆帯貼付後に単節RLが横位ないし斜位施文	橙／砂粒多量、礫微量	勝坂 3b 新式	炉西側 床上 1～8 cm
第 62 図 8 図版 32-8	深鉢	口縁部～ 底部 60%	高 41.7 (32.8) 口 10.0 厚 1.1	円筒形／平坦な底部／胴部は中位まで僅かに膨らみながら立ち上がり、上位はやや直線的に広がる／口縁部は外傾／波状口縁	口縁部は無文／波状口縁の波頂部から押圧文・三角押文が付された隆帯が垂下／胴部は、中位に巡る隆帯により上半と下半を画す／胴部上半は押圧文が付された隆帯による渦巻状文・弧状文区画文を配す／隆帯脇には単沈線2本が沿う／区画文内には縦位沈線文列が充填／胴部下位は中位に巡る隆帯施文後に斜方向の縦位沈線が充填	暗赤褐／砂粒中量・礫少量	勝坂 3b 新式	炉西側 床上 9.5～ 45cm

第 35 表 171 号住居跡出土土器一覽 (1)



挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第 62 図 9 図版 32-9	深鉢	口縁部～ 底部 30%	高 33.2 口 (27.6) 底 8.6 厚 0.9	円筒形／平坦な底 部からほぼ直線的 に立上がり、口縁 部上端内面で肥厚 ／ややバケツ形を 呈すか	口縁部上位は無文で、下位には交互刺突を 伴う沈線が横位に巡る／胴部上端と中位に 押圧文が付された隆帯が巡り、やや狭い文 様帯を形成／文様帯内には押圧文が付され た隆帯により渦巻状文・V字状の区画文が 配され、区画文内には交互刺突や三叉状文 が充填／胴部中位以下は、単節 RL 斜位施 文で、条が横方向となる	暗赤褐／砂粒・ 礫中量、白色 チャート角礫(3 ～7mm) 少量	勝坂 3b 新 式	P8東側 床上12～ 32.5cm
第 63 図 10 図版 32-10	深鉢	口縁部～ 胴部中位 70%	高 [19.1] 口 (28.0) 厚 1.1	円筒形／胴部から 口縁部まで広がり ながら直線的に立 上がる／口唇部内 面で断面三角形状 に肥厚	口縁部は無文で、太い横位沈線により胴部 と画す／胴部には押圧文の付された隆帯に より横位に展開する渦巻状ないしS字状の 区画文を配す／区画文間は、押圧文を伴う 沈線により区画され、沈線による三叉状文 を充填	にぶい赤褐／砂 粒多量、礫中量	勝坂 3b 新 式	北側 床上20～ 46cm
第 63 図 11 図版 32-11	深鉢	口縁部～ 胴部下位 70%	高 [26.2] 口 (25.4) 厚 1.1	胴部下位から口縁 部までほぼ直線的 に広がりながら立 上がる／円筒形／ 口縁部上端内面で やや肥厚	口縁部は無文で、太い横位沈線により胴部 と画し、胴部上位に巡る断面カマボコ状の 隆帯との間で狭い文様帯を形成／文様帯内 にはC字・逆C字状の隆帯により見かけ上 の楕円区画文を配す(3単位確認、4単位か) ／区画文内は無文／隆帯貼付後、胴部中位 以下には単節 RL が横位ないし斜位施文	明黄褐／砂粒・ 礫少量	勝坂 3b 新 式	P2北側 床上26cm
第 63 図 12 図版 32-12	深鉢	口縁部～ 胴部上位 40%	高 [20.6] 口 (20.7) 厚 0.9	やや開く胴部／口 唇部内面で肥厚	口縁部に山形の突起が付き、渦巻状の貼付 文が垂下／口縁部は無文／胴部上半には押 圧文が付された隆帯による懸垂文や渦巻状 の区画文／区画文下位には単沈線による三 叉状文や斜行沈線文列が充填	にぶい橙／砂 粒・礫中量	勝坂 3b 新 式	中央 南寄り 床上26cm
第 63 図 13 図版 33-13	深鉢	胴部上位 ～下位 50%	高 [13.4] 厚 0.8	直線的に開く胴部	胴部中位に押圧文が付された隆帯が巡り、 上位と下位を画す／胴部上位には押圧文や 交互刺突が付された隆帯による渦巻状・三 角形状区画文を配す／隆帯脇には単沈線 2 本が沿う／区画文内には沈線文列や三叉文 が充填／胴部下位には0段多条単節 RL 斜 位施文	褐／砂粒多量、 礫中量、結晶片 岩微量	勝坂 3b 古 式	中央 西寄り 床上3.5～ 31cm
第 63 図 14 図版 33-14	深鉢	口縁部～ 胴部中位 40%	高 [19.4] 口 (20.4) 厚 0.8	僅かに外反しなが ら窄まる胴部／括 れる頸部／口縁部 は外反して開く／ 口唇部外面で断面 三角形状に肥厚	地文は擦糸Lで、口縁部上端は太く浅い沈 線ないしナデにより無文／頸部にはやや細 い隆帯が巡り、胴部には直状懸垂文・渦巻 文が連結した区画文を配す／頸部に巡る隆 帯と懸垂文・渦巻文が接する箇所には舌状 の突起が付く／内面に一部赤彩	にぶい赤褐／砂 粒少量、礫少量	勝坂 3b 新 式	P9～炉 床上8.5～ 18.5cm
第 63 図 15 図版 33-15	深鉢	口縁部～ 胴部下位 80%	高 [27.9] 口 25.4 厚 0.8	胴部下位に稜を持 つ屈折底／胴部中 位から口縁部にか けて外反して広が る／口唇部は断面 三角形状に肥厚	口縁部に円環状の把手が付く／把手の孔に 沈線が沿う／口唇部を除く器面全面に0段 多条単節 RL 斜位施文／頸部から胴部下位 の屈折部まで、押さえの甘いやや細い隆帯 による直状懸垂文・渦巻文・波状文が連結 した区画文を5単位配す／頸部に巡る隆帯 と懸垂文・渦巻文が接する箇所には舌状 の突起が付される／口唇部内面に一部赤彩を 残すか	にぶい黄橙／砂 粒・礫少量	勝坂 3b 新 式	炉東側 床上8～ 18cm
第 63 図 16 図版 33-16	深鉢	口縁部～ 底部 95%	高 16.2 口 7.7 底 5.8 厚 0.5	平坦な底部から膨 らみながら立上が る胴部下位／胴部 中位から口縁部は 僅かに外反しなが ら窄まる／小形	口唇部には2本1対の隆帯が巡り、対称位 に突起を形成／口縁部以下は0段多条 R L 斜位施文／施文順序は隆帯貼付→地文施 文か	にぶい黄橙／砂 粒多量、礫少量	勝坂 3b 新 式	P5北西側 床面直上
第 63 図 17 図版 33-17	深鉢	胴部上位 ～下位 40%	高 23.8 厚 1.0	胴部下位に稜を持 つ屈折底／やや開 く胴部／頸部外反	やや節が大きい単節 RL 横位施文が全面に 施される	にぶい黄褐／砂 粒多量、礫微量	勝坂 3 式	南西部 床上18 ～35.5cm
第 64 図 18 図版 33-18	深鉢	胴部 30%	厚 0.9	ほぼ直線的に開く 胴部	地文は単節 RL 横位施文で、施文単位ご との間隙がやや目立つ	明赤褐／砂粒多 量、礫微量	勝坂 3 式	炉西側 覆土上層

第 35 表 171 号住居跡出土土器一覽 (2)

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第 64 図 19 図版 33-19	深鉢	胴部下位 ～底部 20%	高 [16.9] 底 (10.8) 厚 1.3	僅かに外反しなが ら立上がる胴部下 位	胴部下位に横位に沈線が巡り、以下の無文 部と画す／胴部の地文は単節 RL 縦位施文 で、底部付近は無文	橙／砂粒・礫多 量、白色チャ ート角礫 (3～7 mm) 中量	勝坂 3 式	炬東側 覆土上層
第 64 図 20 図版 33-20	深鉢	胴部中位 ～底部 40%	高 [21.2] 底 (10.4) 厚 1.1	僅かに上げ底状を 呈する／やや膨ら みながら立上がる	底部付近を除き、単節 LR 縦位施文／外面 は被熱により一部赤化し、全体的に摩滅が 顕著	橙／砂粒多量、 礫少量	勝坂 3 式	中央 床上 22～ 30.5cm
第 64 図 21 図版 33-21	深鉢	胴部下位 ～底部 30%	高 [10.0] 底 (8.0) 厚 0.8	平坦な底部／直線 的に開く胴部下位	底部付近を除き、やや条が狭い燃糸 R 斜位 施文が施される	明褐／砂粒・礫 中量	勝坂 3 式	中央 床上 28～ 34cm
第 64 図 22 図版 33-22	深鉢	胴部下位 ～底部 30%	高 [9.0] 底 (9.0) 厚 1.0	平坦な底部／直線 的に開く胴部下位	無文	にふい赤褐／砂 粒少量、礫微量	勝坂 3 式	炬西側 床上 5.5～ 22.5cm
第 64 図 23 図版 33-23	浅鉢	口縁～体 部中位 40%	高 [9.5] 口 (28.4) 厚 1.2	直線的に広がる体 部／口縁部下半で 強く内湾し、上半 で肥厚して直立	口縁部上半は無文／口縁部下半は押圧文が 付された隆帯による円形・反円形区画文／ 区画文内は縦位沈線や円形文が充填／体部 は無文	にふい黄橙／砂 粒中量、礫少量、 チャート礫微量	勝坂 3b 式	P1 東側 床上 31～ 46cm
第 64 図 24 図版 33-24	浅鉢	完形	高 8.3 口 19.8 底 8.0 厚 0.6	平坦な底部からほ ぼ直線的に開く体 部／口縁部はほぼ 垂直に立上がり、 上端でやや肥厚し て外傾	口縁部上端は無文／口縁部上半には単節 RL が縦位施文され、中位には端部が渦巻状を 呈する横位沈線による M 字状・蕨状文や弧 状文を計 5 単位配す／体部は無文／口縁部 内面を中心に赤彩が確認できる／132J 出 土の遺物第 19 図 1 と接合	にふい黄橙／砂 粒中量、礫少量	加曾利 E1c 式	171J: 床上 6.5cm 132J: 炬 A 東側床上 14cm
第 64 図 25 図版 33-25	浅鉢	口縁部～ 体部下半 30%	厚 0.9	緩やかに内湾しな がら立上がる	口縁部上端に、沈線 2 本が施された幅広の 背割隆帯が横走／体部は無文／内面に赤色 顔料付着	橙／砂粒・礫・ 雲母多量	勝坂 3b 新 式	北側 覆土中～ 上層
第 65 図 26 図版 34-26	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	直線的に広がる／ やや外傾	断面三角形のやや太めの隆帯による斜位方 向の懸垂文／隆帯脇には半截竹管状工具の 押しきによる 2 列の結節沈線が沿う	明赤褐／砂粒・ 礫少量、雲母多 量	阿玉台 II 式	P2 北側 覆土下層
第 65 図 27 図版 34-27	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	ほぼ直線的に立上 がる	断面カマボコ状の細めの隆帯による楕円区 画文／隆帯脇は結節沈線が沿う／区画文間 には横位に結節沈線文列が充填	にふい黄橙／砂 粒・礫少量、 チャート角礫微 量	阿玉台 II 式	覆土中
第 65 図 28 図版 34-28	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	やや内湾する胴部 ／口縁部上端外面 で肥厚	口縁部上端に押圧文が付された隆帯が巡る ／口縁部には隆帯による楕円区画文か／区 画文内側の隆帯脇には先端加工された竹管 状工具による角押文が沿う／区画文内中央 には横位方向の波状沈線	にふい黄橙／砂 粒・礫多量、雲 母中量	勝坂 1a 式	中央 覆土中層
第 65 図 29 図版 34-29	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	ほぼ直線的に立上 がる／僅かに外傾	断面カマボコ状の隆帯による区画文／隆帯 脇には幅広角押文	にふい黄橙／砂 粒・礫中量	勝坂 1a 式	東壁際 覆土中層
第 65 図 30 図版 34-30	深鉢	頸部 破片	厚 0.9	屈曲する頸部	断面カマボコ状の隆帯／隆帯脇には幅広角 押文と波状沈線が沿う	明赤褐／砂粒・ 礫・雲母多量	勝坂 2 式	覆土中
第 65 図 31 図版 34-31	深鉢	口縁部下 半～胴部 破片	厚 1.1	緩やかに内湾する	一部に角押文が付された隆帯による三角区 画文／隆帯脇には半截竹管状工具腹面によ る並行沈線／区画文内には幅広角押文によ る蓮華文 (温泉マーク文)	にふい赤褐／砂 粒・礫中量	勝坂 2 式	中央 覆土上層
第 65 図 32 図版 34-32	深鉢	口縁部～ 胴部上半 破片	厚 1.2	頸部で外反し、口 縁部で内湾／口縁 部上端外面で肥厚	口縁部上端は無文／半截竹管状工具の腹面 による半円形の押圧文が付された隆帯によ り、口縁部と頸部を画す／口縁部には 2 本 の沈線による区画文が配され、沈線間には 横位沈線が充填	にふい褐／砂 粒・礫多量	勝坂 3b 式	P1 北側 覆土上層
第 65 図 33 図版 34-33	深鉢	口縁部～ 胴部上半 破片	厚 1.2	内湾する口縁部/ 内折する口唇部	口縁の突起部から押圧文を付した隆帯が頸 部の眼鏡状突起まで垂下／口縁部は無文/ 沈線による押圧文が付された隆帯が巡る/ 胴部に 0 段多条単節 R L 斜位施文	明赤褐／砂粒・ 礫中量	勝坂 3b 式	北壁際 覆土上層
第 65 図 34 図版 34-34	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	口唇部内面で肥厚 ／円筒形か	口縁部無文／胴部には押圧文が沿う沈線に よる区画文／区画文内に波状沈線	橙／砂粒・礫中 量	勝坂 3b 式	炬東側 覆土下層
第 65 図 35 図版 34-35	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	ほぼ直立する／口 縁部上端内面で肥 厚	口縁部上半は無文で、下半は横位沈線とそ れに直行する縦位の単沈線が上下交互に施 文／胴部上位は押圧文の付された隆帯によ る重三角区画文／隆帯脇には単沈線 1 本が 沿う／区画文内には沈線による三叉文・三 角文が充填	にふい赤褐／砂 粒・礫多量	勝坂 3b 式	炬西側 覆土上層

第 35 表 171 号住居跡出土土器一覧 (3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土位置
第 65 図 36 図版 34-36	深鉢	口縁部～ 頸部 破片	厚 1.2	頸部で外反して広がる／口縁部でやや内湾／口唇部外折	押圧文が付された断面カマボコ状の隆帯により口縁部と頸部を画す／口縁部には押圧文の付された隆帯による S 字状文が配され、空白部には三角押文列が充填／頸部には撚糸 R 縦位施文	にぶい赤褐／砂粒多量、礫微量	勝坂 3b 式	P1 南側覆土上層
第 65 図 37 図版 34-37	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	ほぼ直立／口縁部所単で器壁がやや薄くなる／口唇部	沈線による区画文／沈線間には矢羽状文・交互刺突文・先丸角押文が充填	赤褐／砂粒・礫多量	勝坂 3b 式	P8 東側覆土上層
第 65 図 38 図版 34-38	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	内湾して広がる口縁部	口縁部上端に付された円形突起から太い隆帯が垂下／隆帯上には沈線が斜位方向に付され、隆帯脇には単沈線 1 本が沿う／沈線と幅広角押文、三叉状文が施され	赤褐／砂粒・礫多量	勝坂 3b 式	P1 南東側覆土上層
第 65 図 39 図版 34-39	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	やや直線的に外傾	横走る沈線により胴部上半と下半を画す／胴部上半には沈線による区画文が配され、円形文や交互刺突文が伴う／胴部下半は単節 R L 斜位施文	明赤褐／砂粒・礫多量、チャート角礫少量	勝坂 3b 式	炉西側覆土上層
第 65 図 40 図版 34-40	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	ほぼ直立する胴部	僅かな稜と沈線により胴部上半と下半を画す／上半は沈線による渦巻文／下半は単節 R L 縦位施文／上半から垂下すると思われる渦巻状隆帯	にぶい黄橙／砂粒・礫多量	勝坂 3b 式	P9 上覆土中層
第 65 図 41 図版 34-41	深鉢	胴部下位 ～底部 破片	厚 0.8	膨らむ底部／窄まりながら立上がる胴部	押圧文が付された隆帯により胴部と底部を画し、胴部に垂下する隆帯との結節部で突起状を呈す／胴部に垂下する隆帯間は無文／隆帯脇には沈線が 1 本沿う／胴部には撚糸 L 縦位施文／底部は無文	赤褐／砂粒・礫中量	勝坂 3b 式	P8 東側覆土上層
第 66 図 42 図版 34-42	深鉢	口縁部～ 胴部中位 20%	厚 1.0	頸部で括れ、口縁部で開く／口唇部は内折／口縁部は波状を呈するか	口唇部には沈線と押圧が付される／地文は 0 段多条単節 R 1 斜位施文／口縁部上端から一部に交互刺突を施された断面カマボコ状の隆帯が垂下	にぶい黄橙／砂粒・礫中量	勝坂 3b 式	中央覆土中～上層
第 66 図 43 図版 34-43	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	頸部で括れ、口縁部でやや開くか	口縁部上端には沈線を斜位に付した隆帯が弧状に横走り、隆帯と口唇部間には交互刺突文／隆帯以下には撚糸 L 縦位施文	にぶい黄褐／砂粒・礫微量	勝坂 3b 式	南西部覆土中層
第 66 図 44 図版 34-44	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	僅かに膨らみながら広がり、口唇部で肥厚	口唇部には波状隆帯が貼付された突起／口縁部は無文／僅かに赤色顔料が付着	黒褐／砂粒多量・礫微量	勝坂 3b 式	P8 東側覆土上層
第 66 図 45 図版 34-45	浅鉢	口縁部～ 体部上 位破片	厚 0.8	広がる体部／口縁部で内湾し、口唇部は外折	地文無文の口縁部に断面カマボコ状の隆帯による弧状文／体部は無文	橙／砂粒少量、礫・雲母多量	阿玉台Ⅲ式	P1 上覆土中層
第 66 図 46 図版 34-46	深鉢	口縁部～ 胴部中位 30%	厚 0.9	胴部中位で膨らみ、頸部で窄まり、口縁部で外反	地文は 0 段多条単節 R L 縦位施文／口縁部上端に一部交互刺突が付された太く背の高い隆帯が横走／胴部には 2 本 1 対の隆帯による波状文	にぶい赤褐／砂粒・礫少量	勝坂 3 式～ 加曾利 E1 式	炉北側覆土下層
第 66 図 47 図版 34-47	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	直線的に開く胴部	胴部には撚糸 L 縦位施文のみ	にぶい褐／砂粒・礫中量	加曾利 E1 式	中央覆土下層
第 66 図 48 図版 34-48	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	胴部下位で膨らみ、胴部中位で窄まる	地文は単節 R L 縦位施文／胴部には太い 2 本 1 対の隆帯が垂下し、胴部下位で十字文を形成するか	にぶい褐／砂粒多量、礫中量、雲母少量	加曾利 E1 式	中央南寄り覆土上層
第 66 図 49 図版 35-49	深鉢	口縁部か 破片	厚 1.1	外傾する口縁部か	地文は撚糸 L 縦位施文／一端を重ねた半截竹管状工具の腹面引きによる方形渦巻状文	にぶい赤褐／砂粒・礫多量	加曾利 E1 式	炉北側覆土上層
第 66 図 50 図版 35-50	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	わずかに内湾する	地文は単節 R L 縦位施文／2 本 1 対の直状沈線と 1 本の波状沈線が垂下	橙／砂粒・礫微量	加曾利 E2 式	炉東側覆土上層
第 66 図 51 図版 35-51	深鉢	頸部 破片	厚 1.3	屈曲する頸部	頸部には右下がりの沈線上に細い隆帯が左下がりに貼付され、上端と下端にも細い波状隆帯が横走り区画	浅黄橙／砂粒・礫中量	曾利Ⅱ式	炉南西側覆土上層
第 66 図 52 図版 35-52	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	直線的に開く	地文は条線／口縁部上端には 3 本 1 対の沈線が巡る／口縁部下端には複数列の沈線による弧状文	にぶい赤褐／砂粒少量、礫中量、3～6mm 円礫少量	連弧文	東壁際覆土上層
第 67 図 53 図版 35-53	深鉢 か	胴部 破片	厚 1.0	外傾する	無文／焼成後に内外面から穿孔あり／補修孔か	にぶい赤褐／砂粒・礫微量	勝坂式か	東側覆土中層

第 35 表 171 号住居跡出土土器一覧（4）

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	種別	遺存 状態	長さ／幅／厚み (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 型式	出土位置
第 67 図 54 図版 35-54	土器片錘	完形	4.5 / 3.8 / 1.1	21.6	楕円形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用／単節 R 施文／捺糸圧痕文	明赤褐／砂粒多量、礫微量	五領ヶ台式	中央南寄り 覆土中層
第 67 図 55 図版 35-55	土器片錘	完形	3.7 / 2.7 / 1.1	14.6	方形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗／深鉢胴部片利用／竹管状工具の押しきによる結節沈線	にぶい黄褐／砂粒・礫・雲母中量	阿玉台 I 式	覆土中
第 67 図 56 図版 35-56	土器片錘	完形	3.8 / 3.5 / 0.9	15.2	円形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗／深鉢胴部片利用／細い隆帯貼付／ヘラ状工具による押し文	灰褐／砂粒中量、礫微量、雲母少量	阿玉台 II 式	炉西側 覆土上層
第 67 図 57 図版 35-57	土器片錘	完形	3.4 / 2.7 / 0.7	9.8	方形／挾部 1ヶ所／周縁摩耗顕著／利用部位不明／無文	黒褐／砂粒・礫・雲母微量	阿玉台式	覆土中
第 67 図 58 図版 35-58	土器片錘	完形	8.2 / 4.9 / 1.0	85.0	方形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗顕著／浅鉢口縁部片利用／幅広隆帯による区画文	にぶい赤褐／砂粒・礫中量	勝坂 3 式	東壁際 覆土上層
第 67 図 59 図版 35-59	土器片錘	50%	[4.8] / 6.2 / 1.7	56.0	方形か／挾部 1ヶ所確認／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用か／一部に押し文が付された太い隆帯による区画文	にぶい黄褐／砂粒・礫中量	勝坂 3 式	P9 南西部 床面直上
第 67 図 60 図版 35-60	土器片錘	70%	7.1 / 5.6 / 1.0	57.5	楕円形か／挾部 2ヶ所確認／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用か／単節 R L 斜位施文	明黄褐／砂粒・礫少量、4～10mm 垂角礫	勝坂 3 式	P1 南東側 覆土上層
第 67 図 61 図版 35-61	土器片錘	完形	5.8 / 4.7 / 1.1	49.6	方形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用／0 段多条単節 R L 斜位施文	黒褐／砂粒・礫微量	勝坂 3 式	中央南寄り 覆土上層
第 67 図 62 図版 35-62	土器片錘	完形	4.0 / 3.6 / 0.9	19.2	方形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用／単節 R L 施文	にぶい赤褐／砂粒・礫微量	勝坂 3 式	中央南寄り 覆土中層
第 67 図 63 図版 35-63	土器片錘	完形	4.4 / 3.6 / 0.9	27.0	方形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗／深鉢胴部片利用／押し文が付された断面カマボコ状の隆帯／隆帯脇には単沈線	にぶい赤褐／砂粒・礫少量	勝坂 3 式	中央 覆土下層
第 67 図 64 図版 35-64	土器片錘	完形	5.3 / 4.3 / 0.9	34.4	方形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗顕著／浅鉢体部片利用か／無文／赤色顔料付着	にぶい黄褐／砂粒・礫中量、雲母少量	勝坂式	炉北東側 床面直上
第 67 図 65 図版 35-65	土器片錘	完形	4.6 / 5.1 / 1.0	23.0	楕円形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用／単節 R L	明赤褐／砂粒多量、礫微量	勝坂式	P2 南西側 床面直上
第 67 図 66 図版 35-66	土器片錘	90%	4.0 / 3.6 / 1.2	23.0	円形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗／口縁部片利用か／無文	黒褐／砂粒中量、礫微量	勝坂式	覆土中
第 67 図 67 図版 35-67	土器片錘	60%	7.6 / [3.5] / 1.0	38.2	方形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗僅か／浅鉢口縁部片利用か／無文	灰褐／砂粒・礫中量	勝坂式	西壁際 覆土上層
第 67 図 68 図版 35-68	土器片錘	90%	6.8 / 4.2 / 1.0	54.0	方形か／挾部 2ヶ所／周縁摩耗／深鉢胴部片利用か／地文は単節 R L 縦位施文／一部に押し文・矢羽状沈線が付された太い隆帯による区画文	暗褐／砂粒多量、礫微量	勝坂 3 式 ～加曾利 E1 式	P4 上 覆土上層
第 67 図 69 図版 35-69	土器片錘	60%	[4.4] / 7.0 / 1.2	51.5	方形／挾部 1ヶ所確認／周縁摩耗顕著／深鉢頸部片利用／無文	にぶい黄橙／砂粒・礫多量	加曾利 E1 式か	P4 上 覆土下層
第 67 図 70 図版 35-70	土器片錘	完形	2.6 / 3.1 / 1.4	12.4	楕円形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗／深鉢胴部片利用／単節 R L 施文	明黄褐／砂粒・礫多量	中期中葉 ～後葉	覆土中
第 67 図 71 図版 35-71	土器片錘	完形	3.5 / 3.6 / 1.2	17.6	円形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗顕著／口縁部片利用か／一部に原体不明縄文施文	にぶい黄褐／砂粒・礫少量	中期中葉 ～後葉	覆土中
第 67 図 72 図版 35-72	土器片錘	完形	3.9 / 3.9 / 0.9	19.0	方形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗僅か／利用部位不明／無文	にぶい赤褐／砂粒・礫微量	中期中葉 ～後葉	P7 東側 覆土中層
第 67 図 73 図版 35-73	土器片錘	完形	3.6 / 2.6 / 0.8	10.6	方形／挾部 2ヶ所／周縁摩耗僅か／利用部位不明／無文	にぶい褐／砂粒・礫微量	中期中葉 ～後葉	覆土中
第 67 図 74 図版 35-74	土器片錘	50%	3.3 / 5.9 / 1.1	30.4	方形／挾部 1ヶ所確認／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用か／無文	明黄褐／砂粒・礫多量	中期中葉 ～後葉	炉東側 覆土下層
第 67 図 75 図版 35-75	土器片錘	90%	4.7 / 4.3 / 1.2	26.6	円形／挾部 1ヶ所／周縁摩耗／深鉢胴部片利用／単節 R L 斜位施文	にぶい黄褐／砂粒・礫中量	中期中葉 ～後葉	覆土中

第 36 表 171 号住居跡出土土製品一覧



挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第67図76 図版35-76	石鏃	黒曜石	20.6	17.5	4.1	1.0	凹基無茎／側縁は中央付近で屈曲し、鋸歯縁／抉りは深い／先端と右脚部欠損	P8 東側 覆土上層
第67図77 図版35-77	石鏃	頁岩	24.0	15.7	4.1	1.1	凹基無茎／側縁は緩やかな弧状を呈する／抉りは深く弧状／脚端部が内傾する	P2 南西側 覆土上層
第67図78 図版35-78	石鏃未製品	黒曜石	26.4	25.9	7.9	4.1	基部から製作している	西壁際 床面直上
第68図79 図版35-79	打製石斧	粘板岩	60.2	30.5	15.6	30.5	短冊形／左側縁は括れ、右側縁は直線的／両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁のほぼ全面の稜上に潰れが認められる／左側縁は、中央部の稜上に潰れが認められる	中央 覆土上層
第68図80 図版35-80	打製石斧	砂岩	104.0	67.7	30.5	266.5	基部が折れた後、再調整が施されている／周縁に敲打剥離が認められる／全周の稜上に潰れが認められ、上面を除き、広範囲で面状になっている	北東壁際 覆土上層
第68図81 図版35-81	打製石斧	凝灰岩	93.4	43.1	15.3	68.2	短冊形／裏面の下半の剥離稜上が磨滅している／両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁上半の稜上に潰れが認められ、上部が面状になっている／左側縁は下半の稜上に潰れが認められる	南東部 覆土下層
第68図82 図版35-82	打製石斧	ホルンフェルス	103.1	42.1	13.8	70.5	短冊形／表裏面の下部が磨滅している／表面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁中央部の稜上に潰れが認められる／左側縁は下部の稜上に潰れが認められる／敲石か	P8 南側 床面直上
第68図83 図版35-83	打製石斧	ホルンフェルス	94.3	59.0	14.8	91.5	撥形／表面は基部を含み原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁上部の一部から中央部にかけての稜上に潰れが認められる／左側縁は、上半の稜上に潰れが認められる	中央南寄り 覆土中層
第68図84 図版35-84	打製石斧	ホルンフェルス	98.7	62.2	18.8	108.6	撥形／基部の一部が折れて欠損し、表面はほぼ全面が原礫面である／原礫面を含む剥片に大きな剥離が加えられている	P2 南西側 床面直上
第68図85 図版35-85	打製石斧	玄武岩	90.7	41.9	15.4	67.5	短冊形／表面は基部を含み原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁の上部から中央部にかけての稜上に潰れが認められ、上部が面状になっている／左側縁も上部から中央部にかけての稜上に潰れが認められる	P9 内 覆土中層
第68図86 図版35-86	打製石斧	砂岩	85.5	57.3	17.2	93.0	短冊形／基部を含み、表面に広く、裏面基部付近に原礫面が残存／稜側縁は不規則な剥離が加えられている	炉北東側 覆土下層
第68図87 図版35-87	磨製石斧	凝灰岩	112.0	54.2	34.9	245.2	扁平な乳棒状か／刃部に剥離を伴う敲打痕、左右面の下部に細かい敲打痕が認められ、いずれも研磨後／基部欠損	北東壁際 覆土上層
第68図88 図版35-88	敲石	緑色岩	154.5	57.8	31.2	407.1	表面の一部及び裏面ほぼ全面に磨痕／敲打による浅い凹みが表裏面1ヶ所ずつあり、磨痕の後段階／両側縁上部に剥離を伴う敲打痕	P5 上 覆土上層
第68図89 図版35-89	敲石	緑色岩	95.7	40.3	24.6	165.6	左右面に剥離を伴う敲打痕／両面の剥離を伴う敲打痕は研磨前で、研磨後にも細かい敲打痕がみられる／基部欠損	南壁際 覆土上層
第68図90 図版35-90	石皿	安山岩	125.9	86.4	66.4	792.3	表裏面とも使用面の消耗が著しく、中央付近が非常に薄くなっている／破断面に使用痕は認められない	西壁際 覆土上層

第37表 171号住居跡出土石器一覧

## 172号住居跡

**遺 構** (第69・70図)

[位 置] (C-4・5) グリッド/②・④地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。住居跡全体を畝状耕作痕に、東半を171 Jに壊され、遺存状態は悪い。遺構確認時に171 Jと重複することは平面的に把握していたが、新旧関係が不明であったことから、171 Jと172 J共有のセクションA-A'を畝状耕作痕の走方向と並行するように設定した上で精査を開始した。その結果、土層断面においても、171 Jに切られることを確認した。近接する649 Dとの切合いは不明である。

[構 造] 平面形：楕円形。主軸方位：N-55°-E。P6と炉の中心を通るラインを主軸として捉えた。規模：長軸4.4m/短軸推定4.0m/確認面からの深さ約23cm。壁溝：検出されなかった。壁：約60°で緩やかに皿状に立ち上がる。床面：概ね平坦か。炉を含めた住居跡東側に硬化面を検出した。直床である。炉：埋甕炉。掘込規模は長軸50cm/短軸36cm/床面からの深さ17cm。全体の1/3程度が遺存する浅鉢の口縁部～体部片(第71図1)が、炉南東部に埋設されていた。炉体土器の北西側、炉の中央が被熱赤化していた。北西部を畝状耕作痕に壊される。埋甕：検出されなかった。柱穴：9本検出した。規模・配置から、P1～3、P4、P5、P7～9を主柱穴として捉えた。P1～3は171 J床下からの検出であるが、規模・配置から本住居跡の帰属として捉えた。これらの柱穴配置から本住居跡が5本柱建物であると想定し、本住居跡南東部に位置すると思われる柱穴について、P1～3と同様、171 Jの床下から検出される見込みを持って精査を実施したが、検出することはできなかった。建替1～2回程度を想定する。

[覆 土] 171 Jや畝状耕作痕に壊されており、遺存状態は悪い。ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐～黒褐色土を基調とする(A-A'1～4層)。床面直上は、ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む黄褐色～褐色土を基調とする。

[遺 物] 床面から覆土上層にかけて、住居中央を中心に散在的に出土した。土器は180点10,155g、石器は4点(打製石斧3点・磨製石斧1点)出土した。埋甕炉の埋設土器(第71図1)のほか、キャリパー形深鉢の口縁部片(第71図2)が出土した。床面直上から、打製石斧2点(第71図13・14)が出土した。

[時 期] 炉体土器及び覆土出土土器から中期中葉期(勝坂3b新式期/阿玉台IV式期)。

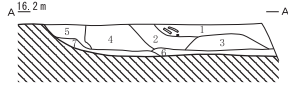
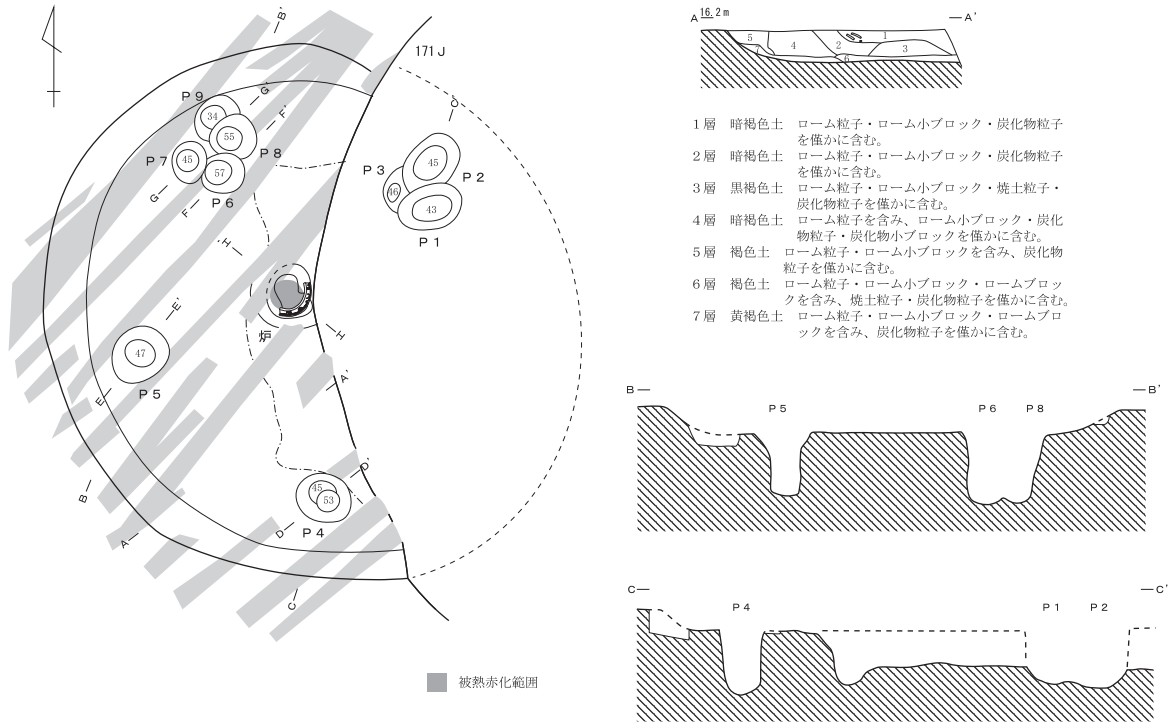
**遺 物** (第71図、第38表、図版36-1)

[土 器] (第71図1～12、第38表、図版36-1)

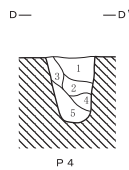
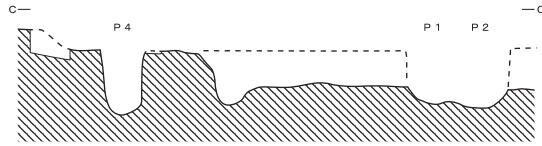
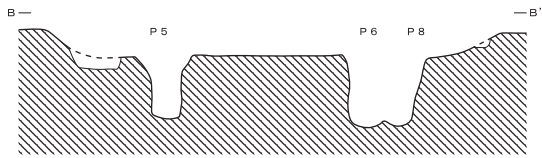
復元個体3点、破片資料9点を図示した。1は炉体土器で、口縁部に沈線による区画文を配する阿玉台IV式の浅鉢形土器である。2は地文施文後に、先丸ペン先状工具による押引きを伴う太い隆帯によるS字状文を配する勝坂3b新式のキャリパー形深鉢形土器である。3は屈折底を持つ勝坂3式の深鉢形土器である。4は阿玉台I式、5は勝坂1式、6は勝坂2式、7～9は勝坂3式、10は勝坂式、11は加曾利E1式、12は加曾利E2式の深鉢形土器である。

[石 器] (第71図13～15、第39表、図版36-1)

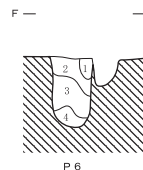
石器は3点を図示した。13・14は短冊形の打製石斧である。15は磨製石斧である。



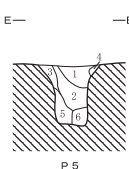
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 3層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを僅かに含む。
- 5層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 6層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。
- 7層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。



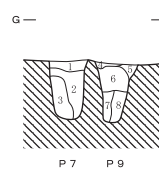
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
- 3層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
- 4層 褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
- 5層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。



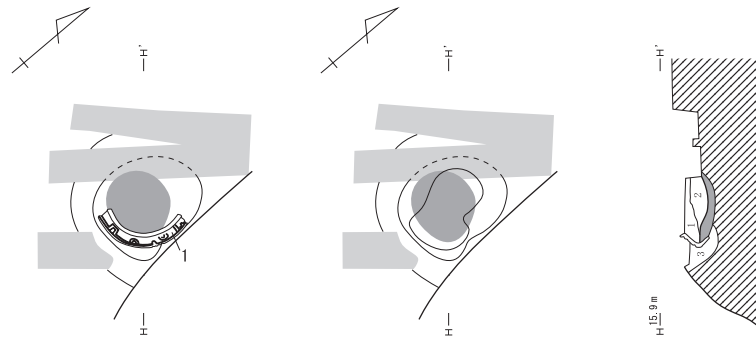
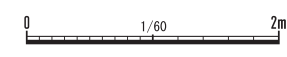
- 1層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
- 3層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 4層 ロームブロック。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。
- 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。

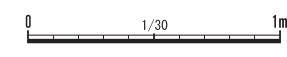


- P7**
- 1層 明黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。貼床。
- 2層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
- 3層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。
- P9**
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 5層 褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 6層 暗褐色土 ロームブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 7層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。



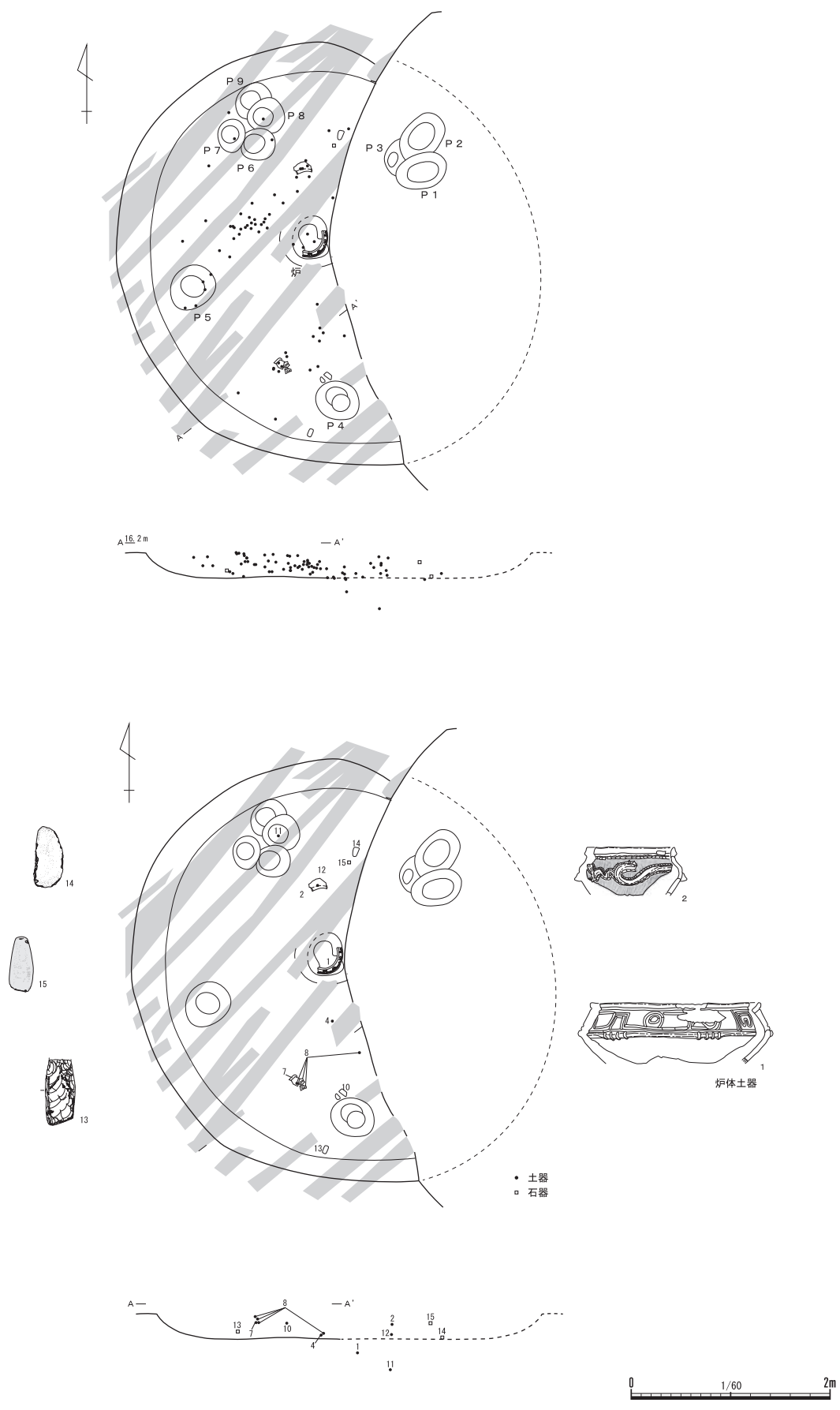
炉

被熱赤化範囲



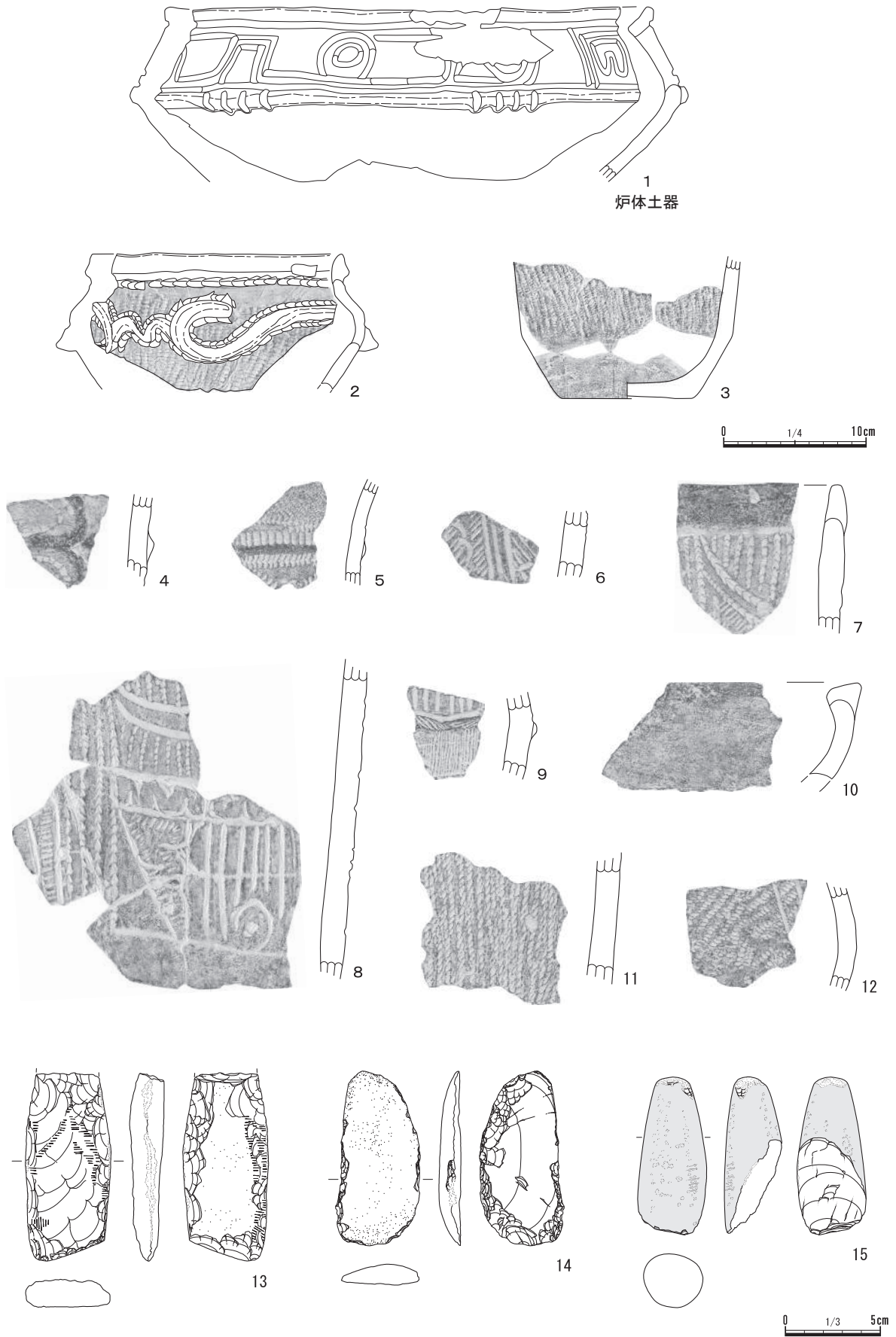
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
- 2層 暗褐色土 焼土粒子・焼土小ブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。

第69図 172号住居跡・炉 (1/60・1/30)



第70図 172号住居跡遺物出土状態(1/60)





第71図 172号住居跡出土遺物(1/4・1/3)

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第71図1 図版36-1-1	浅鉢	口縁部～ 体部下位 40%	高 [12.3] 口 (34.4) 厚 0.8	体部は僅かに内湾しながら広がる／口縁部で内折／口唇部で肥厚	口縁部上端に隆帯巡る／口縁部下端には4力所1単位とする押圧文が付された断面力マボコ状の隆帯が巡り、体部と画す／口縁部は概ね2本1対の沈線により方形に区画される／区画内には円形文・逆U字状文を配す	浅黄橙／砂粒・礫少量、雲母中量	阿玉台IV式か	炉体
第71図2 図版36-1-2	深鉢	口縁部～ 頸部 30%	高 [4.5] 口 (17.6) 厚 0.8	強く内湾する口縁部／口縁部上端で断面三角形に肥厚して直立	口縁部上端に幅広の隆帯が巡る／地文は単節RL縦位施文で、胴部上端の一部は施文されない箇所がある／口縁部には太く背の高い断面三角形の隆帯によるS字状文が配され、波状隆帯で連結される／隆帯脇には先丸ペン先状工具による押引文が沿う／施文順序は地文→隆帯貼付	暗褐／砂粒・礫少量、雲母微量	勝坂3b新式	炉北側 床上13cm
第71図3 図版36-1-3	深鉢	底部 40%	高 [10.1] 底 9.3 厚 0.9	僅かに上底状を呈する底部／胴部は下位に屈曲を持ちながら立上がる	胴部屈曲部より上位には0段多条単節RL斜位が施文され、下位は無文	にぶい橙／砂粒・礫多量	勝坂3式	覆土中
第71図4 図版36-1-4	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや外傾	断面三角形の隆帯による懸垂文／隆帯脇に結節沈線	暗褐／砂粒・礫・雲母多量	阿玉台I b式	炉南側 覆土下層
第71図5 図版36-1-5	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	やや外反	背の低い断面力マボコ状の隆帯横走／隆帯脇には幅広角押文・三角押文・先端加工された角押文／単節RL縦位施文	にぶい黄褐／砂粒・礫少量	勝坂1b式	P2内
第71図6 図版36-1-6	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや外傾	3本1対の沈線垂下／斜行沈線文列／半円形刺突文	暗褐／砂粒・礫少量	勝坂2式	覆土中
第71図7 図版36-1-7	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	ほぼ直立／口唇部上端は薄手	口縁部上端は無文／三角押文列による区画文／区画文内に三角押文列充填	黒褐／砂粒多量、礫微量	勝坂3b式	南部 覆土上層
第71図8 図版36-1-8	深鉢	胴部上位 ～中位 20%	厚 1.3	直線的な胴部／やや開く／円筒形	胴部中位に巡る横位沈線により胴部上位と下位を画す／胴部上位は、沈線と三角押文列による区画文／区画文内には三角押文列・縦位沈線列・交互刺突文・半円形文が充填	黒褐／砂粒多量、礫微量	勝坂3b式	南部 覆土下～ 上層
第71図9 図版36-1-9	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	やや内湾	条の狭い擦糸Rが付された隆帯による区画文か／隆帯脇には単沈線／区画文内には縦位沈線文列／擦糸R縦位施文	にぶい黄褐／砂粒・礫少量	勝坂3式	覆土中
第71図10 図版36-1-10	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	やや内湾しながら外傾する口縁部／口唇部内面で肥厚	無文	橙／砂粒・礫中量、白色礫少量	勝坂式	P4北側 覆土中層
第71図11 図版36-1-11	深鉢	胴部 破片	厚 1.4	やや外傾	擦糸L縦位施文	暗赤褐／砂粒少量、礫中量	加曾利E1式	P8内 覆土下層
第71図12 図版36-1-12	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	内湾	地文は単節RL縦位施文／2本1対の沈線垂下	明赤褐／砂粒・礫・雲母多量	加曾利E2式	炉北側 覆土下層

第38表 172号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器 種	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	出土位置
第71図13 図版36-1-13	打製石斧	砂岩	99.2	45.2	18.2	107.8	基部は折れて欠損している／表面の剥離稜上・裏面の左側縁沿いが磨滅している／裏面に原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／稜側縁のほぼ全面の稜上に潰れが確認され、右側縁は中央部、左側縁は中央部から下部にかけて滑らかな面状になっている	南壁際 覆土下層
第71図14 図版36-1-14	打製石斧	ホルンフェルス	92.1	44.6	11.6	52.8	表面は基部・刃部を含み原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁下部の一部の稜上に潰れが認められ、面状になっている／左側縁は、右側縁の潰れとほぼ対称の稜上に潰れが僅かに認められる	北部 覆土下層
第71図15 図版36-1-15	磨製石斧	緑色岩	83.2	36.4	29.3	118.7	乳棒状／基部に研磨後の敲打痕／基部は敲打痕により平坦／体部の一部に研磨前の線状の敲打痕／刃部欠損	北部 覆土上層

第39表 172号住居跡出土石器一覧

## 173号住居跡

**遺 構** (第72図)

[位 置] (D・E-5) グリッド/④地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。確認面からの掘り込みが浅く、表土剥ぎ時点で一部の床面が露出していた。畝状耕作痕による攪乱が床面以下まで及び、遺存状態は極めて悪い。北側で171 Jと重複するが、遺存状態が悪く、平面・断面ともに覆土による層位関係は把握できなかった。また、調査工程の都合上、171 Jの精査を先行させたため、西側の詳細は不明である。埋甕から判断される本住居跡の時期から、171 Jを切ると考えられる。

[構 造] 平面形：円形か。主軸方位：N - 46° - E。埋甕と炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸推定 4.0m / 短軸推定 4.0m / 確認面からの深さ 0 cm。壁溝：検出されなかった。壁：検出されなかった。床面：直床である。炉：地床炉。埋甕に近い住居跡南西側に検出した。掘込規模は長軸 76cm / 短軸 68cm / 床面からの深さ 18cm。南西に礫 1 点を検出した。添石炉ないし石囲炉の可能性はある。炉中央部分に被熱赤化範囲を検出した。埋甕：1 基検出した。南西壁際に胴部下半を打ち欠いた深鉢形土器(第73図1)が正位に埋設されていた。柱穴：3 本検出した。P 1・2、P 3 が支柱穴か。西側にも支柱穴の存在が想定されるが、遺存状態が悪いことや掘り込みの深い 171 J を先行して精査したことにより検出されなかった。

[覆 土] 大部分が畝状耕作痕に壊されており遺存状態は悪く、また掘り込みも浅いことから、明確な覆土を検出することはできなかった。

[遺 物] 土器は 66 点 1,695g、石器は 4 点(打製石斧 2 点・剥片 2 点) 出土した。埋甕(第73図1)が出土した。

[時 期] 埋甕から中期後葉期(連弧文 2 b 段階)。

**遺 物** (第73図、第40表、図版 36 - 2)

[土 器] (第73図1、第40表、図版 36 - 2)

復元個体 1 点を図示した。1 は埋甕で、条線地文の連弧文 2 b 段階の深鉢形土器である。

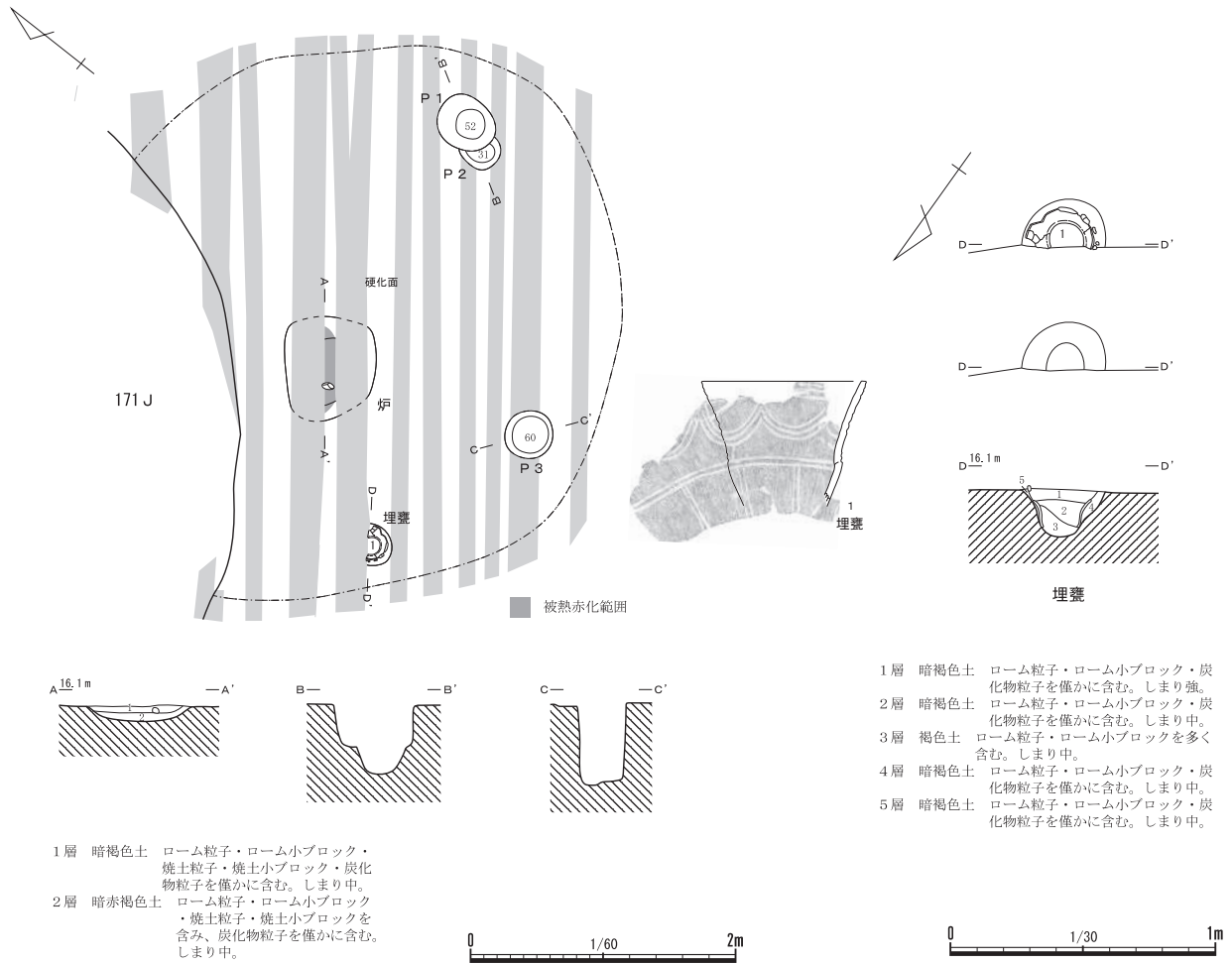
## 184号住居跡

**遺 構** (第74図)

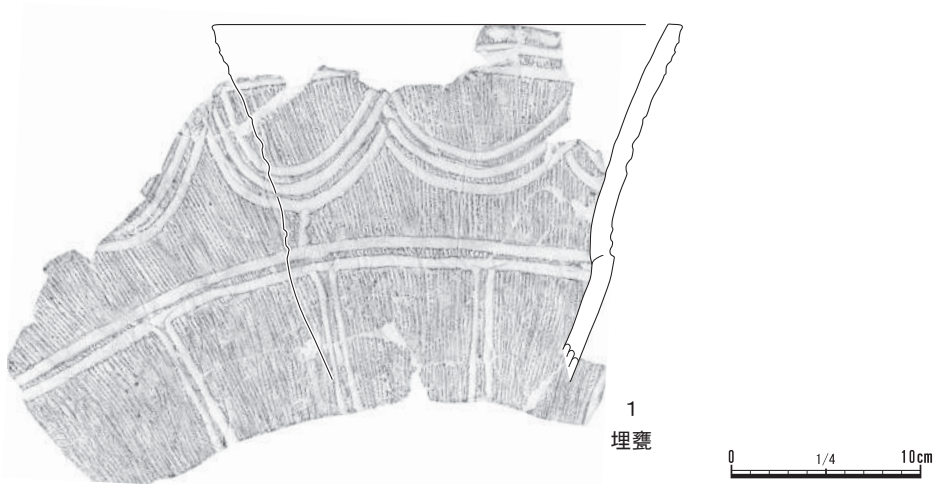
[位 置] (F・G-3・4) グリッド/⑤地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業時に検出した。調査区外北東に延びると想定されるが、区第 23 I 地点では検出されていない。畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。出土遺物から、185 J に切られると考えられる。152 P に切られる。

[構 造] 平面形：楕円形か。主軸方位：N - 30° - W。P 1 と P 2 の中間と、炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸 4.1m / 短軸推定 4.0m / 確認面からの深さ約 9 cm。壁溝：検出されなかった。壁：皿状に立ち上がるか。東側を攪乱に壊される。床面：概ね平坦。炉を中心とした住居中央に硬化面を検出した。直床である。炉：埋甕炉。掘込規模は長軸 44cm / 短軸 40cm / 床面からの深さ 9 cm。胴部中位のみ深鉢形土器(第75図1)が埋設されていた。埋設土器下端付近(F - F' 7 層上面)に被熱硬化範囲を検出した。埋甕：検出されなかった。柱穴：3 本検出した。P 1、P 2、P 3 が支柱穴か。



第72図 173号住居跡・埋甕 (1/60・1/30)

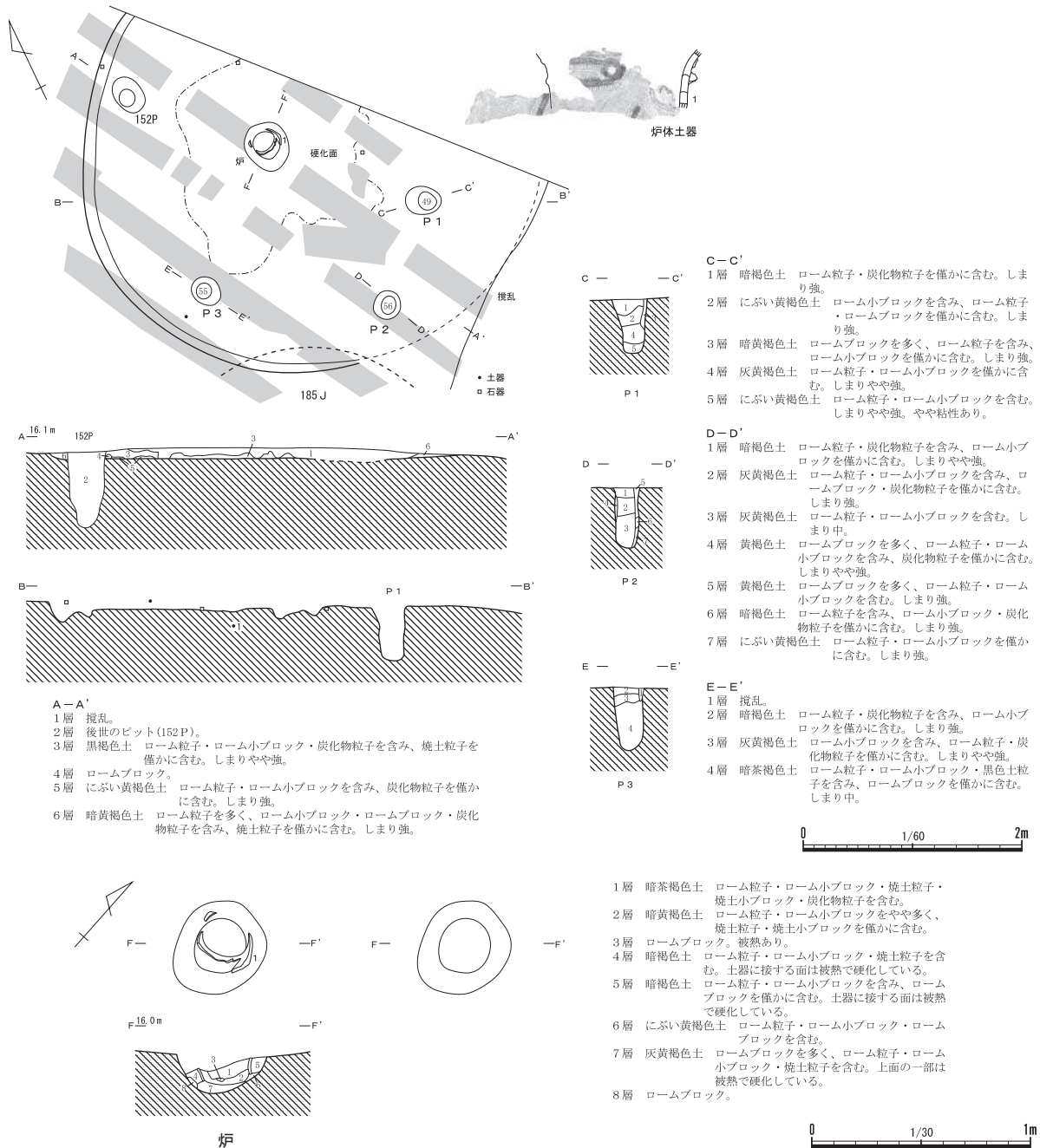


第73図 173号住居跡出土遺物 (1/4)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時式 型式	出土位置
第73図1 図版36-2-1	深鉢	口縁部～ 胴部下位 50%	高 [18.9] 口 (24.6) 厚 0.9	胴部上位で膨らみ、 頸部で括れ、口縁 部は僅かに外反し て広がる	地文は条線縦位施文/口縁部上端と頸部に 2本1対の沈線が巡り、口縁部と胴部を画 す/口縁部には3本1対の沈線による連弧 文/頸部に巡る沈線の下位1本から2本1 対の沈線が垂下/頸部懸垂文は、概ね口縁 部連弧文の波底部に位置する	褐/砂粒・礫多 量	連弧文2 b 段階	埋甕

第40表 173号住居跡出土土器一覧





第74図 184号住居跡・炉 (1/60・1/30)

〔覆 土〕 掘込みが浅く、床面まで畝状耕作痕に壊されており、遺存状態は悪い。ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む黒褐色土を基調とする。

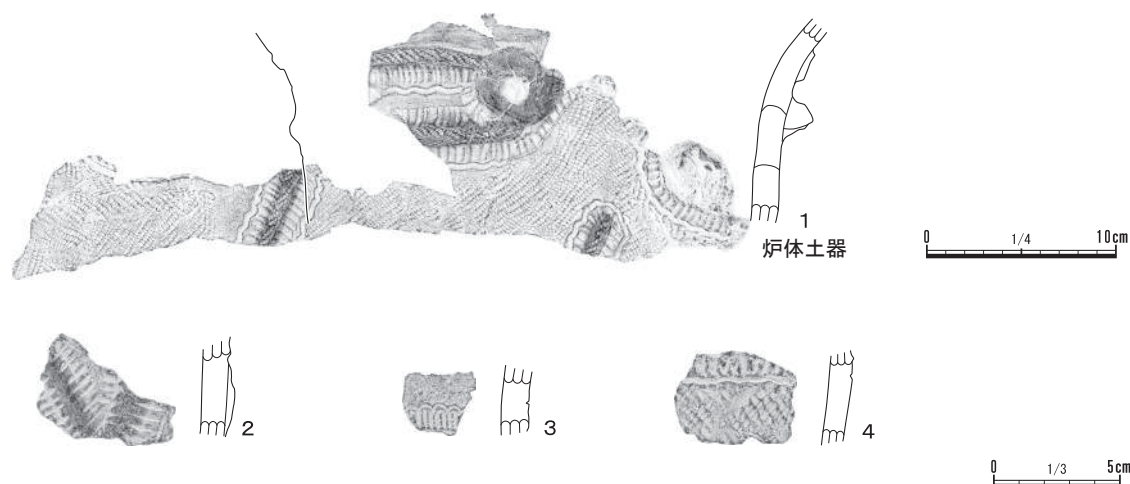
〔遺 物〕 土器は37点918g、石器は6点 (打製石斧3点・剥片3点) 出土した。埋嚮炉の埋設土器 (第75図1) が出土している。

〔時 期〕 炉体土器から中期中葉期 (勝坂2 a 式期)。

〔遺 物〕 (第75図、第41表、図版36-3)

〔土 器〕 (第75図1~4、第41表、図版36-3)

復元個体1点、破片資料3点を図示した。1は炉体土器で、地文が施された隆帯により区画文やワラジムシ状文が配される勝坂2 a 式の深鉢形土器。2は阿玉台Ⅲ式、3・4は勝坂2式の深鉢形土器である。



第75図 184号住居跡出土遺物 (1 / 4・1 / 3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第75図1 図版36-3-1	深鉢	口縁部下 位～胴部 上位 40%	高 [11.6] 厚 1.2	僅かに広がる胴部 上位/口縁部は内 湾して広がるか	口縁部は無文か/頸部に付された隆帯による円形文を起点に、単節RLが付された断面カマボコ状の隆帯による楕円区画文/胴部地文は単節RL縦位施文/胴部には幅広角押文と波状沈線に沿う隆帯が斜位に垂下し、ワラジムシ状文を形成	暗褐/砂粒・礫 微量	勝坂2a式	炉体
第75図2 図版36-3-2	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外傾	背の低い断面カマボコ状の隆帯貼付/隆帯脇に幅広の爪形文	橙/砂粒・礫・ 雲母微量	阿玉台Ⅲ式	覆土中
第75図3 図版36-3-3	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	外反	幅広角押文と半円形刺突文による蓮華文(温泉マーク文)	橙/砂粒・礫・ 雲母少量	勝坂2式	覆土中
第75図4 図版36-3-4	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	ほぼ直立	波状沈線と角押文が横走/単節RL横位施文	にぶい褐/砂 粒・礫少量	勝坂2式	覆土中

第41表 184号住居跡出土土器一覧

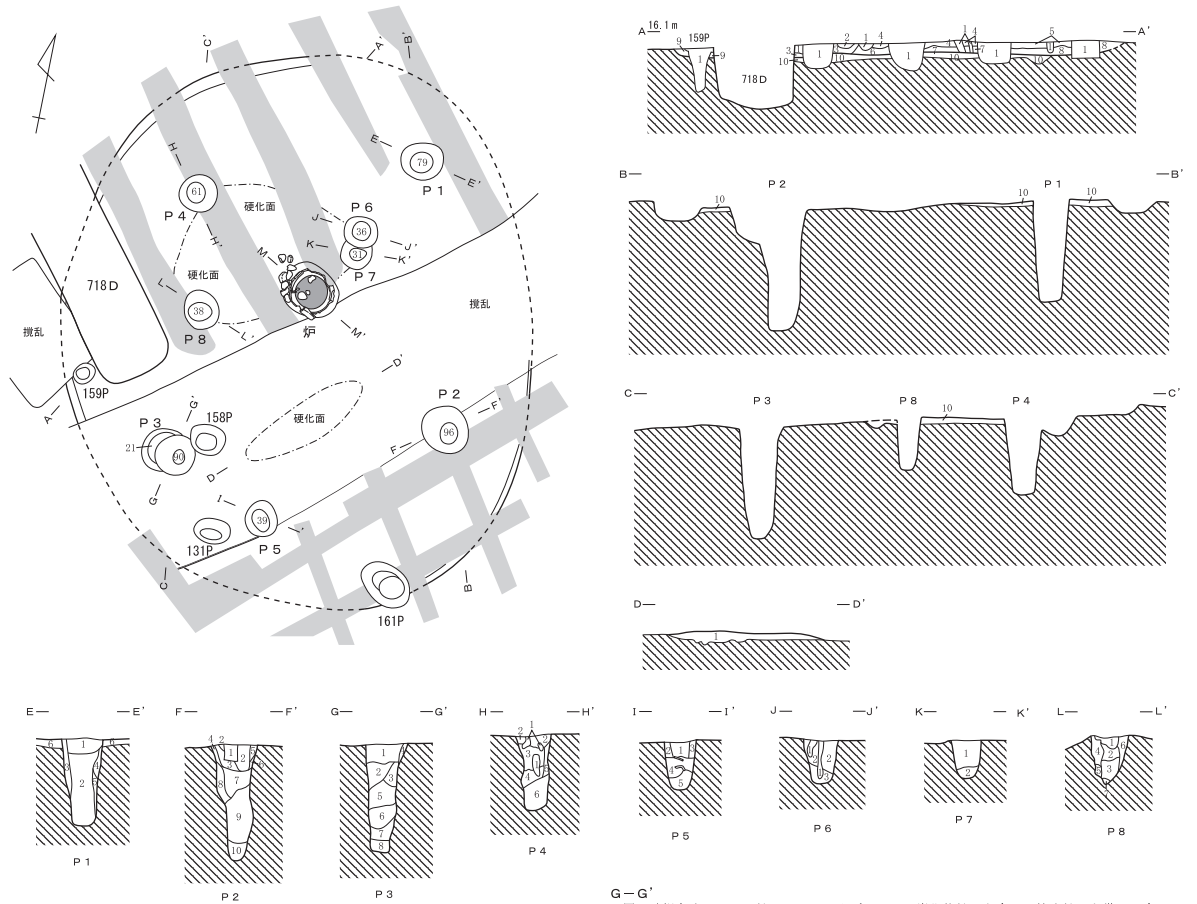
### 185号住居跡

#### 遺 構 (第76図)

[位 置] (F・G-4・5) グリッド/⑤地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認作業に伴い検出した。住居全体が畝状耕作痕に、中央南側が北東-南西方向の溝状攪乱に、北西側が718Dに壊され遺存状態は悪い。重複する184Jと共通のセクションを設定し、覆土堆積状況の観察を実施したが、明確な新旧関係を把握することができなかった。出土遺物から184Jを切ると判断した。

[構 造] 平面形：楕円形。主軸方位：N-10°-W。P2とP3の間と、炉の中心を通るラインを主軸と捉えた。規模：長軸4.4m/短軸推定3.7m/確認面からの深さ約13cm。壁溝：検出されなかった。壁：皿状に緩やかに立ち上がるか。床面：概ね平坦。中央南側を溝状攪乱に壊されるが、炉の北側と南側に僅かに硬化面を検出した。ロームブロックを多く含むにぶい黄褐色土による貼床が2~6cmの厚さで施されていた。炉：石囲埋甕炉。住居中央やや北西寄りに検出した。掘込規模は長軸46cm/短軸40cm/床面からの深さ13cm。中央に胴部下半を打ち欠いた深鉢形土器(第79図1)を埋設し、



- A-A' B-B' C-C'**
- 1層 攪乱および後世のピット。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 3層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
  - 7層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 8層 にぶい黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 9層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり強。
  - 10層 にぶい黄褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。貼床。
- D-D'**
- 1層 暗黄褐色土 ローム小ブロック・ロームブロックを多く、ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。ロームブロックは硬化している。しまり強。貼床。
- E-E'**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 2層 暗茶褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 3層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 4層 にぶい黄褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
  - 5層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
  - 6層 にぶい黄褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。貼床。
- F-F'**
- 1層 攪乱。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、炭化物粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
  - 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 4層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
  - 5層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 7層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり中。
  - 8層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 9層 にぶい黄褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。
  - 10層 灰黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・黒色土粒子を含む。しまりやや強。

- G-G'**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
  - 3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
  - 4層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
  - 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
  - 6層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
  - 7層 灰黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・黒褐色土粒子を含む。しまり弱。
  - 8層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・黒褐色土粒子を含む。しまり強。
- H-H'**
- 1層 攪乱。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 3層 暗黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 4層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり中。
  - 5層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 6層 灰黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
- I-I'**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 2層 暗黄褐色土 ローム粒子を多く、炭化物粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
  - 3層 暗黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
  - 5層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、黒色土粒子を僅かに含む。しまり中。
- J-J'**
- 1層 攪乱。
  - 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
  - 3層 灰黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。粘性あり。
- K-K'**
- 1層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 2層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
- L-L'**
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
  - 2層 暗茶褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
  - 3層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまりやや強い。
  - 4層 暗黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
  - 5層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
  - 6層 暗黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
  - 7層 ロームブロック。

第76図 185号住居跡(1/60)



第77図 185号住居跡遺物出土状態 (1/60)

その周囲に拳大の礫を密接して配する。掘込みの底面が被熱により硬化していた。畝状耕作痕に一部を壊される。埋甕：検出されなかった。柱穴：8本検出した。P 1、P 2、P 3、P 4を主柱穴と捉えた。建替・拡張は想定できない。

〔覆 土〕 畝状耕作痕等攪乱が著しく、遺存状態は悪い。上層はローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を微量～中量含む暗茶褐色～暗褐色土を基調とする (A-A' 3～5層)。下層はローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを中量～多量含む炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色～暗黄褐色土を基調とする (A-A' 6～8層)。

〔遺 物〕 炉の北側を中心に少量出土した。土器は 132 点 4,880g、石器は 6 点 (打製石斧 2 点・剥片 4 点) 出土した。埋甕炉の埋設土器 (第 79 図 1) が出土しているほか、P 5 の覆土上層から深鉢形土器の胴部片 (第 79 図 4) が、中層から深鉢形土器の底部片 (第 79 図 2) が逆位で出土している。また、P 2 上の床面レベルから打製石斧 (第 79 図 5) が出土している。

〔時 期〕 炉体土器から中期中葉期 (勝坂 3 b 古式期)。

〔遺 物〕 (第 79 図、第 42・43 表、図版 37-1)

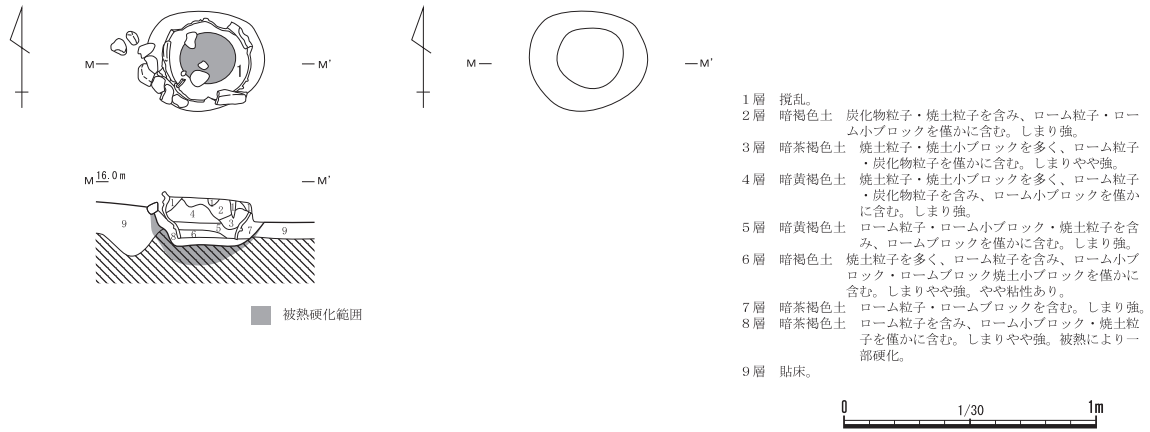
〔土 器〕 (第 79 図 1～4、第 42 表、図版 37-1)

復元個体 2 点、破片資料 2 点を図示した。1 は炉体土器で、区画文内に縦位沈線文列を多用した勝坂 3 b 古式のキャリパー形深鉢形土器である。2 は撚糸 L 縦位施文のみの加曾利 E 1 式の深鉢形土器である。3 は勝坂 3 b 式で、強く内湾する口縁部を持つ深鉢形土器である。4 は撚糸 L 縦位施文のみの加曾利 E 1 式の深鉢形土器である。

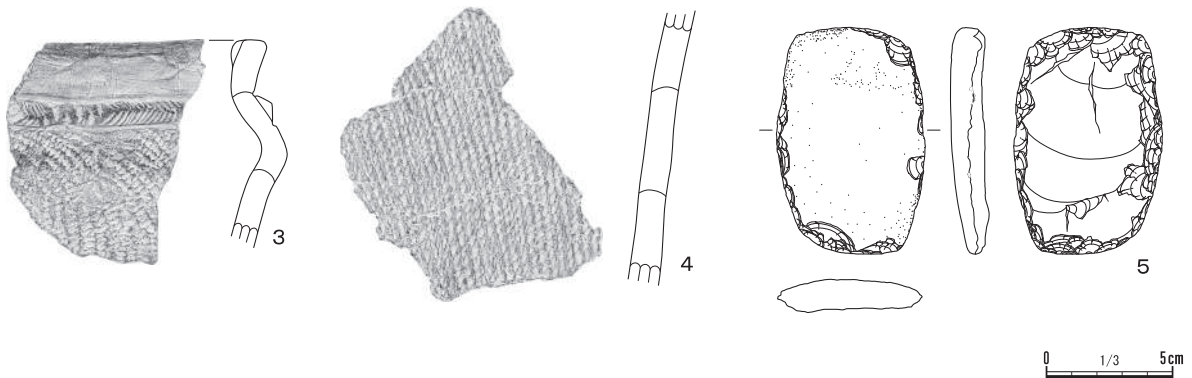
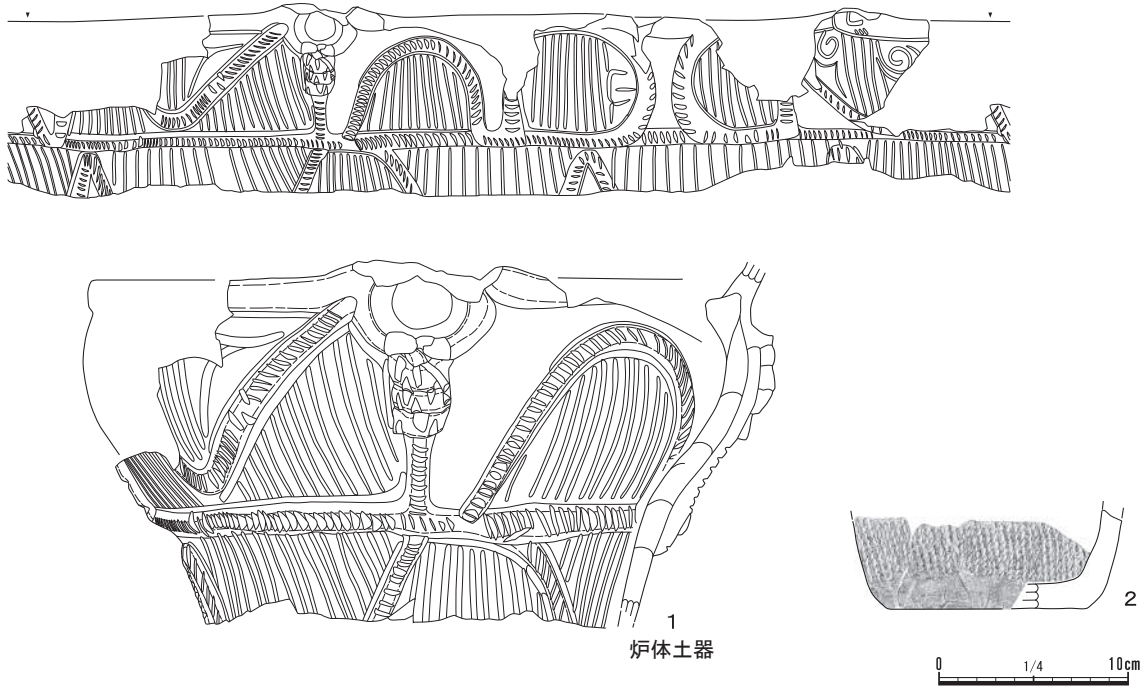
〔石 器〕 (第 79 図 5、第 43 表、図版 37-1)

1 点を図示した。5 は打製石斧である。





第78図 185号住居跡炉 (1 / 30)



第79図 185号住居跡出土遺物 (1 / 4・1 / 3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式	出土位置
第 79 図 1 図版 37-1-1	深鉢	口縁部～ 胴部上半 70%	高 [19.7] 口 (34.5) 厚 1.2	キャリパー形／や や開く胴部／内湾 して開く口縁部／ 口唇部は肥厚	口縁部には大小の突起が対称位に 2 単位付 く／押圧文を付した断面台形の隆帯が頸部 に巡り口縁部と頸部を画し、また口縁部と 胴部で区画文を形成する／隆帯脇には単沈 線に沿う／口縁部には大突起（把手か）か ら隆帯が垂下する他に半楕円区画文・三角 形区画文が配され、胴部には重三角区画文 が配されるか／区画文内外には原則半裁竹 管状工具による集合沈線が充填されるが、 口縁部の小突起下部には沈線による渦巻文 が配され、また口縁部区画文の一部は無文 となる	にふい橙／砂粒 多量、礫少量、 雲母微量	勝坂 3b 古 式	炉体
第 79 図 2 図版 37-1-2	深鉢	胴部下位 ～底部 20%	高 [5.2] 底 (10.6) 厚 1.0	平坦な底部から緩 やかに立ち上がる 胴部下位	地文は撚糸 L 縦位施文／胴部下端 1 cm 程 度は無文	にふい赤褐／砂 粒・礫多量	加曾利 E1 式	P5 内 覆土上層
第 79 図 3 図版 37-1-3	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	口縁部で強く内湾 して広がる／口縁 部上端で外反／口 唇部肥厚	口縁部上端は無文／口縁部に矢羽状文・交 互刺突文が付された隆帯横走／胴部には単 節 R L 横位施文	にふい黄褐／砂 粒・礫少量	勝坂 3 式	P4 上 覆土下層
第 79 図 4 図版 37-1-4	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや外反	撚糸 L 縦位施文	明褐／砂粒・礫 多量	加曾利 E1 式	P5 内 覆土上層

第 42 表 185 号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器 種	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	出土位置
第 79 図 5 図版 37-1-5	打製石斧	ホルンフェルス	89.9	59.1	15.3	102.5	表面は基部を含み原礫面が広く残存し、両側縁に敲打 剥離が認められる／右側縁中央部の一部の稜上に潰れ が認められる／左側縁は上部・下部の一部の稜上に潰 れが僅かに認められる	P2 上 覆土下層

第 43 表 185 号住居跡出土石器一覧

### (3) 埋 甕

#### 5 号埋甕

**遺 構** (第 80 図)

[位 置] (D-4) グリッド／②地点

[検出状況] 165 J の精査中に確認した。165 J の壁面検出時、本遺構の北側部分にあたる箇所  
で胴部以下を打欠いた深鉢形土器が出土した。土器が 165 J の範囲外に延びること、他に帰属  
できる遺構がないことから単独の埋甕と判断した。土層観察による切合いは観察できなかつた  
が、165 J 内にあたる箇所の土器が遺存していたことから 165 J を切ると判断した。

[構 造] 平面形：円形。規模：長径 0.54 m／短径推定 0.54 m／深さ 12cm。長軸方位：不明。

[覆 土] 土器内は暗茶褐色、土器外は明茶褐色土を基調とする。

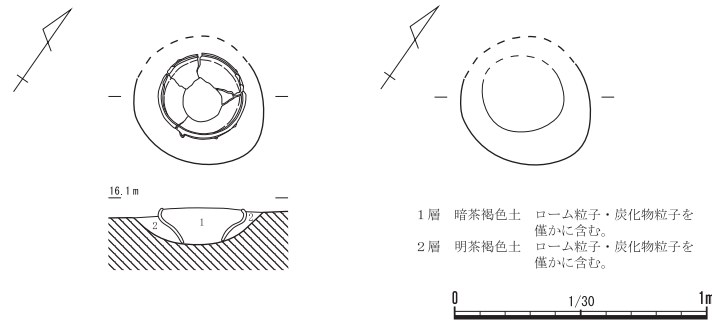
[遺 物] 土器は埋甕のみ 1 点 1,150 g 出土した。

[時 期] 中期後葉期（加曾利 E 1 c 式期）。

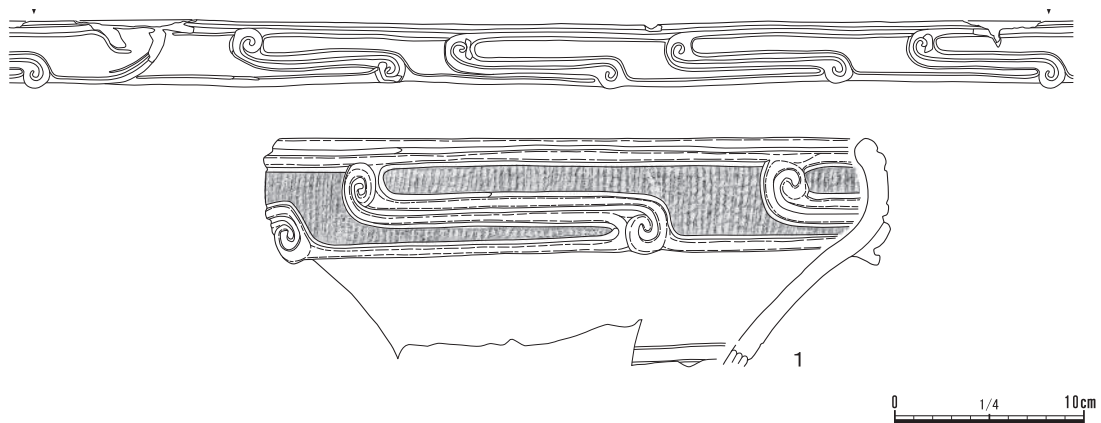
**遺 物** (第 81 図、第 44 表、図版 37-2)

[土 器] (第 81 図 1、第 44 表、図版 37-2)

復元個体 1 点を図示した。1 は埋甕で、撚糸 L 縦位施文を地文に、隆帯による横 S 字状文を配する  
キャリパー形深鉢形土器である。



第80図 5号埋甕 (1/30)



第81図 5号埋甕出土遺物 (1/4)

挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 式
第81図1 図版37-2-1	5埋	深鉢	口縁部～ 頸部 100%	高[12.2] 口 30.5 厚 1.2	キャリバー形／外 反して広がる頸部 ／内湾する口縁部	地文は撚糸L縦位施文／口縁部上端と下端 に隆帯が横走し、頸部と画す／2本1対の 隆帯による端部が渦巻状小突起を呈する横 S字状文を5単位配す(1単位は変形)／ 頸部は無文／胴部上端には半截竹管状工具 腹面による並行沈線が横走	にぶい橙／砂 粒・礫多量	加曾利E1 c式

第44表 5号埋甕出土土器一覧

#### (4) 土坑

出土遺物や覆土の観察から、628・643・645～649・716・717・719 Dの計24基を縄文時代に  
 帰属するものと判断した。遺構図を第82～84図、遺物の出土量を含めた観察事項を第45表、出土  
 遺物を第85～88図と第46・47表に示した。644 Dについては、欠番とした。

大半の土坑が、調査区西側にあたる(A～C-1～4)グリッドに凝集的に分布している状況を看取  
 できる。全体的に出土遺物が少ないが、628・631・634・635 Dからは比較的多くの遺物が出土して  
 いる。特に、631 Dの底面直上からは、深鉢形土器の上半部が出土している。

以下、図示できる遺物が出土した土坑を中心に記述する。

## 628号土坑

**遺構** (第82図)

[位置] (C-2) グリッド/③地点

[検出状況] 164 J の精査中、南西側に検出した。土層堆積状況による切合いは確認できなかったが、本遺構の平面プランと符合するように、164 J の床面から出土した浅鉢形土器(第30図4)が壊されていたことから、164 J を切ると判断した。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 0.84 m / 短軸 0.82 m / 深さ 36cm。長軸方位：N-5°-W。壁：約 65°で立ち上がる。

[覆土] 上層(2・3層)は暗褐～黒褐色土を基調とし、下層(3～7層)は暗黄褐色土を基調とする。

[遺物] 土器は 69 点 1,815g、石器は 3 点(打製石斧 1 点・磨石 1 点・剥片 1 点)が出土した。土坑中央の覆土下層から上層にかけて比較的多くの遺物が出土した。

[時期] 大形の破片資料(第85図1・2)を根拠に、中期後葉期(加曾利 E 3 b～c 式/曾利 IV 式期)。

**遺物** (第85図、第46表、図版 37-3)

[土器] (第85図1～7、第46表、図版 37-3)

破片資料 7 点を図示した。1・2 は条線地文に隆帯による懸垂文を配す曾利 III～IV 式の深鉢形土器である。3 は阿玉台 II 式、4 は阿玉台 III 式、5 は勝坂 3 式、6・7 は加曾利 E 3～4 式の深鉢形土器である。

## 629号土坑

**遺構** (第82図)

[位置] (C-1) グリッド/③地点

[検出状況] 37 J 精査中に検出した。37 J との切合いは不明。遺構確認面及び覆土から焼土粒子・焼土小ブロックを確認していたことから、当初は炉穴として精査したが、下層に焼土粒子等を含まないこと、炉床を確認できないことから、土坑と判断した。

[構造] 平面形：長楕円形。規模：長径 1.10 m / 短径 0.70 m / 深さ 22cm。壁：45～50°で皿状に立ち上がる。長軸方位：N-8°-W。

[覆土] 上層(1層)は焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物粒子をやや多く含む暗茶褐色土と基調とする。

[遺物] 土器は 6 点 80g が出土した。

[時期] 出土遺物から中期中葉～後葉期。

**遺物** (第85図、第46表、図版 37-3)

[土器] (第85図1、第46表、図版 37-3)

破片資料 1 点を図示した。1 は加曾利 E 1 式の深鉢形土器である。

## 630号土坑

**遺構** (第82図)

[位置] (C-2) グリッド/③地点

[検出状況] 164 J の精査中に検出した。覆土の堆積状況から、164 J を切ると判断した。底面が被熱赤化しており、炉穴や地床炉の可能性もあるが、ここでは土坑として捉えた。



- [構造] 平面形：円形。規模：長軸 0.80 m／短軸 0.80 m／深さ 38cm。長軸方位：N－50°－E。壁：約 65°で立ち上がる。
- [覆土] 焼土粒子・焼土小ブロックをやや多く～多く含む暗褐～暗赤褐色土を基調とする。
- [遺物] 土器は 3 点 58g が出土した。図示できる遺物は出土しなかった。
- [時期] 164 J を切ることから、中期中葉期（勝坂 3 a 式期以降）。

## 631 号土坑

**遺構**（第 82 図）

[位置]（C－2）グリッド／③地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。畝状耕作痕に壁・床を壊され、遺存状態はやや悪い。

[構造] 平面形：長楕円形。規模：長軸 2.04 m／短軸 1.20 m／深さ 26cm。壁：約 30°で皿状に立ち上がる。長軸方位：N－5°－W。

[覆土] 上・中層（2・3層）は、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量～中量含む暗褐色～にぶい褐色土を基調とし、下層（4層）はローム粒子・ロームブロックを中量～多量含む黄褐色土をい基調とする。

[遺物] 土器は 69 点 1,838g が出土した。畝状耕作痕に半分程度壊された第 85 図 1 が土坑中央やや北寄りの底面直上から正位で出土した。

[時期] 出土遺物から、中期後葉期（加曾利 E 4 式期）。

[所見] 深鉢形土器の出土状態から、土壇の可能性はある。

**遺物**（第 85 図、第 46 表、図版 38）

[土器]（第 85 図 1～7、第 46 表、図版 38）

破片資料 7 点を図示した。1 は沈線と磨消縄文による対向 U 字状文をもつ加曾利 E 4 式の深鉢形土器である。2 は阿玉台 II 式、3 は勝坂 2 式、4～6 は加曾利 E 1 式、7 は加曾利 E 3～4 式の深鉢形土器である。

## 632 号土坑

**遺構**（第 82 図）

[位置]（B－3）グリッド／②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。640 D を切る。22・23 P との切合いは不明。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸 1.96 m／短軸 1.50 m／深さ 22cm。長軸方位：N－54°－E。壁：40～50°で緩やかに立ち上がる。

[覆土] 上層（2層）は黒褐色、下層（3層）は暗茶褐色土を基調とする。

[遺物] 土器は 45 点 774g が出土した。覆土中層を中心に散在的に出土した。

[時期] 中期後葉期（加曾利 E 1～3 式期）。

**遺物**（第 86 図、第 46 表、図版 38）

[土器]（第 86 図 1～4、第 46 表、図版 38）

破片資料 4 点を図示した。1 は阿玉台 I b 式、2・3 は加曾利 E 1～2 式、4 は加曾利 E 3 式の深鉢

形土器である。

### 633号土坑

**遺 構** (第82図)

[位 置] (C-4) グリッド/②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。北側を畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。636 Dに切られる。

[構 造] 平面形：円形か。規模：長軸 0.45 m/短軸不明/深さ 10cm。長軸方位：N-50°-E。壁：約 40°で緩やかに立ち上がる。

[覆 土] 上層(3層)は暗褐色土、下層(4層)は暗黄褐色土を基調とする。

[遺 物] 土器は9点 602gが出土した。

[時 期] 中期後葉期(曾利Ⅲ式期)。

**遺 物** (第86図、第46表、図版38)

[土 器] (第86図1・2、第46表、図版38)

破片資料2点を図示した。1は隆帯による懸垂文施文後に斜交沈線文列を充填する曾利Ⅲ式、2は沈線による垂下文と横位沈線文列が充填される曾利Ⅲ式の深鉢形土器である。

### 634号土坑

**遺 構** (第82図)

[位 置] (B-3) グリッド/②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸 1.24 m/短軸 0.90 m/深さ 20cm。長軸方位：N-20°-E。壁：45~55°でやや急斜に立ち上がる。

[覆 土] 上層(1層)は暗茶褐色土と比較的暗く、下層(2・3層)は暗褐~暗黄褐色土と比較的明るい土壌が堆積していた。

[遺 物] 土器は43点 1,081g、石器は2点(打製石斧2点)出土した。遺構は小規模ながら、比較的多くの遺物が出土した。

[時 期] 中期後葉期(連弧文式2段階期)。

**遺 物** (第86図、第46表、図版38)

[土 器] (第86図1~4、第46表、図版38)

破片資料4点を図示した。1は加曾利E1~2式の浅鉢形土器、2は加曾利E3式?、3・4は連弧文2段階の深鉢形土器である。

### 635号土坑

**遺 構** (第83図)

[位 置] (B・C-3・4) グリッド/②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。南側を畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。24・30 Pと重複するが、覆土観察による新旧関係は不明。出土遺物から24 Pを切ると判断した。

[構造] 平面形：楕円形。やや方形を呈するか。規模：長軸 1.80 m／短軸 1.52 m／深さ 42cm。長軸方位：N－87°－E。壁：45～55°でやや急斜に立ち上がる。断面は逆台形を呈する。

[覆土] 壁際及び床面付近を除き、概ねローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を微量～中量含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 土器は 138 点 2,669g、石器は 1 点（磨石？ 1 点）が出土した。畝状耕作痕に壊されるものの、土坑中央の覆土上～下層で比較的多量の遺物が出土した。

[時期] 出土遺物から中期後葉期（加曾利 E 3～4 式期）。

**遺物**（第 86 図、第 46 表、図版 38）

[土器]（第 86 図 1～8、第 46 表、図版 38）

破片資料 8 点を図示した。1 は加曾利 E 2 式、2 は加曾利 E 2（曾利Ⅱ～Ⅲ）式、3～5 は加曾利 E 4 式、6 は連弧文式、7 は曾利Ⅰ～Ⅱ式、8 は曾利Ⅱ～Ⅲ式の深鉢形土器である。

### 636 号土坑

**遺構**（第 82 図）

[位置]（C－4）グリッド／②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。北側を畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。633 D を切る。

[構造] 平面形：円形か。規模：長軸 0.42 m／短軸不明／深さ 18cm。長軸方位：N－50°－E。壁：約 45°で立ち上がる。

[覆土] 上層（1 層）は暗褐色土、下層（2 層）は暗黄褐色土を基調とする。

[遺物] 遺物は出土しなかった。

[時期] 633 D を切ることから、中期後葉期（曾利Ⅲ式期）以降。

### 637 号土坑

**遺構**（第 83 図）

[位置]（B－3）グリッド／②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。

[構造] 平面形：円形か。規模：長軸 0.42 m／短軸不明／深さ 18cm。長軸方位：N－50°－E。壁：約 45°で立ち上がる。

[覆土] ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土を基調とする。

[遺物] 土器は 14 点 181g が出土した。

[時期] 出土遺物から中期後葉期（加曾利 E 式期）。

**遺物**（第 87 図、第 46 表、図版 38）

[土器]（第 87 図 1・2、第 46 表、図版 38）

破片資料 2 点を図示した。1 は勝坂式、2 は加曾利 E 1 式の深鉢形土器である。

### 638 号土坑

**遺構**（第 83 図）

[位置] (B-3) グリッド/②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸推定 1.68 m/短軸 1.54 m/深さ 42cm。長軸方位：N-26°-W。壁：55～65°で立ち上がる。

[覆土] 上層(1・2層)と下層(4～10層)は比較的明るい黄褐色～暗褐色土を基調とし、中層(3層)は比較的暗い黒褐色土を基調とする。中層(3層)は焼土小ブロックや炭化物小ブロックも僅かに含まれる。

[遺物] 土器は28点574g、石器は1点(打製石斧1点)が散在的に出土した。勝坂3式の獣面把手と思われる土器片が土坑中央の覆土上層から出土した。

[時期] 出土遺物から中期中葉～後葉期(勝坂3式～加曾利E1式期)。

**遺物** (第87図、第46表、図版39)

**土器** (第87図1～3、第46表、図版39)

破片資料3点を図示した。1は勝坂3b式の獣面把手と思われる。2は勝坂3b式、3は加曾利E1式の深鉢形土器である。

### 639号土坑

**遺構** (第83図)

[位置] (B-3) グリッド/②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。28Pに切られる。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸 1.40 m/短軸 1.00 m/深さ 24cm。長軸方位：N-69°-W。壁：60～70°で立ち上がる。

[覆土] 壁際と床面付近を除き、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を基調とする。中層(3層)は焼土粒子を僅かに含む。

[遺物] 土器は5点510g、土製品は1点が出土した。

[時期] 出土遺物から中期中葉期(阿玉台式期)。

**遺物** (第87図、第46・47表、図版39)

**土器** (第87図1～5、第46表、図版39)

破片資料5点を図示した。1は阿玉台I～II式、2は加曾利E3式、3は連弧文式の深鉢形土器である。4・5は阿玉台式の浅鉢形土器である。

**土製品** (第87図6、第47表、図版39)

1点を図示した。6は土器片錘である。

### 640号土坑

**遺構** (第82図)

[位置] (B-3) グリッド/②地点

[検出状況] 632Dの精査中、東側に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。632Dに切られる。



- [構 造] 平面形：円形か。規模：長軸推定 0.90 m／短軸不明／深さ 28cm。長軸方位：N－70°－W。壁：約 50°で立ち上がる。
- [覆 土] ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土を基調とする。
- [遺 物] 遺物は出土しなかった。
- [時 期] 覆土の観察と 632D に切られることから、中期後葉期（加曽利 E 1～3 式期）以前。

## 641 号土坑

**遺 構** (第 83 図)

[位 置] (B－3) グリッド／②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。27 P に切られる。31 P との切合いは不明。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸 1.04 m／短軸 0.84 m／深さ 22cm。長軸方位：N－52°－W。壁：約 40°で立ち上がる。

[覆 土] 上層（3・4 層）は暗褐色土、下層（5・6 層）は明茶褐色土を基調とする。

[遺 物] 土器は 21 点 329g が出土した。

[時 期] 出土遺物から中期後葉期（加曽利 E 3 式期）。

**遺 物** (第 87 図、第 46 表、図版 39)

[土 器] (第 87 図 1～3、第 46 表、図版 39)

破片資料 3 点を図示した。1～3 は加曽利 E 3 式の深鉢形土器である。

## 642 号土坑

**遺 構** (第 83 図)

[位 置] (A－3) グリッド／②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸推定 1.50 m／短軸 1.14 m／深さ 22cm。長軸方位：N－27°－W。壁：約 45°で立ち上がる。

[覆 土] 底面付近を除き、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を基調とし、上層（1 層）は焼土粒子を僅かに含む。

[遺 物] 土器は 49 点 1,186g が出土した。覆土中～上層から比較的多量の土器が散在的に出土した。

[時 期] 出土遺物から、中期後葉期（加曽利 E 3 b～c 式期）。

**遺 物** (第 88 図、第 46 表、図版 39)

[土 器] (第 88 図 1～6、第 46 表、図版 39)

破片資料 6 点を図示した。1～4 は加曽利 E 3 b～c 式、5・6 は加曽利 E 3 c～4 式の深鉢形土器である。

## 643 号土坑

**遺 構** (第 83 図)

[位 置] (A－3) グリッド／②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。26 Pを切り、25 Pに切られる。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸推定 1.20 m／短軸 0.80 m／深さ 18cm。長軸方位：N－14°－E。壁：約 60°で立ち上がる。

[覆土] 上層（2層）はローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を基調とし、下層（3・4層）はローム粒子・ローム小ブロックを微量～中量含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺物] 土器は 10 点 324g が出土した。

[時期] 出土遺物から、中期後葉期（加曾利 E 3 式期）。

**遺物**（第 88 図、第 46 表、図版 39）

[土器]（第 88 図 1～2、第 46 表、図版 39）

破片資料 2 点を図示した。1 は阿玉台 I b 式、2 は加曾利 E 式の深鉢形土器である。

### 645 号土坑

**遺構**（第 84 図）

[位置]（A－3）グリッド／②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。33 Pに切られる。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 0.90 m／短軸 0.88 m／深さ 8cm。長軸方位：N－30°－W。壁：約 15°で皿状に立ち上がる。

[覆土] ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗茶褐色土を基調とする。

[遺物] 土器は 2 点 31g が出土した。

[時期] 出土遺物から、中期後葉期（加曾利 E 1 式期）。

**遺物**（第 88 図、第 46 表、図版 39）

[土器]（第 88 図 1、第 46 表、図版 39）

破片資料 1 点を図示した。1 は加曾利 E 1 式の深鉢形土器である。

### 646 号土坑

**遺構**（第 84 図）

[位置]（B・C－4）グリッド／②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸 1.46 m／短軸 1.24 m／深さ 14cm。長軸方位：N－32°－W。壁：約 45°で立ち上がる。

[覆土] 上層（1層）はローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を基調とする。底面付近（2・5・6層）はローム粒子・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土を基調とする。

[遺物] 土器は 1 点 21g、石器は 1 点（剥片 1 点）が出土した。

[時期] 出土遺物から、中期中葉期（勝坂式期）。

**遺物**（第 88 図、第 46 表、図版 39）

[土 器] (第88図1、第46表、図版39)

破片資料1点を図示した。1は勝坂式の深鉢形土器である。

#### 647号土坑

**遺 構** (第84図)

[位 置] (B-2) グリッド/③地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。15Pに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸推定 1.20 m/短軸推定 1.08 m/深さ 14cm。長軸方位：N-12°-E。壁：約 20°で皿状に立ち上がる。

[覆 土] ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗茶褐色土を基調。

[遺 物] 土器は4点 70gが出土した。

[時 期] 出土遺物から、中期中葉期(阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期)。

**遺 物** (第88図、第46表、図版39)

[土 器] (第88図1・2、第46表、図版39)

破片資料2点を図示した。1は阿玉台Ⅱ～Ⅲ式、2は阿玉台Ⅲ式の深鉢形土器である。

#### 648号土坑

**遺 構** (第84図)

[位 置] (B-3) グリッド/②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸 0.80 m/短軸 0.74 m/深さ 28cm。長軸方位：N-49°-W。壁：60～75°で立ち上がる。

[覆 土] ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗茶褐色土を基調。

[遺 物] 土器は5点 97gが出土した。

[時 期] 出土遺物から、中期後葉期(加曾利E 3/曾利Ⅲ～Ⅳ式期)。

**遺 物** (第88図、第46表、図版39)

[土 器] (第88図1・2、第46表、図版39)

破片資料2点を図示した。1は加曾利E 3式、2は曾利Ⅲ～Ⅳ式の深鉢形土器である。

#### 649号土坑

**遺 構** (第84図)

[位 置] (C-4) グリッド/②地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。全体的に畝状耕作痕に壊され、遺存状態は悪い。

[構 造] 平面形：円形。規模：長軸推定 1.04 m/短軸 0.76 m/深さ 26cm。長軸方位：N-28°-W。壁：60～75°で立ち上がる。

[覆 土] ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含み、焼土粒子を僅かに含む暗褐色土を基調。

[遺 物] 土器は4点 58gが出土した。図示できる遺物は出土しなかった。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、中期。

### 716号土坑

**遺構** (第84図)

[位置] (E-5) グリッド/⑤地点

[検出状況] 565 Yの精査後、床下から検出した。上層は565 Yに壊されるが、中層以下の遺存状態は良好である。565 Yに切られる。

[構造] 平面形：楕円形。南側にピット状の掘込がある。規模：長軸推定0.78 m/短軸0.50 m/深さ50cm。長軸方位：N-20°-E。壁：約85°で急斜に立ち上がる。

[覆土] ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を微量～中量含む暗黄褐色～黄褐色土を基調とする。

[遺物] 土器は1点17gが出土した。図示できる遺物は出土しなかった。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、中期。

### 717号土坑

**遺構** (第84図)

[位置] (E-3) グリッド/⑤地点

[検出状況] 125Pを切る。

[構造] 平面形：円形。規模：長軸推定0.62 m/短軸0.60 m/深さ32cm。長軸方位：N-35°-E。壁：約80°で急斜に立ち上がる。

[覆土] ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む灰黄褐色土を主体に、壁際は、ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを中量～多量含む、炭化物粒子を僅かに含むにぶい黄褐～黄褐色土を基調とする。

[遺物] 土器は1点11gが出土した。図示できる遺物は出土しなかった。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、中期。

### 719号土坑

**遺構** (第84図)

[位置] (F-4) グリッド/⑤地点

[検出状況] 畝状耕作痕に一部壊される。160 Pを切り、南西側を718 Dに切られる。

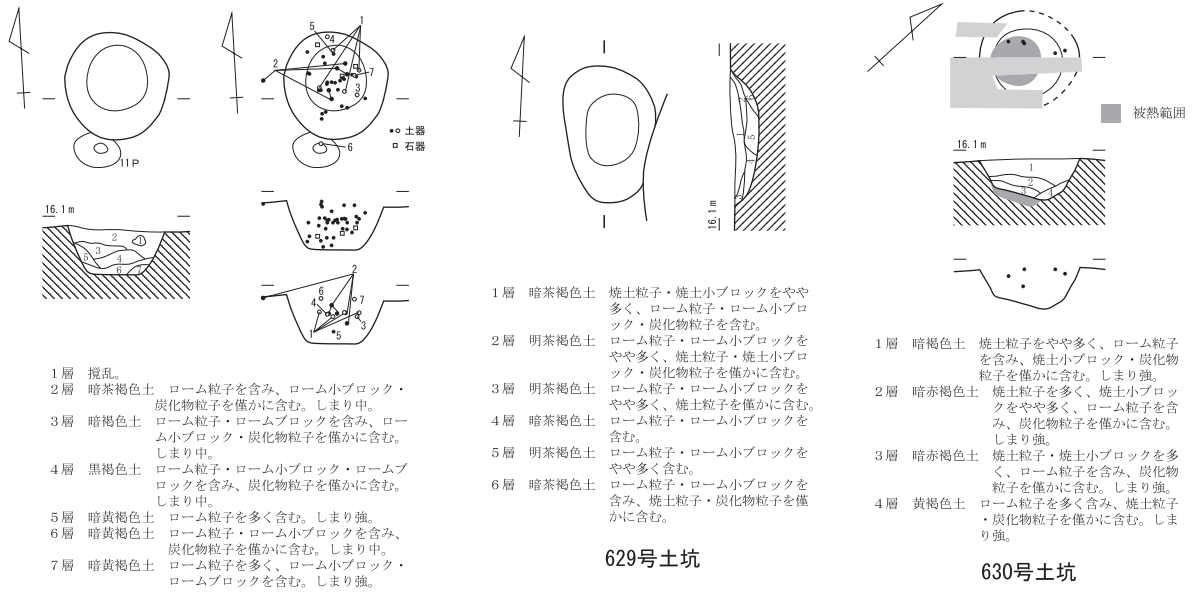
[構造] 平面形：楕円形。中央底面にピット状の掘込がある。規模：長軸1.56 m/短軸1.28 m/深さ50cm。長軸方位：N-48°-E。壁：70～80°で急斜に立ち上がる。

[覆土] 上層(2層)は暗茶褐色土と比較的暗く、中層(3～5層)は灰黄褐色～黄褐色土どやや明るく、下層(5～9層)は暗黄褐色～にぶい黄褐色と暗い土壌が堆積していた。。

[遺物] 土器は24点173gが出土した。図示できる遺物は出土しなかった。

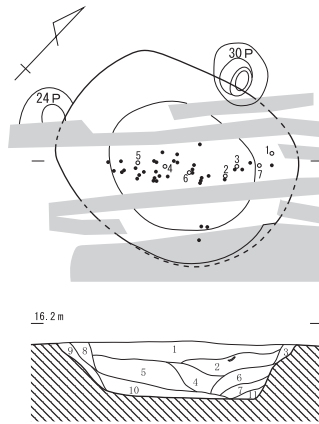
[時期] 出土遺物と覆土の観察から、中期。





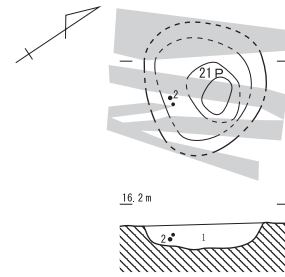
第82図 縄文時代土坑1 (1/60)

第3章 検出された遺構・遺物



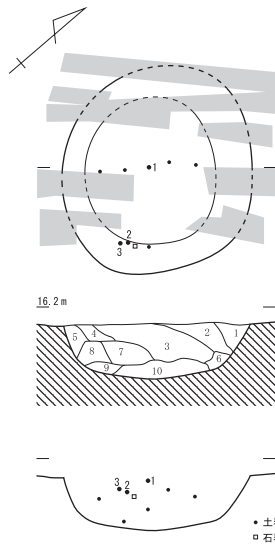
635号土坑

- 1層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 2層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 3層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。
- 4層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 5層 黒褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 6層 黒褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 7層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 8層 暗茶褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 9層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 10層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック、ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 11層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。



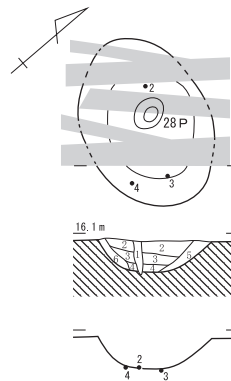
637号土坑

- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。



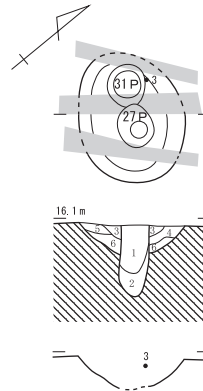
638号土坑

- 1層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 2層 暗茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 3層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを含み、焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 5層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を含み、焼土小ブロックを僅かに含む。
- 8層 明茶褐色土 ローム粒子をやや多く、ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 9層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 10層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。



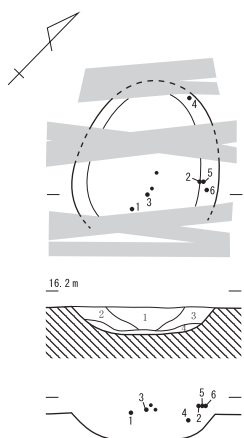
639号土坑

- 1層 攪乱
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む、ロームブロックを含む。
- 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。
- 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。



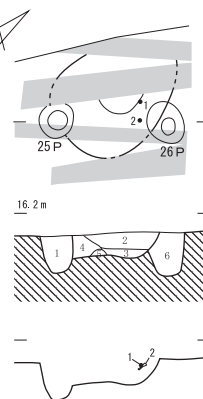
641号土坑・27号ピット

- 27P 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 2層 黒褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。
- 641D 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 5層 明茶褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。
- 6層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。



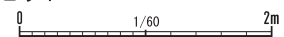
642号土坑

- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。

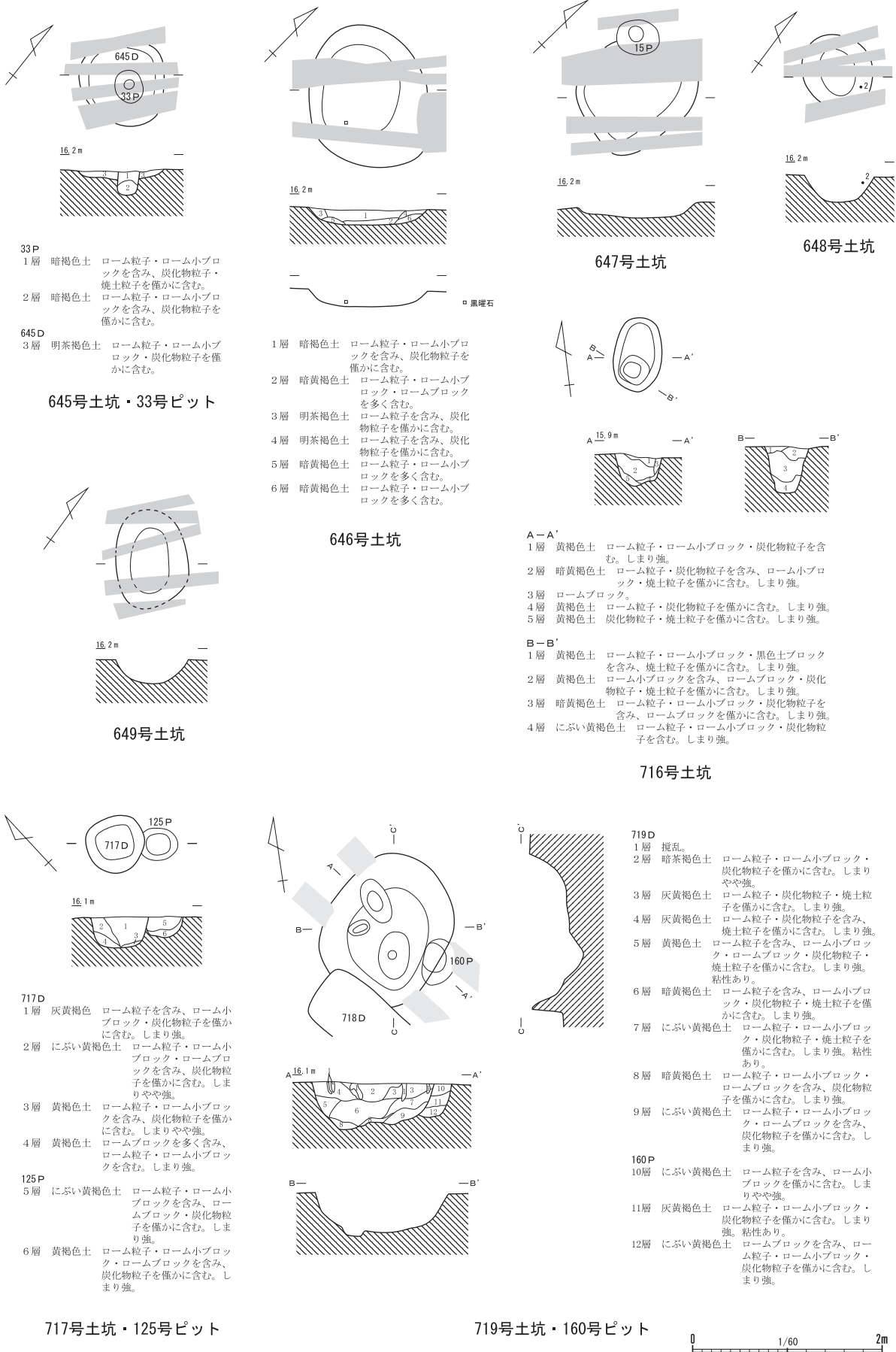


643号土坑・25・26号ピット

- 25P 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 643D 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
- 3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。
- 5層 明黄褐色土 ロームブロック。
- 26P 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。



第83図 縄文時代土坑2 (1/60)



- 33P**  
 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。  
 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。
- 645D**  
 3層 明茶褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。

645号土坑・33号ピット

- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。  
 2層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。  
 3層 明茶褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。  
 4層 明茶褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。  
 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。  
 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。

646号土坑

647号土坑

648号土坑

- A-A'**  
 1層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり強。  
 2層 暗黄褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。  
 3層 ロームブロック。  
 4層 黄褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。  
 5層 黄褐色土 炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
- B-B'**  
 1層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・黒色土ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。  
 2層 黄褐色土 ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。  
 3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。  
 4層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。しまり強。

716号土坑

- 717D**  
 1層 灰黄褐色 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。  
 2層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。  
 3層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。  
 4層 黄褐色土 ロームブロックを多く含み、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。
- 125P**  
 5層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。  
 6層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。

717号土坑・125号ピット

- 718D**  
 10層 にぶい黄褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。  
 11層 灰黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。粘性あり。  
 12層 にぶい黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。

719号土坑・160号ピット

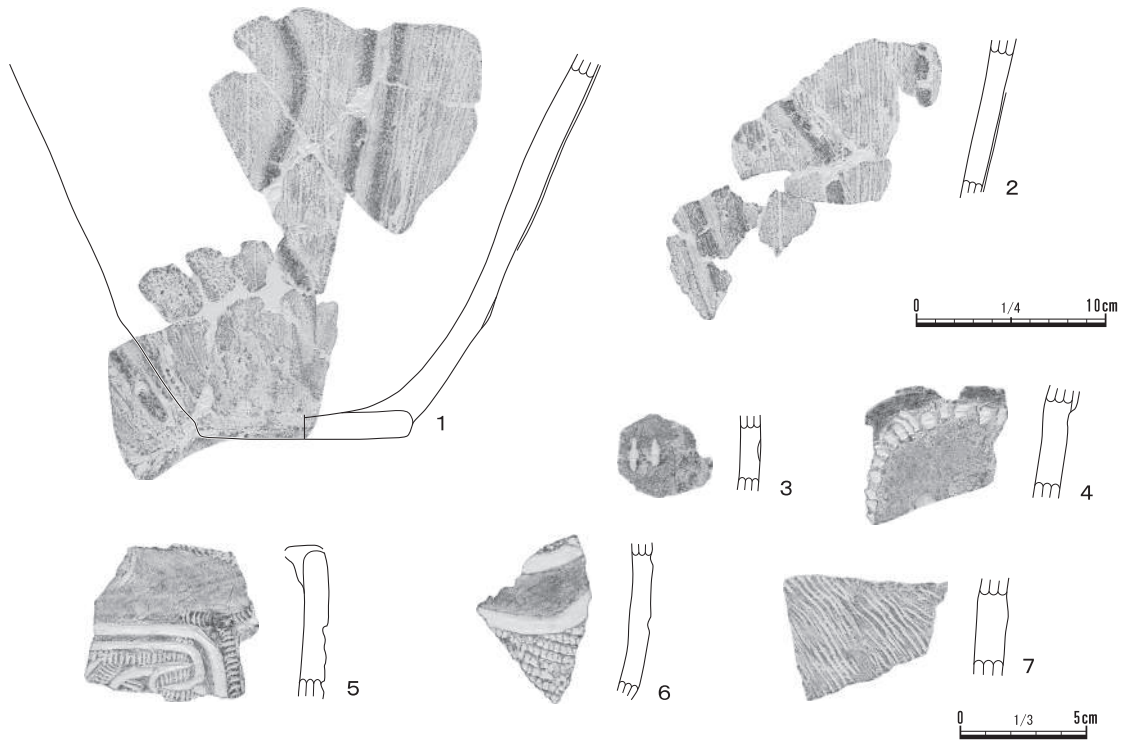
第84図 縄文時代土坑3 (1/60)

第3章 検出された遺構・遺物

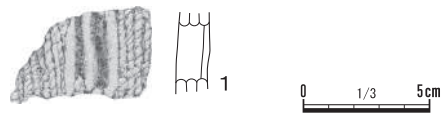
遺構名	グリッド地点	平面形	規模 (m)			長軸方位	特徴・出土遺物・備考	時期
			長軸	短軸	深さ			
628D	C-2 ③地点	円形	0.84	0.82	0.36	N-5°-E	164Jを切る／断面は逆台形を呈する 土器：阿玉台(3点69g)／勝坂(11点243g)／加曾利E(7点132g)／曾利(9点1,021g)／中期(39点350g) 石器：3点(打製石斧1点・磨石1点・剥片1点)	加曾利E 2c-3b式／曾利Ⅲ～Ⅳ式期
629D	C-1 ③地点	長楕円形	1.10	0.7	0.22	N-8°-W	土器：阿玉台(1点8g)／加曾利E(1点31g)／中期(4点31g)	中期中葉～後葉
630D	C-2 ③地点	円形	0.80	0.80	0.38	N-50°-E	164Jを切る／底面が被熱赤化していた 土器：勝坂(3点58g)	中期中葉(勝坂3a式期以降)
631D	C-2 ③地点	長楕円形	2.04	1.20	0.26	N-5°-W	加曾利E 4式の大形破片出土／土壌か 土器：阿玉台(9点92g)／勝坂(11点257g)／加曾利E(26点1,263g)／曾利(2点45g)／中期(21点181g)	加曾利E4式期
632D	B-3 ②地点	楕円形	1.96	1.50	0.22	N-54°-E	640Dを切る 土器：阿玉台(3点53g)／勝坂(3点66g)／加曾利E(14点447g)／中期(25点208g)	加曾利E 1～3式期
633D	C-4 ②地点	円形か	0.45	不明	0.10	N-50°-E	636Dに切られる 土器：曾利(7点566g)／連弧文(2点36g)	曾利Ⅲ式期
634D	B-3 ②地点	楕円形	1.24	0.90	0.20	N-20°-E	土器：阿玉台(2点10g)／勝坂(4点164g)／加曾利E(10点180g)／曾利(5点186g)／連弧文(5点320g)／中期(17点221g) 石器：2点(打製石斧2点)	連弧文2段階期
635D	B・C-3・4 ②地点	楕円形	1.80	1.52	0.42	N-87°-E	土器：阿玉台(3点28g)／勝坂(5点67g)／加曾利E(80点1,832g)／曾利(1点24g)／連弧文(2点66g)／中期(47点652g) 石器：1点(磨石?1点)	加曾利E 3～4式期
636D	C-4 ②地点	円形か	0.42	不明	0.18	N-50°-E	633Dを切る 出土遺物なし	曾利Ⅲ式期以降
637D	B-3 ②地点	円形か	(1.08)	0.98	0.20	N-73°-W	土器：阿玉台(1点6g)／勝坂(1点13g)／加曾利E(5点48g)／中期(7点114g)	加曾利E 式期
638D	B-3 ②地点	円形	(1.68)	1.54	0.42	N-26°-W	土器：阿玉台(5点57g)／勝坂(11点355g)／加曾利E(3点70g)／曾利(1点24g)／中期(8点68g) 石器：1点(打製石斧1点)	勝坂3式期
639D	B-3 ②地点	楕円形	1.40	1.00	0.24	N-69°-W	土器：阿玉台(3点466g)／加曾利E(2点44g)	阿玉台式期
640D	B-3 ②地点	円形か	(0.90)	不明	0.28	N-70°-W	632Dに切られる 出土遺物なし	加曾利E1-3式期以前
641D	B-3 ②地点	楕円形	1.04	0.84	0.22	N-52°-W	27Pに切られる。 土器：阿玉台(2点19g)／勝坂(1点16g)／加曾利E(12点166g)／曾利(1点24g)／中期(6点128g)	加曾利E 3式期
642D	A-3 ②地点	楕円形	(1.50)	1.14	0.22	N-27°-W	土器：阿玉台(2点32g)／勝坂(2点31g)／加曾利E(22点900g)／中期(23点223g) 石器：1点(磨石1点)	加曾利E 3b～c式期
643D	A-3 ②地点	楕円形か	(1.20)	0.80	0.18	N-14°-E	土器：阿玉台(2点28g)／加曾利E(6点274g)／中期(2点22g)	加曾利E 3式期
644D	欠番							
645D	A-3 ②地点	円形	0.90	0.88	0.08	N-30°-W	33Pに切られる 土器：加曾利E(2点31g)	加曾利E 1式期
646D	B・C-4 ②地点	円形	1.46	1.24	0.14	N-32°-W	土器：勝坂(1点21g) 石器：1点(剥片1点)	勝坂式期
647D	B-2 ②地点	楕円形	(1.20)	(1.08)	0.14	N-12°-E	土器：阿玉台(2点44g)／加曾利E(1点10g)／中期(1点16g)	阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期
648D	B-3 ②地点	円形	0.80	0.74	0.28	N-49°-W	土器：加曾利E(2点35g)／曾利(1点37g)／中期(2点25g)	加曾利E 3／曾利Ⅲ～Ⅳ式期
649D	C-4 ②地点	楕円形	(1.04)	0.76	0.26	N-28°-W	土器：中期(4点58g)	中期

第45表 縄文時代土坑一覧

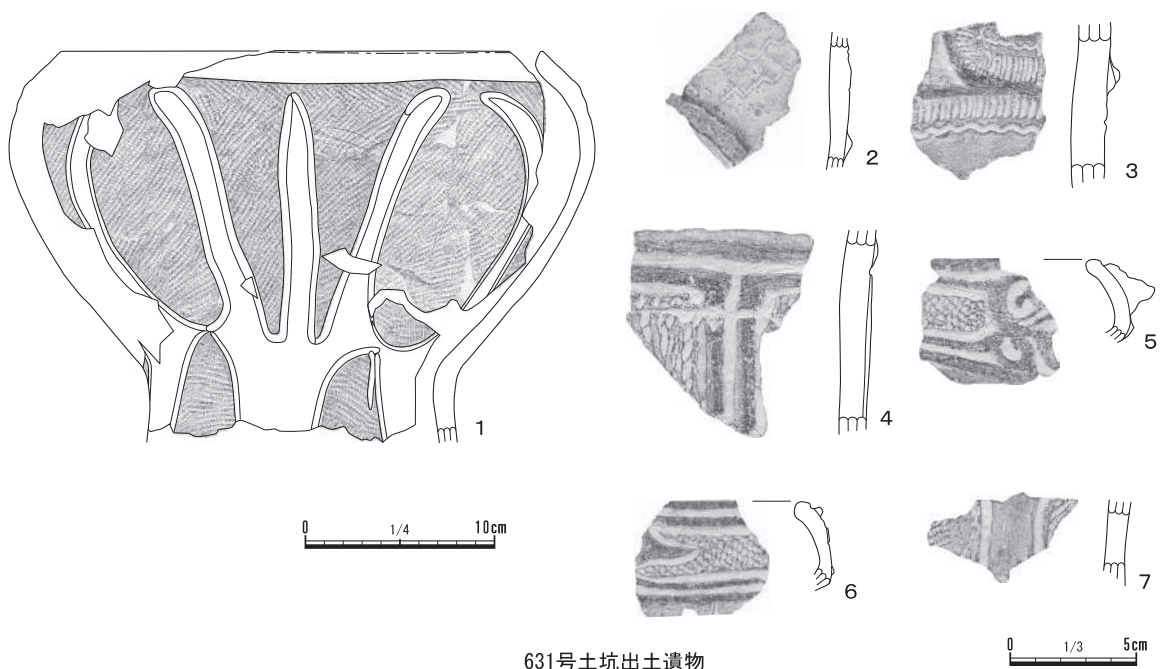




628号土坑出土遺物

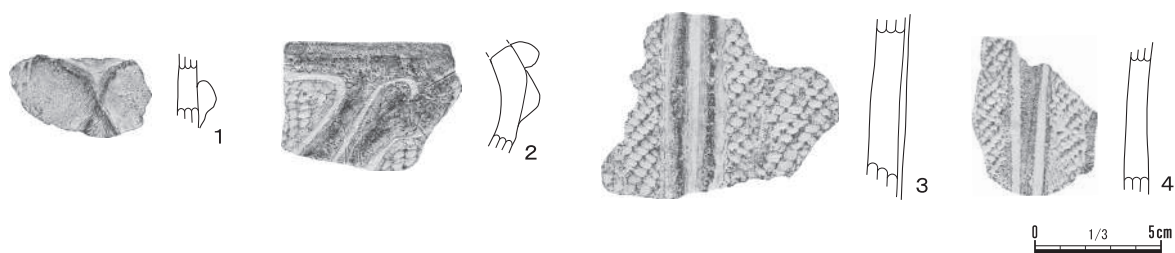


629号土坑出土遺物

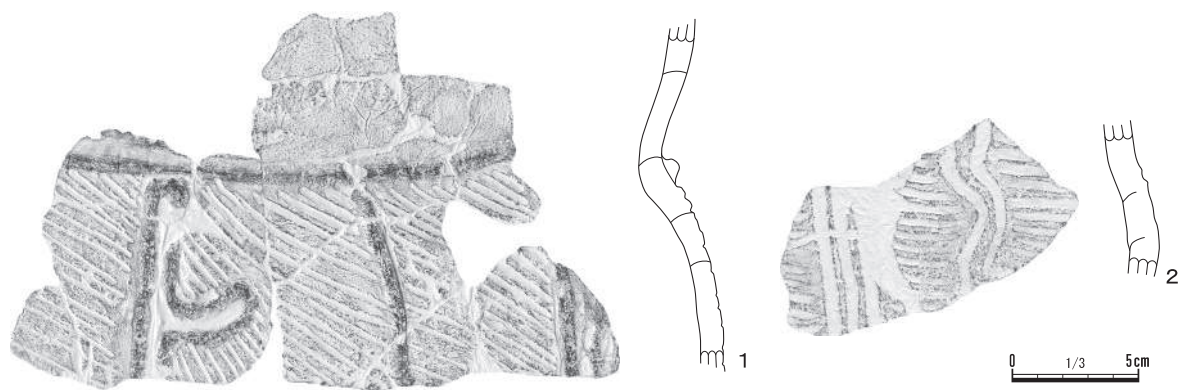


631号土坑出土遺物

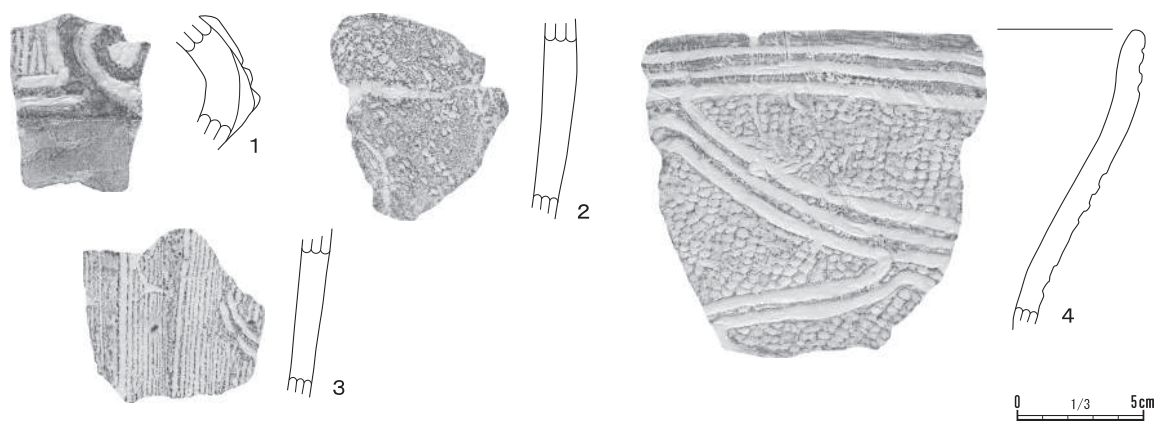
第85図 縄文時代土坑出土遺物1 (1/4・1/3)



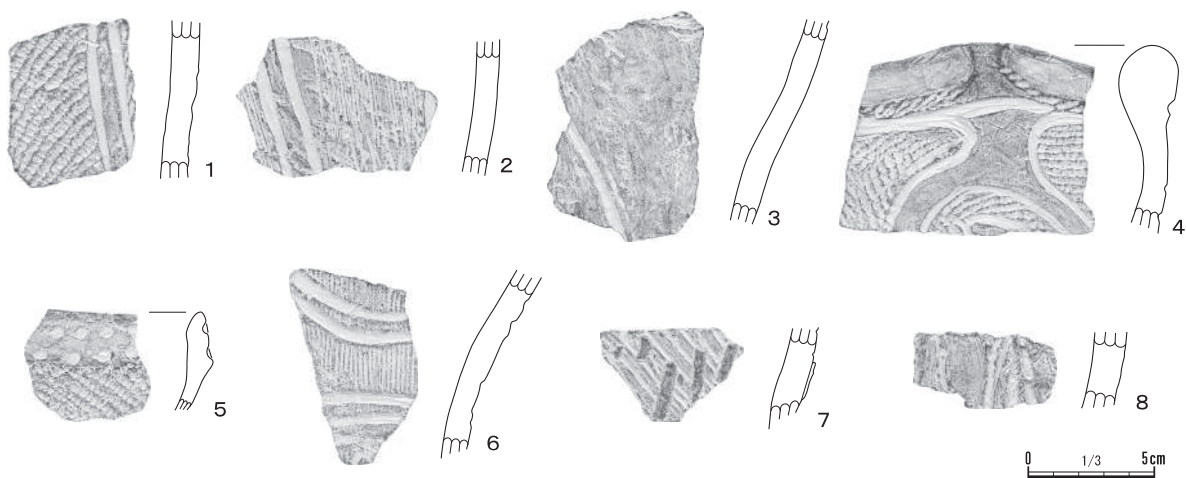
632号土坑出土遺物



633号土坑出土遺物



634号土坑出土遺物

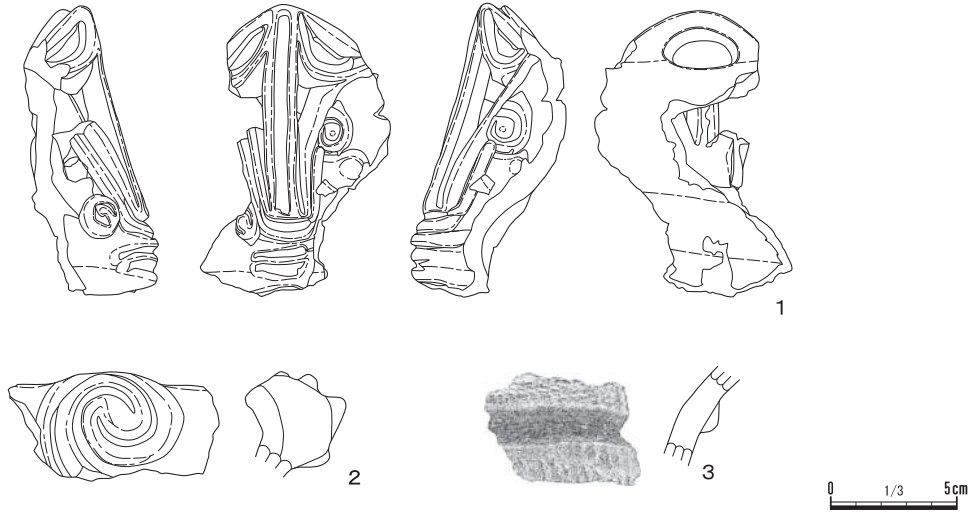


635号土坑出土遺物

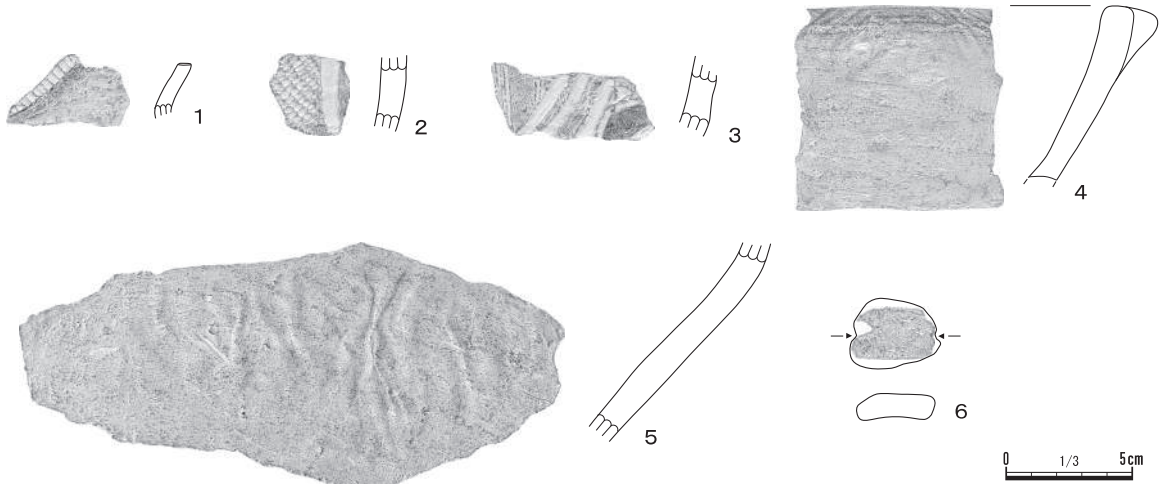
第86図 縄文時代土坑出土遺物2 (1/3)



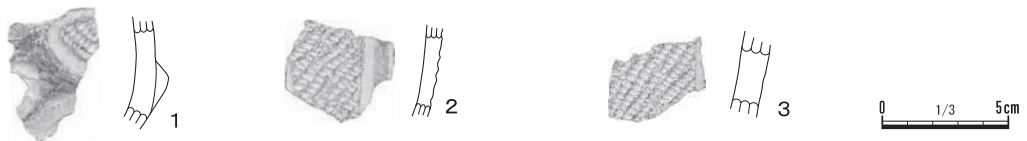
637号土坑出土遺物



638号土坑出土遺物

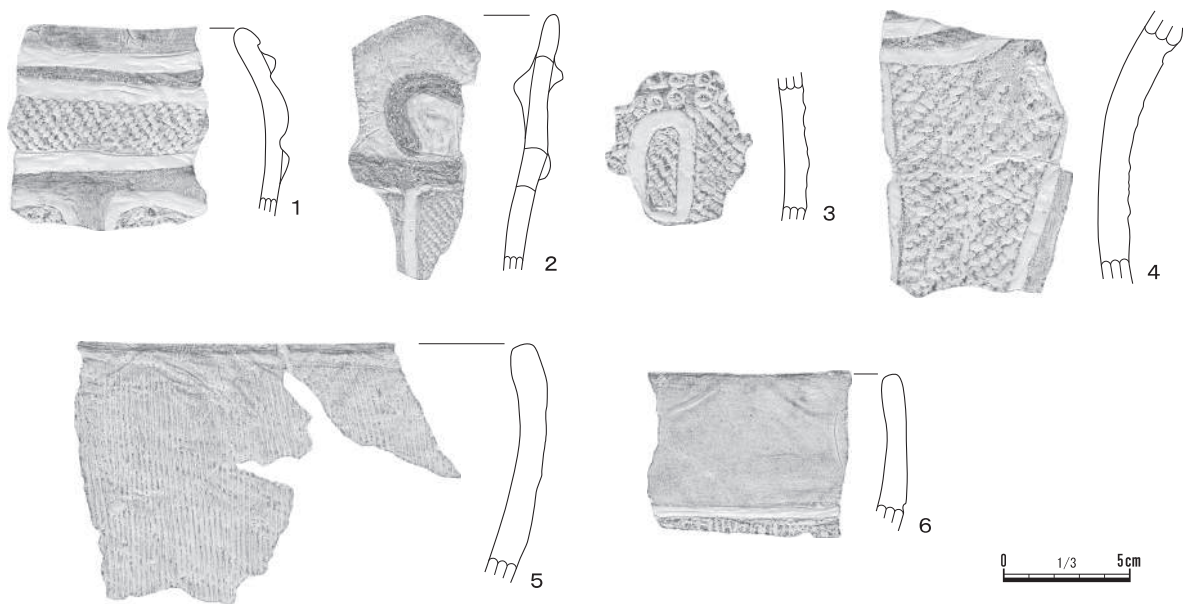


639号土坑出土遺物

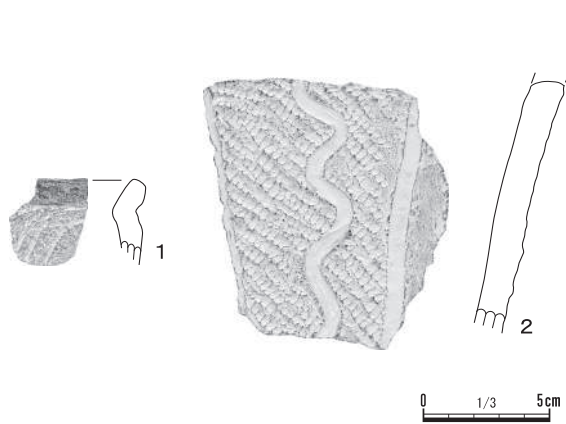


641号土坑出土遺物

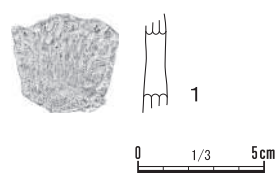
第87図 縄文時代土坑出土遺物3 (1/3)



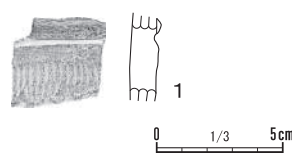
642号土坑出土遺物



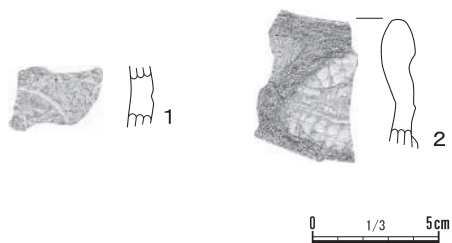
643号土坑出土遺物



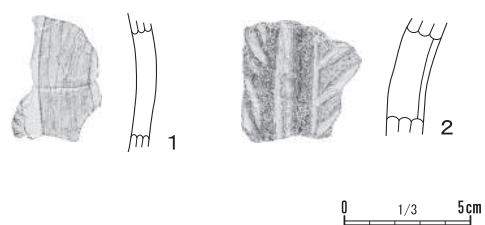
645号土坑出土遺物



646号土坑出土遺物



647号土坑出土遺物



648号土坑出土遺物

第88図 縄文時代土坑出土遺物4 (1/3)



挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第85図1 図版37-3-1	628D	深鉢	胴部中位 ～底部 破片	厚 1.4 底 (10.8)	キャリパー形か/ 平坦な底部から膨 らみながら立上る	半截竹管状工具による縦位条線/胴部には 幅広で背の低い隆帯による2本1対の直状 隆帯と1本の波状隆帯垂下/隆帯脇の抑え は甘い	黄橙/砂粒・礫 多量	曾利Ⅲ～Ⅳ 式
第85図2 図版37-3-2	628D	深鉢	胴部 破片	厚 1.4		第85図1と同一個体	黄橙/砂粒・礫 多量	曾利Ⅲ～Ⅳ 式
第85図3 図版37-3-3	628D	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	ほぼ直立	爪形文列が横走	褐/砂粒・礫・ 雲母中量	阿玉台Ⅱ式
第85図4 図版37-3-4	628D	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	僅かに外傾	断面カマボコ状の隆帯による区画文か/隆 帯脇には幅広竹管状工具による押引文が沿 う	褐/砂粒・礫・ 雲母少量	阿玉台Ⅲ式
第85図5 図版37-3-5	628D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	円筒形か/僅かに 内湾する口縁部/ 口唇部内面で肥厚 するか	口縁部上端は無文/口縁部には半円形刺突 が付された隆帯と沈線による区画文/隆帯 脇には半截竹管状の腹面引きによる並行沈 線が沿う/区画文内には沈線と角押文が充 填	暗褐/砂粒多 量、礫・雲母微 量	勝坂3式
第85図6 図版37-3-6	628D	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	内湾する胴部	地文は単節RL横位施文(充填施文か)/ 2本1対の幅広で浅い沈線によるU字状区 画か/沈線間は磨消	にぶい黄橙/砂 粒・礫微量	加曾利E3 ～4式
第85図7 図版37-3-7	628D	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	ほぼ直立	地文は撚糸L斜位施文	にぶい黄橙/砂 粒多量、礫微量	加曾利E3 ～4式
第85図1 図版37-3-1	629D	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	ほぼ直立	地文は撚糸L縦位施文/2本1対の隆帯が 垂下	黒褐/砂粒・礫 中量	加曾利E1 式
第85図1 図版38-1	631D	深鉢	口縁部～ 胴部中位 30% 破片	口(24.8) 高[20.5] 厚 1.0	キャリパー形/胴 部中位で括れ、胴 部上位から口縁部 にかけて内湾して 開く	口縁部上端は無文/地文は単節RLで、口 縁部上位置のみ横位、以下は縦位施文/胴 部中位の括部を境に磨消を伴う沈線による 対向U字状文/口縁部上位でU字状文が婉 曲し、O字状を呈す	橙/砂粒・礫微 量	加曾利E4 式
第85図2 図版38-2	631D	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	ほぼ直立	断面三角形の隆帯による懸垂文/隆帯脇は ナデつけられる/胴部には波状沈線が横走	橙/砂粒・礫・ 雲母多量	阿玉台Ⅱ式
第85図3 図版38-3	631D	深鉢	口縁部～ 頸部 破片	厚 1.3	やや外反する頸部 /口縁部は僅かに 内湾	やや細い断面カマボコ状の隆帯による区画 文/隆帯脇には幅広角押文と波状沈線が沿 う	明赤褐/砂粒・ 礫少量	勝坂2式
第85図4 図版38-4	631D	深鉢	胴部上位 ～頸部 破片	厚 1.0	ほぼ直立する胴部 上位/やや外反す る頸部	地文は節の粗い撚糸L縦位施文/2本1対 の断面カマボコ状の隆帯が頸部に巡り、胴 部で垂下する	にぶい褐/砂 粒・礫多量	加曾利E1 式
第85図5 図版38-5	631D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.5	内折する口縁部	口縁部の屈折部より上位に文様帯をもち、 下位は無文となる/地文は単節RL横位施 文/隆帯によるやや上方向と下方向の渦巻 状文が重ねられ、突起状を呈す	褐/砂粒微量、 礫多量	加曾利E1 式
第85図6 図版38-6	631D	深鉢	胴部 破片	厚 0.5	内折する口縁部	第85図5と同一個体か/口縁部に配され るS字状文が剣先状を呈するか	褐/砂粒微量、 礫多量	加曾利E1 式
第85図7 図版38-7	631D	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	外反する胴部	地文は単節RL縦位施文/2本1対の太い 沈線が垂下/沈線間は磨消	暗褐/砂粒・礫 少量	加曾利E3 ～4式
第86図1 図版38-1	632D	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	ほぼ直立する	片側(下方)のみナデつけられた断面三角 形の隆帯によるY字状懸垂文	暗褐/砂粒・礫 中量、雲母微量	阿玉台I b 式
第86図2 図版38-2	632D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部	地文は単節RL斜位施文/断面カマボコ状 の隆帯による区画文が配され、端部は渦巻 状文	橙/砂粒・礫多 量	加曾利E1 ～2式
第86図3 図版38-3	632D	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや外傾する胴部	地文は単節RL縦位施文/2本1対の直状 隆帯が垂下	橙/砂粒・礫多 量	加曾利E1 ～2式
第86図4 図版38-4	632D	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや外反する胴部	地文は単節RL縦位施文/2本1対の直状 沈線が垂下/沈線間は磨消	にぶい黄褐/砂 粒・礫中量	加曾利E3 式
第86図1 図版38-1	633D	深鉢	口縁部～ 胴部中位 破片	高[14.7] 厚 1.0	膨らむ胴部/頸部 で括れ、口縁部は 内湾して広がる	頸部に隆帯が巡り、口縁部と胴部を画す/ 頸部の横位隆帯から1本もしくは2本1対 の隆帯が垂下/2本1対の隆帯は上端が逆 U字状を呈し、垂下する1本が胴部中位で 変形してト字状を呈す/隆帯貼付後、胴部 全面に右下がりの斜行沈線文を充填	にぶい褐/砂 粒・礫・角閃石・ 白色粒子中量	曾利Ⅲ式
第86図2 図版38-2	633D	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	膨らむ胴部/中位 か	3本1対の直状沈線、2本1対の波状沈線 垂下/垂下文施文後、右下がりの斜行沈線 文充填	橙/砂粒・礫中 量、2～4mmの 円礫少量	曾利Ⅲ式

第46表 縄文時代土坑出土土器一覽(1)

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第86図1 図版38-1	634D	浅鉢	口縁部下位～体部上位破片	厚 1.3	直線的に広がる体部／内折する口縁部	口縁部には2本1対の隆帯によるS字状文／体部無文	橙／砂粒多量、礫微量	加曾利E1～2式
第86図2 図版38-2	634D	深鉢	胴部破片	厚 1.1	僅かに内湾して広がる胴部下位か	地文は条間が広い複節LR縦位施文／単沈線による波状沈線文が垂下	橙／砂粒多量、礫少量	加曾利E3式か
第86図3 図版38-3	634D	深鉢	胴部破片	厚 1.0	直線的に開く胴部	地文は条線縦位施文／2本1対の沈線による弧状文	黒褐／砂粒・礫多量	連弧文2段階か
第86図4 図版38-4	634D	深鉢	口縁部～頸部20%	口厚 0.9	頸部で括れ、口縁部は僅かに内湾して広がる／口縁部上端面で僅かに肥厚し、口唇部は断面三角形状を呈す	地文は単節RLで、口縁部上端は斜位、以下は縦位施文／口縁部上端には3本1対の沈線が巡る／口縁部上半には3本1対の沈線による弧状文を配し、その波底部から2本1対の沈線による弧状文が横走する	にぶい黄褐／砂粒・礫少量	連弧文2段階
第86図1 図版38-1	635D	深鉢	胴部破片	厚 1.1	僅かに内湾して外傾する	地文は単節RL縦位施文／2本1対の直状沈線が垂下／沈線間の磨消は甘く、僅かに地文が残る	にぶい黄褐／砂粒・礫少量	加曾利E2式
第86図2 図版38-2	635D	深鉢	胴部破片	厚 0.9	ほぼ直線的に開く	地文は条線／2本1対の太い沈線が垂下	明赤褐／砂粒・礫少量	加曾利E2式／曾利II～III式
第86図3 図版38-3	635D	深鉢	胴部破片	厚 0.9	外反して立上がる胴部下位／内湾する胴部上位	破片上端と左端に確認できる沈線は対向U字状区画を呈するか／地文ない	暗赤褐／砂粒少量、礫多量	加曾利E4式
第86図4 図版38-4	635D	深鉢	口縁部破片	厚 1.1	内湾する口縁部	口縁部上端に2本1対の隆帯が巡り、一部で左右両側からせり上がり小突起を形成／口縁部には太く深い沈線による区画文／区画文内には単節LRが充填施文される	にぶい黄橙／砂粒・礫微量、橙色粒子少量	加曾利E4式
第86図5 図版38-5	635D	深鉢	口縁部破片	厚 0.8	内湾する口縁部／内折れする口縁部上端／波状口縁を呈するか	内折する口縁部上端には2列の円形刺突文列／口縁部は単節RL横位施文	灰黄褐／砂粒・礫多量	加曾利E4式
第86図6 図版38-6	635D	深鉢	口縁部下位～頸部破片	厚 1.0	やや外反する頸部	地文は条線／頸部には3本1対の沈線が横走し、口縁部と胴部を画すか／口縁部には2本1対の沈線による弧線文	橙／砂粒・礫少量	連弧文2段階
第86図7 図版38-7	635D	深鉢	胴部破片	厚 1.0	僅かに内湾する	右下がりの沈線を地文とし、左下がりでの抑えの甘い細い隆帯が貼付	浅黄橙／砂粒中量、礫少量	曾利I～II式
第86図8 図版38-8	635D	深鉢	胴部破片	厚 1.3		棒状工具による深く太い押引文・沈線	明赤褐／砂粒・礫少量	曾利II～III式か
第87図1 図版38-1	637D	深鉢	胴部破片	厚 1.1	外傾するか	破片端部に隆帯貼付／隆帯脇に角押文／地文は単節RL斜位施文	にぶい褐／砂粒・礫多量	勝坂式
第87図2 図版38-2	637D	深鉢	胴部破片	厚 1.1	僅かに内湾して外傾	地文は燃糸L縦位施文	橙／砂粒・礫中量	加曾利E1式
第87図1 図版39-1	638D	深鉢	把手部破片	厚 0.7	口縁部は強く内湾	大形の把手／把手上端面に円環状把手が付され、その縁辺から沈線を伴う太い背割隆帯3本が口縁部外面中央に垂下し、中空把手を形成／垂下隆帯の下端には細い隆帯が横位に巻き付く／隆帯の両脇には粒状隆帯と円形隆帯が貼付／獣面把手か	黒褐／砂粒多量、礫微量、4～6mmの亜角礫微量	勝坂3b式
第87図2 図版39-2	638D	深鉢	口縁部破片	厚 0.8	強く内湾する口縁部	口縁部は無文／2本1対の太い隆帯による渦巻状突起	黒褐／砂粒・礫多量	勝坂3b式
第87図3 図版39-3	638D	深鉢	頸部破片	厚 1.0	外反する頸部	地文は燃糸Lで、口縁部は横位、胴部は縦位施文／頸部に断面三角形の隆帯横走		加曾利E1式
第87図1 図版39-1	639D	深鉢	口縁部破片	厚 0.7	やや外折れする口縁部／山形把手ないし波状口縁を呈するか	口唇部には押圧が付され、やや肥厚する	にぶい黄褐／砂粒・礫中量、雲母少量	阿玉台I～II式
第87図2 図版39-2	639D	深鉢	胴部破片	厚 1.0	僅かに内湾する胴部	地文は単節LR縦位施文／磨消を伴う太い沈線が垂下	にぶい黄褐／砂粒・礫微量	加曾利E3式
第87図3 図版39-3	639D	深鉢	胴部破片	厚 1.2		地文は条線縦位施文／3本1対の沈線による弧状文／太く背の低い隆帯貼付	にぶい赤褐／砂粒・礫微量	連弧文2段階

第46表 縄文時代土坑出土土器一覧(2)

挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第87図4 図版39-4	639D	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.1	僅かに内湾しながら開く口縁部/口唇部で肥厚	無文/僅かに赤色顔料付着か	にぶい黄褐/砂粒・礫多量	阿玉台式か
第87図5 図版39-5	639D	浅鉢	体部 破片	厚 1.1	内湾する体部	無文/僅かに赤色顔料付着か/第87図4と同一個体か	にぶい黄褐/砂粒・礫多量	阿玉台式か
第87図1 図版39-1	641D	深鉢	口縁部下 位 破片	厚 1.0	やや内湾する口縁部	地文は単節RL横位施文/背の高い太い隆帯による区画文	黒褐/砂粒・礫微量	加曾利E3b~c式
第87図2 図版39-2	641D	深鉢	胴部 破片	厚 0.6	僅かに内湾	地文は単節RL縦位施文/磨消を伴う太く浅い沈線が垂下	浅黄橙/砂粒・礫微量	加曾利E3式
第87図3 図版39-3	641D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに外反	地文は単節RL縦位施文/沈線垂下	明赤褐/砂粒・礫少量	加曾利E3式か
第88図1 図版39-1	642D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.6	内湾する口縁部	地文は単節RLで、口縁部は横位、胴部は縦位施文/口縁部は隆帯と太く深い沈線による区画文/胴部に逆U字状区画	黒褐/砂粒・礫少量	加曾利E3b~c式
第88図2 図版39-2	642D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	ほぼ直線的に開く/口縁部上端内面で断面三角形に肥厚	山形の突起が付く/口縁部は無文で、渦巻状の貼付文/口縁部と胴部を隆帯で画す/地文は単節LR縦位施文/胴部に沈線が垂下	褐灰/砂粒・礫少量	加曾利E3b~c式
第88図3 図版39-3	642D	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		地文は単節RL横位施文/竹管状工具による円形刺突列/沈線によるO字状文	にぶい黄橙/砂粒微量・礫少量	加曾利E3b~c式
第88図4 図版39-4	642D	深鉢	胴部上位 破片	厚 1.3	外反して広がる胴部	地文は前々段合燃RL縦位施文/胴部上端の横位弧状沈線により口縁部と画すか/胴部には磨消を伴う沈線垂下	黒褐/砂粒・礫微量	加曾利E3b~c式
第88図5 図版39-5	642D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	やや内湾する口縁部/バケツ形となるか	口縁部上端には浅い沈線が横位に巡る/地文は条線縦位施文	黒褐/砂粒・礫少量	加曾利E3c~4式
第88図6 図版39-6	642D	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	やや内湾する口縁部	幅広の無文の口縁部/横走する沈線により口縁部と胴部を画す/胴部は条線縦位施文/内外面に赤色顔料が付着しており、特に内面は顕著/外面上端に漆か	黒褐/砂粒・礫中量	加曾利E3c~4式
第88図1 図版39-1	643D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	僅かに内湾する口縁部/口唇部で外反	口縁部上端には隆帯が1本巡る/竹管状工具の押しきによる結節沈線文	灰黄褐/砂粒・礫・雲母多量	阿玉台Ib式
第88図2 図版39-2	643D	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	僅かに外反する胴部中位	地文は単節LR縦位施文/磨消を伴う太い沈線や波状沈線が垂下	褐/砂粒多量、礫微量	加曾利E3式
第88図1 図版39-1	645D	深鉢	胴部下位 破片	厚 0.9	僅かに肥厚する胴部下位	条間の空いた燃系L縦位施文	黄橙/砂粒微量	加曾利E1式
第88図1 図版39-1	646D	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	ほぼ直立するか	断面カマボコ状の隆帯/隆帯脇には沈線/幅広の連続爪形文	明赤褐/砂粒多量、礫少量	勝坂式か
第88図1 図版39-1	647D	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	僅かに内湾	沈線による弧線文	暗褐/砂粒・礫多量、雲母少量	阿玉台II~III式
第88図2 図版39-2	647D	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	僅かに内湾する口縁部/口縁部上端内面で肥厚/波状口縁か	口縁部には隆帯による区画文/隆帯脇には幅広の角押文が沿う	暗褐/砂粒・礫多量、雲母多量	阿玉台III式
第88図1 図版39-1	648D	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	内湾する胴部	地文は単節LR縦位施文か/2本1対の沈線垂下/沈線間磨消	にぶい黄橙/砂粒・礫微量	加曾利E3式
第88図2 図版39-2	648D	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	外反する胴部	断面三角形の隆帯が2本1対で垂下/沈線による斜行文	暗赤褐/砂粒・礫多量	曾利III~IV式

第46表 縄文時代土坑出土土器一覧(3)

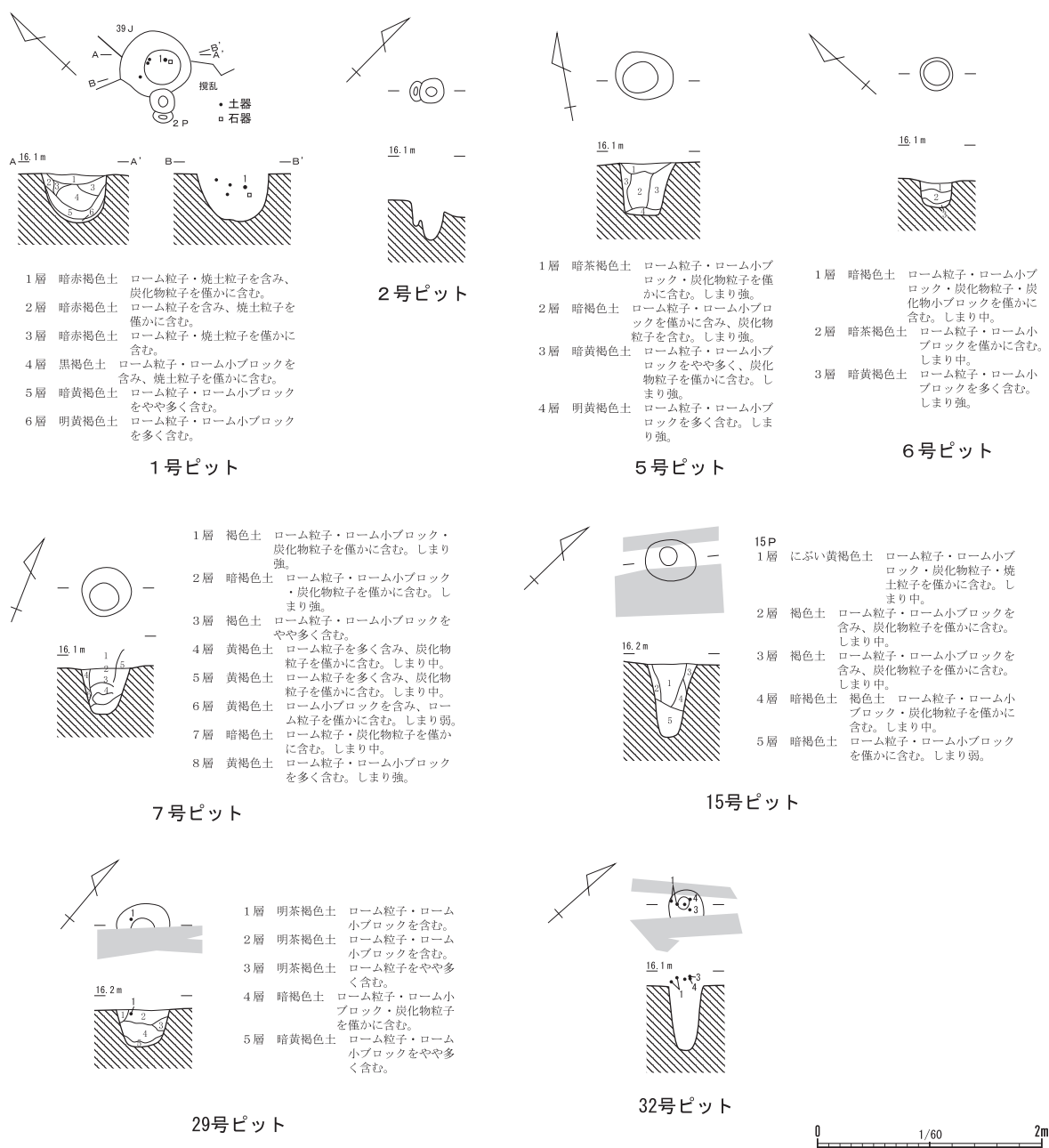
挿図番号 図版番号	出土遺構	種別	遺存度	長さ/幅/厚み (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 型式
第87図6 図版39-6	639D	土器片鉢	完形	4.6/3.3/1.0	11.0	楕円形か/扶部2ヶ所/周縁摩耗/深鉢胴部片利用/無文	暗褐/砂粒・礫・雲母少量	阿玉台I~II式か

第47表 縄文時代土坑出土土製品一覧

### (3) ピット

出土遺物や覆土の観察から、縄文時代に帰属すると考えられるピットは49本（1～36・125・126・129・144・145・149・152・154・158・160～163 P）である。ピットの一覧を第48表、遺構図を第1・89図、ピット出土遺物を第90図に示した。なお、ピットの遺構番号については、第174①～⑤地点の調査を通じて番号を付しており、37～123 Pについては第174地点で報告済である（文献No.60）。

B・C-3グリッドには、ピットがやや凝集的に検出されており、また、土坑と重複するピットも存在している（21・27・31・33 P）。これらは掘建柱建築遺構を構成する可能性があるものの、ここでは単独のピットとして取り扱うこととした。



第89図 縄文時代ピット（1/60）



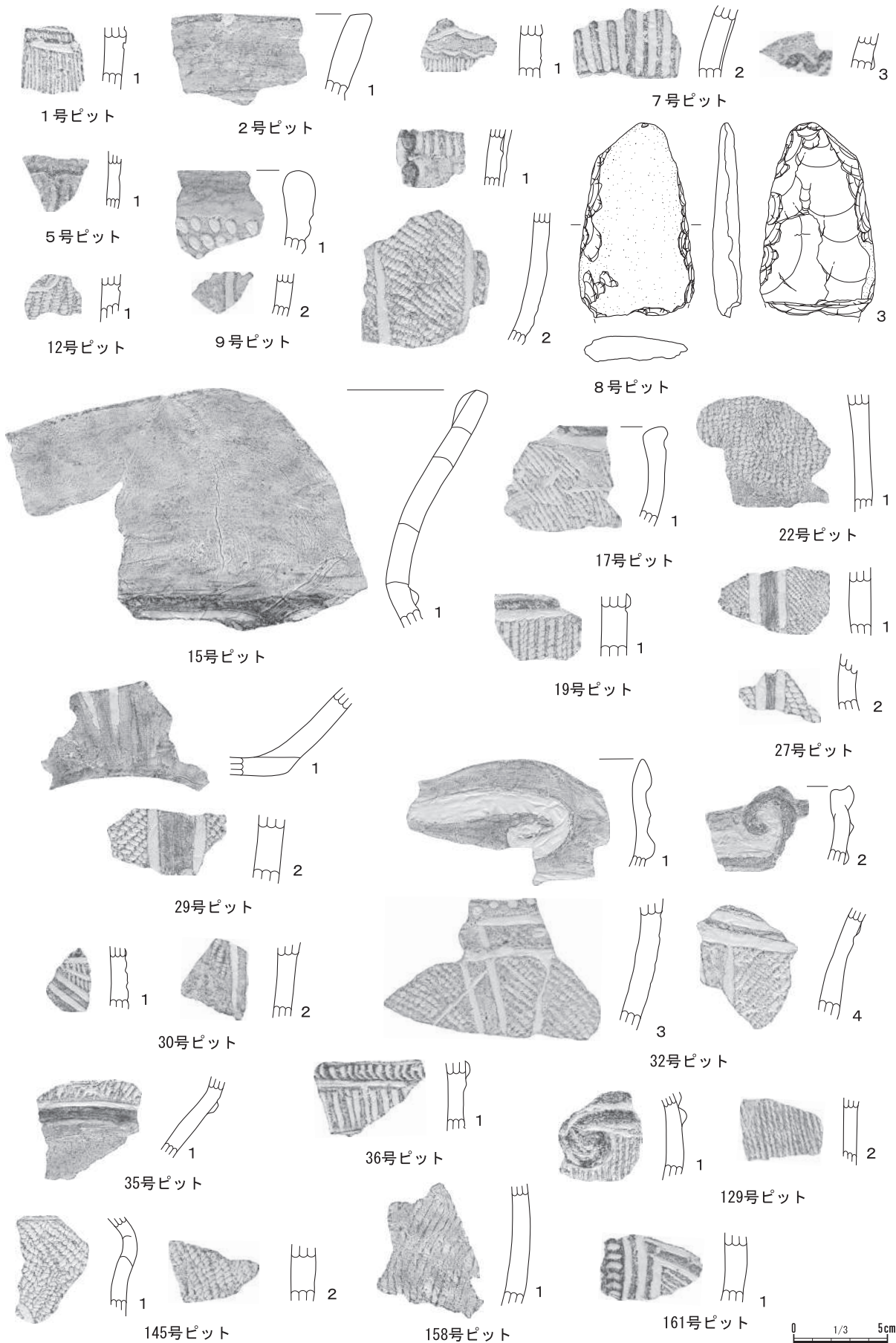
遺構名	グリッド地点	平面形	規模 (cm)			覆土	特徴・出土遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
1P	D-2 ③地点	円形	64	(56)	44	第89図参照	土器：勝坂(2点17g)・加曾利E(2点16g)・連弧文(1点19g)・中期(7点60g)	中期中葉～後葉
2P	D-2 ③地点	円形	32	20	36	第89図参照	土器：加曾利E(1点12g)・曾利(1点59g)	中期後葉
3P	D-2 ③地点	円形	22	18	27	暗黄褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含み炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む/しまり中	出土遺物なし	縄文時代
4P	D-2 ③地点	楕円形	38	30	26	暗黄褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含み炭化物粒子を僅かに含む/しまり強	土器：勝坂(1点8g)・中期(8点39g)	中期中葉～後葉
5P	C-1 ③地点	円形	52	42	46	第89図参照	土器：阿玉台(1点8g)・中期(2点12g)	中期中葉～後葉
6P	D-3 ③地点	円形	30	30	22	第89図参照	出土遺物なし	縄文
7P	C-2 ③地点	円形	44	42	40	第89図参照	土器：勝坂(3点71g)・曾利(1点10g)・中期(1点10g)	中期中葉～後葉
8P	C-2 ③地点	円形	60	50	30	暗褐/ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む/しまり強	土器：阿玉台(2点29g)・勝坂(1点21g)・加曾利E(1点56g)・中期(3点25g) / 石器：3点(剥片2点・打製石斧1点)	中期中葉～後葉
9P	③地点	円形	32	24	48	褐/ローム粒子・ローム小ブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む/しまり強	土器：加曾利E(2点52g)・中期(1点21g)	加曾利E3～4式期
10P	C-2 ③地点	円形	(28)	22	42	暗褐/ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む/しまり中	出土遺物なし	縄文時代
11P	C-2 ③地点	楕円形	38	26	28	暗褐/ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む/しまり中	出土遺物なし	縄文時代
12P	C-2 ③地点	楕円形	36	30	24	黄褐/ローム粒子・ローム小ブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む/しまり強	土器：勝坂(1点11g)	勝坂3式期
13P	C-2 ③地点	楕円形	56	46	31	暗褐/ローム粒子やや多く、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む/しまり強	631Dに切られる/出土遺物なし	中期中葉～後葉期
14P	C-3 ③地点	円形	46	40	72	暗褐/ローム粒子・ローム小ブロック含む/しまり弱	土器：勝坂(1点11g)・中期(1点7g)	勝坂1式期
15P	B-2 ②地点	円形	44	40	66	第89図参照	647Dを切る/土器：阿玉台(1点22g)・勝坂(2点37g)・曾利(1点364g)・中期(2点102g)	曾利式期
16P	D-3 ③地点	楕円形	32	22	59	暗茶褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含む	169Jとの切合い不明/出土遺物なし	縄文時代
17P	D-3 ③地点	楕円形	35	25	41	黒褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含む	土器：加曾利E(2点67g)・中期(1点24g)	加曾利E3式期
18P	D-2 ③地点	円形	160	(160)	21	黒褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含む	169Jとの切合い不明/出土遺物なし	縄文時代
19P	C-3 ②地点	円形	42	38	62	1層：明茶褐/ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む 2層：暗茶褐色/ローム粒子・ローム小ブロックを含む	167Jに切られる/土器：加曾利E(1点30g)・中期(4点48g)	勝坂式期以前
20P	C-3 ②地点	円形	32	26	37	明茶褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含む	167Jを切る/出土遺物なし	中期中葉以降
21P	B-3 ②地点	隅丸方形	50	40	42	明茶褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含む	出土遺物なし	縄文時代
22P	B-3 ②地点	円形	(40)	(20)	23	明茶褐/ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む	632Dとの切合い不明/土器：勝坂(1点52g)・中期(1点7g)	勝坂3式期
23P	B-3 ②地点	隅丸方形	28	(24)	28	暗茶褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含む	632Dとの切合い不明/土器：中期(2点82g)	中期
24P	B-4 ②地点	円形か	50	(42)	46	暗茶褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含み炭化物粒子を僅かに含む	635Dに切られる/土器：阿玉台(1点10g)	阿玉台式期
25P	A-3 ②地点	円形	28	26	30	第83図参照	643Dを切る/土器：中期(1点17g)	加曾利E3式期以降
26P	A-3 ②地点	楕円形	36	28	34	第83図参照	643Dに切られる/出土遺物なし	加曾利E3式期以前
27P	B-3 ②地点	楕円形	34	28	58	第83図参照	641Dを切る/土器：阿玉台(1点12g)・勝坂(1点11g)・加曾利E(4点64g)	加曾利E3式期

第48表 縄文時代ピット一覧(1)

第3章 検出された遺構・遺物

遺構名	グリッド地点	平面形	規模 (cm)			覆土	特徴・出土遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
28P	B-3 ②地点	楕円形	28	22	58	暗茶褐／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む	639D に切られる／出土遺物なし	阿玉台式期以前
29P	B-3 ②地点	楕円形	35	(30)	32	第89図参照	土器：勝坂(1点8g)・加曾利E(4点174g)・中期(1点18g)	加曾利E3式期
30P	C-3 ②地点	楕円形	(52)	42	55	暗褐／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む	635 D との切合い不明／土器：勝坂(1点10g)・加曾利E(1点20g)・中期(1点22g)	中期中葉～後葉
31P	B-3 ②地点	円形	(36)	30	72	明茶褐／ローム粒子・ローム小ブロックを含む	641 D との切合い不明／出土遺物なし	縄文時代
32P	A-3 ②地点	円形	(38)	30	56	第89図参照	土器：加曾利E(5点247g)	加曾利E3式期
33P	A-3 ②地点	円形	(36)	30	24	第84図参照	645 D を切る／出土遺物なし	加曾利E1式期以降
34P	E・F-6 ④地点	楕円形	42	30	44	暗褐／ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む／しまり中	出土遺物なし	縄文時代
35P	E・F-6 ④地点	円形	48	42	54	暗褐／ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む／しまり中	土器：勝坂(3点54g)・加曾利E(1点33g)・中期(4点21g)	中期中葉～後葉期
36P	E-5 ④地点	楕円形	48	40	60	暗褐／ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり中	565 Y に切られる／土器：阿玉台(1点21g)・勝坂(1点28g)・中期(1点67g)	中期中葉期
125P	E-3 ⑤地点	楕円形	(40)	36	22	第84図参照	717 D に切られる／出土遺物なし	中期以前
126P	E-4 ⑤地点	円形	(28)	26	14	暗茶／ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり強	出土遺物なし	縄文
129P	E-4 ⑤地点	隅丸方形	34	34	49	1層：黒褐／ローム粒を多く、ローム小ブロックを含む／しまり弱い 2層：暗褐／ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む／しまり弱い	163 J を切る／土器：加曾利E(2点48g)	加曾利E1式期
144P	F-5 ⑤地点	楕円形	36	26	32	暗黄褐／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む／しまりやや強	出土遺物なし	縄文か
145P	F-5 ⑤地点	円形	46	38	102	暗褐／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む／しまりやや強	86 J を切るか／土器：加曾利E(2点42g)・中期(1点5g)	加曾利E式期
149P	E-4 ⑤地点	楕円形	34	30	71	1層：黒褐／ローム粒を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり中 2層：暗黄褐／ローム粒を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む／しまり中	土器：加曾利E(1点12g)	加曾利E式期
152P	F-3 ⑤地点	楕円形	36	26	68	第84図参照	184 J を切る／出土遺物なし	勝坂2式期以降
154P	G-5 ⑤地点	円形	(42)	34	15	黒褐／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む／しまり中	出土遺物なし	縄文時代
158P	F-5 ⑤地点	隅丸方形	28	24	12	黒褐／ローム粒子・ローム小ブロックを含む／しまり中	185 J を切る／土器：加曾利E(3点64g)	加曾利E4式期
160P	F-4 ⑤地点	楕円形	50	22	36	第84図参照	719D に切られる／出土遺物なし	中期以前
161P	G-5 ⑤地点	楕円形	44	30	38	1層：暗茶／ローム粒を多く、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり強 2層：暗茶／ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む／しまり中 3層：灰黄／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む／しまり強 4層：黄褐／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む／しまり強 5層：暗黄褐：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む／しまり強	185 J との切合い不明／土器：勝坂(1点26g)	勝坂3式期
162P	F-5 ⑤地点	楕円形	18	14	16	にぶい黄褐／ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む／しまり強	185J 貼床下より検出／出土遺物なし	勝坂3式期以前
163P	F-5 ⑤地点	楕円形	26	20	26	にぶい黄褐／ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまりやや強	185J 貼床下より検出／出土遺物なし	勝坂3式期以前

第48表 縄文時代ピット一覧(2)



第90図 縄文時代ピット出土遺物 (1/3)

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第90図1 図版40-1	1P	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	ほぼ直線的に外傾	地文は条線縦位施文／2本の沈線による弧線文	にぶい黄褐／砂粒・礫多量	連弧文
第90図1 図版40-1	2P	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	直線的に外傾	無文	赤褐／砂粒・礫中量	曾利式か
第90図1 図版40-1	5P	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	僅かに内湾	ヒダ状の圧痕文	暗赤褐／砂粒中量	阿玉台I b式
第90図1 図版40-1	7P	深鉢	胴部 破片	厚 1.1		幅広角押文列と波状沈線による区画文か	暗褐／砂粒・礫・角閃石中量	勝坂2式
第90図2 図版40-2	7P	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	やや外反する胴部	縦位沈線文列	にぶい黄褐／砂粒少量、礫微量	勝坂2～3式
第90図3 図版40-3	7P	深鉢	頸部 破片	厚 1.1	僅かに外反するか	細く抑えの甘い波状隆帯	にぶい黄橙／砂粒・礫多量	曾利I～II式
第90図1 図版40-1	8P	深鉢	胴部 破片	厚 0.6	やや外反	部分的に押捺が付された細い隆帯が垂下／幅広の角押文列が横走	橙／砂粒・礫・雲母中量	阿玉台II式
第90図2 図版40-2	8P	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	胴部下位で膨らみ、中位で括れる	地文は単節LR縦位施文／2本1対の沈線が2単位垂下	橙／砂粒中量、礫少量	加曾利E2式
第90図1 図版40-1	9P	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	内湾する口縁／口唇部で肥厚	肥厚する口縁部上端は無文／無文部直下には楕円形の刺突文列が2列横走	赤褐／砂粒・礫多量	中期後葉
第90図2 図版40-2	9P	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに内湾する胴部	沈線垂下	にぶい黄橙／砂粒・礫微量	加曾利E3～4式
第90図1 図版40-1	12P	深鉢	胴部 破片	厚 0.8		地文は0段多条単節RL斜位施文／細く深い沈線による弧線文	暗赤褐／砂粒・礫多量	勝坂2～3式
第90図1 図版40-1	15P	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	外反する口縁部／口唇部内面で肥厚	口縁部は無文／頸部に断面カマボコ状の隆帯による区画	橙／砂粒・礫多量、約10mmの礫少量	曾利式
第90図1 図版40-1	17P	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部／口唇部外面で肥厚	地文は無節L縦位施文／口縁部上端に幅広の沈線横走	灰黄褐／砂粒・礫微量	加曾利E4式
第90図1 図版40-1	19P	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	ほぼ直線的に外傾	地文は燃系L縦位施文／断面カマボコ状の隆帯横走	にぶい黄褐／砂粒多量	加曾利E1b～c式
第90図1 図版40-1	22P	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	胴部下位でやや膨らむ	地文は単節RL縦位施文／胴部下端は無文	暗赤褐／砂粒・礫・角閃石多量	勝坂3式
第90図1 図版40-1	27P	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	僅かに外反	地文は単節LR縦位施文／2本1対の沈線垂下／沈線間磨消	灰黄褐／砂粒・礫少量	加曾利E3式
第90図2 図版40-2	27P	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに外反	地文は単節LR縦位施文／2本1対の沈線垂下／沈線間磨消	灰黄褐／砂粒・礫少量	加曾利E3式
第90図1 図版40-1	29P	深鉢	底部 破片	厚 1.1	僅かに丸底状を呈する底部／僅かに内湾しながら啓く胴部	磨消を伴う2本1対の沈線垂下	明赤褐／砂粒・礫少量	加曾利E3式
第90図2 図版40-2	29P	深鉢	胴部 破片	厚 1.4	やや外傾	地文は単節RL縦位施文／磨消を伴う2本1対の沈線垂下	明赤褐／砂粒・礫少量	加曾利E3式
第90図1 図版40-1	30P	深鉢	胴部 破片	厚 0.9		隆帯による区画文か／沈線と角押文列が充填か	にぶい黄褐／砂粒中量、礫微量	勝坂2～3式
第90図2 図版40-2	30P	深鉢	胴部下位 破片	厚 1.1	外傾する胴部下位	地文はRL縦位施文か／磨消を伴う沈線垂下	橙／砂粒少量	加曾利E3式
第90図1 図版40-1	32P	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	内湾する口縁部／突起部は直立	山形の突起／突起部・口縁部には太い隆帯と深く深い沈線による渦巻文	暗赤褐／砂粒・礫中量	加曾利E3b～c式
第90図2 図版40-2	32P	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	僅かに内湾する口縁部	口縁部上端と下端に隆帯が横走し画す／隆帯による渦巻状文が突起を形成	暗赤褐／砂粒・礫中量	加曾利E3b～c式
第90図3 図版40-3	32P	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	内湾する胴部	地文は単節LR縦位施文／上端に円形刺突文／2本1対の沈線垂下／沈線間磨消	暗褐／砂粒・礫微量	加曾利E3b～c式
第90図4 図版40-4	32P	深鉢	胴部上位 破片	厚 0.9	外反する胴部上位	地文は単節RL縦位施文／胴部に隆帯による横位の弧状文／磨消を伴う沈線垂下	にぶい黄橙／砂粒・礫微量	加曾利E3b～c式
第90図1 図版40-1	35P	深鉢	頸部 破片	厚 0.8	外傾する頸部／口縁部で僅かに内湾	口縁部には燃系L縦位施文／隆帯により口縁部と頸部を画す／頸部は無文	暗褐／砂粒多量、礫少量	加曾利E1b式
第90図1 図版40-1	36P	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	ほぼ直立する胴部	断面カマボコ状の隆帯横走／縦位沈線列	暗赤褐／砂粒多量、礫少量	勝坂3式
第90図1 図版40-1	129P	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部	地文は燃系L縦位施文／2本1対の隆帯によるS字状文	暗褐／砂粒・礫少量	加曾利E1a-b式

第49表 縄文時代ピット出土土器一覧(1)



挿図番号 図版番号	出土遺構	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第90図2 図版40-2	129P	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに内湾	地文は撚糸R縦位施文	暗褐/砂粒・礫 少量	加曾利E1 式
第90図1 図版40-1	145P	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	口縁部で内湾	地文は単節RLで、口縁部横位、胴部は縦 位施文	にぶい黄褐/砂 粒少量	勝坂式か
第90図2 図版40-2	145P	深鉢	胴部 破片	厚 1.3		RL斜位施文	黒褐/砂粒多 量、礫微量	勝坂式か
第90図1 図版40-1	158P	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	僅かに内湾	地文は無節L縦位施文	暗赤褐/砂粒・ 礫微量	加曾利E4 式
第90図1 図版40-1	161P	深鉢	胴部 破片	厚 1.2		爪形文が付された断面台形の隆帯による区 画文/隆帯脇には並行沈線が沿う/区画文 内には縦位沈線文列が充填	黒褐/砂粒多 量、礫中量	勝坂2式

第49表 縄文時代ピット出土土器一覧(2)

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第90図3 図版40-3	打製石斧	砂岩	104.0	61.6	15.5	112.1	刃部は折れて欠損している/表面は基部を含み原礫面 が広く残存し、裏面の左側縁沿いに及ぶ/風化が著し く、両側縁の様相は不明瞭である	8P

第50表 縄文時代ピット出土石器一覧

## 第2節 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構・遺物

### (1) 概要

今回の調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は、住居跡2軒(290・565Y)が検出された。290Yについては、すでに区画整理第13IV地点(文献No.38)で一部調査されている。

### (2) 住居跡

#### 290号住居跡

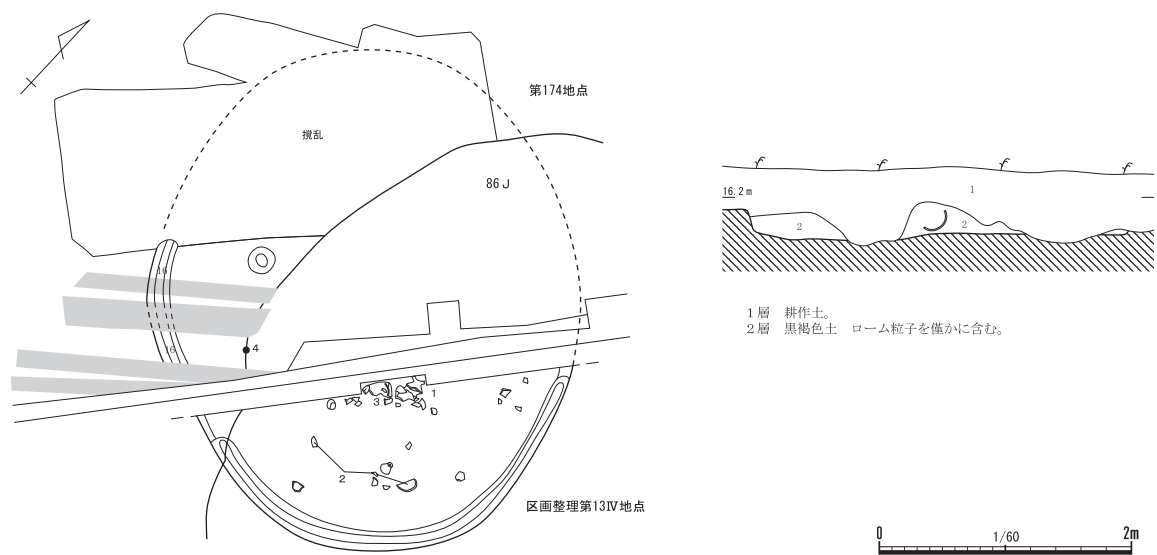
**遺構** (第91図)

**位置** (F-6)グリッド/④地点。

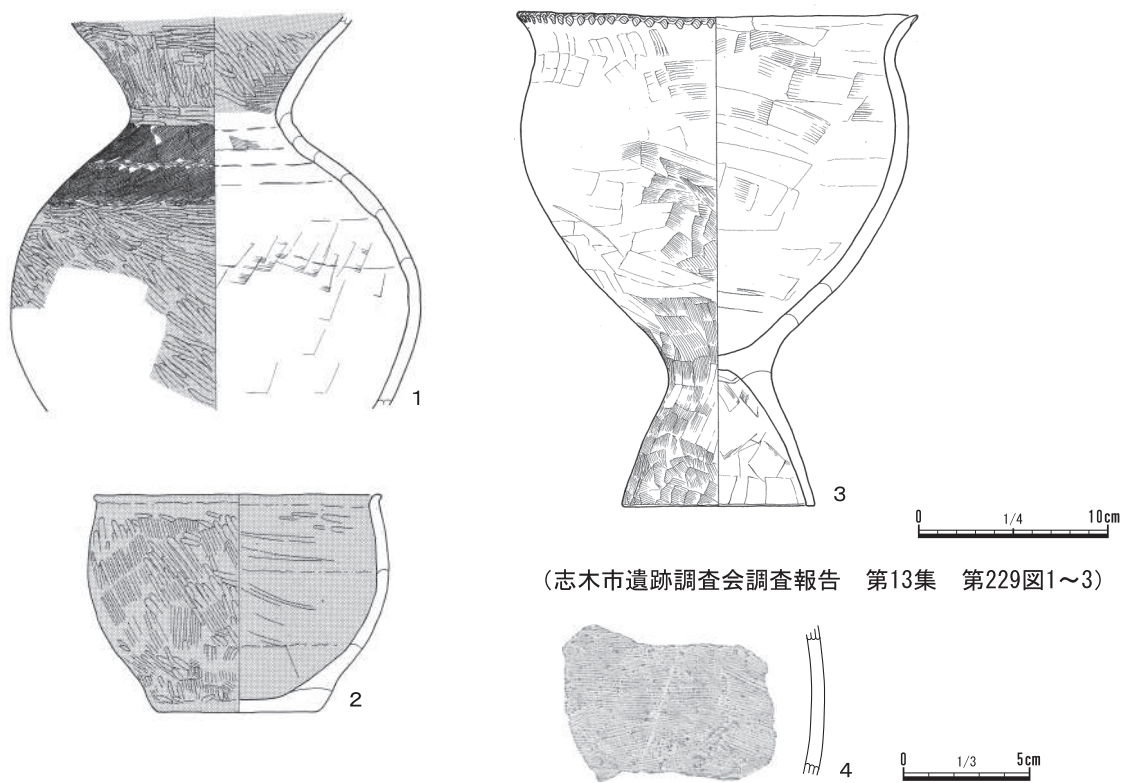
**検出状況** 86Jを切る。全体的に耕作による攪乱を受けており、また西側の一部が攪乱によって大きく切られる。遺存状態は悪い。本住居跡は、区画整理事業に伴う第13IV地点において、住居南東部の調査が実施されており、ここでは統合して報告する。

**構造** 平面形：楕円形と思われる。規模：長軸推定4.0m/短軸推定3.5m/確認面からの深さ20cm。壁：約80°の角度で立ち上がる。主軸方位：N-50°-W。壁溝：南側で一部途切れる。上幅12~18cm・下幅4~7cm・床面からの深さ3~8cm。床面：壁際を除き硬化している。炉：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：主柱穴は検出されなかった。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。掘り方：検出されなかった。

**覆土** 覆土の大半が耕作土に切られ、黒褐色土(2層)のみ確認できた。



第91図 290号住居跡・遺物出土状態(1/60)



(志木市遺跡調査会調査報告 第13集 第229図1~3)

第92図 290号住居跡出土遺物(1/4・1/3)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	出土位置
第92図1 図版41-1-1	壺	50%	高[20.4] 口[14.8] 厚 0.6	頸部から口縁部にかけて外反する / 胴部は球状を呈する / 最大径は胴部中位	外面：肩部に単節LRの縄文帯に端末結節を伴う / 縄文帯以外にヘラ磨き調整 / 縄文帯以外に赤彩 内面：口縁部にヘラ磨き調整 / 口縁部に赤彩 / 胴部にヘラナデ調整 / 頸部と胴部中位に指頭痕	にぶい橙 / 細礫・粗砂中量、白色粒子多量	中央床面上
第92図2 図版41-1-2	鉢	30%	高 (11.5) 口 (15.2) 底 (8.7) 厚 0.5	口縁部はやや内湾し、口唇端部は肥厚する / 平底の底部から内湾しながら立ち上がる	外面：口唇部に沈線 内外面：ヘラ磨き調整 / 全体に赤彩	にぶい橙 / 細礫・粗砂中量、白色粒子多量	南東部 覆土中
第92図3 図版41-1-3	甕	60%	高 (26.1) 口 (21.0) 底 10.2 厚 0.4	台付甕 / 頸部でゆるやかにくびれて口縁部は外傾する / 脚台部は「ハ」の字状で、端部は平坦	外面：口唇部にハケ状工具による刻み 内外面：ハケ目調整後、ヘラナデ調整	橙 / 細礫・粗砂・白色粒子中量	中央床面上
第92図4 図版41-1-4	甕	胴部 破片	厚 0.5		外面：ハケ目調整 内面：ヘラナデ調整後、粗いヘラ磨き調整	にぶい黄橙 / 砂粒中量	覆土中

第51表 290号住居跡出土土器一覧

[遺物] 本地点からは、土器が4点出土した。床面上もしくは覆土中からの出土である。

[時期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭

[所見] 既報告（文献No.38）の本住居跡の断面図において、今回の報告の断面図と比べて床面のレベルが深く図示されており、かつ、覆土は1～5層に分層されているが、3～5層は重複する86Jの覆土と判明した。よって、今回の報告の断面図では、床面の深さのレベルを上げ、覆土は1・2層のみを図示した。

また、既報告の平面図には、住居内の柱穴が図示されているが、今回の報告ではこれらの柱穴を86Jに帰属させた（P8・9）。

**遺物**（第92図、第51表、図版41-1）

**土器**（第92図1～4、第51表、図版41-1）

復元個体3点、破片資料1点を図示する。1～3は既報告資料であり（文献No.38）、4は今回の調査で新たに出土した土器の破片である。1は壺形土器、2は鉢形土器、3は台付甕形土器、4は甕形土器である。

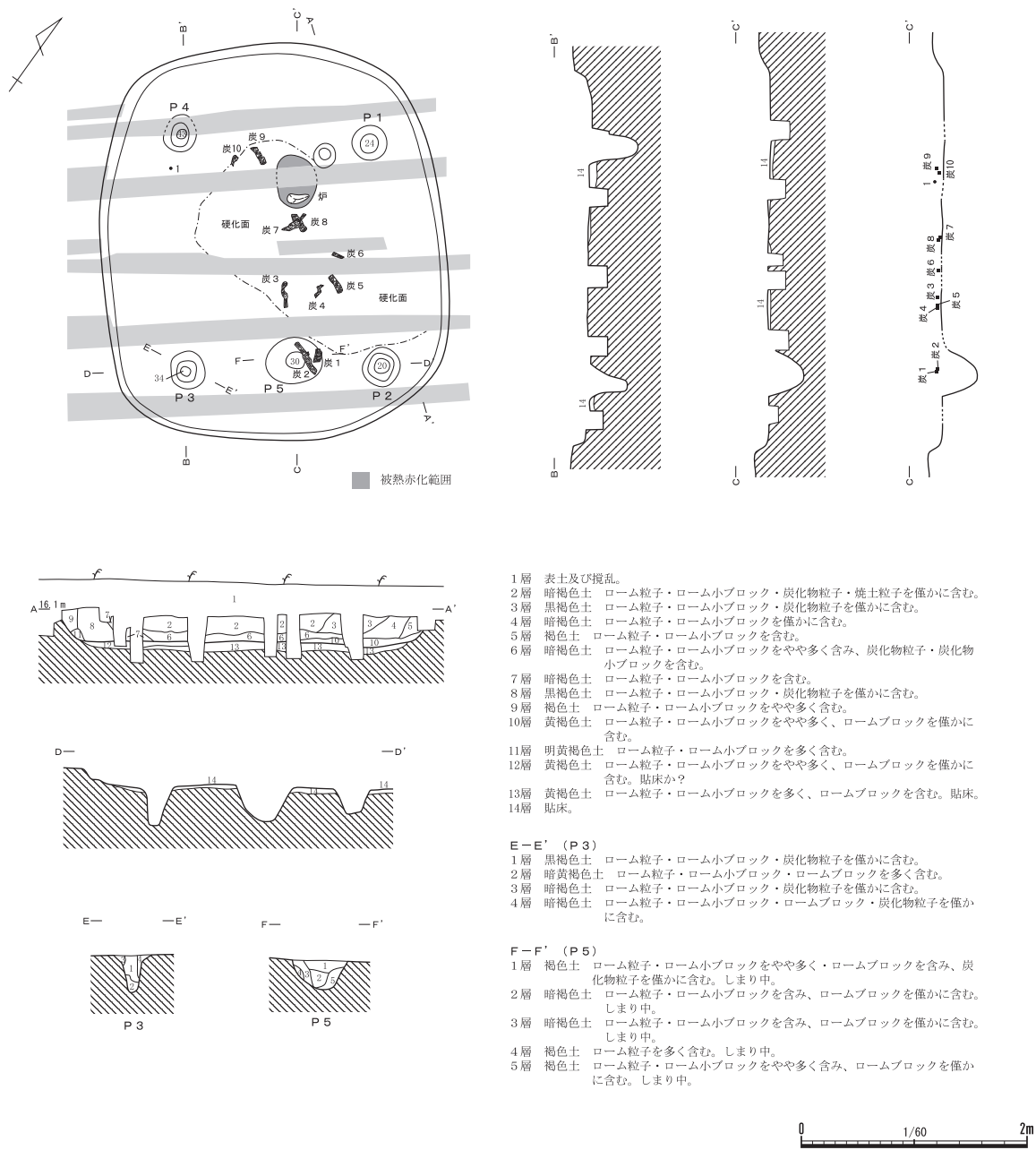
## 565号住居跡

**遺構**（第93図）

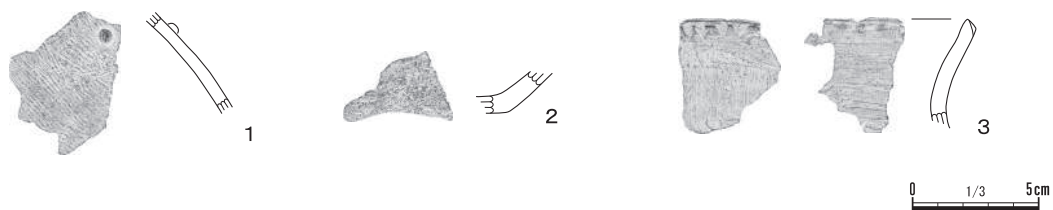
[位置]（E・F-5・6）グリッド／④地点。

[検出状況] 175J・716D・36Pを切る。全体的に耕作による攪乱を受けている。

[構造] 平面形：隅丸方形。規模：長軸3.55m／短軸3.05m／確認面からの深さ10～18cm。壁：



第93図 565号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第94図 565号住居跡出土遺物 (1/3)



約 50°で緩やかに立ち上がる。主軸方位：N - 40° - W。壁溝：検出されなかった。床面：平坦。炉を中心に、住居中央から東方向にかけて長軸 2.2 m×短軸 1 mの範囲で硬化した面が確認できた。炉：地床炉。住居中央のやや北壁に寄って位置する。長軸 46cm×短軸 35cm。炉の範囲全体が被熱赤化している。20cm大の細長い礫が伴う。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：支柱穴は P 1～4 の 4 本と考えられる。P 1 は 31cm×30cmの円形で、深さ 34cm。P 2 は 34cm×34cmの円形で、深さ 23cm。P 3 は 33cm×30cmの円形で、深さ 32cm。覆土は 4 層に分層でき、黒褐色土（1 層）を主体とする。P 4 は 33cm×28cmの円形で、深さ 43cm。赤色砂利層：検出されなかった。入口施設：P 5 が入口梯子穴と考えられる。住居南東壁際で検出された。38cm×43cmの円形で、深さ 25cm。覆土は 5 層に分層でき、褐色土（1・4・5 層）及び暗褐色土（2・3 層）を主体とする。掘り方：住居全体に 4～11cmの深さの掘り込みが確認できた。

[覆土] 13 層（2 層～14 層）に分層される。暗褐色土（2 層・6 層）を主体とする。堆積状況から自然堆積と考えられる。

[遺物] 土器の破片が覆土中から 3 点出土した。また、炭化材が主に硬化面上から散乱した状態で、10 点検出され、自然科学分析の結果、コナラ属クヌギ節が 5 点、クワ属が 2 点、タケ亜科が 3 点であることが判明している（付編「自然科学分析」194 ページを参照）。

[時期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭

**遺物**（第 94 図、第 52 表、図版 41 - 2）

**土器**（第 94 図 1～3、第 52 表、図版 41 - 2）

破片資料 3 点を図示する。1 は壺形土器、2 は壺形土器もしくは鉢形土器、3 は甕形土器である。

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	出土位置
第 94 図 1 図版 41-2-1	壺	肩部 破片	厚 0.5		外面：無節 RL の縄文帯に端末結節文を伴う / 縄文帯以外にハケ目調整後、ヘラ磨き調整 / 縄文帯以外に赤彩 / 円形貼付文あり 内面：ヘラナデ調整	にぶい黄橙 / 砂粒中量	覆土中
第 94 図 2 図版 41-2-2	壺か 鉢	底部 破片	厚 0.7	平底	内外面：ヘラ磨き調整	にぶい黄橙 / 砂粒多量	覆土中
第 94 図 3 図版 41-2-3	甕	口縁部 破片	厚 0.6	口縁部が外反する	外面：縦のハケ目調整 / 口唇部にハケ状工具による刻み 内面：ハケ目調整後、ヘラ磨き調整	褐灰 / 砂粒中量、雲母少量	覆土中

第 52 表 565 号住居跡出土土器一覧

## 第3節 中世以降の遺構・遺物

### (1) 概要

中・近世に帰属する遺構は、土坑1基(718 D)、ピット27本(124・127・128・130～143・146～148・150・151・153・155～157・159 P)を検出した。いずれも時代・時期を特定できる遺物の出土はなかったが、形態や覆土の観察から当該期に帰属すると判断したものである。

### (2) 土坑

#### 718号土坑

**遺 構** (第96図)

[位 置] (F-4) グリッド/⑤地点

[検出状況] 表土剥ぎ後の遺構確認時に検出した。185 J、719 Dを切る。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸 1.40 m/短軸 1.00 m/深さ 24cm。長軸方位：N-69°-W。壁：60～70°で立ち上がる。

[覆 土] 上層(1・2層)はローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを中量～多量含む暗黄褐色～暗茶褐色土を基調とし、下層(4～6層)はローム粒子・ローム小ブロックを中量～多量含む暗褐色～黒褐色土を基調とする。4・6層はロームブロックを微量～多量含む。

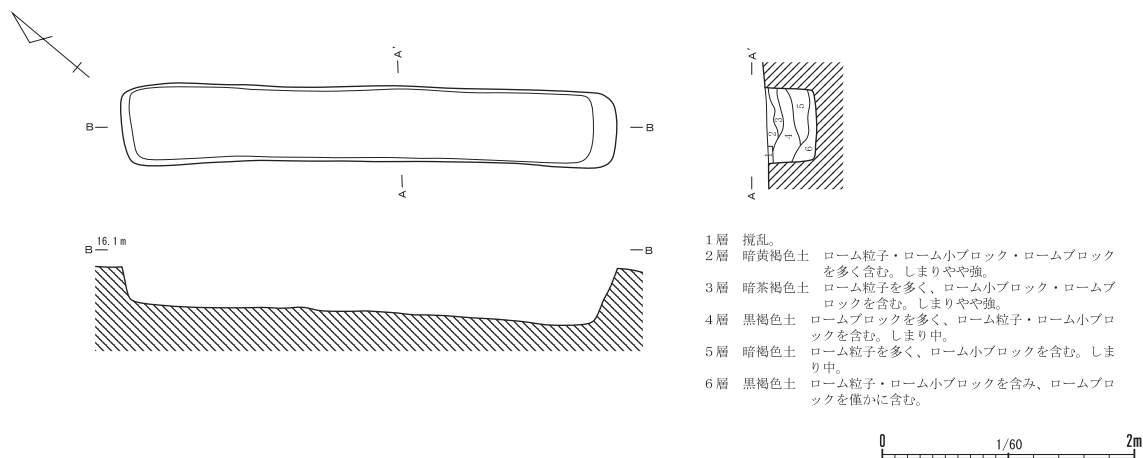
[遺 物] 遺物の出土はなかった。

[時 期] 形態及び覆土の観察から近世以降。

[所 見] B群1類(文献No.34参照)に属する。

### (3) ピット

覆土の観察や出土遺物から、ピット27本(124・127・128・130～143・146～148・150・151・153・155～157・159 P)を中世以降に帰属させ、計測値等の観察事項は第53表に示した。



第95図 718号土坑(1/60)

遺構名	グリッド地点	平面形	規模 (cm)			覆土	特徴・出土遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
124P	F-4 ⑤地点	楕円形	38	26	24	1層:黒褐/ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む/しまり弱 2層:黄褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む/しまり中 3層:暗黄褐/ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む/しまり中 4層:暗黄褐/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む/しまり強	出土遺物なし	中世以降
127P	E-4 ⑤地点	隅丸方形	36	30	68	1層:黒褐/ローム粒を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む/しまり中 2層:暗褐/ローム粒子・ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む/しまり中	出土遺物なし	中世以降
128P	E-4 ⑤地点	隅丸方形	26	18	24	1層:暗褐/ローム粒を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む/しまり弱 2層:暗褐/ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む/しまり中	出土遺物なし	中世以降
130P	E-4 ⑤地点	隅丸方形	(20)	20	34	黒褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含む/しまり中	出土遺物なし	中世以降
131P	F-5 ⑤地点	楕円形	28	20	33	暗褐/ローム粒子を多く含み、ローム小ブロックを含む/しまり中	出土遺物なし	中世以降
132P	F-5 ⑤地点	楕円形	24	18	29	黒褐/ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む/しまり中	出土遺物なし	中世以降
133P	F-5 ⑤地点	隅丸方形	20	20	30	1層:暗褐/ローム粒子・ロームブロックを多く含み、ローム小ブロックを含む/しまり弱 2層:暗黄褐/ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む/しまりやや弱	出土遺物なし	中世以降
134P	F-5 ⑤地点	楕円形	32	26	36	黒褐/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む/しまり弱	135P に切られる/出土遺物なし	中世以降
135P	F-5 ⑤地点	楕円形	24	18	24	1層:黒褐/ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む/しまり中 2層:暗褐/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む/しまり中	134P を切る/出土遺物なし	中世以降
136P	F-5 ⑤地点	楕円形	34	22	63	黒褐/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む/しまり弱	出土遺物なし	中世以降
137P	F-5 ⑤地点	隅丸方形	22	16	25	黒褐/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む/しまりやや強	出土遺物なし	中世以降
138P	F-5 ⑤地点	楕円形	30	30	15	暗褐/ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを非常に多く含む/しまり弱	出土遺物なし	中世以降
139P	F-5 ⑤地点	隅丸方形	34	26	69	黒褐/ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む/しまり弱	出土遺物なし	中世以降
140P	F-5 ⑤地点	不整形	40	26	58	1層:黄褐/ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む/しまり中 2層:黒褐/ローム粒子・ロームブロックを多く含み、ローム小ブロックを含む/しまり中	出土遺物なし	中世以降
141P	F-5 ⑤地点	隅丸方形	26	24	29	1層:にぶい黄褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む/しまり中 2層:暗黄褐/ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む/しまり中	出土遺物なし	中世以降
142P	F-5 ⑤地点	円形	20	20	40	黒褐/ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む/しまり弱	出土遺物なし	中世以降
143P	F-5 ⑤地点	円形	26	24	44	黒褐/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む/しまり中	出土遺物なし	中世以降
146P	F-5 ⑤地点	不整形	40	10	42	黒褐/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む/しまり弱	出土遺物なし	中世以降
147P	G-5 ⑤地点	円形	18	16	23	暗黄褐/ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む/しまり中	出土遺物なし	中世以降
148P	G-5 ⑤地点	円形	30	30	21	1層:黒褐/ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む/しまり強 2層:暗茶褐/ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む/しまり強	出土遺物なし	中世以降
150P	E-4 ⑤地点	楕円形	22	12	16	1層:黒褐/ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む/しまり中 2層:黄褐/ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む/しまりやや強	出土遺物なし	中世以降

第53表 中世以降ピット一覧(1)

遺構名	グリッド地点	平面形	規模 (cm)			覆土	特徴・出土遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
151P	E-4 ⑤地点	隅丸方形	10	10	28	1層：黒褐／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む／しまり弱 2層：にぶい黄褐／ローム粒子・ローム小ブロックを含む／しまり中	出土遺物なし	中世以降
153P	G-4 ⑤地点	円形	(26)	(24)	24	黒褐／ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む／しまり弱	出土遺物なし	中世以降
155P	G-5 ⑤地点	楕円形	46	34	35	黒褐／ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックをを僅かに含む／しまり弱	出土遺物なし	中世以降
156P	G-4 ⑤地点	不整形	40	(38)	12	1層：黒褐／ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む／しまり弱 2層：黄褐／ローム粒子・ローム小ブロックを含む／しまり弱	出土遺物なし	中世以降
157P	G-4 ⑤地点	楕円形	28	22	29	1層：黒褐／ローム粒子を僅かに含む、ローム小ブロックを含む／しまり弱 2層：にぶい黄褐／ローム粒子・ローム小ブロックを含む／しまりやや強	出土遺物なし	中世以降
159P	F-5 ⑤地点	円形	18	16	34	暗褐／ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり強	185 Jを切る／出土遺物なし	中世以降

第53表 中世以降ピット一覧(2)

## 第4節 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、遺物包含層出土以外の遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

### (1) 縄文時代の石器(第96・97図、第54表、図版41-3・42-1)

1・2は石鏃、3は剥片、4～11は打製石斧、12・13は磨製石斧、14は磨石、15は敲石、16・17は凹石、18・19は石皿である。

### (2) 縄文時代の土器(第98～100図25～37、第55表、図版42-2～44)

1～3は勝坂式、4・5は加曾利E式土器である。6・7は阿玉台式、8～16は勝坂式、17～25は加曾利E式、26～27は曾利式、28・29は連弧文の深鉢形土器である。30は阿玉台式、31～33は中期中葉～後葉の浅鉢形土器である。34は有孔鏝付土器である。35～37は補修孔を有する中期の土器片である。

### (3) 縄文時代の土製品(第100図38～51、第56表、図版44)

38～50は土器片錘である。51は土製円盤である。

### (4) 弥生時代後期～古墳時代前期の遺物(第101図52～59、第57表、図版44)

52・53は高環形土器、54は鉢形土器、55・56は壺形土器、57～59は甕形土器である。

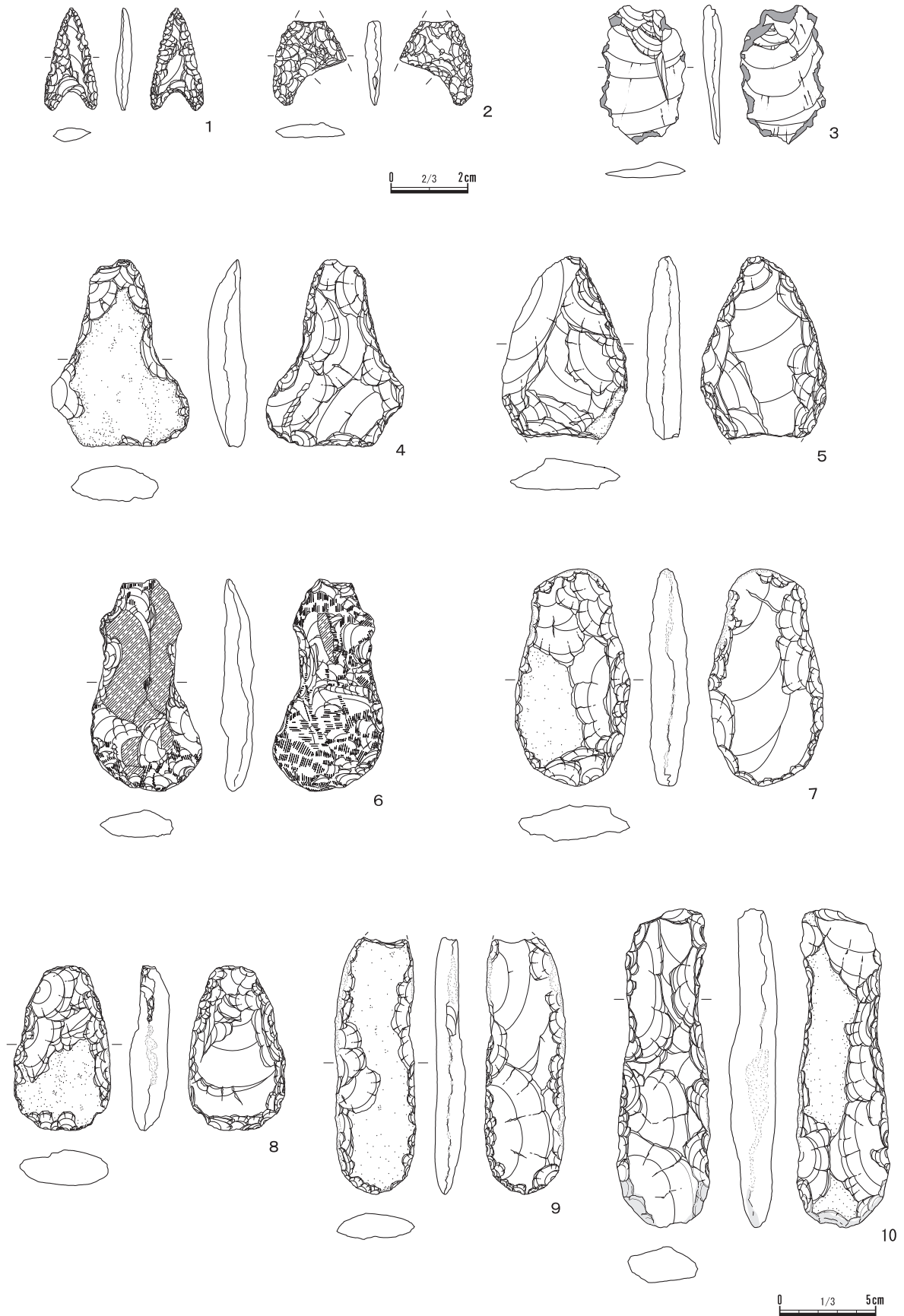
### (5) 平安時代の遺物(第101図60、図版44)

60は布目瓦で、厚さ2.2cmである。

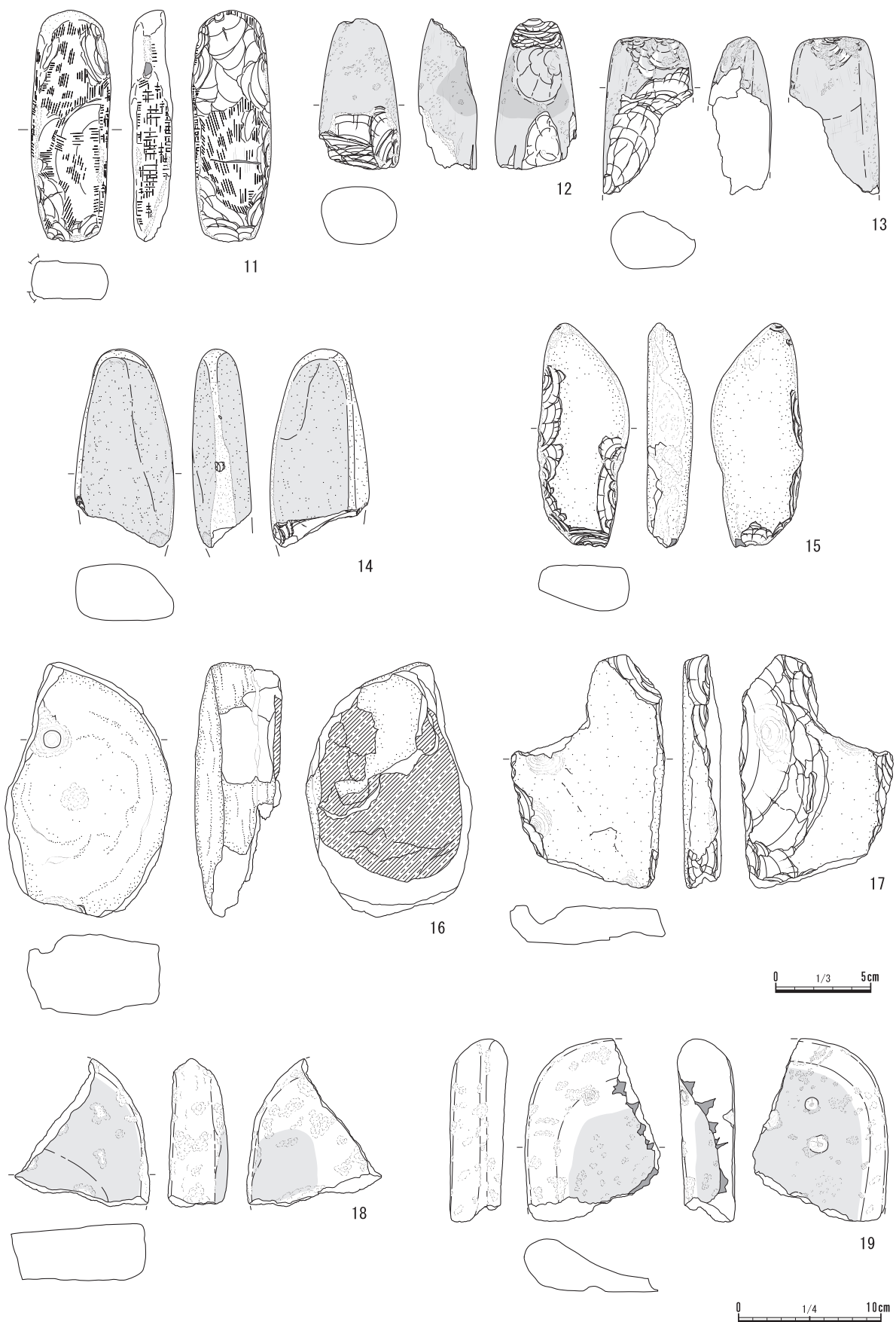
### (6) 中世以降の遺物(第101図61～75、第58表、図版44)

61はこね鉢、62は碗、63は甕で、中世の所産である。64は碗、65は小碗、66は皿で、近世の磁器である。67は徳利、68は碗、69～72は鉢、73・74は播鉢、75は内耳鍋で、近世の陶器である。76は文久永寶(初鑄年1863年)で、外径2.6cm・0.6cm・1.6g。

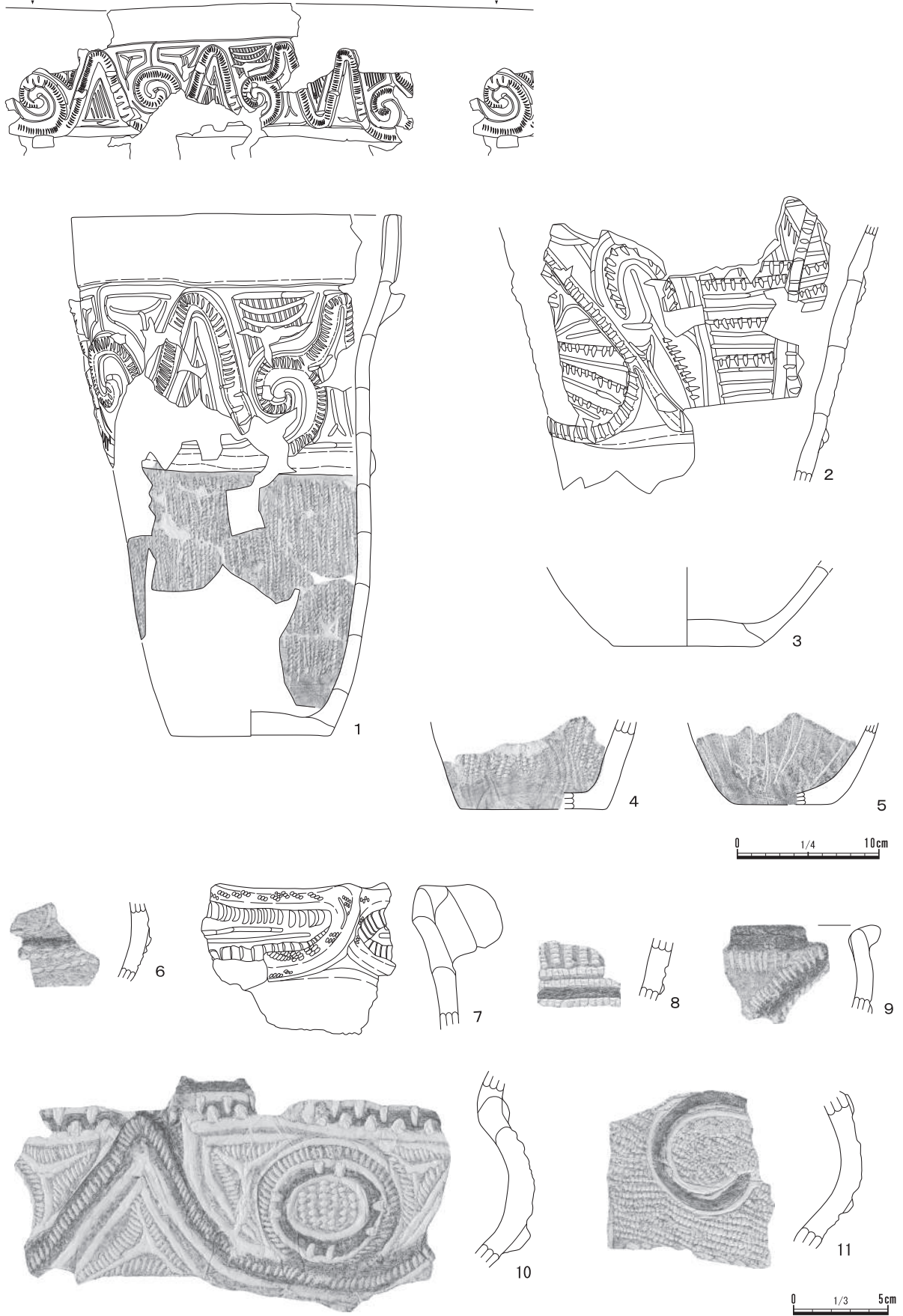




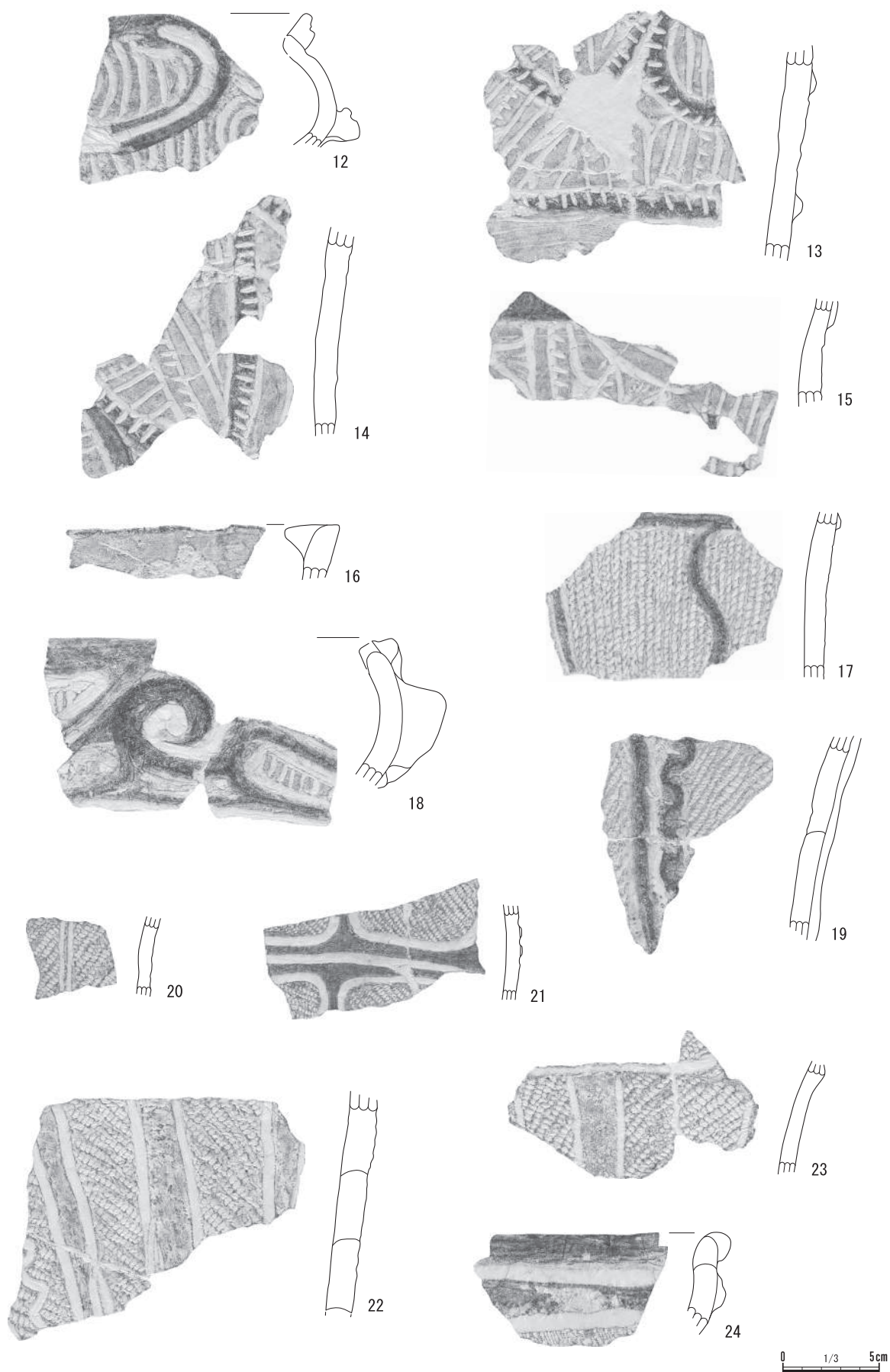
第96図 遺構外出土石器1 (2/3・1/3)



第97図 遺構外出土石器 2 (1/3・1/4)

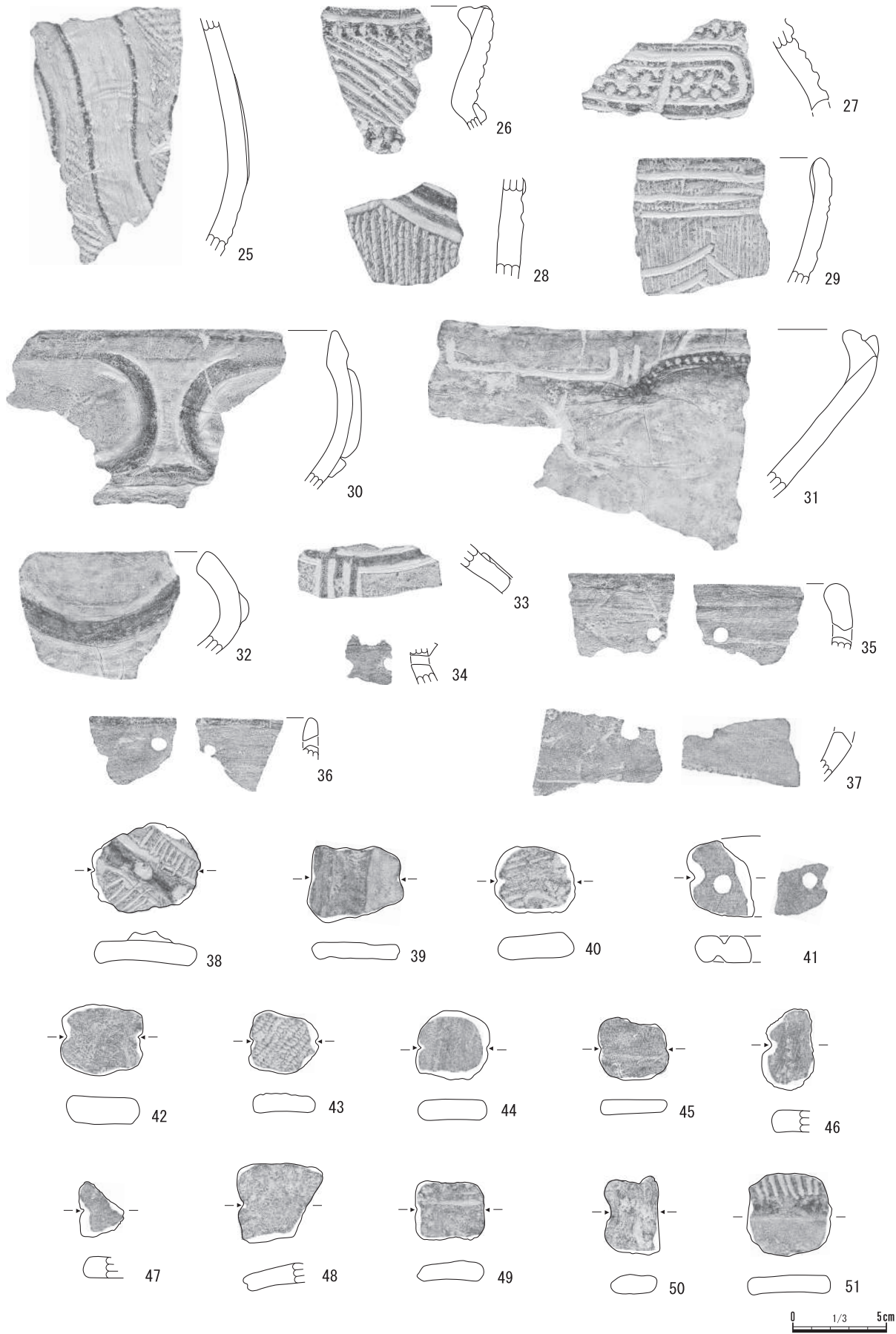


第98図 遺構外出土遺物 1 (1/4・1/3)

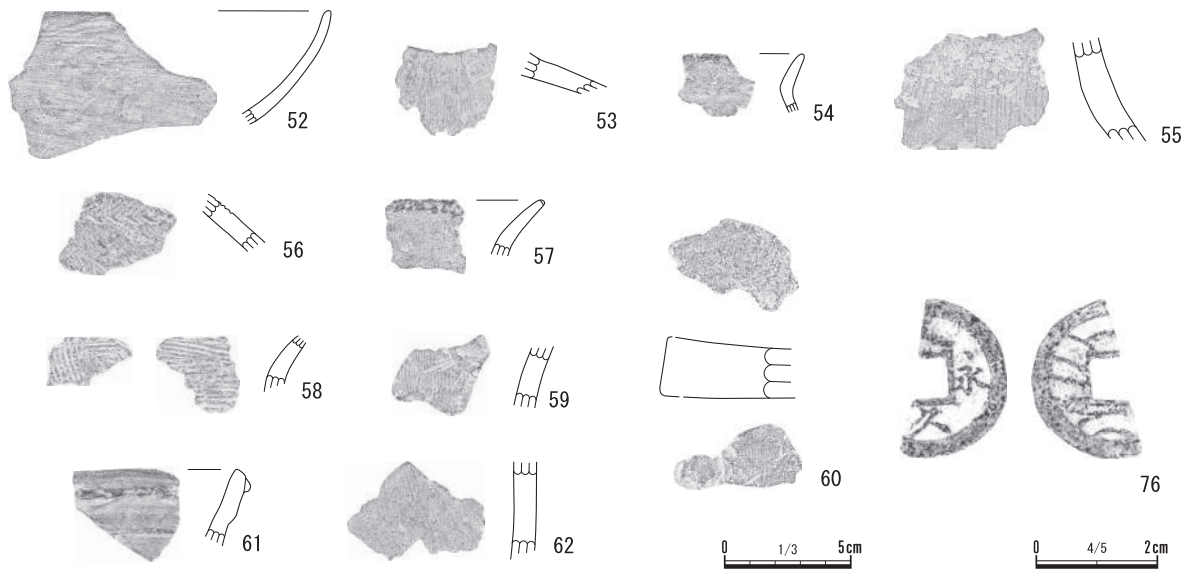


第99図 遺構外出土遺物2 (1/3)





第100図 遺構外出土遺物 3 (1/3)



第101図 遺構外出土遺物4 (1/3・4/5)

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第96図1 図版41-3-1	石鏃	チャート	26.7	13.9	4.3	1.1	凹基無茎／側縁は直線状で鋸歯縁／抉りは深く頂点は丸みを帯びる／平面形状は縦長状	③地点 攪乱
第96図2 図版41-3-2	石鏃	黒曜石	22.0	19.0	4.3	1.3	側縁は僅かに弧状を呈する／抉りは深く弧状／脚部端が内傾する／先端と右脚部欠損	184J内 攪乱
第96図3 図版41-3-3	剥片	ホソフェルス	72.4	44.6	9.8	30.3	裏面にポジティブ面を持つ／周囲は新しい剥落痕が多く、それにより打面は欠落する	⑤地点 攪乱
第96図4 図版41-3-4	打製石斧	ホソフェルス	97.7	71.8	20.4	123.1	撥形／表面に原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／稜側縁の潰れは不明瞭である	163J内 攪乱
第96図5 図版41-3-5	打製石斧	片状砂岩	95.6	65.6	18.4	118.8	撥形／刃部は折れて欠損している／表面に原礫面が僅かに残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁は上部から下部にかけての稜上に局所的に潰れが認められる／左側縁は上部の稜上に潰れが認められる	163J内 攪乱
第96図6 図版41-3-6	打製石斧	頁岩	110.7	57.9	17.4	95.1	短冊形／表面の基部・刃部付近と裏面のほぼ全面が磨滅しており、表面は節理面が広くみられる／両側縁に敲打剥離	⑤地点 攪乱
第96図7 図版41-3-7	打製石斧	蛇紋岩	113.4	60.0	20.9	171.0	短冊形／表面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁のほぼ全面の稜上に潰れが確認され、上部の方が面状に近い形状になっている／左側縁は上部の稜上に潰れが認められる	163J内 攪乱
第96図8 図版41-3-8	打製石斧	ホソフェルス	85.8	50.6	20.7	104.0	短冊形／表面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁中央部の稜上に潰れが認められ、滑らかな面状になっている／左側縁は中央部から下部にかけての稜上に潰れが確認され、一部が面状になっている	⑤地点 攪乱
第96図9 図版41-3-9	打製石斧	砂岩	134.3	42.4	16.1	116.7	短冊形／基部は折れて欠損している／表面に原礫面が広く残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁はほぼ全面の稜上に潰れが認められ、上部が面状になっている／左側縁もほぼ全面の稜上に潰れが認められ、上部と下部は面状	290Y
第96図10 図版41-3-10	打製石斧	砂岩	166.3	48.8	25.0	209.2	短冊形／表裏面の刃部が磨滅している／裏面に原礫面が残存し、両側縁に敲打剥離が認められる／右側縁の下半の稜上に潰れが認められ、中央部は一部面状になっている／左側縁は中央部の稜上に潰れが認められる	184J内 攪乱
第97図11 図版41-3-11	打製石斧	ホソフェルス	122.1	42.1	22.8	174.1	短冊形／全面的に磨滅しており、表面は基部を含み原礫面が残存／両側縁はほぼ平坦で、境界稜上に部分的に潰れが認められる	遺構外
第97図12 図版42-1-12	磨製石斧	緑色岩	79.4	42.8	31.0	150.6	乳棒状／裏面が被熱し、火撥ねによって一部剥落／刃部、基部欠損	⑤地点 攪乱

第54表 遺構外出土石器一覧(1)

挿図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第97図13 図版42-1-13	磨製石斧	緑色岩	83.0	47.3	32.3	125.8	基部のみ残存／基部は剥離を伴う敲打痕の後研磨され、更にその後段階にも剥離を伴う敲打痕がみられる／敲打痕によって基部が平坦になっている	②地点 攪乱
第97図14 図版42-1-14	磨石	砂岩	104.5	52.3	31.1	217.9	右面に細かい敲打痕／ほぼ全面に顕著な磨痕があり、特に裏面左上部は光沢をもつ	⑤地点 攪乱
第97図15 図版42-1-15	敲石	緑色岩	118.1	48.5	24.2	214.2	全周縁に剥離を伴う敲打痕／右面及び左面の上部の敲打は面状で細かい／上面端部・左面の下半・下面は剥離稜上が線状に潰れている	163J内 攪乱
第97図16 図版42-1-16	凹石	結晶片岩	134.3	87.7	46.0	591.0	表面に回転による円錐形の凹み／凹みの底面が平坦／裏面は節理による割れ／周縁部右側縁は敲打・磨りによる成形か	⑤地点 攪乱
第97図17 図版42-1-17	凹石	緑色片岩	122.9	81.1	20.5	274.5	表面に3ヶ所、裏面に2ヶ所凹みあり／裏面の一つは敲打による皿状の凹みで、その他は回転による円錐形の凹み	171J内 攪乱
第97図18 図版42-1-18	石皿	安山岩	103.8	94.7	44.1	425.3	表面は全面に平坦な使用面／磨痕は不明瞭	⑤地点 攪乱
第97図19 図版42-1-19	石皿	緑色岩	128.4	95.082	40.8	611.5	表面に1ヶ所、裏面に4ヶ所凹み／表面は敲打によるもの、裏面は敲打と回転による円錐形／裏面の線状痕は使用によるものか／裏面の凹みは磨痕の前段階か	③地点 攪乱

第54表 遺構外出土石器一覧(2)

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第98図1 図版42-2-1	深鉢	口縁部～ 底部 70%	高 36.6 口 (23.5) 底 11.0 厚 1.1	円筒形／平坦な底部から、やや膨らみながら立上がる胴部／口縁部で肥厚	口縁部は無文／胴部中位に太く低い隆帯が横走し、上半と下半を画す／胴部上半には押圧文を付した隆帯による三角形・渦巻状区画文を配す／隆帯脇には半截竹管状工具腹面による並行沈線が沿う／区画文内には単沈線による三叉文や縦位沈線文列が充填	暗赤褐／砂粒・礫少量	勝坂3a式	⑤地点 攪乱
第98図2 図版42-2-2	深鉢	胴部中位～ 下位 40%	厚 1.1	円筒形／開きながら立上がる胴部	断面カマボコ状隆帯が横走し、胴部上位と下位を画す／胴部上位は押圧文が付された隆帯による区画文／区画内には一部梯子状文となる沈線文列や三叉状文が充填	暗褐／砂粒・礫中量	勝坂3式	163J内 攪乱 127P
第98図3 図版42-2-3	深鉢	底部 90%	底厚 10.5 0.7	底部内面で僅かに上底状を呈す／内湾しながら開く胴部下位	無文	明黄褐／砂粒・礫少量	勝坂式	290Y
第98図4 図版42-2-4	深鉢	底部 30%	厚 1.3	平坦な底部／やや開く胴部下位	地文は単節RL縦位施文／胴部下端は無文	明赤褐／砂粒多量、礫微量	加曾利E1～2式	⑤地点 攪乱
第98図5 図版42-2-5	深鉢	底部 破片	厚 0.9	やや丸味のある底部／内湾して開く胴部下位	地文は条線縦位施文／2～3本1対の細い沈線が垂下／沈線間の磨消は不明瞭	明黄褐／砂粒多量、礫微量	加曾利E3式	639D内 攪乱
第98図6 図版43-6	深鉢	頸部 破片	厚 0.7	僅かに外反する頸部／内湾する口縁部	断面三角形の細い隆帯により口縁部と頸部を画すか／隆帯脇にはペン先状工具の押し引きが複列沿う	にぶい橙／砂粒・礫少量、雲母中量	阿玉台Ib～II式	171J内 攪乱
第98図7 図版43-7	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部／口唇部外折／波状口縁か	一部に背割り沈線や縄文単節RLが付された太く背の高い隆帯による楕円区画文／隆帯脇には幅広爪形文／区画内には単沈線2本が施文	暗褐／砂粒・礫中量、雲母少量	阿玉台III式	163J内 攪乱
第98図8 図版43-8	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや外傾	隆帯による区画文／隆帯脇には幅狭の結節沈線が複列沿う／区画内に結節沈線文列充填	褐／砂粒・礫中量	勝坂1a式	163J内 攪乱
第98図9 図版43-9	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	内湾する口縁部／口唇部外折	断面カマボコ状隆帯による三角形区画文／隆帯脇に幅広爪形文が沿う	暗褐／砂粒多量、礫微量	勝坂1b式	③地点 攪乱
第98図10 図版43-10	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	内湾する口縁部／口唇部やや外折	口縁部上端に交互刺突文が横走／口縁部には押圧文が付された隆帯による三角形・円形区画文／隆帯脇には単沈線2本と幅広角押文が沿う／区画内には沈線による三叉状文が充填	赤褐／砂粒・礫多量	勝坂3b式	163J内 攪乱
第98図11 図版43-11	深鉢	口縁部 破片	厚 1.3	内湾する口縁部片か	地文は単節RLやや斜位施文／断面カマボコ状隆帯によるS字状文か	暗褐／砂粒・礫多量	勝坂3b式	163J内 攪乱

第55表 遺構外出土縄文土器一覧(1)

第3章 検出された遺構・遺物

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文 様・特 徴	胎 土	時 期 型 式	出土遺構 出土位置
第99図12 図版43-12	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	強く内湾する口縁部	口縁部には沈線が施された背割隆帯により、上端部が突起化したS字状文を配す／隆帯の周囲には沈線による縦位沈線文列ないし同心円状文	明赤褐／砂粒・礫中量	勝坂3b式	②地点 攪乱
第99図13 図版43-13	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	円筒形か／ほぼ直線的に開く胴部	押圧文が付された断面台形の隆帯による区画文／区画文内には沈線文列や三叉文が充填／第○図2・54～56は同一個体と思われる	暗褐／砂粒・礫中量	勝坂3b式	163J内 攪乱 127P
第99図14 図版43-14								
第99図15 図版43-15								
第99図16 図版43-16	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	外傾する口縁部／口唇部は平坦	無文	灰黄褐／砂粒・礫微量	勝坂式	127P
第99図17 図版43-17	深鉢	胴部上位 破片	厚 1.1	やや外反する胴部	地文は燃系L縦位施文／胴部上端には隆帯横走／胴部上端から波状隆帯垂下	暗褐／砂粒・礫多量	加曾利E1式	遺構外
第99図18 図版43-18	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	内湾する口縁部	地文は燃系L縦位施文／口縁部の上端と下端に隆帯が横走し画す／口縁部には太く背の高い隆帯による渦巻状文・弧状文を配す	褐／砂粒多量、礫少量	加曾利E1式	②③地点 遺構外
第99図19 図版43-19	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	やや外反して外傾する胴部	地文は単節RL縦位施文／直状隆帯と波状隆帯が垂下	灰黄褐／砂粒・礫多量	加曾利E1式	171J内 攪乱
第99図20 図版43-20	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	外反する胴部	地文は単節RL縦位施文／間隔の狭い2本1対の沈線が垂下	黒褐／砂粒少量、礫微量	加曾利E2式	171J内 攪乱
第99図21 図版43-21	深鉢	胴部 破片	厚 0.7	やや内湾する胴部	地文は単節RL横位施文／隆帯による方形区画か	にふい黄褐／砂粒・礫微量	加曾利E3式	165J内 攪乱
第99図22 図版43-22	深鉢	胴部 破片	厚 1.3	ほぼ直線的に外傾	地文は単節LR縦位施文／波状沈線や2本1対の沈線が垂下／沈線間は磨消ないし無文	黄褐／砂粒多量、礫微量	加曾利E3式	遺構外
第99図23 図版43-23	深鉢	胴部上位 破片	厚 0.8	外反する胴部上位	地文は単節RLで口縁部は横位、胴部は縦位施文／口縁部下端が肥厚して稜をなし胴部と画す／胴部には磨消を伴う2本1対の沈線垂下	橙／砂粒多量、礫微量	加曾利E3式	165J内 攪乱
第99図24 図版43-24	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	内湾する口縁部／口唇部外折	口縁部上端には太い断面カマボコ状隆帯が横走／地文は燃系L縦位施文	にふい褐／砂粒・礫微量	加曾利E3～4式	164J内 攪乱
第100図25 図版43-25	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	内湾する胴部	地文は単節LR縦位施文／微隆起線による垂下文／微隆起線脇は太く浅いナデ沈線が沿う	灰白／砂粒・礫少量	加曾利E4式	166J内 攪乱
第100図26 図版43-26	深鉢	口縁部 破片	厚 1.3	外傾し上端で薄くなる口縁部／内折する口唇部	口唇部には沈線と押圧文が巡る／口縁部には一端を重ねた半截竹管状工具腹面引きによる斜行文／頸部に交互刺突が付された隆帯貼付	にふい褐／砂粒・礫中量	曾利II～III式	②地点 遺構外
第100図27 図版43-27	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	内傾する胴部上位／頸部付近か	上端には交互刺突文が付された隆帯横走／沈線による方形区画内には交互刺突文2列	にふい黄橙／砂粒・礫中量	曾利II～III式	④地点 遺構外
第100図28 図版43-28	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	外傾する口縁部／上端はやや薄手	地文は燃系L縦位施文／隆帯と沈線による連弧状文	灰黄褐／砂粒・礫微量	連弧文	171J内 攪乱
第100図29 図版43-29	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	外傾して内湾する口縁／口唇部で肥厚	地文は条線／口縁部上端に3本1対の沈線横走／口縁部には2本の沈線による弧状文	にふい褐／砂粒・礫中量	連弧文	290Y内 攪乱
第100図30 図版44-30	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾する口縁部／口縁部上端内外面に稜を持ち、断面三角形を呈する	やや太めの断面三角形の隆帯が口縁部の下端に巡り画す／口縁部に隆帯がC字・逆C字状に貼付され、楕円区画を呈するか／隆帯は区画外側の抑えが甘い	黒褐／砂粒少量、礫微量、雲母少量	阿玉台I～II式	184J内 攪乱
第100図31 図版44-31	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.1	開く体部／強く内湾する口縁部	口縁部には押圧文が付された隆帯による逆U字状文と沈線によるU字状ないしコの字状文	黒褐／砂粒・礫・雲母多量	中期中葉	163J内 攪乱
第100図32 図版44-32	浅鉢	口縁部 破片	厚 1.0	強く内湾する口縁部	断面台形の隆帯による弧状文	にふい黄橙／砂粒・礫少量	中期中葉	163J内 攪乱
第100図33 図版44-33	浅鉢	体部 破片	厚 0.9	内傾する大部上位	横走する細い隆帯から3本1対の隆帯垂下	にふい黄橙／砂粒・礫少量	中期後葉	165J内 攪乱
第100図34 図版44-34	有孔 罎付	頸部 破片	厚 1.0	屈曲する頸部か	約20mm間隔の焼成前穿孔が2か所／外面には赤色顔料が帯状に付着	暗赤褐／砂粒・礫中量	中期中葉	184J内 攪乱
第100図35 図版44-35	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	内湾して外傾する口縁部	無文／焼成後、内外面から穿孔あり／補修孔か	暗赤褐／砂粒・礫中量	中期中葉か	②③地点 遺構外
第100図36 図版44-36	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	やや外反して直立	無文／焼成後、内外面から穿孔あり／補修孔か	灰黄褐／砂粒・礫微量	加曾利E3～4式か	遺構外
第100図37 図版44-37	浅鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや内湾して外傾	無文／焼成後、内外面から穿孔あり／補修孔か	灰黄褐／砂粒・礫微量	中期	②③地点 遺構外

第55表 遺構外出土縄文土器一覧(2)



挿図番号 図版番号	種別	遺存度	長さ／幅／厚み (cm)	重量 (g)	特徴	胎土	時期 式	出土遺構 出土位置
第100図38 図版44-38	土器片錘	完形	5.7 / 4.5 / 1.6	41.8	楕円形／扶部2ヶ所／周縁摩耗僅か／深鉢胴部片利用／押圧文が付された隆帯による区画文か／隆帯脇には幅広角押文と沈線が沿う	褐／砂粒中量、礫・雲母微量	勝坂3式	565Y
第100図39 図版44-39	土器片錘	完形	5.1 / 4.1 / 0.9	22.2	方形／扶部2ヶ所／周縁摩耗／深鉢口縁部片利用	にぶい褐／砂粒・礫多量	勝坂式	②地点 遺構外
第100図40 図版44-40	土器片錘	完形	4.3 / 3.5 / 1.2	24.0	方形／扶部2ヶ所／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用か／僅かに角押文列が確認できる	にぶい赤褐／砂粒・礫少量	勝坂式	遺構外
第100図41 図版44-41	土器片錘	60%	4.0 / 3.2 / 0.9	21.0	楕円形か／扶部1ヶ所／周縁摩耗顕著／無文／内外面に未貫通の穿孔痕確認、補修孔か／内外面に赤色顔料付着	暗赤褐／砂粒多量、礫微量	勝坂式か	173J内 攪乱
第100図42 図版44-42	土器片錘	完形	4.4 / 3.2 / 1.5	30.2	方形／扶部2ヶ所／周縁摩耗顕著／無文	暗赤褐／砂粒・礫多量	中期中葉	遺構外
第100図43 図版44-43	土器片錘	完形	3.6 / 3.1 / 1.0	14.2	方形か／扶部2ヶ所／周縁摩耗／深鉢胴部片利用か／地文は単節RL縦位施文	褐灰／砂粒多量、礫微量	中期後葉	遺構外
第100図44 図版44-44	土器片錘	80%	3.8 / 3.5 / 1.1	21.6	円形か／扶部2ヶ所／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用か／無文	暗褐／砂粒多量、礫少量	中期	④地点 遺構外
第100図45 図版44-45	土器片錘	80%	3.7 / 3.0 / 0.8	16.4	方形か／扶部2ヶ所／周縁摩耗顕著／強く内湾する口縁部片利用／無文	明黄褐／砂粒・礫多量	中期	②③地点 遺構外
第100図46 図版44-46	土器片錘	60%	4.3 / 2.1 / 1.1	17.0	円形か／扶部1ヶ所確認／周縁摩耗顕著／無文	橙／砂粒・礫微量	中期	④地点 遺構外
第100図47 図版44-47	土器片錘	40%	2.9 / 2.1 / 1.1	8.4	方形か／扶部1ヶ所確認／周縁摩耗僅か／無文	にぶい橙／砂粒・礫中量	中期	③地点 遺構外
第100図48 図版44-48	土器片錘	80%	4.5 / 4.2 / 0.9	22.6	方形／扶部2ヶ所／周縁摩耗／無文	明黄褐／砂粒・礫多量、雲母少量	中期	②③地点 遺構外
第100図49 図版44-49	土器片錘	完形	3.6 / 3.1 / 0.9	16.6	方形／扶部2ヶ所／周縁摩耗顕著／深鉢胴部片利用／半截竹管状工具腹面による並行沈線	橙／砂粒・礫少量	中期	遺構外
第100図50 図版44-50	土器片錘	50%	4.2 / 2.5 / 1.0	15.4	方形か／扶部1ヶ所／周縁摩耗顕著／無文	橙／砂粒・礫中量	中期	163J内 攪乱
第100図51 図版44-51	土製円盤	完形	4.2 / 3.9 / 1.0	20.8	方形／周縁摩耗／深鉢胴部片利用か／単節RL施文／	明褐／砂粒・礫少量	中期後葉	遺構外

第56表 遺構外出土土製品一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	出土遺構 出土位置
第101図52 図版44-52	高環	口縁部 破片	厚 0.4	内湾する	内外面：ハケ目調整後、へら磨き調整／赤彩／遺存状態悪く、表面磨滅	にぶい黄橙／砂粒中量	165J
第101図53 図版44-53	高環	脚部 破片	厚 0.7	内傾する	内外面：へら磨き調整	にぶい黄橙／砂粒・礫多量	③地点 攪乱
第101図54 図版44-54	鉢	口縁部 破片	厚 0.4	胴部内湾／口縁部外反	外面：口縁部は横位、胴部は縦位のハケ目調整／赤彩 内面：口縁部・胴部は横位ハケ目調整後	にぶい黄橙／砂粒・礫少量	攪乱
第101図55 図版44-55	壺	肩部 破片	厚 1.1	外反して内傾	外面：縦位のへら磨き調整 内面：横位のハケ目調整	にぶい黄橙／砂粒・礫多量	④地点 攪乱
第101図56 図版44-56	壺	胴部 破片	厚 0.7	内傾する	外面：上段に端末結節文を伴う単節LR横位、下段に単節RL横位による羽状縄文 内面：磨滅により不明瞭／へら磨き調整課	にぶい黄橙／砂粒・礫少量	635D
第101図57 図版44-57	甗	口縁部 破片	厚 0.7	外反する口縁部	口唇部にハケ状工具による刻目 外面：縦位のハケ目調整 内面：横位のハケ目調整	にぶい黄橙／砂粒・礫微量	173J 攪乱
第101図58 図版44-58	甗	口縁部 破片	厚 0.8	平底	外面：縦位・横位のハケ目調整 内面：横位のハケ目調整	にぶい黄橙／砂粒・土器粒多量	遺構外
第101図59 図版44-59	甗	脚台部 破片	厚 0.5	口縁部が外反する	外面：縦位のハケ目調整 内面：ハケ目調整後、横位へら磨き調整か	にぶい黄橙／砂粒少量	③地点 攪乱

第57表 遺構外出土弥生土器一覧

第3章 検出された遺構・遺物

図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期	出土位置 出土遺構
図版 44-61	陶器	こね鉢	厚 0.7	口縁部破片／口縁部は開き、上位で稜を持つ／ロク口成形	在地系	中世	165J 内 攪乱
図版 44-62	陶器	碗	厚 0.9	胴部破片／胎土は灰褐色	不明	中世	163J 内 攪乱
図版 44-63	陶器	甃	厚 1.0	胴部下半破片／胎土は灰褐色	常滑	15 世紀	③地点 攪乱
図版 44-64	磁器	碗	厚 0.5	染付／草花文／口縁部小破片	肥前系	17 世紀後半	165J 内 攪乱
図版 44-65	磁器	小碗	厚 0.4	口縁部	肥前系	18 世紀	②地点 攪乱
図版 44-66	磁器	皿	厚 0.5	染付／内面草花文／体部小破片	肥前系	18 世紀	遺構外
図版 44-67	陶器	徳利	厚 0.4	口縁部／内外面黄色釉	瀬戸・美濃系	18 世紀後半	171J 内 攪乱
図版 44-68	陶器	碗	厚 0.7	削り出し高台／外面緑色釉／内面灰釉／被熱	唐津	17 世紀後半	⑤地点 攪乱
図版 44-69	陶器	鉢	厚 0.7	削り出し高台／内外面灰釉	瀬戸・美濃系	不明	遺構外
図版 44-70	陶器	鉢	厚 0.7	内外面灰釉／内面に印刻文／三島手	唐津	17 世紀	163J 内 攪乱
図版 44-71	陶器	鉢	厚 0.8	内外面灰釉／外面に鉄釉／内面の口縁部に櫛描文、体部に印刻文／三島手	唐津	17 世紀	③地点 攪乱
図版 44-72	陶器	鉢	厚 1.4	削り出し高台／内外面鉄釉	唐津	17 世紀	163J 内 攪乱
図版 44-73	陶器	播鉢	厚 0.7	体部破片／内面にカキ目／内外面鉄釉	瀬戸・美濃系	18 世紀後半	165J
図版 44-74	陶器	播鉢	厚 1.4	体部破片／内面にカキ目／内外面鉄釉	瀬戸・美濃系	18 世紀後半	②地点 攪乱
図版 44-75	土器	内耳鍋	厚 1.2	口縁部破片／内耳付	在地系？	17 世紀後半	③地点 攪乱

第 58 表 遺構外出土中世以降土器・瓦・陶磁器一覧

## 第4章 調査のまとめ

今回の調査では、縄文時代中期の住居跡 17 軒、埋甕 1 基、土坑 24 基、柱穴 49 本、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡 2 軒、中世以降の土坑 1 期、柱穴 27 本を検出した。

ここでは、本地点から検出された遺構・遺物のうち、特にまとまって検出された縄文時代の土器及び石器についてまとめ、所見を述べることにする。

### 第1節 縄文時代の土器について

ここでは、本地点から出土した復元個体について、既存の土器型式編年を参照しながら、その編年的位置付けを行う。編年の枠組と呼称については黒尾和久の論考（黒尾 1995）に基づきつつ、細別型式の特徴や内容等については、新地平編年（小林・中山・黒尾 2004、黒尾 2016、中山 2016）や、新地平編年との対比が明らかな編年研究（中山・宇佐美・武川・黒尾 2004、大網 2016、櫛原 2016）を参照した。以上の枠組を用いながら、今回出土した土器を 1～10 期の各期に比定した（第 102 図）。以下、可能な限り各個体の時期比定根拠を明示しながら、各期の土器様相について述べる。

#### （1）各期の土器様相

##### 1期：勝坂2 a 式期

本期の特徴は、隆帯による区画文を配し、隆帯脇に幅広角押文と波状沈線が沿うことなどである。また、抽象文が施された土器が盛行する時期でもある。

1は 184J の炉体土器で、断面カマボコ状の隆帯による楕円区画文やワラジムシ状文を配した後、胴部全体と隆帯上に縄文を施文する。隆帯脇に幅広角押文と波状沈線が沿うこと、ワラジムシ状文を持つことから、本期に比定した。

##### 2期：勝坂3 a 式期

本期の特徴は、区画文を形成する隆帯上に押圧文を付すこと、隆帯脇に半截竹管状工具による並行沈線が沿うこと、沈線間や区画文内に角押文や交互刺突、沈線文列などが充填されることなどである。

2は 164 J の炉体土器で、無文の口縁部と縄文のみ施文された胴部を持つ。隆帯上に押圧文を付すことから、本期に比定した。隆帯による区画文を持たないこと、隆帯上に縄文を付すこと、隆帯脇に沈線が沿わず処理が甘いことは、東関東系の要素であろうか。

3は多段の方形区画が配される土器である。口縁部に巡る隆帯上の加飾が無いことは勝坂2式までの特徴であるが、隆帯脇に角押文ではなく平行沈線が沿うことから勝坂3式として捉えた上で、区画文を多段に配すること、半截竹管状工具を多用することを古相の要素と捉え、本期に比定した。

4は 164 J の床面直上から出土した小形の鉢形土器である。楕円区画文を形成する隆帯上には加飾されないものの、把手を形成する隆帯上には密な角押文が付されること、楕円区画文内には半截竹管状工具の腹面引きによる縦位沈線文列と交互刺突文が充填されることから、本期に比定した。類例は管見に触れず、今後さらなる検討を要する資料である。

5は同じく 164 J の床面直上から出土した浅鉢形土器である。口縁部上端と下端に巡る隆帯を、C字・逆C字状隆帯で連結することで楕円区画文を形成する。時期の比定は困難であるが、伴出資料から本期

に比定した。

### 3期：勝坂3b古式期

本期の特徴は、区画文を形成する隆帯上に押圧文を付すこと、区画文内に単沈線や並行沈線による縦位沈線文列や角押文列を密に充填することなどである。

6は勝坂3b新式期に帰属する39Jからの出土であるが、押圧文を付した隆帯脇に並行沈線が沿うことや角押文列からなる所謂「温泉マーク文」が施されることから、本期に比定した。

7は185Jの炉体土器で、区画文を形成する隆帯上に角押文や交互刺突文が付されることや、隆帯脇に単沈線が沿うこと、区画文内に縦位沈線文列が充填されることから勝坂3b式として捉えた上で、縦位沈線文列が半截竹管状工具によることや、口縁部から胴部にかけて文様帯を多段に配することを古相の属性と判断し、本期に比定した。

8は胴部上半に区画文を配し、胴部下半には地文を施文する土器である。隆帯上に角押文や交互刺突文が付されることから勝坂3b式として捉えた上で、区画文内に配される三叉状文等に角押文が密に沿うことなどを古相の属性と判断し、本期に比定した。

### 4期：勝坂3b新式期

本期の特徴は、区画文を形成する隆帯や隆帯上加飾である角押文・交互刺突文等が粗大化または矮小化すること、隆帯上加飾に沈線が用いられること、区画文内の副文様が低調になること、文様帯内にも地文が施されることなどである。

本期は勝坂式の終末期であると同時に、加曽利E式成立直前期であることから、勝坂式・阿玉台式・加曽利E式・大木式といった各型式の要素が複雑に絡まりながら多様な土器様相を示しており、上記の特徴を備えていない土器も多く認められている。ここでは各個体を本期に比定させた根拠の一つとして、これまで認識されてきた類型名（中山・宇佐美・武川・黒尾 2004）を適宜付して説明する。

9～15はキャリパー形ないしそれに類する器形で、口縁部に文様帯を持つ土器である。いずれも加曽利E1式と共通する属性を複数併せ持つものの、後述する加曽利E式成立の「要件」（黒尾 2004・2016）を一部満たしていない個体であることから、本期に比定した。

9は地文が隆帯貼付に先立って施文され、口縁部区画文内にも一部地文が及ぶ点が加曽利E式的であるが、隆帯による区画文と区画文内の副文様を施文する点から勝坂式の範疇で捉え、本期に比定した。「清水ヶ丘タイプ」。

10は2本1対の隆帯によるクランク状文が配されることは加曽利E1式の要素であるが、地文施文が隆帯貼付後であること、口縁部には地文が施文されないこと、胴部地文が勝坂式に特徴的な0段多条単節RL斜位施文であることから、本期に比定した。「クランク文系」。

11は区画文が2本1対ではなく背割隆帯であること、S字状文を配していないことなどから本期に比定した。「台耕地タイプ」か。

12は171Jの炉体土器で、幅広の背割隆帯による横S字状文を配した口縁部の上に、幅広無文口縁を付している。地文施文後に隆帯によるS字状文を配することは加曽利E1式の要素であるが、隆帯が2本1対ではなく幅広背割隆帯であること、地文が0段多条単節RL斜位施文であることなどから、本期に比定した。「膳棚タイプ」。

13は口縁部に半球状貼付文のみ配されること、地文施文が隆帯貼付後であることなどから、本期に比定した。貼付文や隆帯上に縄文が施文される点は、東関東系の要素である。「下総（中峠）系」か。



14は隆帯貼付が地文施文後に施されるが、口縁部と胴部が区画されていないこと、横S字状文を太く背の高い1本の隆帯により描出することから、本期に比定した。隆帯脇に先丸ペン先状工具の押し引きが沿うこと、地文が単節RL縦位施文であることは、東関東系の要素である。「下総(中峠)系」。

15は163Jの炉体土器で、地文施文後に加飾された隆帯による区画文を配する土器で、大形のキャリパー形深鉢であると思われる。区画文が角押文・交互刺突文を密に付した幅広の背割隆帯で描出されることから、本期に比定した。類例は埼玉県ふじみ野市東台遺跡152号住居跡の炉体土器(大井町遺跡調査会 2005)に求められようか。

16は胴部に地文を施文した後、抑えの甘い隆帯により区画文を配する土器である。この土器のように、内湾する無文の口縁部と区画文を配する胴部を持ち、区画文内に地文が施される資料は類例が少ない。

17・18は器面全面に地文を施文後、抑えの甘い隆帯により区画文を配する土器である。いずれも外反する口縁部や、断面三角形に肥厚する口唇部、頸部に巡る隆帯上の突起、突起から垂下する直状隆帯や渦巻状文とそこから垂下する波状隆帯からなる区画文を有している。この類は、勝坂式3b新式期と加曾利E1a式期に認められることから、土器単体での時期決定は困難であるが、今回は出土した171Jの帰属時期と伴出した土器から本期に比定した。

19は口縁部に多条の隆帯による波状文を配すキャリパー形深鉢である。「狐塚タイプ」。

20～32は胴部上半に文様帯をもつ「小形・大形円筒形」深鉢と呼称される土器である。20は多段の文様構成、21は幅広の口縁部、22は断面カマボコ状の隆帯がそれぞれ特徴的であるが、これらは概ね典型的な勝坂式といえる。胴部下半を欠くが、23・24も同様であろう。25～28は口縁部が外反する。25は胴部下半の地文に縦位沈線が用いられる点が特徴的である。29・30は口縁部胴部上半に幅狭の文様帯をもつ土器である。また、29はややバケツ形の器形であることに加え、下半の地文が単節RL斜位施文で条が横走し、30は区画文内に副文様が充填されないことは、東関東系の特徴と言えようか。31・32は区画文が沈線のみで描出される。31の胴部下半には地文が施されない。

33・34はやや壺形を呈し、器面全面に地文が施され、口唇部に2本1対の隆帯が巡り、部分的に突起を形成する「大木系」と呼称される一群である。勝坂3b新式から加曾利E1a式期に認められ、時期比定は困難であるが、33は頸部に巡る押圧文を伴う隆帯、34は0段多条RL斜位施文という型式学的特徴と伴出資料から、本期に比定した。

35～37は無文の内湾する口縁部と、文様帯となる膨らむ胴部を持つ「中带文系」と呼称される土器である。35は幅広の隆帯による人体意匠文と思われる区画文を配し、区画文間に副文様は充填されない。36は胴部に撚糸Rを縦位に施した後、隆帯が垂下する。37は胴部に撚糸L縦位施文後、口縁部から垂下する隆帯や眼鏡状把手などが貼付される。隆帯上には交互刺突や沈線が付される。36・37の時期比定は困難であるが、眼鏡状把手や隆帯上加飾、伴出資料等から、ここでは本期に比定する。

38～40は浅鉢である。38は幅広隆帯による区画文と眼鏡状把手を配する。39は沈線による方形区画文が配される土器で、阿玉台IV式に比定する。40は角押文を付した隆帯による区画文を配する土器である。前時期の勝坂3b古式期との区別が困難であるが、伴出資料も踏まえ、本期に比定した。

41は器台形土器である。脚部下端に巡る縦位沈線文列、伴出資料から本期に比定した。

口縁部に文様帯を持つキャリパー形深鉢と、胴部上半に文様帯を持つ円筒形深鉢を主体にした土器様相は、高橋大地による西南関東地域における分析(高橋 2003)や、新藤健による埼玉県所沢市海谷遺跡における分析(新藤 2009)と共通している。また、隆帯による区画文と区画文内への副文様

の充填、そして地文と区画文帯の区分を勝坂式の伝統的な要素として捉えた場合、9・20～29・35・38・40・41については「伝統的な勝坂式」、10～18・25・30～32・36・37については「変異した勝坂式」と捉えることができる。これらに加え、19・33・34・39などを含めた多系統の土器からなる土器様相が、本期の特徴と言える。

#### 5期：加曽利E 1 a式期

本期は、先述の武蔵野台地型加曽利E式成立の「要件」（黒尾 2004・2016・2017）全てを満たしている個体とその伴出資料を比定した。黒尾の示した要件は「①撚糸（L撚）の全面施文（頸部は素文になるものもある）、②隆起帯によって口縁部文様帯の上下区画をする、③口縁部には横位のL撚地文の施文、④文様要素として、2本の並行粘土紐を使用、⑤屈折底の痕跡化（キャリパー器形の成立）、⑥口縁部文様帯内の「横S字モチーフ」の連結・連続化」（黒尾 2017）である。しかし③について筆者は、口縁部から胴部まで撚糸Lを縦位に施文する資料も加曽利E式に含めるべきと考えており（徳留 2019）、ここでも44・47・48を本期に含めている。

42～51はキャリパー形深鉢で「武蔵野台地型加曽利E式」（谷井 1987）とされる土器である。いずれも撚糸Lを地文として施文した後、隆帯や半截竹管状工具による並行沈線で口縁部と胴部を画し、口縁部には2本1対の隆帯によるS字状文を配する土器である。

42は口縁部と胴部が強く内湾し、口縁部文様帯内の隆帯貼付が甘い。

43は胴部に半截竹管状工具による直上・波状の並行沈線が垂下する。地文は撚糸Lで、口縁部上半は横位に、口縁部下半から胴部下位までは縦位で施文される。口縁部文様帯内で地文の施文方向が変化しており、地文と区画文の対応が曖昧である。

44は口縁部のS字状文を形成する隆帯上に押圧文が付されることや、小突起から垂下する隆帯がS字状文と連結すること、口縁部下端に巡る隆帯に交互刺突が施されることは勝坂式的な要素を残す。

45はやや口縁部の内湾が強く、また口縁部文様帯も狭いが、典型的な加曽利E 1 a式土器と言える。

46は口縁部と胴部が隆帯や並行沈線によって画されていないが、器形と地文施文方向の差異から、口縁部と胴部を明確に区別していると認めるとともに、口縁部のS字状文が2本1対であることを評価し、本期に比定した。

47の168 J 炉体土器についても、口縁部と胴部の区画が不完全であるが、十字文直下に横走する隆帯を積極的に評価して本期に比定した。

48はやや垂直気味に立つ口縁やS字状文の単位文化及び突起化、S字状文から垂下する短い隆帯などの要素から、加曽利E 1 b式期に下る可能性がある資料ではあるが、十字状文の存在や隆帯脇の処理の甘さなどの要素から、本期に比定した。

49は169 Jの炉体土器で、抑えの甘い背の高い隆帯によるS字状文を配し、胴部上端には半截竹管状工具による並行沈線が巡る。いずれも本期の特徴といえる。頸部は無文となる。

50は口縁部に撚糸Lが施文されず、2本1対の隆帯によるS字状文施文後、空白部に縦位沈線を充填する土器である。S字状文の端部が小突起化していることや、突起から直状隆帯が垂下する点は加曽利E 1 b式の特徴であるが、隆帯脇に沈線が沿わず抑えが甘いことや、隆帯貼付後に沈線や地文を施文している点を古相の要素と捉え、本期に比定した。

51は口縁部や胴部下半を欠くものの、胴部上端に半截竹管状工具による並行沈線を巡らせ、胴部には同じく並行沈線による垂下文ないし曲線文が配されている。胴部の撚糸L縦位施文と半截竹管状工具

を多用することから、本期に比定した。

52は169 Jの炉体（内側）で、地文に撚糸R縦位を施文後、抑えの甘い隆帯による区画文を配する土器である。円筒形の器形や口縁部に無文帯を有することは20～32の円筒形深鉢に類似するが、区画文のモチーフや隆帯の抑えの甘さについては17・18に類似しており、両者の特徴を併せ持っている。

53は無文の浅鉢である。

加曽利E式は斉一性の高い土器型式として知られているように、本地点出土土器についても武蔵野台地型加曽利E式にほぼ収斂する様相が看取できる。しかし同時に、直前の勝坂3 b新式期の多様な土器様相を引き継ぎ、個体ごとの変異も大きいことも指摘できる。また、一部に勝坂式の伝統を残す「変異した勝坂式」である52などの土器が存在することも、本期の特徴といえる。

#### 6期：加曽利E 1 b 式期

本期の特徴は、撚糸を地文とし、口縁部には2本1対の隆帯によるS字状文・弧状文が配され、その端部には沈線で小さめの渦巻文が付されること、橋状・逆C字状の大型中空把手が顕著に認められることである。本期に比定させた54～56はいずれも上記の特徴を備えている。また、胴部に1本ないし2本1対の直状・波状隆帯が垂下することなども本期の特徴である。

54は165 Jの炉内から出土した土器で、撚糸Lを地文とし、口縁部には太めの沈線で抑えられた2本1対の隆帯によるS字状文が配され、端部には沈線による渦巻状文化している。

55は撚糸Lを地文とし、逆C字状の中空把手が付く土器である。

56は撚糸Lを地文とし、口縁部には抑えの甘い2本1対の隆帯が弧状文を形成し、その端部が渦巻状文化している。胴部には1本ないし2本1対の隆帯が垂下する。やや内湾の弱い口縁部の器形や抑えの甘い隆帯、一部の胴部懸垂文が上端で逆U字状を呈することなどは曾利式の影響と言えようか。171 Jからの出土であるが、他の遺物と年代観が合わない。所謂流れ込みであろうか。

#### 7期：加曽利E 1 c 式期

本期の特徴は、大形把手の衰退、縄文地文の増加、口縁部の平縁化、口縁部S字状文の端部渦巻状文の大形化などが挙げられる。

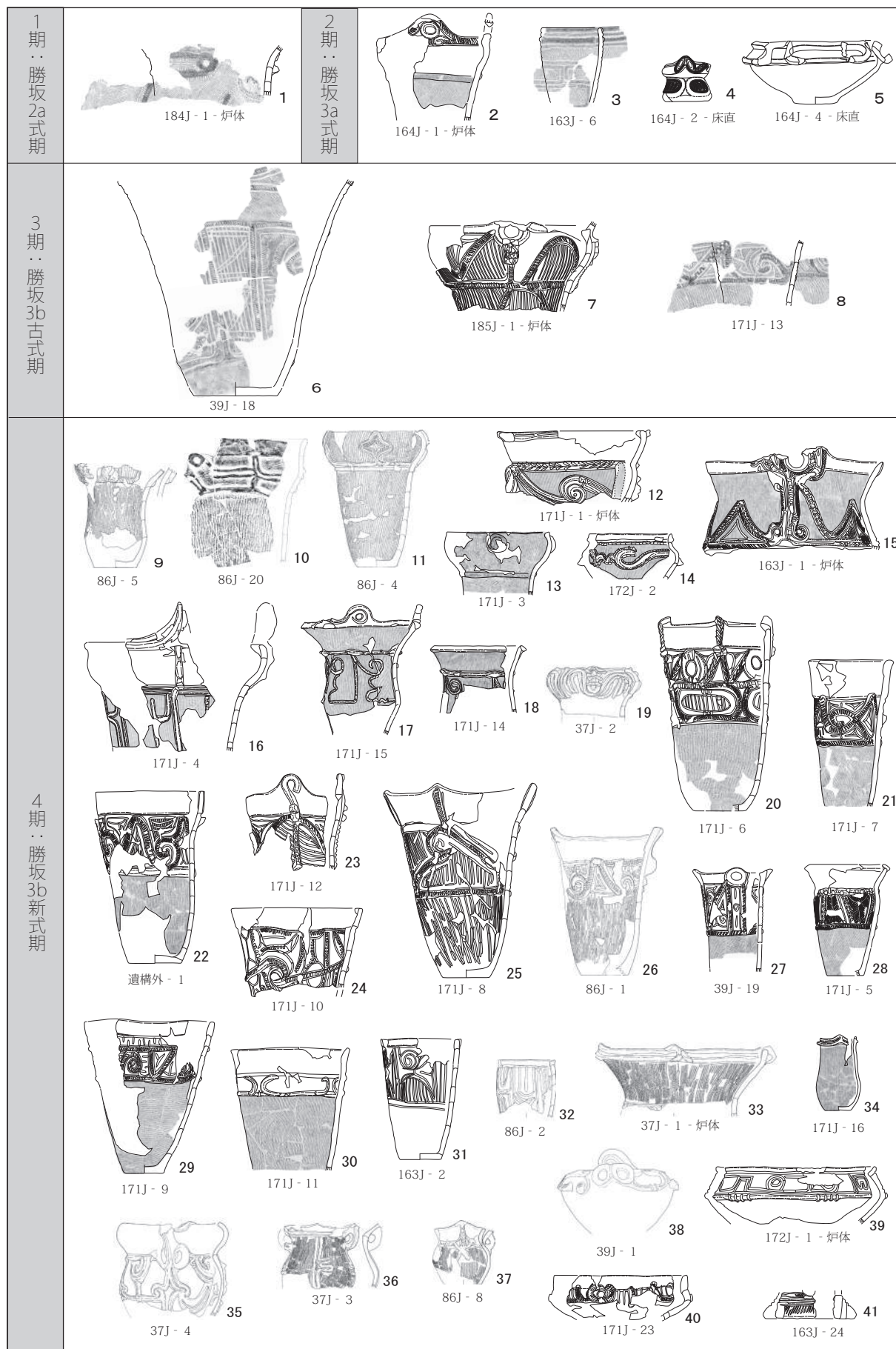
57は5埋出土土器で、撚糸L縦位施文を地文とした口縁部に2本1対のS字状文を配する土器である。地文が撚糸であることはやや古相の特徴であるが、S字状文端部の渦巻部がやや上方を向いて突起化していることから、本期に比定した。

58は171 Jの覆土下層から出土した浅鉢であるが、第67地点132 J出土土器と遺構間接合している。171 Jは勝坂3 b新式期に、132 Jは加曽利E 1 c 式期にそれぞれ比定されと考えられ、両住居には時期差が認められる。地文に縄文が施されることや、端部が渦巻状文となる沈線による弧状文などの型式学的特徴を考慮すると、この土器は加曽利E 1 c 式期に比定されるものと考えられ、132 Jとの年代観には概ね符合する。なお、発掘作業段階ですでに132 J出土土器と接合することや、171 Jと年代観が相違することは判明していたことから、当該資料出土場所にピット・土坑等の堀込を想定して確認作業を行ったものの、それらの遺構を検出することはできなかった。第64図24に示したように、両住居跡から概ね半分ずつ出土したものが接合し、ほぼ完形となっていることから、意図的な分割等の可能性も考慮しつつ、当該資料の埋没過程を改めて検証する必要があるだろう。

#### 8期：加曽利E 2 c 式期／連弧文2 b 段階

本期に比定される土器は、57の173 J埋葬のみである。口径に比して器高が高いこと、口縁部上端





第102図 西原大塚遺跡第174②～④地点出土土器編年図 (1/12)



<p>5期 加曾利E1a式期</p>	<p>37J - 23J 42</p> <p>86J - 3 43</p> <p>86J - 44 44</p> <p>86J - 6 45</p> <p>86J - 7 46</p> <p>168J - 1 - 炉体 47</p> <p>168J - 2 - 埋裏 48</p> <p>169J - 1 - 炉体(外側) 49</p> <p>169J - 3 - 床直 50</p> <p>169J - 4 51</p> <p>169J - 2 - 炉体(内側) 52</p> <p>86J - 9 53</p>	
	<p>6期 加曾利E1b式期</p>	<p>165J - 1 - 炉内 54</p> <p>165J - 3 55</p> <p>171J - 2 56</p>
	<p>7期 加曾利E1c式期</p>	<p>5埋 - 1 57</p> <p>171J - 24 58</p>
<p>8期 加曾利E2c2b段階</p>	<p>173J - 1 - 埋裏 59</p> <p>633D - 1 60</p> <p>628D - 1 61</p>	
<p>10期 加曾利E4式期</p>	<p>166J - 1 - 炉体 62</p> <p>631D - 1 63</p>	

9期  
加曾利E2c3b式期  
／ 曾利III  
／ 曾利IV式期

には交互刺突文ではなく沈線が巡ること、地文が櫛歯状工具による条線であること、やや簡素な印象を受けることから、連弧文2 b段階に比定する。

#### 9期：加曾利E 2 c式～3 b式期／曾利Ⅲ～Ⅳ式期

本期に比定される住居跡出土土器はなく、60・61ともに土坑出土土器である。加曾利E式系の復元個体は出土しておらず、全て曾利式系の土器である。

60は内湾する口縁部は無文で、胴部には抑えの甘い隆帯による垂下文施文後、斜行沈線文が充填される土器である。曾利Ⅲ式に比定した。61は胴部に条線地文後、幅広で背の低い隆帯が直状・波状に垂下し、所謂「加曾利・曾利折衷タイプ」と呼称される土器である。曾利Ⅲ～Ⅳ式に比定した。

#### 10期：加曾利E 4式期

本期の特徴は、加曾利E 3式期まで継続した口縁部文様帯の消失、微隆起線による区画文が配されることなどである。

62は166 Jの炉体土器で、口縁部上端は無文で、胴部には微隆起線によるU字状・逆U字状区画文が配され、区画文内には単節LRが充填される。63は631 Dの底面から出土した土器で、口縁部上端は無文で、胴部には沈線によるU字状・逆U字状文が配される。U字状文の屈曲部は一部V字状を呈するものの、全体的にやや丸味を帯びている。いずれも本期の特徴である。

## (2) 課題と展望

以上、やや冗長的ではあるが、本地点から出土した土器の編年の位置づけと各期の土器様相を述べた。全体を通観すると、復元個体としては中期初頭ないし前葉（五領ヶ台式期から勝坂1式期）に比定される資料が認められないこと、一部空白期を挟むものの中期中葉から後葉（勝坂2式から加曾利E 4式期）までの資料が認められること、中期中葉末から後葉初頭期（勝坂3式から加曾利E 1式期）の資料が豊富であること、加曾利E 2～4式期には曾利式や連弧文などの異系統土器が多いことなどが指摘できる。このような様相は、西原大塚遺跡から出土した縄文時代中期土器の集成結果（徳留 2015b）とも概ね符合する。

今後は、本地点を含めた西原大塚遺跡全体の編年を構築し、各期の様相を把握することが直近の課題となるだろう。その上で、各期に比定される遺物・遺構を整理し、さらに個々の物質文化要素間の関係性を一つずつ記述していくことが求められる。

例えば、4期（勝坂3 b新式期）に比定した37・39・86・163・171 Jの近似した住居形態は、当該期における住居型式の斉一性と凝集性の高さが、本遺跡の特徴として指摘できる可能性を示唆している。また、同じく4期（勝坂3 b新式期）に比定した172 Jが異なる住居形態であることと、炉体土器が阿玉台Ⅳ式という異系統土器であることとの関係も注目される。さらに、5期（加曾利E 1 a式期）に比定される169 Jが37 J等と近似する住居形態であること、重複関係にあるものの同じく5期（加曾利E 1 a式期）に比定される168 Jが方形の住居形態と埋嚢を有するという差異も見逃ごせない。次節で述べる石器の様相と併せ、勝坂式3期から加曾利E 1式期における文化的・社会的変化について言及するための視点を提供してくれる可能性がある。土器編年の構築による時間軸の設定は、その前提となるものである。

---

---

## 第2節 縄文時代の石器について

---

---

本地点では、縄文時代の住居跡・土坑・埋甕が検出されており、これらは全て中期中葉から後葉（勝坂式から加曽利E式）期に属し、近接した時期でまとまっている。遺構外出土遺物においても、土器は中期中葉から後葉がほとんどであり、石器もこの時期のものがほとんどであると思われる。ここでは、遺構外出土のものも含めて、本地点で出土した縄文石器について若干の所見を述べることにする。

### （1）西原大塚遺跡第174②～⑤地点出土石器の集計について

今回、出土した石器は、石鏃、石匙、削器、楔形石器、異形石器、打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石、石皿、石棒？、剥片である。遺構毎および遺構外出土の石器集計については第59表に示した。なお、37・39・41 Jについては、本地点で発掘調査した範囲で出土した石器のみの集計点数である。また、86 Jは、本地点で発掘調査した範囲で出土した石器に、既報告分の石鏃2点、削器1点、打製石斧4点、剥片1点を追加した集計点数となっている。遺構外出土遺物については、報告分の資料点数を示してある。

住居跡ごとの合計点数で言うと、165 Jのように多く石器が出土している遺構もあれば、石器の出土が非常に少ない住居跡も存在する。このことは、遺構の遺存状況や調査過程に影響を受けている場合が考えられる。各遺構の遺存状況については、攪乱や遺構の重複の有無や調査範囲から大まかに4段階で示した。これは筆者が恣意的に判断したものであり、あくまでも目安とする。また、165 Jについては、複数の住居跡が重複しており、当初は遺構範囲全体で165 Jとして精査していた。そのため一括資料については、165 Jで取り上げており、点数が多くなっている可能性がある。

上記の条件や発掘調査上の制約等を踏まえたうえで、全体を通じて石器集計表から下記のことが指摘できよう。

①打製石斧はほとんどの住居跡から出土している。

②遺存状況が良い住居跡（163・165・171 J）では、石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石、石皿が共通して出土している。

③打製石斧の点数が圧倒的に多く、次いで多いのが磨石、磨製石斧であるが、20点未満であり、石鏃・石匙・削器等の剥片石器や石皿については、より点数が少ない。

④異形石器や石棒など特殊な石器が加曽利E1式期の住居跡（168・169 J）から出土している。

①・③で打製石斧がほとんどの住居跡から出土することと、点数が他の石器より圧倒的に多いことは、打製石斧の使用頻度が非常に高かったことを示していようか。西原大塚遺跡においては、すぐに手に入り、機能が衰えたらすぐに交換できる、利用のサイクルが早い石器だった可能性が考えられよう。そういった視点に立つと、他の石器についても、石器の搬入や使用頻度、物持ちの良さなどの石器の維持・管理の問題が挙げられる。

②については、今回検出された住居跡が縄文時代中期中葉～後葉がほとんどであることから、当該期の石器の道具立てを示していよう。生業していく上での生産用具であり、通常生活に必要な道具であったと考えられる。ただし、住居跡に残っている石器は、遺棄・廃棄の結果でもあり、遺棄・廃棄されなかった石器も当然あったと想定される。この点を留意しながら、西原大塚遺跡全体で当該期の石器組成を見ていく必要がある。

なお、時期別で見た場合、今回の地点では、勝坂期の住居跡と加曾利E式期の住居跡では器種組成、出土点数の傾向に大きな違いは見受けられなかった。ただし、④に関しては、非常に興味深い事例と言えよう。石棒はいずれも小型で細身であり断片的な資料ではあるが、同様な資料は今回、勝坂式期の住居跡からは出土していない。今後、類例と出土住居跡の時期の把握が必要である。今回の事例が勝坂式期と加曾利E式期との石器組成の違いとなれば、中期中葉から中期後葉へかけての物質文化の変化として捉えられる可能性がある。

## (2) 西原大塚遺跡第174②～⑤地点出土石器の石材について

本地点で出土した石器の石材について、どういった石材がどの石器器種に使用されているかを見るために、石材別の集計を行った(第60表)。石器点数は計108点で、これは今回、図化して報告した資料のみ。出土した石器全点ではないが、中期中葉～後葉の石材利用の様相を少なからず反映しているものと考え、当該期の石材利用傾向を予察的に捉えてみたい。

### 【石材別点数の傾向】

石材別での集計の結果、点数が最も多かった石材は砂岩で26点、次いでホルンフェルスで25点であった。これらの石材は、点数を合わせると全体の約50%を占めている。その他の石材は、割合としてはそれぞれ10%未満であった。

器種が特定できているが小破片のため報告されなかった資料も当然あるため、全体の割合に影響がある可能性は考えられるが、砂岩、ホルンフェルスが突出して多いことは傾向として言えよう。このことは、西原大塚遺跡の周辺で砂岩、ホルンフェルスが採取できた可能性が考えられる。本遺跡の北西には柳瀬川が流れており、採取地候補として挙げられる。今後、柳瀬川の石材調査を行い、遺跡周辺の石材環境を把握する必要がある。

また、割合の低かった石材については、黒曜石に代表されるように、本遺跡周辺では採取できない遠隔地石材の可能性もある。このことは在地石材とともに把握していくべき課題である。

### 【複数の器種に使用されている石材】

今回の集計では、黒曜石、閃緑岩、チャート、頁岩、砂岩、結晶片岩、緑色岩が該当する。黒曜石やチャートは石鏃などの剥片石器に利用されている。閃緑岩は磨製石斧、磨石、敲石、凹石、石皿に使用されており、礫石器や磨製石器に利用される。緑色岩も磨製石斧、敲石、石皿に使用され、閃緑岩と同様な傾向を示す。凝灰岩は打製石斧、磨製石斧、磨石に使用される。砂岩は打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石に使用されている。

### 【特定の器種と対応する石材】

2点以上確認され、かつ特定の器種のみと対応する石材としては、安山岩、粘板岩、片状砂岩、ホルンフェルスが挙げられる。安山岩は石皿に、粘板岩、片状砂岩、ホルンフェルスが打製石斧に使用される。今回は限られた資料での集計であり、取り上げた石材は他の器種に使用される可能性はあるが、石材と特定器種とのつながりを少なからず示していよう。

以上、大まかに石器石材について概観してきた。これらの視点は、石器製作時の石材選択や石器製作地の問題、石器の搬出入の問題などに発展させることができ、本遺跡における縄文時代中期中葉～後葉にかけての石材消費の実態を解明する手立てとなつてこよう。



遺構番号	時期	石鏃	石匙	削器	楔形石器	異形石器	打製石斧	磨製石斧	磨石	敲石	凹石	石皿	石棒	剥片	合計	遺構遺存状況	備考
37J	勝坂 3b 新式期						2			1				1	4	◎	今回発掘地点分のみ
39J	勝坂 3b 新式期						2			1				8	11	◎	今回発掘地点分のみ
41J	中期中葉														0	×	今回発掘地点分のみ
86J	勝坂 3b 新～加曾利 E1a 式期	2		1			6	1		2				8	20	◎	今回発掘地点分の他に、石鏃 2 点、削器 1 点、打製石斧 4 点、剥片 1 点を追加
163J	勝坂 3b 新式期	2					12	2	1	3		1		31	52	◎	
164J	勝坂 3a 式期						2					1		5	8	△	
165J	加曾利 E1b 式期	1	1				31	4	9	1	1	3		48	99	◎	
166J	加曾利 E 4 式期														0	×	
167J	中期中葉						2							1	3	×	
168J	加曾利 E1a 式期	1					7	2	2				1	25	38	△	
169J	加曾利 E1a 式期				1	1	9	1	1			1	1	23	38	△	
170J	中期中葉											1		3	4	×	
171J	勝坂 3b 新式期	3					17	5	2	7		2		41	77	◎	
172J	勝坂 3b 新式期						3	1							4	△	
173J	連弧文 2 b 段階						2							2	4	×	
184J	勝坂 2 a 式期						3							3	6	△	
185J	勝坂 3b 古式期						2							4	6	×	
628 D	曾利Ⅲ～Ⅳ式期						1		1					1	3	◎	
634 D	連弧文 2 段階						2								2	△	
635 D	加曾利 E3～4 式期								1						1	○	
638 D	勝坂 3 式期						1								1	△	
642 D	加曾利 E3b～c 式期								1						1	△	
646 D	勝坂式期													1	1	△	
	遺構外	2					8	2	1	1	2	2		1	19		今回報告分のみ
	合計	11	1	1	1	1	112	18	19	16	3	11		206	402		(◎:良い ○:やや良い △:やや悪い ×:悪い)

第 59 表 西原大塚遺跡第 174 ②～⑤地点出土石器集計表

石材	石鏃	石匙	削器	楔形石器	異形石器	打製石斧	磨製石斧	磨石	敲石	凹石	石皿	石棒	剥片	合計	割合
黒曜石	4		1	1	1									7	6%
流紋岩								1						1	1%
玄武岩						2								2	2%
安山岩											3			3	3%
閃緑岩								1	1	1	1	1		5	5%
石英閃緑岩								1						1	1%
チャート	6	1												7	6%
頁岩	1					1								2	2%
凝灰岩						3	2	1					1	7	6%
粘板岩						3								3	3%
礫岩						1								1	1%
片状砂岩						4								4	4%
砂岩						17	1	1	6			1		26	24%
ホルンフェルス						24							1	25	23%
結晶片岩										1		1		2	2%
緑色片岩										1				1	1%
蛇紋岩						1								1	1%
緑色岩							6		3		1			10	9%
合計	11	1	1	1	1	56	10	5	10	3	5	2	2	108	100%

第 60 表 西原大塚遺跡第 174 ②～⑤地点出土石器石材別集計表（報告資料分のみ）

#### 第4章 調査のまとめ

##### [引用・参考文献]

- 大井町遺跡調査会 2005『西ノ原遺跡Ⅳ—西ノ原遺跡第113・119地点の発掘調査概要報告書—・東台遺跡Ⅴ—東台遺跡第33・34地点の発掘調査概要報告書—』大井町遺跡調査会報告第17集
- 大網信良 2016「武蔵野・多摩地域周辺の土器系統：連孤文系」『シンポジウム縄文研究の地平2016—新地平編年の再構築—発表要旨』縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会
- 大久保聡 2020「第5章 調査のまとめ 第2節 西原大塚遺跡第222地点の調査成果」『西原大塚遺跡第220地点・西原大塚遺跡第222地点・西原大塚遺跡第227地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第75集 埼玉県志木市教育委員会
- 黒尾和久 1995「縄文中期集落遺跡の基礎的検討(1)」『論集 宇津木台』第1集 宇津木台地区考古学研究会
- 黒尾和久 2016「基調報告3：加曾利E式」『シンポジウム縄文研究の地平2016—新地平編年の再構築—発表要旨』縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会
- 黒尾和久 2017「加曾利E1式の多様な系統と勝坂3式の「間」～武蔵野台地型加曾利E式の成立(勝坂式から加曾利Eへ)～について」『研究集会縄文研究の地平2017—土器から探る勝坂式と加曾利E式の間—発表要旨・資料集』縄文研究の地平グループ・セツルメント研究会
- 小林謙一・中山真治・黒尾和久 2004「1. 多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定(補)」『シンポジウム縄文研究の新地平3—勝坂式から曾利へ—発表要旨』縄文集落研究グループ・セツルメント研究会
- 谷井 彪 1987「加曾利E式土器における口縁部様と形態の系譜」『柳田敏司先生還暦記念論文集 埼玉の考古学』新人物往来社
- 徳留彰紀 2015a「第4章 調査のまとめ 第1節 縄文時代」『志木市遺跡群22』志木市の文化財第64集 埼玉県志木市教育委員会
- 徳留彰紀 2015b「埼玉県志木市西原大塚遺跡における縄文時代中期集落研究の基礎的資料」『あらかわ』第16号 あらかわ考古談話会
- 徳留彰紀 2019「武蔵野台地北東部および大宮台地における勝坂式終末期から加曾利E式初頭期の土器様相」『考古学の地平Ⅱ—縄文時代中期の土器論と生業研究の新視点—』山本典幸・考古学の地平グループ編
- 永瀬史人 2008「連孤文土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 中山真治・宇佐美哲也・武川夏樹・黒尾和久 2004「東京編年表(「東京①・②」)とその解説」『シンポジウム縄文研究の新地平3—勝坂式から曾利へ—発表要旨』縄文集落研究グループ・セツルメント研究会

[付 編]

# 自然科学分析





# I. 西原大塚遺跡第 174 地点出土の炭化種実

佐々木由香・バンダリ スダルシャン (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

西原大塚遺跡は志木市幸町に所在し、武蔵野台地北東端部の柳瀬川と新河岸川を望む台地上に立地する、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。第 174 地点の調査では縄文時代中期中葉～後葉の住居跡が検出され、土壌水洗により炭化種実が回収された。ここでは、炭化種実の同定を行い、当時利用された植物を検討した。

## 2. 試料と方法

試料は、No. を付して取り上げられた土器内の土壌を水洗して回収された炭化種実 6 試料である。考古学的な所見による炭化種実の時期は、縄文時代中期中葉～後葉（勝坂式～加曾利 E 式期）とされている。抽出、同定および計数は、実体顕微鏡下で行った。

同定された試料は、志木市教育委員会に保管されている。

## 3. 結果

同定した結果、木本植物ではオニグルミ炭化核のみ 1 分類群、草本植物ではダイズ属炭化種子のみ 1 分類群の、計 2 分類群が見いだされた（第 61 表）。

以下に、得られた炭化種実について遺構別に記載する（同定不能炭化種実は除く）。

163 号住居跡：オニグルミとダイズ属がわずかに得られた。

164 号住居跡：同定可能な種実は得られなかった。

169 号住居跡：オニグルミがわずかに得られた。

171 号住居跡：オニグルミがわずかに得られた。

次に、炭化種実の記載を示し、図版 45 に写真を掲載して同定の根拠とする。

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino 炭化核 クルミ科

すべて 1 / 2 以下の破片である。完形ならば側面観は広卵形。本来は縦方向の縫合線があるが、今回の試料では残存していない。表面には浅い溝と凹凸が不規則に入る。壁は緻密で硬く、ときどき空隙がある。断面は角が尖り、光沢がある。最大の破片で、残存高 6.2mm・残存幅 4.8mm。

(2) ダイズ属 *Glycine* sp. 炭化種子 マメ科

変形しているが、上面観は扁平、側面観は楕円形。臍は全長の 1 / 2 以上で、長楕円形。小畑ほか（小

遺構名	163 号住居跡		164 号住居跡	169 号住居跡	171 号住居跡	
	遺物 No.		遺物 No.	遺物 No.	遺物 No.	遺物 No.
採取位置	半載北側	半載北側	-	-	-	-
時期	縄文時代中期中葉～後葉					
分類群	乾燥重量		乾燥重量	乾燥重量	乾燥重量	乾燥重量
オニグルミ 炭化核	5.9kg	4.8kg	152g	885g	340g	270g
ダイズ属 炭化種子	(3)	(6)		(11)		(7)
同定不能 炭化種実	1					
虫えい 炭化	(19)	(30)	(9)	(50)		(33)
	1				1 (1)	(1)

第 61 表 西原大塚遺跡第 174 地点から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

畑・佐々木・仙波 2007) に示されたダイズ属の特徴である中央の縦溝 (hilar groove) と、その周囲の隆線 (rim-aril) は残存が悪くて見えないが、扁平な形状と臍側が平滑な点からダイズ属と同定した。小畑 (小畑 2008) で計測された現生種子と比較すると、野生種よりもやや大きい。長さ 6.5mm・幅 4.5mm・厚さ 3.2mm。

### (3) 虫えい Gall

上面観は円形、側面観は扁平で、中央がゆるやかに凹む。直径 2.0mm・厚さ 1.2mm。

## 4. 考察

縄文時代中期中葉～後葉 (勝坂式～加曽利 E 式期) の竪穴住居跡から出土した土器内の土壌の炭化種実を同定した結果、オニグルミとダイズ属がわずかに得られた。いずれも住居跡からの出土であり、食用として利用されたと考えられる。オニグルミは食用にするために殻を剥いた後、不要な核が燃やされた可能性などがあり、土器の内容物とは直接の関連がないと思われる。虫えいは炭化材などに伴って住居内に持ち込まれた可能性がある。

関東地方における縄文時代のダイズ属炭化種子の出土例は、狭山丘陵に位置する東京都東村山市下宅部遺跡の中期中葉の例のみであり (工藤・佐々木 2010)、武蔵野台地北東端部に位置する西原大塚遺跡でも確認できた点は、縄文時代中期の植物利用を検討する上でも重要である。

### [引用文献]

工藤雄一郎・佐々木由香 2010 「東京都下宅部遺跡から出土した縄文土器付着植物遺体の分析」『国立歴史民俗博物館研究報告』158, 1-26

小畑弘己 2008 「マメ科種子同定法」小畑弘己編『極東先史古代の穀物 3』225-252 熊本大学。

小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子 2007 「土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培」『植生史研究』15(2), 97-114

## Ⅱ. 西原大塚遺跡第 174 地点出土炭化材の樹種同定

黒沼保子 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

志木市に所在する西原大塚遺跡第 174 地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。

### 2. 試料と方法

試料は、縄文時代中期 (加曽利 E1 式期) の焼失住居である 165 号住居跡から出土した炭化材 3 点と、弥生時代末～古墳時代前期の焼失住居である 565 号住居跡から出土した炭化材 10 点の、計 13 点である。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で 3 断面 (横断面・接線断面・放射断面) を割り出し、直

径 1cm の真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡 (KEYENCE 社製 VE-9800) を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

樹種	縄文時代中期 (加曽利 E1 式)	弥生時代末～古墳 時代前期	計
	165 号住居跡	565 号住居跡	
クリ	3		3
コナラ属クヌギ節		5	5
クワ属		2	2
タケ亜科		3	3
計	3	10	13

第 62 表 遺構別の樹種組成

### 3. 結果

樹種同定の結果、広葉樹であるクリとコナラ属クヌギ節 (以下、クヌギ節)、クワ属の 3 分類群と、単子葉類のタケ亜科が 1 分類群の、計 4 分類群が確認された。

結果の一覧を第 63 表、遺構別の樹種組成を第 62 表に示す。165 号住居跡の炭化材は 3 点ともクリで、形状はすべて破片であった。565 号住居跡の炭化材は、クヌギ節が 5 点と、クワ属が 2 点、タケ亜科が 3 点であった。試料の形状は、クヌギ節は半径 4 cm のみかん割り状と 2 ～ 3.5 cm 角の角材、破片がみられた。クワ属は直径 2 cm と 4 cm の丸木であった。タケ亜科は直径 0.7 cm の稈と破片の稈がみられた。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版 46 に示す。

#### (1) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版 46 1a-1c (165 号住居跡 - 炭 1)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

#### (2) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版 46 2a-2c (565 号住居跡 - 炭 1)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の 2 種類がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強靱で、加工困難である。

#### (3) クワ属 *Morus* クワ科 図版 46 3a-3c (565 号住居跡 - 炭 7)

大型で丸い道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では徐々に径を減じた小道管が単独もしくは数個複合して斜線方向に配列する半環孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は周囲状から翼状となる。放射組織は 3 ～ 5 列幅で、上下端の 1 ～ 2 細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

クワ属は温帯から暖帯、亜熱帯に分布する落葉高木で、ケグワとマグワ、ヤマグワなどがある。材は堅硬で、靱性に富む。

#### (4) タケ亜科 Subfam. *Bambusoideae* イネ科 図版 46 4a (565 号住居跡 - 炭 3)、5a (565 号住居跡 - 炭 10)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束は柔細胞中に散在する。維管束は一对の道管と、それと直行する原生木部間隙と師部で構成され、その周囲を厚膜組織からなる維管束鞘が取り囲む。

タケ・ササの仲間では 12 属が含まれるが、稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。割裂性が非常に大きい。

#### 4. 考察

縄文時代中期の 165 号住居跡から出土した炭化材は、3 点ともクリであった。いずれも出土状況から建築材と考えられている。クリは東日本において縄文時代を通して建築材に多用される傾向があり、埼玉県では和光市の丸山台遺跡において縄文時代後・晩期の建築材のほとんどにクリが使用されていた（伊東・山田編 2012）。建築材とみられる今回の 165 号住居跡出土の試料もクリが利用されており、周辺地域の木材利用傾向と同様の傾向を示す。

弥生時代末～古墳時代前期の 565 号住居跡から出土した炭化材では、クヌギ節が多く、その他にクワ属とタケ亜科が確認された。いずれも出土状況から建築材と考えられている。クヌギ節は径が 3～4cm 程の角材やみかん割り状、クワ属も直径 2～4cm の丸木で比較的小径なため、垂木や屋根材と推測される。また、タケ亜科はいずれも稈の径が細いためササ類であると思われ、屋根材に使用されていた可能性がある。関東地方では、弥生時代後期～古墳時代初頭の建築材にコナラ属コナラ節とクヌギ節を多用する傾向があり（伊東・山田編 2012）、今回の分析結果も同様の傾向を示している。西原大塚遺跡の木材について以前行われた分析では、弥生時代末～古墳時代前期の住居跡である 61 号住居跡と 54 号住居跡ではクヌギ節を主としてオニグルミとエノキ属が若干数確認されている（藤根 2009）。また、第 45 地点の弥生時代末の住居跡では、214 号住居と 215 号住居でクリのみ、228 号住居でクリを主としてクヌギ節とヤマグワが少数、186 号住居でヤマグワ、213 号住居でクヌギ節とイヌエンジュが少数みられた（植田 2000）。したがって、西原大塚遺跡ではクリを多用する住居跡とクヌギ節を多用する住居跡があり、分析点数は少ないがその他の広葉樹が利用されている住居跡がある可能性がある。これらの住居ごとの樹種組成の違いの背景としては、建築の時期や住居の構造の違いなどが考えられるが、他の遺物の出土状況とも併せて検討する必要がある。

#### [引用文献]

伊東隆夫・山田昌久編 2012 『木の考古学—出土木製品用材データベース—』 449p 海青社

藤根 久 2009 「西原大塚遺跡出土炭化材の樹種同定」『西原大塚遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 124-125 埼玉県志木市遺跡調査会

植田弥生 2000 「出土炭化材の樹種同定」『西原大塚遺跡第 45 地点発掘調査報告書』 184-186 埼玉県志木市遺跡調査会

遺構名	No.	樹種	形状／部位	サイズ	年輪数	時期
165 号住居跡	炭 1	クリ	破片	< 2.5cm角	< 6	縄文時代中期 (加曾利 E1 式)
	炭 2	クリ	破片	< 1.5cm角 (節)	< 1	
	炭 3	クリ	破片	< 1.5cm角 (節)	< 2	
565 号住居跡	炭 1	コナラ属クヌギ節	みかん割り状	半径 4cm	37	弥生時代末～ 古墳時代前期
	炭 2	コナラ属クヌギ節	角材 (他、破片)	角材：3.5 × 2 × 5cm	13	
	炭 3	タケ亜科	稈	直径 0.7cm	—	
	炭 4	タケ亜科	稈 (破片)	< 0.5cm角	—	
	炭 5	コナラ属クヌギ節	角材	3 × 3 × 10cm	17	
	炭 6	クワ属	丸木？ (他、破片)	丸木？：直径 2cm？	5	
	炭 7	クワ属	丸木 (他、破片)	丸木：直径 4cm	5	
	炭 8	コナラ属クヌギ節	破片	< 3.5cm	11	
	炭 9	コナラ属クヌギ節	角材	3.5 × 3.5 × 6cm	17	
	炭 10	タケ亜科	稈 (破片)	< 0.5cm角	—	

第 63 表 西原大塚遺跡第 174 地点炭化材の樹種同定結果一覧



# 版 图





1. 調査前風景(東から)



2. 表土剥ぎ風景(西から)



3. 遺構確認状況(南東から)



4. 37号住居跡遺物出土状態(区画整理/東から)



5. 37号住居跡(南西から)



6. 37号住居跡(南東から)



7. 37号住居跡(区画整理/東から)



8. 37号住居跡炉(区画整理/東から)





1. 39号住居跡遺物出土状態(南西から)



2. 39号住居跡遺物出土状態(南西から)



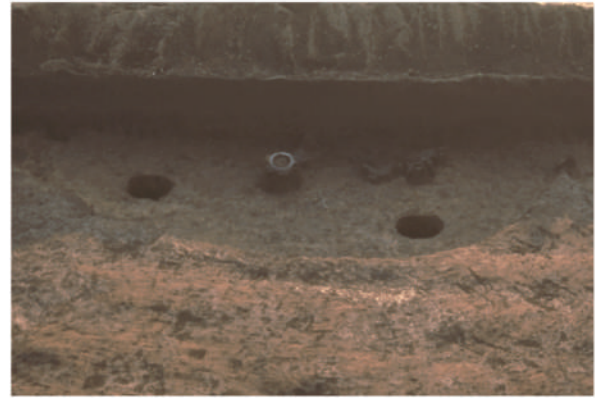
3. 39号住居跡炉遺物出土状態(南から)



4. 39号住居跡遺物出土状態(区画整理/東から)



5. 39号住居跡(南西から)



6. 39号住居跡(区画整理/北東から)



7. 39号住居跡炉(南西から)



8. 37・39号住居跡(南から)





1. 41号住居跡(西から)



2. 41号住居跡(北西から)



3. 86号住居跡遺物出土状態(区画整理/南西から)



4. 86号住居跡遺物出土状態(区画整理/南西から)



5. 86号住居跡遺物出土状態(区画整理/南東から)



6. 86号住居跡遺物出土状態(区画整理/南西から)



7. 86号住居跡(北西から)



8. 86号住居跡(北西から)





1. 163号住居跡遺物出土状態(北東から)



2. 163号住居跡遺物出土状態(北西から)



3. 163号住居跡(北西から)



4. 163号住居跡(南から)



5. 163号住居跡P1(南西から)



6. 163号住居跡P6(南西から)



7. 163号住居跡炉(南東から)



8. 163号住居跡炉土層断面(南から)





1. 164号住居跡 土層断面 A-A' (北東から)



2. 164号住居跡遺物出土状態 (南東から)



3. 164号住居跡遺物出土状態 (北から)



4. 164号住居跡遺物出土状態 (北から)



5. 164号住居跡遺物出土状態 (南東から)



6. 164号住居跡 (南東から)



7. 164号住居跡炉 (南東から)



8. 調査風景 (西から)





1. 165・167～169号住居跡(南東から)



2. 165・167～169号住居跡(南西から)



3. 165・167～169号住居跡(北から)



4. 165・167～169号住居跡遺構確認状況  
(西から)



5. 165・167～169号住居跡土層断面A-A'  
(東から)





1. 165・167～169号住居跡土層断面  
B-B'西側(南東から)



2. 165・167～169号住居跡土層断面  
B-B'東側(東から)



3. 165号住居跡炉(西から)



4. 165号住居跡炉(南から)



5. 168号住居跡炉(南から)



6. 168号住居跡埋甕(西から)



7. 169号住居跡炉A(南から)



8. 169号住居跡炉A(東から)





1. 169号住居跡炉 B (南西から)



2. 169号住居跡炉 C (西から)



3. 169号住居跡遺物出土状態(北から)



4. 165・167～169号住居跡掘り方(南東から)



5. 166号住居跡炉(北から)



6. 166号住居跡炉(北から)



7. 170号住居跡 P 1 (南から)



8. 170号住居跡(南西から)





1. 171号住居跡遺物出土状態(南東から)



2. 171号住居跡(南東から)





1. 171号住居跡遺物出土状態(南東から)



2. 171号住居跡遺物出土状態(南東から)



3. 171号住居跡遺物出土状態(北から)



4. 171号住居跡遺物出土状態(西から)



5. 171号住居跡遺物出土状態(南東から)



6. 171号住居跡遺物出土状態(南から)



7. 171号住居跡炉(南から)



8. 171号住居跡炉土層断面(南東から)





1. 172号住居跡遺物出土状態(南東から)



2. 172号住居跡遺物出土状態(南から)



3. 172号住居跡(南東から)



4. 172号住居跡炉(北東から)



5. 173号住居跡(南から)



6. 173号住居跡埋甕(南から)



7. 173号住居跡埋甕(北西から)



8. 173号住居跡炉(北西から)





1. 184号住居跡(南西から)



2. 184号住居跡(南東から)



3. 184号住居跡炉(南東から)



4. 185号住居跡(南から)



5. 185号住居跡(北東から)



6. 185号住居跡炉(北西から)



7. 185号住居跡炉(南から)



8. 185号住居跡P5遺物出土状態(南から)





1. 5号埋甕(西から)



2. 5号埋甕土層断面(南東から)



3. 5号埋甕(南東から)



4. 628号土坑遺物出土状態(北から)



5. 628号土坑(南西から)



6. 629号土坑(西から)



7. 630号土坑(南東から)



8. 630号土坑土層断面(南東から)





1. 631号土坑遺物出土状態(北から)



2. 631号土坑(東から)



3. 632・640号土坑(南西から)



4. 633号土坑遺物出土状態(北から)



5. 636・633号土坑(北西から)



6. 634号土坑(南西から)



7. 635号土坑・24・30号ピット(南から)



8. 637号土坑・21号ピット(南西から)





1. 638号土坑(南西から)



2. 639号土坑・28号ピット(南から)



3. 641号土坑・27・31号ピット(南から)



4. 642号土坑(南西から)



5. 643号土坑・25・26号ピット(南西から)



6. 645号土坑・33号ピット(北西から)



7. 646号土坑(南東から)



8. 647号土坑(南西から)





1. 648号土坑(南西から)



2. 649号土坑(南西から)



3. 716号土坑(北東から)



4. 717号土坑・125号ピット(北東から)



5. 719号土坑・160号ピット(南から)



6. 土坑群(南東から)



7. 1・2号ピット(北東から)



8. 5号ピット(南から)





1. 6号ピット(南西から)



2. 7号ピット(南から)



3. 8号ピット(東から)



4. 14号ピット(北西から)



5. 15号ピット(南東から)



6. 29号ピット(南東から)



7. 32号ピット(南東から)



8. 161号ピット土層断面(南から)





1. 290号住居跡遺物出土状態(区画整理/南東から)



2. 290号住居跡(北西から)



3. 565号住居跡炭化材出土状態(南西から)



4. 565号住居跡(南西から)



5. 565号住居跡(南東から)



6. 565号住居跡(北から)



7. 565号住居跡炉(南西から)



8. 718号土坑(南東から)





37号住居跡出土遺物



39号住居跡出土遺物





1. 41号住居跡出土遺物



2. 86号住居跡出土遺物 1



86号住居跡出土遺物 2





1. 86号住居跡出土遺物 3



2. 163号住居跡出土遺物 1



163号住居跡出土遺物 2

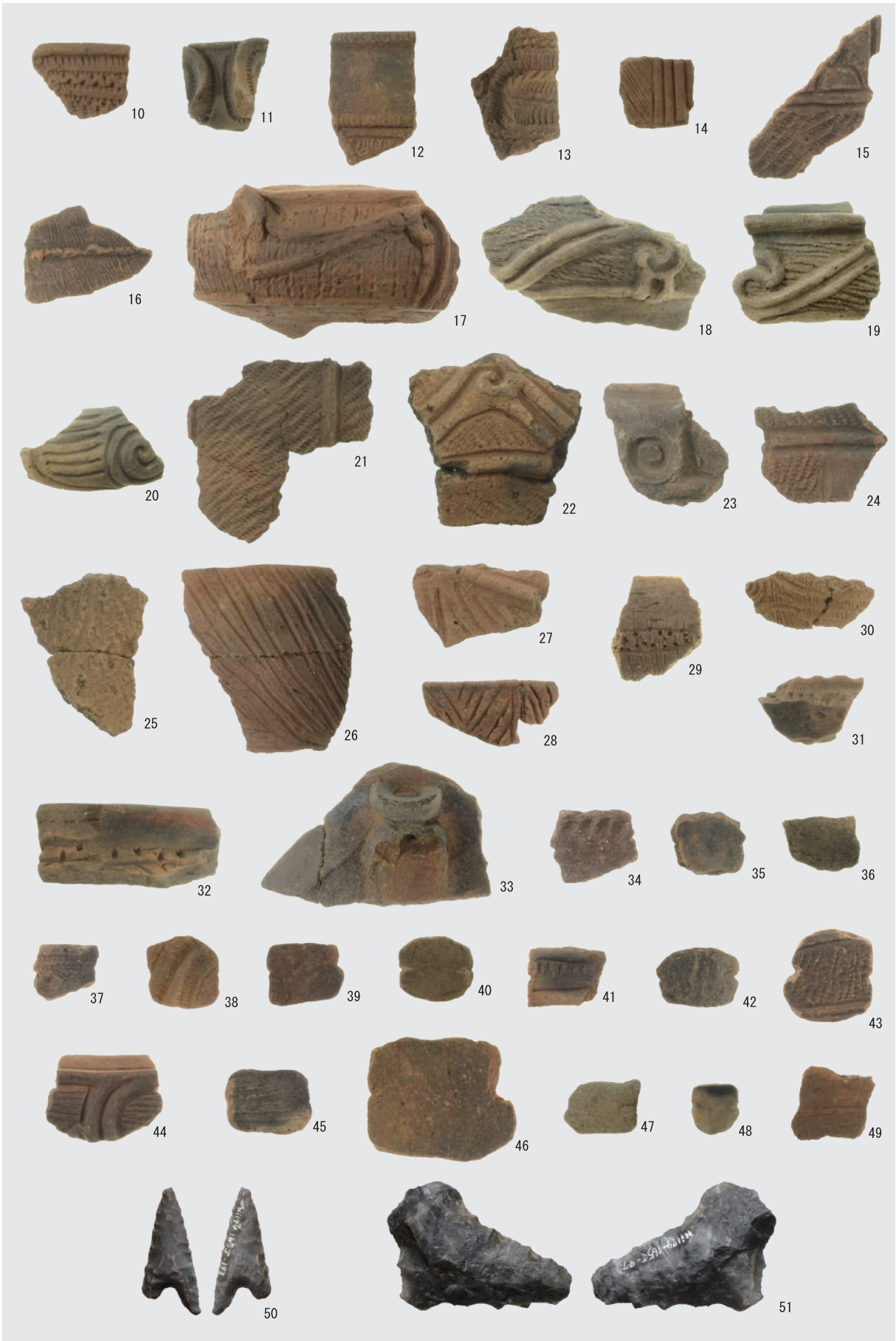




1. 164号住居跡出土遺物



2. 165号住居跡出土遺物 1



165号住居跡出土遺物 2





1. 165号住居跡出土遺物 3



2. 167号住居跡出土遺物



168号住居跡出土遺物





169号住居跡出土遺物 1



1. 169号住居跡出土遺物 2



2. 166号住居跡出土遺物





1. 170号住居跡出土遺物



2. 171号住居跡出土遺物 1



171号住居跡出土遺物 2





171号住居跡出土遺物 3



171号住居跡出土遺物 4





171号住居跡出土遺物 5



1. 172号住居跡出土遺物



2. 173号住居跡出土遺物



3. 184号住居跡出土遺物



1. 185号住居跡出土遺物



2. 5号埋葬出土遺物



3. 縄文時代土坑出土遺物 1





1



631号土坑



632号土坑



633号土坑



634号土坑



4



637号土坑

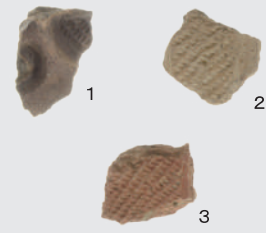


635号土坑





638号土坑



641号土坑



639号土坑



642号土坑



643号土坑



645号土坑



646号土坑



647号土坑



648号土坑



縄文時代ピット出土遺物



1. 290号住居跡出土遺物



2. 565号住居跡出土遺物



3. 遺構外出土石器 1





1. 遺構外出土石器 2

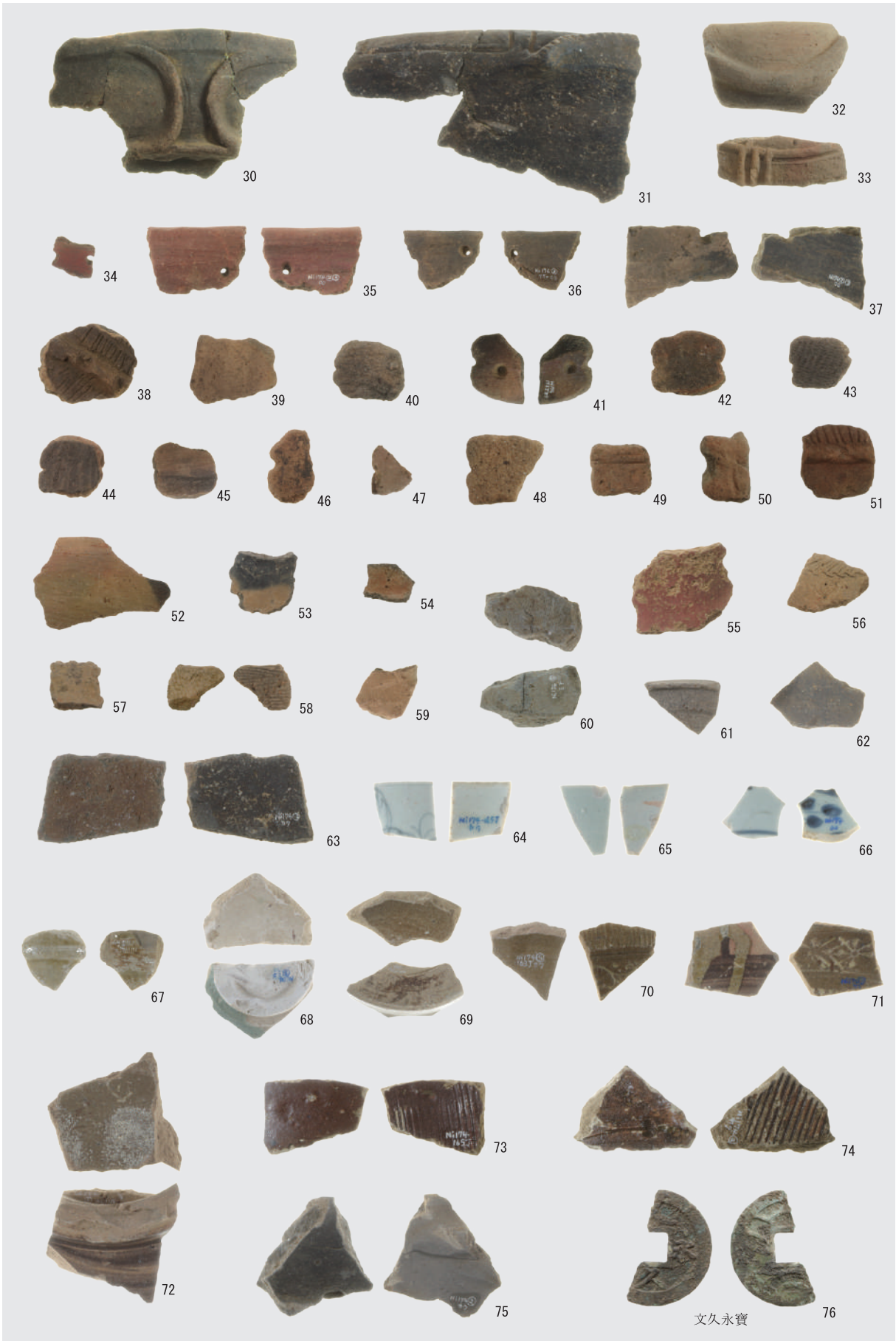


2. 遺構外出土遺物 1

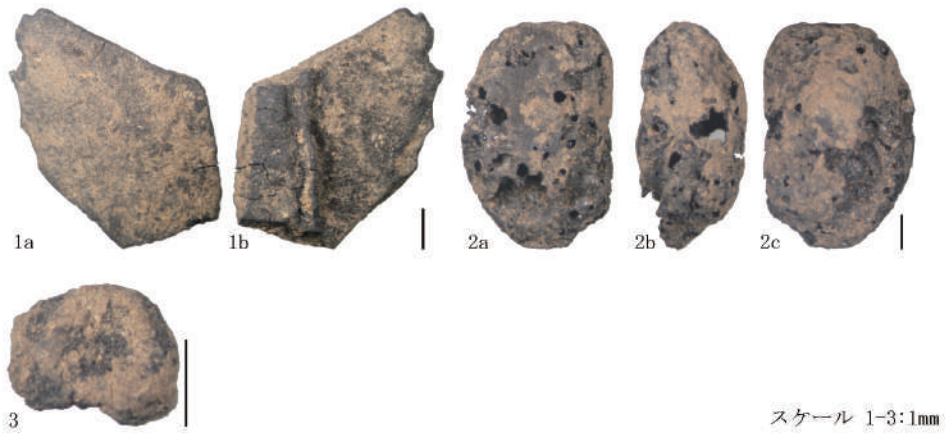




遺構外出土遺物2



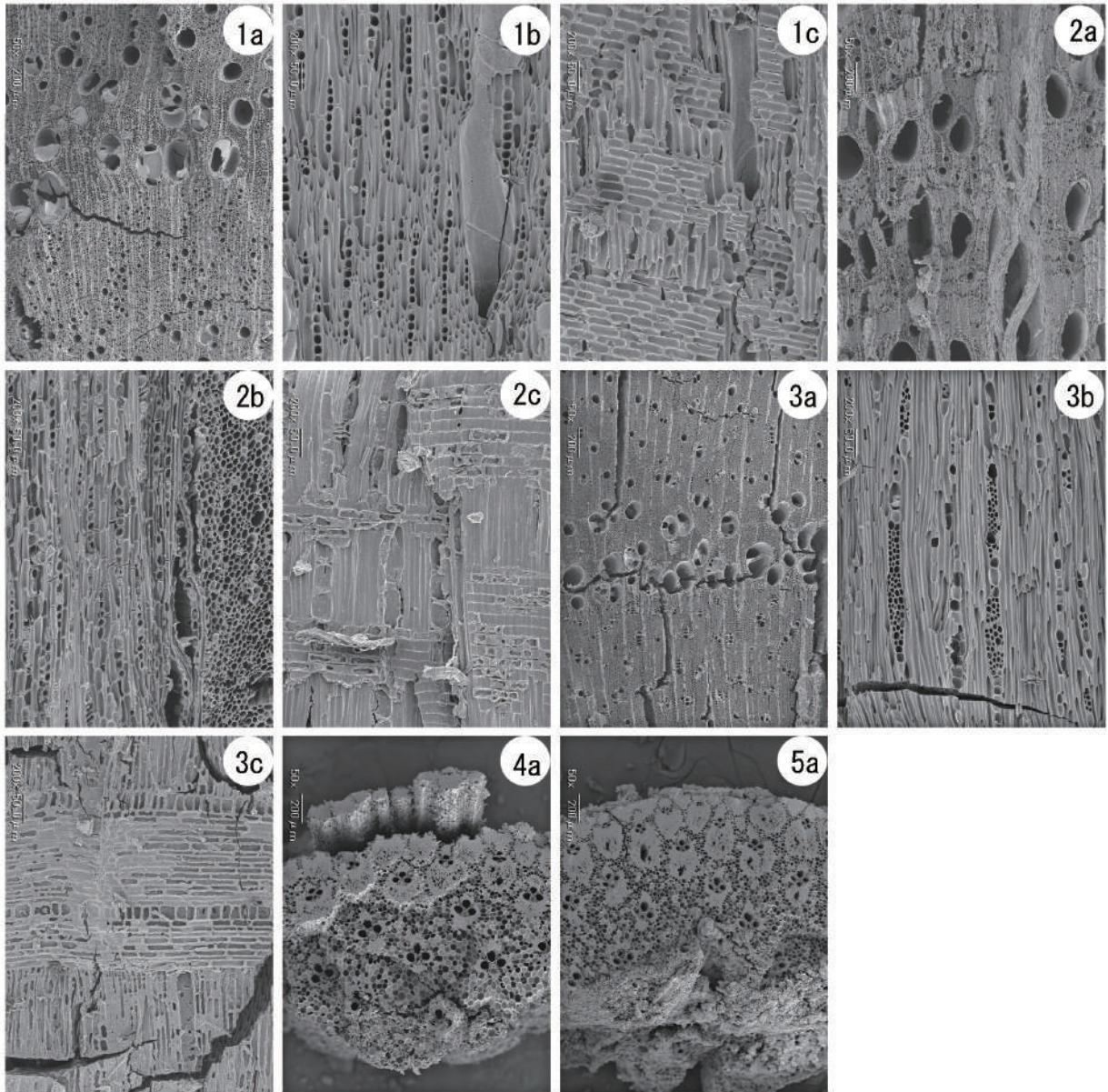
遺構外出土遺物 3



1. オニグルミ炭化核 (163号住居跡、北側、No. 163J-188)
2. ダイズ属炭化種子 (163号住居跡、北側、No. 163J-188)
3. 炭化虫えい (171号住居跡、No. 171J-800)

西原大塚遺跡174地点から出土した炭化種実





1a-1c. クリ (165号住居跡-炭1)、2a-2c. コナラ属クヌギ節 (565号住居跡-炭1)、3a-3c. クワ属 (565号住居跡-炭7)、4a. タケ亜科 (565号住居跡-炭3)、5a. タケ亜科 (565号住居跡-炭10)  
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



# 報告書抄録

ふりがな	しきしいせきぐん 25							
書名	志木市遺跡群 25							
シリーズ名	志木市の文化財							
シリーズ番号	第 85 集							
著者氏名	徳留彰紀 尾形則敏 大久保聡 木村結香							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒 353-0002 埼玉県志木市中宗岡 1 丁目 1 番 1 号 TEL 048 (473) 1111							
発行年月日	令和 4 (2022) 年 3 月 31 日							
ふりがな	ふりがた	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup> (全体面積)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(°′″)	(°′″)			
にしはらおおつかいせき	しきしさいわいちょう	11228	09-003	35°	139°	20111103 ～ 20120113	100.09	個人住宅建設
西原大塚遺跡 (第 174 ②地点)	志木市幸町 3 丁目 7204-7			49′	33′			
にしはらおおつかいせき	しきしさいわいちょう			28″	57″			
西原大塚遺跡 (第 174 ③地点)	志木市幸町 3 丁目 7204-6			35°	139°			
にしはらおおつかいせき	しきしさいわいちょう			49′	33′			
西原大塚遺跡 (第 174 ④地点)	志木市幸町 3 丁目 7204-5	28″	57″	20120910 ～ 20121022	153.93	個人住宅建設		
にしはらおおつかいせき	しきしさいわいちょう	35°	139°					
西原大塚遺跡 (第 174 ⑤地点)	志木市幸町 3 丁目 7204-2	49′	33′	28″	57″			
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
西原大塚遺跡 (第 174 ②～⑤地点)	集落跡・ 墓域	縄文時代中期  弥生時代後期 ～古墳時代前期 中世以降		住居跡 17 軒 埋壘 1 基 土坑 24 基 ピット 49 本 住居跡 2 軒	土器・石器・土製品 土器 土器・土製品 土器・石器 土器	土器・石器・土製品 土器	縄文時代中期 中葉～後葉 (勝坂式終末期～加曾利 E 式初頭期) の 良好な資料が 得られた。	
要約		<p>西原大塚遺跡は、市内最大規模の遺跡で、旧石器時代～近世・近代にかけての複合遺跡である。</p> <p>縄文時代では、中期の住居跡 17 軒、土坑 24 基、ピット 49 本が検出された。本遺跡は、縄文時代中期の環状集落跡であり、今回の調査成果は住居域と土坑域の境界部分を示唆する検出状況となっている。</p> <p>弥生時代後期～古墳時代前期では、住居跡 2 軒が検出された。</p> <p>中世以降では、土坑 1 基、ピット 27 本が検出された。</p>						

志木市の文化財 第85集

## 志木市遺跡群25

発行 埼玉県志木市教育委員会  
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号  
発行日 令和4(2022)年3月31日  
印刷 関東図書株式会社